令和3年度 文部科学省補助事業

学校を核とした地域力強化プラン事業

実践事例集

地域も学校も元気になる連携・協働をめざして

『地域学校協働活動推進事業』
『コミュニティ・スクール推進事業』
『地域における家庭教育支援基盤構築事業』








滋賀県教育委員会

－はじめに－

新型コロナウイルス感染症や気候変動によるリスクの顕在化など、世界中が大きな変化の波の中にある現在、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を世界共通の目標として、よりよい社会の実現を目指し、一人ひとりができることを考え、行動する姿勢が求められています。

また、子どもたちを取り巻く環境に目を向けると、地域とのつながりの希薄化、家庭環境の多様化、家庭・学校におけるＩＣＴ（情報通信技術）の活用など、複雑に変化しています。社会全体で子どもの育ちを支える持続可能な地域の教育基盤の形成を図るために、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚しながら、連携・協働していくことが大切であります。

令和２年度より順次実施となっている新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現が謳われています。これは、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という目標を「学校と社会が共有」し、子どもたちに必要な力を「地域と連携・協働」しながら、目指すべき学校教育を実現しようとするものです。

本県におきましては、第３期教育振興基本計画の中で「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、「社会全体で支え合い、子どもを育む」という方針のもと、「家庭や地域と学校との連携・協働活動の充実」として、「持続可能な地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入」を推進しているところです。

地域学校協働活動と学校運営協議会制度は、それぞれが持つ役割を十分に機能させ、一体的な推進を図ることで相乗効果を発揮し、地域の教育力の向上と学校運営の改善に結びつけることが期待できます。このため、令和３年度も「学校を核とした地域力強化プラン事業」として「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」、さらに「家庭教育支援」の３つを総合的に推進し、県全体での展開を目指してまいりました。

本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれた実践をまとめたものです。県内の取組を参考に、事業の更なる拡充に取り組んでいただければと存じます。また、今後、地域と学校の連携・協働体制の構築を目指される市町におかれましては、本実践事例集を参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」「地域づくり」に献身的に取り組まれている関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援のほどお願いします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報提供や寄稿をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和４年（2022 年）３月

滋賀県教育委員会事務局
生涯学習課長　廣部　千英子

〔目　次〕

◆ **事業の概要**……1

Ⅰ　推進協議会の取組……8

（Ⅰ）推進協議会の概要……8

（Ⅱ）各研修会の概要……10

◇「学校を核とした地域力強化プラン」第１回研修会および事業説明会……10
◇「学校を核とした地域力強化プラン」（新規導入市町等対象）研修会……11
◇県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会……12
◇「学校を核とした地域力強化プラン」（事業推進市町等対象）研修会……13
◇「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会……15
◇「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会……16

Ⅱ　市町の地域学校協働活動の取組……18

◇彦根市……18
◇近江八幡市…19
◇草津市……20
◇栗東市……21
◇野洲市……22
◇湖南市……24
◇高島市……25
◇東近江市……26
◇米原市……27
◇日野町……28
◇竜王町……29
◇多賀町……31

Ⅲ　地域学校協働本部の実践事例……32

◆令和３年度地域学校協働本部一覧……32

◇彦根市……34
◇近江八幡市…58
◇草津市……81
◇栗東市……95
◇野洲市……96
◇湖南市……105
◇高島市……118
◇東近江市……124
◇米原市……155
◇日野町……161
◇竜王町……167
◇多賀町……168

Ⅳ　地域未来塾の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・169

◆令和3年度地域未来塾一覧 ・・・169

◇彦根市 ・・・・・・・・170
◇湖南市 ・・・・・・・・180
◇米原市 ・・・・・・・・182
◇日野町 ・・・・・・・・184
◇竜王町 ・・・・・・・・185
◇多賀町 ・・・・・・・・186

Ⅴ　放課後子ども教室の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187

◆令和3年度放課後子ども教室一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187

◇近江八幡市 ・・・188
◇草津市 ・・・・・・・・190
◇栗東市 ・・・・・・・・192
◇野洲市 ・・・・・・・・193
◇東近江市 ・・・・196
◇日野町 ・・・・・・・198
◇多賀町 ・・・・・・201
〇放課後児童クラブの現状 ・・202

Ⅵ　土曜日の教育支援活動の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・204

◆令和3年度土曜日の教育支援活動一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・204

◇湖南市 ・・・・・・・・205
◇東近江市 ・・・・・209
◇竜王町 ・・・・・・・・217

Ⅶ　地域における家庭教育支援基盤構築事業の実践事例　・・・・・・・・・220

◆令和3年度家庭教育支援活動一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220

◇彦根市 ・・・・・・・・221
◇近江八幡市 ・・・224
◇草津市 ・・・・・・・・226
◇栗東市 ・・・・・・・・228
◇甲賀市 ・・・・・・・・230
◇湖南市 ・・・・232
◇高島市 ・・・・234
◇日野町 ・・・・236
◇竜王町 ・・・・238
□多賀町 ・・・・240

※多賀町は、町独自の取組

Ⅷ　コミュニティ・スクール推進事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

令和３年度 学校を核とした地域力強化プラン

地域住民等の参画により、地域の将来を担う人の育成を社会全体で担うとともに、持続可能な地域の教育基盤の形成を図る。

趣旨 滋賀県「地域学校協働活動推進事業」

【補助率】国 1/3、都道府県 1/3、市町村 1/3

地域と学校が連携・協働し、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、県民一人ひとりが当事者意識をもって地域を創生する活動として、「地域学校協働活動」を推進する。

県 推進協議会の設置

○総合的な教育支援活動の在り方の検討
○コーディネーター等を対象とした研修の企画
○事業の評価

市町 運営委員会の設置

○教育委員会と福祉部局等の連携方策
○地域の人材確保方策の検討
○支援体制の整備・支援活動の実施　等

統括的な地域学校協働活動推進員
（統括的な地域コーディネーター）
・未実施地域における取組実施を推進
・地域コーディネーターの資質や活動の質の向上

地域学校協働活動推進員
（地域コーディネーター）
・地域住民等や学校との連絡・調整
・地域学校協働活動の企画・推進等

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を中心に、様々なボランティアが緩やかなネットワークを構築し、**地域学校協働活動**を推進

補助要件
①コミュニティ・スクールを導入していること、または導入に向けた具体的な計画があること
②地域学校協働活動推進員を配置すること

「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進

地域人材等の参画 地域学校協働活動

保護者・PTA／社会教育関係団体／NPO／文化・スポーツ団体／民間教育事業者／労働関係機関・団体／青少年・大人・高齢者

多数のボランティア等

協働活動サポーター
協働活動支援員
特別支援・共生社会サポーター
学習支援員

地域学校協働本部
■地域と学校が連携・協働する仕組みづくり（本部）を促進し、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施
12市町　119本部
・学校支援活動・学校周辺環境整備
・郷土学習　・学びによるまちづくり
・地域人材育成・地域行事への参加 等



地域未来塾
■中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施
6市町　32教室
・放課後や長期休業中に学習を深めたいすべての子どもに学ぶ機会を提供



放課後子ども教室
■放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実
7市町　32教室
・活動拠点(居場所)の確保　・放課後等の学習指導
・自然体験活動支援　・文化活動支援　など
○放課後児童クラブ（首長部局）と連携

土曜日の教育支援
■すべての子どもたちの土曜日の教育活動を充実させるため、外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施
3市町　30教室
・民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得た支援体制の構築

趣旨 「コミュニティ・スクール推進事業」(県実施)

【補助率】国 1/3、都道府県 2/3

公立学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」をめざす「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の導入を加速させ、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。

CSアドバイザー派遣	研修の充実
■各自治体のCS立ち上げや推進体制の構築に向けた助言 ■市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進	■学校運営協議会委員・教職員等を対象とした研修会を開催。制度等への理解を深め、導入の促進と取組の充実を図る。

趣旨 「地域における家庭教育支援基盤構築事業」 9市町

【補助率】国 1/3、都道府県 1/3、市町村 1/3

各地域における家庭教育支援員等の養成、家庭教育支援チームの組織化及び学習機会の効果的な提供等の様々な取組に加え、家庭教育支援チーム等の組織化・活動強化を図るための取組の推進など、家庭教育を支援するための様々な取組を支援する。

地域人材の養成	家庭教育支援体制の構築	家庭教育を支援する取組の展開
■家庭教育支援員の養成 6市町で実施	■家庭教育支援チームの組織化 ■家庭教育支援員の配置 4市で実施	■学習機会の効果的な提供 ■親子参加型行事の実施 ■情報提供・相談対応　9市町で実施

○家庭教育支援チームの拡充を含めた地域における家庭教育支援体制の拡充・強化
…**訪問型家庭教育支援に取り組む家庭教育支援員の配置拡充を推進**
○学校と連携し、家庭をつなぐ機会を創出するための家庭教育支援員のコーディネート力や専門性の向上等に関わる研修機会の充実

地域学校協働本部　「支援」から「連携・協働」へ

〔令和３年　滋賀県教育委員会〕

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

趣旨　地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る。

地域学校協働本部

■令和３年度実施
12市町 119本部



学校

関係者による協議会の設置（目標、活動方針や取組内容等の共有）

地域学校協働活動推進員
(地域コーディネーター)
■ 退職教職員、PTA経験者など地域と学校の現状をよく理解している人

（活動の企画、地域・学校との連絡・調整）

連携・協働

校　長

地域連携担当者
■ 学校側の窓口

教員

地域ボランティア

参　画

幅広い地域住民等
- 保護者
- 地域の青少年・成人・高齢者
- 社会教育関係団体
- 労働関係機関・団体
- 民間教育事業者
- 文化・スポーツ団体
- 企業・経済団体

地域における連携・協働の場の提供

地域学校協働活動
【活動の例】

○学びによるまちづくり
・地域資源を活用した地域ブランドづくり学習
・地域防災マップ作成等

○地域人材育成
・地域課題解決型学習
・地域人材によるキャリア教育 等

○地域行事への参加
・地域・学校協働防災訓練
・地域の伝統行事への参画等

○ボランティア・体験活動
・地域の高齢者施設でのボランティア学習
・地域の商店街での職場体験活動等

○学校支援活動
・学習支援
・部活動支援
・校内環境整備
・学校行事支援
・子どもの安全確保、見守り 等

○学校周辺環境整備
・地域学校協働清掃活動
・花壇整備等

○郷土学習
・郷土史調査学習
・地域の自然環境、フィールドワーク

地域に出かけていく活動の創出



地域資源を生かした学校の教育活動

子ども

期待される効果

子どもにとって
⇒ 専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りになり、地域の担い手としての自覚が高まる。また、多様な経験を積むことで、学習意欲が喚起され、自ら課題を解決しようとする資質や能力が育まれる。

学校にとって
⇒ 地域住民等の理解と協力を得て、地域資源を生かした授業づくりが進められる。また、学校支援ボランティアが組織化されると、教員の異動に関わらず、持続可能な学校支援体制が担保される。子どもの教育を保護者や地域住民等とともに担うことで、ひいては教員の負担軽減につながり、子どもと向き合う時間が増える。

地域にとって
⇒ 地域住民等が自らの経験や知識を子どもの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会や場がつくられる。地域の子どもと顔見知りになり、ひいては、地域住民同士も顔と名前が一致する関係が進む。学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たな地域コミュニティがつくられる。

地域未来塾

－地域の力による放課後等学習教室－

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

現状と課題

・児童・生徒が、平日に学校の授業時間以外に勉強する時間が、全国と比較して短い。
・家庭での学習時間が30分未満の中学生が15%であり、小学生よりも多い。
【平成31年度 全国学力・学習状況調査結果より】
・家庭の事情に左右されず、誰もが学習できる環境づくりが必要。

『第3期教育振興基本計画』（H31.3策定）

家庭の状況が多様化する中、子どもがしっかりとした学力を身に付けることができるよう、幅広い地域住民の参画により、放課後、土曜日、休日等における一人ひとりの子どもに寄り添った学習や居場所づくりの取組を支援します。

国の動向

地域住民等の参画による放課後等の学習支援・体験活動として位置づけを変更。
・全ての児童・生徒を対象に、退職教員や大学生等の地域住民等の協力により実施する原則無料の学習支援等
・社会的経済的背景によらず、誰もが学ぶことができる環境の実現
・地域での活動と学校の教育課程との連携を図り、教師だけでは取り組みにくい活動につなげる。

地域未来塾



趣旨

中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施



◆幅広い地域の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい全ての子どもに学ぶ機会を提供。
◆家庭での学習習慣が十分に身に付いていない中学生への学習支援の場として、多様な視点からの支援を実現。
◆部活動休業日（ノー部活デー）の受皿として実施することで、教員の負担軽減。

教室のモデル

大学生や教員OBなどの学習支援員・教育活動サポーター等を配置

【内容】
①自学自習の支援など補習的学習
②講義・授業など、教科に即した発展的学習
【対象】
学年や参加希望の有無などは、実施主体の実態に応じて柔軟に設定
【場所】
実施主体の実態に応じて柔軟に設定
（学校の余裕教室や地域の公民館など）
【回数等】
回数、定期・不定期不問

○県内の取組事例
〈中学校で実施・放課後の学習支援〉
・対象は、中１～３年生の希望者
・年間40日（毎週水曜日、1時間程度）
・国語、英語、数学の基礎学力を培う補充学習
・指導員は、教員OBや大学生

子どもたちの学習習慣の定着「学ぶ力」の向上

学校との連携
・活動スペースとなる余裕教室の提供
・学習プリントの提供
・児童生徒の情報交換
・参加を促す広報チラシ等の配布
・ボランティアへの助言・サポート　など

■**令和３年度実施予定**
６市町32教室
・彦根市（20）
・湖南市（４）
・米原市（４）
・日野町（２）
・竜王町（１）
・多賀町（１）

学習が遅れがちな子どもに対して、基礎学力の定着を図る。

学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る。

貧困対策

貧困の中にある子どもの安全を確認し、その中で学習も支援する。

福祉部局からのアプローチ
○生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業
市町が国の補助事業を受け、
13市2町で実施(R3)
対象は生活困窮世帯等限定あり
○地域で遊べる・学べる淡海子ども食堂
「はぐくみ基金」による
実施団体への助成事業
13市5町147か所で実施(R3.8月末)

放課後子ども教室
～新・放課後子ども総合プランの推進～

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所）を設け、地域住民等の参画を得て、学習支援や体験活動を実施する。

令和３年度実施：７市町32教室

放課後子ども教室

『新・放課後子ども総合プラン』として実施（H30.９月策定）

放課後児童クラブ

【地域学校協働本部】
地域学校協働活動推進員

連携
協働

双方で情報共有

〈学校区ごとの協議会などで情報共有を図る。〉

・取組の企画、交流できる機会や場づくり
・安全点検リストによる児童の安全確保

放課後児童支援員

放課後子ども教室が設置されている場合は、積極的に交流する。

協働活動支援員
協働活動サポーター
学習支援員
特別支援・共生社会サポーター

多様なプログラムの提供

安全管理

参画

○学習支援や体験活動

・学習支援（予習・復習、補充学習、ICTを活用した学習
大学生などによる進路相談など）
・体験活動（理科実験、芸術教室、伝承遊び体験活動、地域の資源を活用した自然体験学習、社会体験活動など）



退職教職員、大学生、地域の高齢者、民間教育事業者、文化・芸術団体等の様々な地域人材

小学校など

・余裕教室や特別教室（図書室、家庭科室）等を提供
・学校敷地内の専用施設を利用
・体育館などの一時利用の促進

県の取組

学校を核とした地域力強化プラン研修会

地域学校協働活動推進員、コーディネーター、運営委員会委員、協働活動支援員、協働活動サポーター学習支援員、特別支援・共生社会サポーター、ボランティア、専任指導員、放課後児童支援員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子ども総合プラン運営委員会

・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
・ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室	連携	放課後児童クラブ（学童保育）
○すべての子ども（小学校に就学している児童）	対象	○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
○学習支援・体験活動の場 地域学校協働活動推進員等のコーディネーターが中心となって、学習やスポーツ、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。	内容	○遊びの場・生活の場 放課後児童支援員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○伝承遊び、学習（予習、復習、宿題等）、スポーツ、文化活動など	主な活動	○遊び、学習（宿題）
協働活動支援員・協働活動サポーター・学習支援員 学習支援や多様なプログラムの実施、安全管理 **特別支援・共生社会サポーター** 特に配慮が必要な子どもたちへの支援 	スタッフ	放課後児童支援員 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。 
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など	実施場所	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後・週末（教室により異なる）	開催日	○平日の放課後、土曜（クラブにより異なる）
○無料（教室により保険、材料費などの徴収あり）	利用者負担	○月額5,000円～10000円程度（施設により異なる）
○７市町32教室　（令和３年度）	県内数	○19市町338クラブ19,144人（令和3年5月１日現在）

土曜日の教育支援活動

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

趣旨

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の協力・参画を得て、地域の豊かな資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムや特色ある学習プログラムを企画・実施する市町・学校等の取組を支援することにより、支援体制の構築を図るとともに、「学ぶ力(※)」を育むことをめざす。

(※)「学ぶ力」：子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら学ぼうとする力



土曜日の教育支援活動の仕組み

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）
- 学校と地域・企業・団体との連絡調整
- 多様な経験や技能を持つ外部人材の発掘

要望 → 連携・協働 → 依頼

教職員 ⇔ 土曜教育支援員（参画）

- 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
- 部活動休養日（ノー部活デー）の受け皿としても実施する。
- 放課後や土曜日など、家庭での時間の使い方を考える。
- 子どもの地域での学びを学校の学びに生かす。

令和３度実施
３市町30教室

「学校支援メニュー」・「地域で学ぼう『出前講座』」の活用
※実社会での経験を生かした「出前授業」を行うことが可能な企業・団体のメニューを紹介。滋賀県学習情報提供システム「におねっと」にてプログラムの検索が可能。（ URL ： https://www.nionet.jp/ ）

豊富な知識や経験を持つ地域・民間企業・団体の外部人材等の活用

企業人	大学・研究者	在外経験者	図書館司書	出版関係者
外国人	スポーツ選手	農林・漁業者	教員OB	

地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの教育支援活動の実施

●地域の子どもを中心に据え、地域（地域人材）・家庭（保護者）・学校（教員）が確かにつながり、それぞれの立場から教育の営みに関わることにより、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。
●地域の豊かな社会資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムを実施することにより、「学ぶ力」の向上を図る。

～土曜学習例～

●学習意欲や学習習慣形成につなげる事例
学力向上を図る補充的・発展的学習、作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室 等

●体験活動を中心とした事例
自然体験、書道、絵画、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏 等

●地域の歴史や文化を学ぶ事例
地域の伝統学習（伝統行事、祭り）等

地域・企業・団体ならではの実社会で得られた知識や経験を子どもたちへ！

外部人材を活用した土曜日の教育支援体制の構築により、社会全体で「子どもの育ち」を支える地域づくりを推進する。

【補助率】

国	1/3
県	1/3
市町	1/3

地域における家庭教育支援基盤構築事業

背景

核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化する中、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加など、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、様々な課題抱えつつ、地域から孤立し、自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、今般のコロナ禍での生活不安やストレスによる児童虐待等のリスクの高まりも懸念され、地域全体での家庭教育支援の必要性が一層高まっている。

趣旨

家庭や地域と学校との連携・強化を図りつつ、家庭教育支援体制の構築及び家庭教育を支援する取組に加え、訪問型家庭教育支援を含めた家庭教育支援活動の強化を図る取組の推進等により、全ての保護者が安心して家庭教育を行うことができる支援体制の仕組みづくりを行い、地域の実情に応じた家庭教育支援の取組を行うための基盤を構築する。

滋賀県

「滋賀県家庭教育支援推進協議会」の設置

○家庭教育支援活動の総合的な在り方を検討
○「訪問型家庭教育支援」の効果的な手法等の普及
○子育ておよび家庭教育支援の研修・交流　等に関する協議

「訪問型家庭教育支援」の手引き（R3.3作成）



家庭教育員等に対する研修の実施

○地域の協力者の確保や資質向上等の方策
○家庭や地域と学校との連携・協働の推進方策
○他の事業関係者等との情報交換・情報共有

等の内容で研修実施

研修を受けた家庭教育支援員等による支援を通じ、社会に支えられた保護者が家庭教育支援員等へと循環していくことを目指す

市町で展開される事業内容

令和3年度実施（9市町）

・彦根市　・近江八幡市　・草津市　・栗東市
・甲賀市　・湖南市　・高島市　・日野町　・竜王町

①運営委員会の設置等

○家庭教育支援体制の整備、支援活動の在り方検討

○地域の人材確保や養成方策の検討

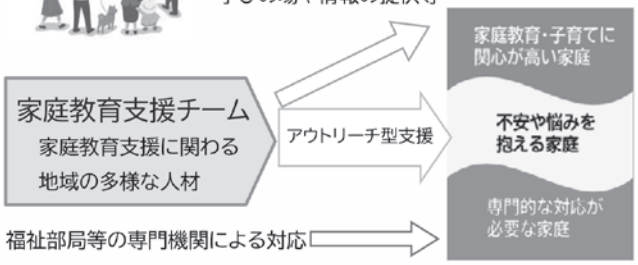
○福祉部局等との連携方策　等
行政関係者（教育委員会および福祉部局）、学校関係者、PTA関係者、社会教育関係者、学識経験者等幅広い分野の方々の参画を得て実施



地域全体で家庭教育を支える体制が必要

<地域における家庭教育支援（イメージ）>

学びの場や情報の提供等



②家庭教育支援に関する推進体制の構築

○家庭教育支援に関わる地域の多様な人材の養成
支援活動の企画・運営・関係機関・団体への連携等を担う中核的人材を養成

○家庭教育支援員等の配置
家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う家庭教育支援員を配置するなど、身近な地域における家庭教育支援体制を強化

○「家庭教育支援チーム」の組織化
【チーム員構成例】
子育て経験者等の子育てサポーターリーダー、民生・児童委員、元教員、保健師、SSW等

○家庭教育支援員等に対する研修の実施
県実施の研修を効果的な機会として活用。市町での実施も可能

③家庭教育支援に関する取組の実施

○保護者への学習機会の効果的な提供
就学時の健診や保護者会、参観日や企業内での従業員向け研修など、多くの親が集まる機会を活用

○親子参加型行事の実施
親子の自己肯定感や子どもの自立心などを養成するプログラム提供

○家庭教育に関する相談対応や情報提供
子育てに悩みや不安を抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭状況に応じ、家庭教育支援チームなどによる情報提供や相談対応を実施

○保護者に寄り添うアウトリーチ型支援の実施
自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な保護者など、真に支援が必要な家庭に対し、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者の居場所に出向き、保護者に寄り添い情報提供や相談対応を実施する。

「訪問型家庭教育支援」モデル構築・普及事業を活用し、市町へ伴走型支援をすることで県内の「訪問型家庭教育支援」の普及を図る。

滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

※「地域と学校の連携・協働体制構築事業」に含む。

趣旨

・学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」への転換を目指すことが必要であり、平成29年4月学校運営協議会の設置が努力義務化された。
・「学校運営協議会制度」に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。また市町や県立学校のコミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築等に対して助言を行うアドバイザーを県に配置し、各市町や県立学校を訪問して助言を行うとともに、県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進する。

CS導入・運営の充実に向けた支援体制の構築

国庫補助事業「地域と学校の連携・協働体制構築事業」として実施　　補助率：国1/3

①CSアドバイザー派遣

市町・県立学校のCS立ち上げや推進体制構築に向けた助言や設置後のアフターフォロー

②コミュニティ・スクールの研修の充実

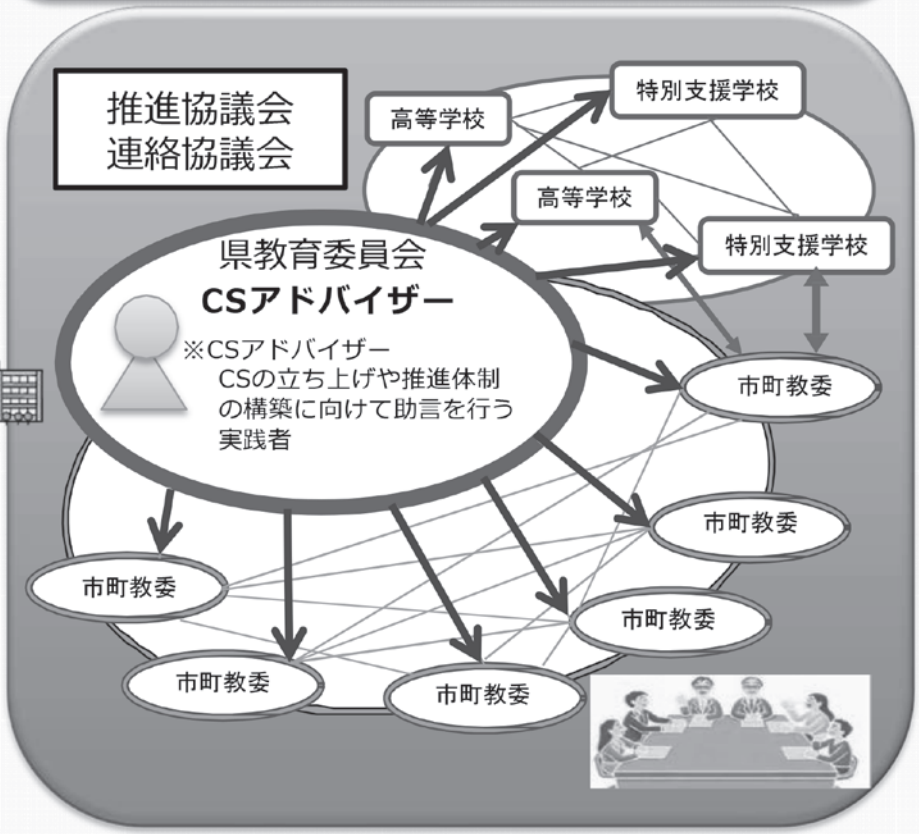
推進フォーラム・学校管理職研修会・事業成果報告会等開催

③推進協議会・連絡協議会の開催

④学校運営協議会設置（県立学校）

■令和３年度 学校運営協議会設置校

市町立校園
（小・中）186校（幼稚園等）10園
県立学校
（中・高・特支）19校



コミュニティ・スクールの設置拡大および取組が充実することにより得られる効果

- **学校教育の質の向上および学校支援活動の充実**
- **地域と学校が、共通したビジョンをもった主体的・能動的な取組の展開**
- **地域の学校理解の深まり、当事者意識の向上**

→社会総がかりで子どもたちを育む

⇨地域と学校の連携・協働体制の構築により、教職員が子どもと向き合う時間が確保される。

『学校を核とした地域力強化プラン』に係る県推進協議会

◆ 推進協議会委員（敬称略）

No.	氏　名	所　属	No.	氏　名	所　属
1	上村　文子	滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー・スクールソーシャルワーカー	5	西　敦生	東近江市教育委員会事務局 生涯学習課　指導主事
2	下澤　辰次	高島市立湖西中学校　校長	6	宮治　一幸	前ＣＳアドバイザー 元 湖南市立岩根小学校　校長
3	武井　哲郎	立命館大学経済学部　准教授	7	山元　尚美	湖南市立石部南小学校　地域学校協働活動推進員　学校運営協議会委員
4	中澤　成行	県立能登川高等学校　校長			

（Ⅰ）　推進協議会の概要

◆第１回推進協議会

１　協議会概要

期　日　　：令和３年５月19日（金）13:30～15:15
会　場　　：大津合同庁舎３階　３－Ａ会議室
出席者　　：宮治座長、中澤副座長、上村委員、下澤委員、武井委員、西委員、山元委員
オブザーバー：（県ＣＳアドバイザー）伊藤アドバイザー、北島アドバイザー、北辺アドバイザー、髙木アドバイザー
松田アドバイザー、山田アドバイザー
（県教育委員会事務局）畑 主幹（幼小中教育課）、嘉瀬参事（特別支援教育課）
事務局　　：県生涯学習課（９名）

（１）　開　会　　・県生涯学習課長　挨拶
（２）　座長、副座長選出
（３）　協　議
①令和３年度「学校を核とした地域力強化プラン」について
②今年度の力点について
Ⅰ：「ＣＳ未導入の県立学校および各市町に対しての県としてのアプローチについて」
Ⅱ：「コミュニティ・スクール、地域学校協働活動と連携した家庭教育支援の導入・推進について」



２　協議要旨

・「地域から学校へ」というベクトルと、学校だけ全てを担うのでなく地域の中で子どもたちを受け止める場所を作っていくという「学校から地域へ」という、両方のベクトルが必要だろう。
・子どもがＰＤＣＡサイクルを回していく力をつけてやる。大人だけが担う協働活動であってはならない。
・地域の強みが学校の課題解決につながっていくことが、先生方の働き方改革につながるし、子どもたちも保護者も救われて、その子どもたちも地域に愛着を感じて地域に根付くのではないか。
・地域の方は子どもたちのお世話をするばかりではなく、子どもたちに関わることで地域の方も多くのことを学んでおられる。互いにプラスとなっている面がある。



・１８歳以下の子どもすべてに家庭教育の下支えがいる。だからこそ、地域でやっていくことが大事。これから、ＣＳの傘下の中に家庭教育支援のしくみが整っていくと、もっと多様な家庭支援ができる。
・ＣＳアドバイザーから話すことと実際に導入して取り組んでいる学校の先生方の話とでは感じ方が違うと思うので、そのあたりを工夫しながらの情報発信が大事ではないか。

◆第２回推進協議会

１　協議会概要

期　日：令和４年１月14日（金）13:30～15:05　　会　場：滋賀県庁北新館５階　５－Ａ会議室
※会場参加およびオンライン参加による開催（下線の参加者は、Ｚｏｏｍによる参加）
出席者：宮治座長、中澤副座長、上村委員、下澤委員、西委員、山元委員
オブザーバー：（県ＣＳアドバイザー）安藤アドバイザー、伊藤アドバイザー、髙木アドバイザー
松田アドバイザー、山田アドバイザー
（県教育委員会事務局）伊吹参事（高校教育課）
嘉瀬参事（特別支援教育課）
畑　主幹（幼小中教育課）
事務局　　：県生涯学習課（８名）



（１）　開　会　　宮治座長　挨拶
（２）　協　議
①令和３年度各事業の成果と課題、今後の方向性について
ア　県事業について
イ　各市町における実施事業状況について
ウ　コミュニティ・スクール推進事業 および ＣＳアドバイザー派遣について
エ　地域における家庭教育支援基盤構築事業について

②今後の地域と学校の連携・協働体制の推進の在り方について
ア　国のＣＳ設置努力義務の見直しについて
イ　今後の「家庭教育支援」の推進について
ウ　来年度の推進方策（事務局提案）について
①地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の複数配置の推奨
②市町事務局担当者対象の研修・情報共有の場の提供

２　協議要旨



・最初の立ち上げの段階で十分な熟議や組み立てがあいまいであった市町の学校がある。立ち上げまでにじっくりと熟議を重ねることが大事。
・県立学校でくくらないで高校と特別支援学校をしっかり分けるということ、また、高校における地域学校協働活動を滋賀県ではやっていないので、今後やっていくべきではないか。
・「学校運営協議会ができたらいい」で終わらないために、高校教育課・特別支援教育課・幼少中教育課が、生涯学習課と一体化して「社会に開かれた教育課程」を推進していかなければならない。
・一番子供が困っている諸課題から、家庭教育支援の必要性を感じている。家庭の基盤を福祉だけで頼るのではなく、ＣＳに参画いただけるような地域の皆様と、しんどい家庭を支えていかなければいけない時代。
・市町で家庭教育支援チームができると、県立学校との連携ができ、兄弟関係の学びの保証・ヤングケアラーについて救われることもあるのではないか。
・家庭教育支援について、子ども食堂や学習支援などを地域で取り組んでいくことで、しんどい家庭を把握し、学校と一体化できる部分がある。そういう意味でまとまっていく必要があるので、ＣＳを上手に使えばいい。
・「児童生徒に自治的な活動をさせて、主体性をもたせること。一市民として責任感を持たせることが必要ではないか」という話を聞き、これまで大人がお膳立てしすぎて子どもの主体性を奪うことがあったことに気づいた。

（Ⅱ）各研修会の概要

◆令和３年度「学校を核とした地域力強化プラン」第１回研修会および事業説明会

１　趣旨　県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。

２　主催　滋賀県教育委員会

３　対象　・「学校を核とした地域力強化プラン」事業実施市町担当者
・「学校を核とした地域力強化プラン」事業未実施市町の参加希望担当者
・各市町生涯学習・社会教育主管課担当者　・各市町学校教育主管課担当者
・地域学校協働活動推進員　等

４　日時　令和３年４月 26 日（月）13:30 ～ 15:00　（ 15:00～ CS 連絡協議会 ）

５　会場　滋賀県庁東館７階大会議室　（※ オンライン参加の場合は任意）

６　内容　○行政説明　・滋賀県における地域と学校の連携　・協働推進方針について　・事業概要について
・今年度の研修について　・補助金事務および事業実施の留意点について
○講　演　演題：「コロナ禍における地域と学校の協働を考える」
講師：武井　哲郎　氏（立命館大学経済学部　准教授）

７　参加者数　66 名（来場 27 名、オンライン 39 名）

８　講演の概要



講師より、「地域と学校の協働にはプラス面もあればマイナス面もある。協働そのものが目的化すると、子どもやその保護者に対して負の影響を生じさせることすらある。地域と学校の協働は、子どもの学びや育ちを保障するための手段であることを忘れてはならない。」という基本的なスタンスの説明から始まった。
講演の流れは、①Before コロナの地域と学校の協働、②協働の現状と課題を分析する、③After コロナで求められる協働、④With コロナ時代に取り組むべきこと、であった。地域と学校が協働するときのポイントについて、『学校づくりと地域づくり』および『プログラムの実施（Doing）と居場所の提供（Being）』が相補的な関係性にあるということで、２軸４象限を用いて共に考えることによって整理できることを提示いただいた。さらに、After コロナにおいて、『校内居場所カフェの提供』や『こども食堂』、『フリースペース事業』が有効な取組になることや、With コロナ時代における学校運営協議会のバージョンアップを図るためのヒントをご教示いただいた。

９　参加者のアンケートより

・国としての施策の流れや事業の仕組みがわかりました。
・多くの市町が CS を導入していこうとするときに、要件と活動をしっかりと理解して進めていくことの大切さを認識することができました
・After コロナに向けて、学校運営協議会のバージョンアップ、現状の委員は適切であるか、見直していく必要性をわかりやすく話していただきありがとうございました。
・「居場所の提供」という視点が参考になりました。どうしてもプログラム実施に目が行きがちです。校内居場所カフェ…いいですね。
・研修会の参加は初めてなので、正直内容の理解は３割もできていませんが、紹介いただいた本を活用し再度学習し、少しでも理解を進めていこうと思います。
・四領域で示された図が印象的でした。Doing と Being に分けてこれからの動きが明確に示されました。今後どのようにサポートしていくのかを考える目標となりました。
・学校づくりと地域づくり、Doing と Being の話により、これまで子どもの生活（暮らし）を漠然と捉えていたところを整理して考えることができ、とても勉強になりました。With コロナ、After コロナを見据えての取組をしていくことが大切と感じました。
・どのような人を据えていくのが真の求める CS の母体となる運営協議会となっていくのか、これから先の本市の目指す CS づくりの大切な提言となると思います。



◆令和３年度「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（新規導入市町等対象）

１　趣旨　コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入する（予定も含む）市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。

２　主催　滋賀県教育委員会

３　対象　（１）「学校を核とした地域力強化プラン」市町担当事業関係者（各市町担当者）
（２）公立幼稚園、小・中学校教職員
（３）地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター・統括的コーディネーター等

４　日時　令和３年７月８日（木）　13:30 ～ 16:00

５　会場　滋賀県庁 東館７階 大会議室（大津市京町四丁目１番１号）　オンライン（Zoom）による参加も可能

６　内容　○講演　演題：「魅力ある地域づくり・学校づくりを目指して　～具体的な体制づくりと役割～」
講師：宮治　一幸　氏　　令和３年度「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会座長、元ＣＳアドバイザー、湖南市立石部中学校元校長

○パネルディスカッション
テーマ：「地域にとっての学校、学校にとっての地域の在り方」
パネリスト：　伊藤 照男 氏（ＣＳアドバイザー、岩根小学校元校長）、西 敦生 氏（東近江市生涯学習課 指導主事）、和田 昌子 氏（米原市立大東中学校 校長）　［五十音順］

７　参加者数　70名（来場39名、オンライン31名）

８　講演・パネルディスカッションの概要



講演は、「『魅力ある地域には、魅力ある学校が存在』し、また、『魅力ある学校づくりは、魅力ある地域づくりにつながる』と信じている」という言葉から始まった。学校は地域の中にあり、子どもたちは地域から通ってくるのだから、学校運営協議会制度を利用して、「学校は地域と一緒に子どもたちと関わっていこう！」という基本的なスタンスの説明をいただいた。講演のキーワードは、学校と地域は「対等」の関係であること、「手間暇」をかけて「手間暇」を楽しむこと、学校運営協議会で出会えるのが「楽しみ」であること、であった。宮治先生のご経験から、湖南市立岩根小学校と湖南市立石部中学校における取組について具体的に説明いただくことで、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策についてのヒントをご教示いただいた。

パネルディスカッションでは、①コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の効果や課題、②地域と学校の取組を持続可能なものにするために必要な視点、③学校の負担感を払拭するための方策、④学校と地域の関係づくり、⑤学校と地域の理解を深めて事業を進めていくための方法、⑥ＣＳ導入の義務化によって懸念されること、についてパネリスト３名のそれぞれの立場で意見を述べる内容となった。教職員、行政職員、地域学校協働活動推進員の方々にとって、今後の取組へのヒントを得られる場となった。

９　参加者のアンケートより



・目の前の子どもとどう関わりたいのかという強い思いを持って設置に向かいたい。支援から協働へのベクトルで頑張っていきたい。
・コミュニティ・スクールは、『しなければならない』と捉えるのではなく、『どんな学校にしたいか』を地域と学校が一緒になって進めていくものだと理解した。
・研修に参加し、頭の中が少しずつ整理されてきました。魅力ある地域づくり学校づくりをめざして、楽しんで取り組めるようにしたいです。
・同じ不安をパネリストの方々が質問してくださったので大変参考になった。
・それぞれの立場の方からの意見を聞き、学校の不安を受け止めつつ、それでも子どもたちに力を付けるために、ＣＳをいかして学校づくりを進めること、持続可能なためにもそのスタートに共有のビジョンを明確にすることが重要であると学ぶことができた。
・「持続可能な活動にしていく」ことが大切だと改めて感じた。そのためには、児童・生徒の表情がイキイキと変わる姿・場面というものを、地域の方々、保護者の皆さん、教員が共有することからスタートすることが大切だと思う。また、児童・生徒や教員に、地域の方々の笑顔が見え、言葉が聞こえることが成長につながり、課題解決につながると思った。

◆令和３年度 県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

１　趣旨　　学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションを通して、県立学校における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、当研修は、動画配信によるオンデマンド研修として実施とする。

２　主催　　滋賀県教育委員会

３　対象　（主に県立学校関係者を対象とする）

（１）県立高等学校教職員、県立特別支援学校教職員

（２）県立学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員

（３）各市町担当職員



４　実施方法および期間

（１）配信期間　　令和３年７月２０日（火）～８月３１日（火）

（２）方　　法　　公開期間を限定した動画配信によるオンデマンド研修

５　内容

（１）　講演演題：「高校におけるコミュニティ・スクール～持続可能なしくみの実現～」

講師：大阪府立富田林中学校・高等学校

校長　大門　和喜 氏、首席　永岡　佳典　氏、教諭　藤森　卓磨　氏

（２）県立ＣＳ導入校関係者を交えてのパネルディスカッション

テーマ：「県立学校における地域と学校の連携・協働について」

パネリスト：県立学校ＣＳ導入校関係者４名

・安藤　清代　氏　：ＣＳアドバイザー（草津養護学校 現学校運営協議会委員、元校長）

・中澤　成行　氏　：能登川高等学校長

・平野　宏文　氏　：甲南高等学校長

・山田　薫　氏　　：ＣＳアドバイザー（元 伊香高等学校長）

６　動画視聴数

（１）講演：119 回　　（２）パネル・ディスカッション：（前編）96 回　　（後編）61 回

７　講演・パネルディスカッションの概要

講演では、大阪府立富田林中学校・高等学校のコミュニティ・スクールとしての考え方や取組を中心にお話しいただいた。産学官協働を意識した教育活動に取り組まれ、学校運営協議会では教職員の負担軽減についても考慮されながら、学校運営協議会委員やＣＳコーディネーターによるサポートのもと、「総合的な探求の時間」において出前授業やフィールドワーク、講演などが実施されていることを紹介していただいた。



パネルディスカッションでは、県立学校でコミュニティ・スクールの導入・推進に携わってこられた元校長・現役校長に加え、これから導入を検討しておられる校長先生にお話しいただいた。各校で導入に至った経緯や取り組んでこられた内容、ご苦労いただいたことなどを具体的に説明され、学校運営協議会の委員選定やコミュニティ・スクールを導入するにあたっての考え方についてもご教示いただいた。

８　参加者のアンケートより

・学校運営協議会委員及び CS コーディネーターのサポートにより、円滑に地域学校協働活動が行われていることが伝わってきました。始めるときは気持ちの負担が大きいかもしれないが、いざ、初めて見ると企業からも生徒からも、教員からもプラスになる活動が作り上げられることを学んだ。

・「生徒が主体的に活動できる場を見出せる」ことを目標の一つとして、学校・地域・関係機関が一丸となって新しい教育力の構築に向けてスクラムを組むことはたいへん意義深いと思った。

・コミュニティスクールの取組を進めるためには、「地域の活性化」と同時に「生徒を地域で育てる」という有用性について、教職員の共通理解が必要なことがわかりました。

◆令和３年度「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（事業推進市町等対象）

１　趣旨　将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め一層の推進をねらい、対象者への研修会を開催する。

２　主催　滋賀県教育委員会

３　対象　（１）「学校を核とした地域力強化プラン」市町担当事業関係者（各市町担当者）
（２）公立幼稚園、小・中学校教職員
（３）地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター・統括的コーディネーター等
（主に、既にプラン事業を推進されている市町を対象とした内容）
（４）「地域連携担当者」等新任研修受講者（選択研修）

４　日時　令和３年８月 27 日（金）　13:30 ～ 16:15

５　会場　滋賀県立男女共同参画センター　（近江八幡市鷹飼町 80－４）
緊急事態宣言下により、オンライン（Zoom）参加のみ

６　内容

○講演（50 分）
演題　：「学校と地域が協働し、みんなが元気になるために
～持続可能な「地域とともにある学校」づくりを通して～」
講師　：　北島　泰雄　氏（滋賀県ＣＳアドバイザー、元 草津市立草津第二小学校長）

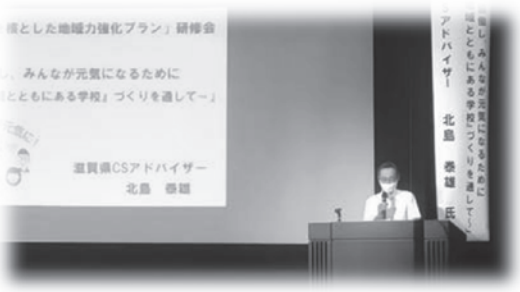
○コミュニティ・スクール　実践紹介（30 分）
発表者　：　松田　幸夫　氏
（滋賀県ＣＳアドバイザー、長浜市立余呉小中学校 主任事務主査）

○パネルディスカッション（40 分）
テーマ　：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の
持続可能な在り方」
パネリスト：３名［五十音順］
磯崎　久和 氏（彦根市生涯学習課 主幹）
松田　幸夫 氏（ＣＳアドバイザー、長浜市立余呉小中学校 主任事務主査）
山元　尚美 氏（湖南市立石部南小学校　地域学校協働活動推進員）

７　参加者数　111 名（市町 58 名、地域連携担当者 53 名）がオンライン参加

８　講演・事例発表・パネルディスカッションの概要

講演は、まずコミュニティ・スクールと地域学校協働活動についての再確認、そして、一体的推進の在り方について説明いただいた。さらに、学校運営協議会を設置する目的、「納得解」を目指す熟議の大事さについて問いかけられ、参加者が考える機会となった。また、持続可能なコミュニティ・スクールの推進のために、地域資源を活かすことや取組の広報・周知、組織づくりについて具体的にご説明いただき、学校・地域・家庭それぞれが元気で明るくなる「三方よし」の学校づくり・地域づくりを目指すことをご教示いただいた。





事例発表では、長浜市立余呉小中学校のコミュニティ・スクールとしての取組を発表された。その中で、「余呉ふるさと科」（生活科・総合的な学習）という９か年におよぶカリキュラムの実践や、子どもや保護者、地域の方、教職員それぞれが思いを出し合い、具体的実践へつなげる熟議「よごトーク」を紹介され、「熟議」「協働」「マネジメント」および目標・ビジョンの共有が大事だということを伝えられた。

パネルディスカッションでは、①コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の効果や課題、②地域と学校の取組を持続可能なものにするために必要な視点、③ボランティア等の人材確保のための方法、についてパネリスト３名のそれぞれの立場で意見を述べる内容となった。教職員、行政職員、地域学校協働活動推進員の方々にとって、今後の取組へのヒントを得られる場となった。

９　参加者のアンケートより

・目指す子ども像を共有しながら活動を進め、話し合いの中で「納得解」を見つけようとする姿勢が重要であると感じた。

・それぞれの立場で何年もされている中、少しずつ変わってきている様子などもよくわかり、導入された頃より注目していかなければならない問題がよりはっきりしてきた。

・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動について、何をするにしても、この仕組みに関わる人々がそれぞれの想いを尊重しながら、子どもたちにどのようなことを伝えていくのかを考えていくことが大切だと感じました。

・コミュニティ・スクールに関わっている方々が、それぞれの立場で特色のある取組を紹介していただくとともに、苦労されていることも知り、イメージ通りに取組が進まなくても焦らずじっくりと取り組んでいこうと思えた。

・それぞれの役割や機能が分かり、さらに両輪として機能することで、地域とともにある学校づくりが進むことが分かりました。両輪として機能するためにも、地域連携担当者の役割が大切であることも分かりました。

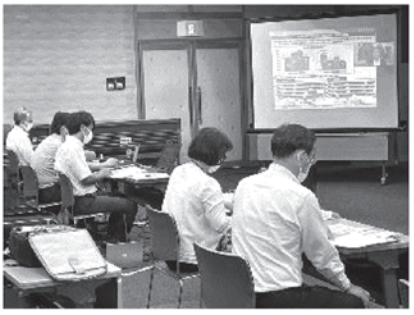
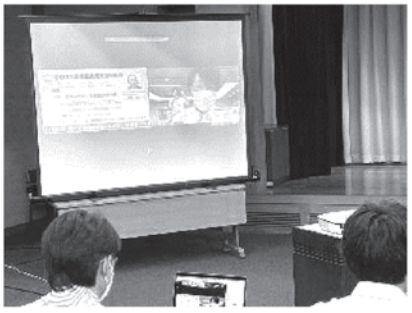


◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

核家族化、地域のつながりの希薄化、そして昨年から続くコロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修会および実践交流会を実施する。

1．家庭教育支援研修会

対　　象　「地域における家庭教育基盤構築事業」担当者・家庭教育支援員・市町子育て支援担当、民生委員・児童委員、主任児童委員等
日　　時　令和３年９月 17 日（金）13:30～16:30　　参加者数　８３名
会　　場　オンラインによる開催
内　　容　○講演　演題：「今、求められている家庭教育支援について」
講師：新崎 国広　氏（大阪教育大学 教育学部教育協働学科教授）
○事例発表：「山口県岩国市平田の子どもたち元気応援チームの取組」
発表者　：川本　美由紀　氏（「とどける」元気応援サポーター）
○質問コーナー

オンライン開催にも関わらず、たくさんの参加者から御発言をいただき、活発な情報交換が実現しました。

2．家庭教育支援実践交流会

対　　象　「地域における家庭教育基盤構築事業」担当者・家庭教育支援員・市町子育て支援担当、民生委員・児童委員、主任児童委員等
日　　時　令和４年１月 28 日（金）13:30～16:00　　参加者数　７２名
会　　場　滋賀県立男女共同参画センター　大ホール（オンライン参加も併用）
内　　容　○講演　演題：「今、求められている家庭教育支援とは」
講師：上村 文子氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー）
○実践事例発表：（近江八幡市および日野町の取組）
近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課　指導主事　岡本賢治氏
日野町教育委員会事務局生涯学習課　瀧川純子　氏
日野町立桜谷小学校　家庭教育支援員　若松賢一　氏
○情報交換





◆令和３年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会

１　趣旨　本研修会は、標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の発表や「地域とともにある学校づくり」に関する講演を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。

２　主催　滋賀県教育委員会

３　対象　（１）地域学校協働活動関係者：地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、ボランティア等
（２）学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者
（３）各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者
（４）公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員

４　日時　令和４年１月 20 日（木）　13:30 ～ 16:00

５　会場　滋賀県庁東館７階大会議室（大津市京町四丁目１番１号）
★参加対象者には、できる限りオンライン（Zoom）による参加を依頼。

６　内容

○事例発表：湖南市立甲西北中学校
発表者　：　打田　マヤ　氏（甲西北中学校　教頭）
湯室　美世子　氏（甲西北中学校　地域学校協働活動推進員）

○講演
演題　：「地域と学校をつなぐ持続可能な体制づくりに望むもの」
講師　：　谷口　茂雄　氏（湖南市　前教育長）

７　参加者数　９６名（来場５名、オンライン 91 名）が参加

８　講演・事例発表の概要

事例発表では、まず、湖南市立甲西北中学校での地域学校協働活動を中心とした取組を発表された。その中で、学校支援員や地域ささえあい推進員などの多くの地域の方とのつながりながら様々な活動をしていくボランティア部を紹介された。

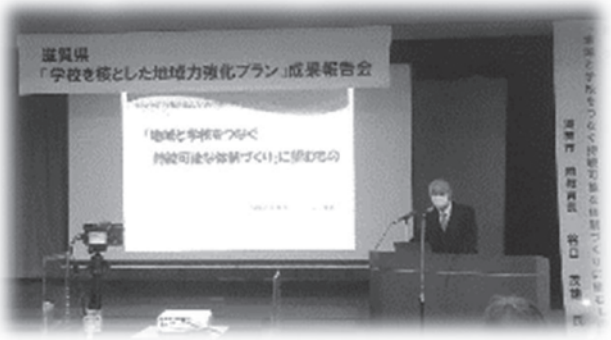
生徒が活躍する居場所や見守り支援する地域の方々を発掘し、学校と地域をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の重要性を、具体的な事例を挙げて、ご説明いただいた。

また、その取組により、地域と学校がお互いに必要としあう好循環が生まれ、生徒は自己肯定感を持つことで「大人主導の活動からの脱却」して主体的に行動するという大きな効果につながることを伝えられた

講演では、まず湖南市における体制づくりをもとに、子どもたちが自尊感情をもって成長していくために地域・学校・家庭がつながる必要があることを説明いただいた。さらに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の目的、地域学校協働活動との関係性とその教育効果について確認していただき、持続可能なしくみづくりのための学校・家庭・地域の役割分担や、研修や意思疎通の機会の重要性について御教示いただいた。



９　参加者のアンケートより



・湖南市立甲西北中学校の実践発表では、子どもたち主体で活動する姿、アイデアなど具体的な例が聞けて勉強になりました。

・子どもたちが主体となって行動できるしかけにすることで、学校の課題が改善されていく様子がよくわかりました。

・事例発表の中で言われた「やることを楽しむ」という視点を忘れず、地域にある教育資源という宝を掘り当てるようにすることが必要だと感じました。

・「教育は学校だけで完結しない」という言葉に共感した。本校でも、家庭教育力の支援など、地域と連携しなければ根本的に解決しない課題があり、どうすべきか悩んでいたが、ヒントとなる事例があり参考となった。

・いかにして、先生方や地域の方がトップダウンとして捉えるものではなく、自分たちで作り上げていくものという意識をつくっていくかということが大切であることをあらためて気づきました。

・地域と学校の繋がり強化によって、子どもたちを見守るネットワークができ、その中で学校に足の向かない子どもたちにも自己肯定感を感じられるような活動の場ができつつあるというのは素晴らしいことだと思った。

・子どもたちの自尊感情を育てるための三本柱、湖南市の教育方針を各学校で張り出されたことをお聞きし、私もまさにそうしたことが必要だと考えていたので、その実践・成果について学ぶことができて大変勉強になりました。



彦根市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

・実行委員会の開催（年２回）

第１回	６月 11 日（金）	書面会議、事業に関する資料配布
	６月 22 日（火）	書面会議結果の送付（取組交流）
第２回	２月予定（ＷＥＢ）	各本部の実践交流・次年度に向けた協議

・学校訪問（10～11 月）

各支援地域協議会（委託先）およびコミュニティ・スクール導入校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の状況把握と助言を行った。

■本年度の成果

・新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。

・コミュニティ・スクールの理解や導入促進に向けて、校長会研修会の実施、手引きの作成と説明、学校運営協議会設置に関する規則の改正を行った。

・社会教育委員の会議において、社会総がかりで子どもを育てるために、家庭教育の充実や企業との連携、コミュニティ・スクール導入の機運の向上に取り組んだ。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、人材を安定的に確保していくことが重要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進委員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度新たに３校で学校運営協議会を設置し、本市の学校運営協議会は８協議会（９校）となる予定である。これまでの成果と課題をもとに導入を加速していきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・校内テレビ放送を活用したり、フェイスシールドを着用して対面で読み聞かせをしたりするなど、子どもたちの学びを止めないように活動を工夫している。

・地域未来塾では、基本的な感染防止対策とともに、個別指導による密接を避けるための座席配置や子ども達と学習支援員の間の衝立設置など、各校の状況に応じた工夫をして実施に努めている。

・コロナ禍で希薄になった人と人との温かな「つながり」と「感染防止」をどのように両立するかが課題である。

近江八幡市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

今年度、市内すべての公立幼稚園、小学校、中学校が学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）となった。地域と学校の協働体制の構築に重点を置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向き合っている。また、市内すべての公立幼稚園、こども園、小学校、中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めている。

■本年度の具体的活動

５月～８月　各校園の第１回学校運営協議会への出席及び説明
１０月２８日（木）コミュニティ・スクール研修会（１回目）
１１月２５日（木）コミュニティ・スクール研修会（２回目）
１月２０日（木）学校を核とした地域力強化プラン事業成果報告会



【　放課後子ども教室の様子　】

■本年度の成果

・地域学校協働活動のねらいや運営方法の見直しが進み、地域と学校の連携のあり方や、めざす子ども像について地域と学校が改めて考える機会になっている。
・放課後子ども教室を設置している小学校では、元教員や専門的な知識を持つ学習支援員が、自分の得意分野を活かして、教員とは異なった視点で子どもを見つめ、幅広い体験をすることができている。地域の大学生が支援員としてかかわっている小学校もあり、支援の輪が広がっている。



【　地域の機関との連携　】

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・コミュニティ・スクール研修会を２回行い、地域学校協働活動推進員の方や管理職への理解を深められるようにした。その際、取組状況の交流をしたり、ＣＳアドバイザーの先生に質問をしたりする時間を設けたことで、より具体的に地域と学校の連携について考えることができた。
・すべての小学校に放課後子ども教室を設置することを目標としており、来年度は新たに２校設置する予定である。しかし、人材や場所の確保等で、設置が難しい小学校もある。まちづくり協議会など、地域住民の理解と協力を得ながら、設置に向けた動きを進めなければならない。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・社会教育法および、本市が制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、市内の２３校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ１名の地域学校協働活動推進員を配置し、委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・今年度、市内５つの公立幼稚園、１２の公立小学校、４つの公立中学校の合計２１校園すべてに学校運営協議会を設置した。各校園でのコミュニティ・スクールの取組の充実を図るため、研修を重ね、また各校園での取組の実践交流を通して学び合う機会をもつ必要がある。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・放課後子ども教室では、学習支援員の数を増やし、少人数で活動を行えるようにした。

草津市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

草津市では平成 10 年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに知恵を出し合い、体験、活動することで、様々な学びや発見、成長につなげている。人と人、人と地域がつながる機会となり、未来を担う子どもたちが地元を知り、愛し、地域の大人が子どもたちと共に地域・学校をより良くしていこうとする輝く人づくり・まちづくりを目指している。



【　業務説明会　】

■本年度の具体的活動

（１）運営委員会

第１回（４月７日）地域協働合校推進事業の趣旨説明と学校運営協議会との連携推進について
第２回（８月３日）コミュニティ・スクールと地域協働合校推進事業についての研修
第３回（２月３日）総括会議　一年の振り返り、実績報告書について説明

（２）地域コーディネーター

業務説明会（４月 16 日）地域コーディネーターの機能と業務について
情報交換会（７月 15 日）社会に開かれた教育課程と地域協働合校について、1 学期の活動報告および課題の検討、情報交換
総括会議（１月 27 日）一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

（３）地域協働合校全体研修会（11 月８日）

対象：地域協働合校担当教職員、地域コーディネーター、小中学校ＰＴＡ、地域まちづくりセンター職員、まちづくり協議会地域協働合校推進委員、市関係課職員
内容：今後の方針について事務局からの説明後、立命館大学経済学部准教授　武井　哲郎氏による講演。Zoom 参加者と会場参加者で分かれて実施事業の振り返りと共有



【　全体研修会　】

（４）広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を年５回発行
広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布、庁内掲示、草津市ＨＰ掲載

■本年度の成果

コロナ禍で事業が延期や中止となる中、児童生徒に必要な内容を精選し実施するため、学校運営協議会を経て開催できた事業や、地域コーディネーター発信で、学校ボランティアが募られ、幅広い地域住民の参画が得られたことは、地域の活力を生かした学校運営が推進され、持続可能な社会の創り手の育成につながった。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

持続可能な取組とするためには、学校と地域が共に学びを共有できる場を創出することが重要であり、児童生徒の学びを地域に還元する方法を検討することが必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成 31 年４月から地域学校協働活動推進員として委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成 30 年４月から市内全小中学校（計 20 校）に学校運営協議会を導入している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

対面交流から生み出される安心感や、温かさをリモート授業でどのように演出していくかが課題。

栗東市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

学校・家庭・地域の協働と互いの支援で「自己肯定感が高く、笑顔にあふれた子どもを育むまち」を基盤に、緊密な連携をはかりながら、『心豊かに たくましく生きる 人の育成』を目標とします。

■本年度の具体的活動

地域学校協働本部事業を１中学校区で、放課後子ども教室事業を２小学校区で実施しましたが、会議等は新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議等に変更し実施いたしました。放課後子ども教室は新型コロナウイルス感染症の影響により当初の計画よりも少ない回数での実施となりました。

■本年度の成果

新型コロナウイルス感染症の影響により活動に様々な制約等がありましたが、活動を通じて、子どもの居場所づくり、地域の人との交流等の目的の達成はできたと考えます。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

活動スタッフの減少・高齢化等の問題があり、いかに確保するかが長い間の懸案事項になっています。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱なし

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

2023 年度より随時導入予定

■コロナ禍における対応・工夫および課題

手指消毒及び検温の実施、活動中・活動前後の密対策をとりながらの活動を行いましたが、特に放課後子ども教室における子ども達の活動中の密対策は仲間づくりの観点から、難しいこともありました。

野洲市における地域学校協働活動の取組　～地域学校協働本部～

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域、保護者、PTA 等の参画の下、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する姿を目指している。

また、コミュニティ・スクールの設置推進に向けて、「ひとづくり」と「まちづくり」をコンセプトに掲げ、次世代のまちの担い手づくりに重点を置き、「意見を言うだけの組織」から「一緒に行動できる組織」へ、及び「地域の活性化」から地域に生きる「子ども育て」を目指している。

■本年度の具体的活動

６月　コミュニティ・スクール研修会（１回目）

７月　キックオフ会議（１回目）

10 月　管理職説明会

11 月　野洲市地域学校協働活動推進員設置要綱施行



【管理職説明会】

■本年度の成果

本市では平成 23 年度より、学校、保護者及び地域の代表者で構成する「学校応援団」を組織し、家庭を含む地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めた。令和元年度から、「地域学校協働活動」に活動の範囲を広げて活動していた。令和３年度は、コミュニティ・スクールの推進を図るべく学校長をはじめ、地域コーディネーターを中心にコミュニティ・スクール準備会を発足し、今後の目指す姿を確認した。さらに野洲市地域学校協働活動推進員設置要綱を制定・施行し、次年度に向けた取り組みが着実に進捗している。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

コミュニティ・スクールの本格稼働に向け、連絡協議会を開催し、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を中心とし、学校を核としたまちづくりへの協力を図り、社会総掛かりでさらに取り組みを進めていく必要があり、地域ボランティア等の人材確保、リーダーの発掘及び育成、無理のない連携体制の構築が急務である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和３年度準備中。

令和４年度本格導入予定。

野洲市における地域学校協働活動の取組　～放課後子ども教室～

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活動する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の具体的活動

	実施日	参加人数	協議内容
1	令和３年 ５月 28 日	12 名	(1) 令和３年度野洲市地域子ども教室の予算について (2) 令和３年度野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	令和４年 ２月予定	ー名	(1) 令和３年度野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 令和４年度野洲市地域子ども教室の概要について

■本年度の成果

・地域子ども教室を通じて、子どもたちの協調性や自主性、社会性が育まれている。
・地域の方が地域子ども教室に関わることで、地域の交流が生まれ、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が芽生えている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・教室を運営するスタッフの確保が難しくなってきている。市民活動サークルとして登録されている方や、各地域のコミュニティセンターで活動されている団体などへも積極的に協力の呼びかけを行っていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・当該事業については、今のところ市職員が事務局を担っているが、本年度１月に教育委員会より推進員の委嘱を行った。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・学校運営協議会については、令和４年度以降に導入予定である。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・緊急事態宣言が発令された際は、全ての教室が開催できない状況に陥ったが、その後、マスク着用、手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保等により１教室以外は再開することができた。
・施設の利用制限や心理的な問題から参加者や担い手の確保が課題である。

■その他

・現在、コミュニティ・スクール導入に向けての準備や体制整備を行っており、コミュニティ・スクールが本格稼働するタイミングで、放課後子ども教室の実施方法について再検討の予定である。

湖南市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、明日を担う子どもを育てるため、「楽しくて力のつく湖南市教育」を標榜し、「夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、「学力保障」、「仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱としている。本年度より全ての学校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」を推進している。

■本年度の具体的活動

〇市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会　年２回

第１回　４月 20 日(火)　・湖南市教育指針、「地域とともにある湖南市ビジョン」の周知

・地域コーディネーター委嘱状授与　・地域学校協働活動推進事業等の進め方について

・コーディネーターに期待すること　等

第２回　各中学校区において開催

石部中校区　11 月 25 日（木）　甲西北中校区　12 月 14 日（火）

甲西中校区　12 月７日（火）　日枝中校区　11 月 29 日（月）

・取組状況・情報交換、ボランティアの募集工夫、今年度の成果と課題と次年度事業構想意見交流

〇地域学校協働活動推進事業等成果報告会(兼：運営委員会)　令和４年２月 25 日(金)

１）功労者感謝状贈呈　２）実践発表：日枝中学校の取組

３）研修：「全国の様々な取組からみえるＣＳの課題と成果、持続可能な運営の在り方」

講師：髙木和久さん（文部科学省ＣＳマイスター）

■本年度の成果

・今年度よりすべての学校に学校運営協議会を設置することができ、地域と協働して子どもを育てる仕組みが整った。新たに設置した中学校区でのＣＳ設置については小中連携の意識の高まりがみられる。まちづくり協議会と連携し、スクール・コミュニティづくりへの方向付けが明確になった。

・管理職を交え、地域学校協働活動推進員の連絡会を開き、成果と課題を明確にし、共有することができた。次年度の推進方向が確認できた。また、中学校区内連携の意識が高まった。

・今年度もコロナ禍の中にあっての活動であったが、感染防止対策を講じた上で、どのようにしたら子どもたちとともに活動ができるか試行錯誤しながら、多くの取組に地域住民の参加や支援を得て、工夫ある取組が見られた。事業に取り組み、実績を上げることでボランティアの皆さんの理解につながった。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・多くの学校では地域学校協働本部や学校運営協議会を設置して相当の年数を重ねた。創設時から中核となって活動してきていただいた方も高齢となっている。この点において、持続可能な事業継続には地域学校協働活動推進員をはじめ、地域の活動支援者の世代交代が必要な状況もあり、今後は一部の方に負担が偏らないような人的な広がりと継承が大切である。また、各地域学校協働本部の活動資金面での経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、地元企業等との連携・協働を一層進めていく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・地域学校協働活動推進員全員を委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・市内全１３小中学校に学校運営協議会を設置済み。この内、２小学校１中学校では地域の特性を生かし中学校区学校運営協議会を設置している。他 10 校は各校設置である。また、多くの学校運営協議会では委員に地域学校協働活動推進員を含んでいる。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・食が関係するものについてはまだまだ活動しにくい状況がある。

・感染防止対策意識の向上により、会議時間の短縮や参加人数の厳選など、より合理的な在り方を模索することにもつながった。コロナ禍後にも通じるものとしたい。

高島市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域の住民が地域学校協働活動を通し「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の関係をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティの形成をめざす。

■本年度の具体的活動

〇地域学校協働活動推進員協議会（定例会）の開催

協議会では、当該地域の推進員から今年度の本部活動報告および課題について報告・協議した。

〇学校運営協議会と地域学校協働活動の連携状況調査

学校運営協議会との一体的な推進を目指し、教育委員会事務局職員（学校教育課、社会教育課）が各校の学校運営協議会にオブザーバーで参加し、協議の内容や委員の意見を傍聴し、地域学校協働活動との連携の状況を調査した。



【地域とともにある学校づくり研修会】

〇地域とともにある学校づくり研修会の開催

地域学校協働活動推進員と学校管理職を対象に「地域とともにある学校づくり研修会」を開催し、講師に三鷹市教育長貝ノ瀬滋氏を招き、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進にかかる先進事例について研修を行った。

■本年度の成果

地域学校協働活動推進員協議会では、本部ごとに異なる課題を推進員全員で共有し、その解決に向けて意見の共有を図った。特にコロナ禍における地域学校協働活動では他の本部で取り組んでいる活動を参考に取り組みを進めたほか、ボランティア把握のため登録を行った。また、本年度は学校運営協議会において熟議の取り組みの拡がりを見ることができた。その中で、子どもたちをどのように育てるかについて意見交換を行ったほか、学校の課題などについても情報共有を行った。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働活動については、コロナ禍が収束を見せない中にあるため、多くの地域ボランティアが安心して参画いただけるよう、工夫を凝らし取り組んでいかなければならない。また、地域学校協働活動を拡げるために、今後も学校と地域の方が共に熟議を重ね、目的や課題、活動内容などについて情報共有を図っていく。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

中学校区ごとに地域学校協働活動推進員を委嘱し、７名を配置している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

小中学校の１９校全てに学校運営協議会を設置している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

グラウンドなどの環境整備や登下校時の見守りなど、子どもと触れ合う機会の少ない活動を中心に行い、九九道場などの学習支援は、アクリル板設置やマスク着用、手指消毒等、感染予防対策を行い取り組んだ。

東近江市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

■本年度の具体的活動

・本部長及び地域学校協働活動推進員合同会議の開催（４月・２月）
・東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（５月・２月）
・東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催
（小学校：６月・10 月／中学校：７月・11 月／小中合同：３月）
（１）各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
（２）県研修会等の報告
・県教育委員会主催研修会への参加



【　合同連絡会の様子　】

■本年度の成果

・コミュニティ・スクール導入推進のため、４月の合同連絡会にて滋賀県 CS アドバイザーの北島泰雄先生をお招きし、コミュニティ・スクールの在り方について教えていただいた。また、実施校を対象とした先進校視察を実施し、今後の熟議に向けた研修機会とした。
・地域学校協働活動推進員連絡会では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、校種毎に連絡会を実施した。また、市主催の推進員連絡会を学期１回に減らすことで、中学校区ごとの推進員連絡会を開催する等、中学校区で連携できる体制作りについての呼びかけを行った。
・本部長と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために合同会議を開催した。
・ボランティア会議等で活用いただくために、各本部の活動をまとめた東近江市地域学校協働本部実践事例リーフレットを作成した。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・市街地や山間部等、各地域の特色を生かし、持続可能な活動を支援し推進していく。
・地域ボランティア等の人材確保が必要である。
・学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく。



【　推進員連絡会　】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成 30 年度から教育委員会委嘱（令和３年度 28 名）

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・令和３年度より、市内２小学校にて導入
・令和４年度から新たに、市内２小学校にて導入予定

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・市主催の推進員連絡会では回数、参加人数、実施時間を減らして実施している。
・新型コロナウイルス感染症対策を各本部にて実施し、できる範囲での活動が実施されている。

米原市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域学校協働活動もその仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

■本年度の具体的活動

（１）学校運営協議会委員研修会（中止）

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止とした。例年は学校運営協議会委員を対象に、協議会の趣旨および役割等について理解を深める研修会を開催している。

（２）教育フォーラムの開催

中学校区	日　時	内　容
柏原中学校区	11月18日	・吹奏楽部演奏・県教委講演会「スマホと人権」
大東中学校区	中　止	
伊吹山中学校区	中　止	
米原中学校区	11月12日	・関西国際大学百瀬和夫教授講演「特性を持つ子どもたちの育ちとかかわり」
河南中学校区	11月　4日	・CSアドバイザー講話・各校からのプレゼン発表
双葉中学校区	11月20日	・兵庫県園田学園女子大学 髙橋浩之先生講演会

■本年度の成果

○市内すべての小中学校（９小学校、６中学校）および市内の各園が参画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、各校区で実情に応じた協働活動を実施した。

○昨年度ですべての学校に学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動と連携した活動を進めることができた。



【北国脇往還ふるさとウォーク（伊吹山学区）】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

○学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係の更なる構築を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況‥令和２年度より委嘱を実施。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・平成30年度　中学校３校をモデル校として新規に導入（伊吹山中、米原中、河南中）
・令和元年度　小学校７校、中学校１校を追加
（山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小、柏原中）
・令和２年度　小学校２校、中学校２校を追加
（柏原小、坂田小、大東中、双葉中）　※市内全小中学校に設置完了

■コロナ禍における対応・工夫および課題

○教育フォーラムは新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は２中学校区で中止となったが、その中でも書面決済などの方法で、地域連携や保幼小中連携を進めるなどの工夫は行っている。

日野町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

「ふるさとを愛し、ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域に誇りを持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして、地域と学校が連携・協働して学校生活を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢と志をもち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りをもてる子どもたちの育成を目指している。

■本年度の具体的活動

小学校では５年目、中学校では４年目を迎えることとなった。本町では、令和２年度末に学校運営協議会規則を定め、令和４～５年度をめどにすべての小中学校をコミュニティ・スクールへ移行するための準備期間として本年度を位置づけ、協働活動の意義の再確認と活動の充実を図った。

■本年度の成果

緊急事態宣言発令期間中の教育活動の制限に伴い、活動を見合わせた時期もあったが、解除後は当初の計画に沿って順調に活動を実施できた。また、放課後子ども教室・地域未来塾についても、学習の遅れを心配する児童・生徒や保護者の支えとなり、少ない人数で個別に指導を受けられる喜びを感じたり、自分の力の伸びを実感したりする子どもが増えた。なかでも、日野中学校の地域未来塾については、日野町少年センターの協力のもと、新たに２教室目となる放課後学習の場を設けることができ、対象生徒の拡充を図ることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

今後のコミュニティ・スクールへの移行に伴い、これまでの地域学校協働活動の取組とこれからの取組に違いや変化があるのか、あるいは、なぜコミュニティ・スクールへ移行していこうとしているのかという点について、保護者・地域・教職員への啓発を行うとともに、学校運営協議会を組織するための準備が最大の課題となっている。各校においては、地区公民館・幼稚園・ＰＴＡ関係者等との連携会議を開催するなどして、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進に向けた熟議を始めている。



【　ＣＳ研修会（桜谷小）　】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

各学校区の地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）６名、青少年育成町民会議会長、日野町少年センター所長、学識経験者、小中学校長会代表、町ＰＴＡ連絡協議会代表、各地区公民館代表、各小中学校教頭６名で日野町地域学校協働活動推進協議会を組織し、各学校区の協働本部が家庭や地域との連携を図っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

５小学校１中学校の約半数が令和４年度から、残りの学校も令和５年度に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールへ移行する計画である。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

県生涯学習課のオンライン研修会に参加する機会に町推進本部としての実践交流会を兼ねることで、各校の代表が集まって複数回の意見交換を行い、慎重な感染症対策のもと活動を活性化する方法を検討するとともに、コミュニティ・スクールへの移行に伴う手順や課題等を明らかにし、具体的な実践に結び付けることができた。

竜王町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

本町では、公民館に地域学校協働本部の事務局を置くことで、公民館講座受講生や公民館を拠点に活動される団体の中で、優れた技術を持っている地域の方の情報を把握することができ、学校（園）と結びつけながら、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上をめざしている。そして、公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で一人ひとりの人生をより豊かにすることで、まちづくり活動の推進へと繋げたい。

また、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、今までの一方的な「支援活動」から、「連携・協働活動」になることを目指し、地域と学校が子どもたちを支援する「双方向」の関係性を築いていきたい。

また、学校では学べない地域の文化や歴史等を学び、体験することで土曜日の教育支援活動「竜王キッズクラブ」を開講し、児童自身が地元に愛着を持つことはもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■本年度の具体的活動

（地域学校協働活動）

・毎　月：地域学校協働活動推進員会議（定例会）の開催。
・年２回：地域学校協働本部だよりの発行。（上半期、下半期）
・通　年：学校園応援団（ボランティア）の募集。

（土曜日の教育支援）

・通　年：各クラブでの活動（原則土曜日開催）

（共通）

・公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信。



【地域学校協働本部定例会(月１回)】

■本年度の成果

（地域学校協働活動）

・ボランティアと子どもたちが顔見知りになることで、地域コミュニケーションが密になった。
・ボランティアに参加することで、子どもの成長を見ることができた。

（土曜日の教育支援）

・普段の学校生活では交われない異学校や異年齢の児童が、クラブ活動を通じて、一緒に学び体験をすることで交流を深めることができた。
・様々な体験を通じて、心身ともに成長をすることができた。



【サイエンスクラブ 大津市科学館見学】

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

（地域学校協働活動）

・学校から届く支援依頼に対して、ボランティアの調整を行い、派遣をする段階にとどまっており、支援チームを作って自ら支援できる体制の構築には至っていない。
・チームとして支援するためには、リーダーの育成が必要不可欠。リーダー人材の発掘と育成が必要。
・ボランティア登録者数は、年々増加しているが、支援内容により支援に協力できる人の偏りがある。

・学校からの支援依頼が届いてから派遣するまでの期間が非常に短く、短期間に調整し、対応できるボランティアが少ない。

（土曜日の教育支援）

・土曜日の教育支援活動（竜王キッズクラブ）にて、講師人材高齢化が進んでいるため、講師の発掘・継続が必要。

・クラブ活動内容のマンネリ化が進んでいる。子どもたちのニーズにあわせた企画が必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・地域学校協働活動推進員を５名委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・町内の２幼稚園・２小学校・１中学校にコミュニティスクール（学校運営協議会制度）を設置。今後は地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、支援活動を更に発展させ、コーディネート機能を強化しつつ、地域住民の協力を得ながら活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施し、発展させていきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

（地域学校協働活動）

・新型コロナウイルス感染症により、学校への支援を行う際の感染症対策の徹底（マスク、消毒、検温等）。

・支援中は、子どもたちとの距離感を保ちながらも、親身な対応を心がけている。



【チャレンジクラブ　アドベンチャー体験】

（土曜日の教育支援）

・例年は、クラブ活動には兄弟や家族の同伴を可としていたが、参加者の密を避けるために、クラブ生のみの参加とした。

・吹奏楽教室等は、飛沫感染を防ぐために対面では行わないこととし、普段は音楽室での練習だが、感染ステージにあわせて、ホール等広い場所で練習を行った。

・クッキングクラブでは、今まではグループで協力しながら調理をしていたが、自分のものだけを調理することとし、クラブ内での飲食も控えて、持ち帰り対応とした。

多賀町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

多賀町は、「まちづくりは、ひとづくり」であるとの基本認識に立ち「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。一人ひとりの子どもの個性を伸ばし、健やかに、たくましく、自分の将来に希望と夢を持てる子供が育つまち、子育ての大変さ、楽しさを共有し、子育て世帯を地域ぐるみで応援するまちづくりに向けた施策を充実させている。

また、地域の大人が子どもと顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるよう努めている。大人は子どもと共に活動することを通して、持っている知識や経験を子どもたちに伝えることができ、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる。そうした、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

■本年度の具体的活動

（１）登録者に対するボランティア研修会の開催

コロナ禍により、学校の講習会への参加という形で応急手当講習会を実施した。また、２年ぶりに多賀町独自で読み聞かせ講習会を実施した。「絵本の魅力」について講演を受講し、基本を振り返りながら再認識できる講習となった。研修受講後、新たに読み聞かせを始めていただいた方もいる。今後も研修会を実施していきたい。

（２）読み聞かせ・安全見守り・屋外での環境整備活動の充実

中学校特別支援学級での花作り・野菜作りでは、ボランティアさんの指導により、生徒たちも生き生きと活動できている。生徒の笑顔がボランティアさんの喜びとなっている。また、こども園での自然保育活動への見守りを今年度から実施した。保育士とともに、園児の活動を見守ることで、園児とボランティアさんとの交流が定期的に行われている。園児や地域の方にとって、貴重な時間となっている。

（３）「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、土曜日の午前中を利用して、提携塾から派遣された講師による３教科の学習講座（土曜講座）を実施した。



【　土曜講座での教育長挨拶　】

■本年度の成果

（１）新しい活動である、こども園での自然保育時の安全見守りでは、毎回半日ずつ、地域の方々と園児とのふれあいが積極的に行われ、園児たちの楽しみの一つとなっている。（年間 34 回実施予定）

（２）学校や園の花の手入れや学習に必要な野菜作りの下準備では、ほぼ毎日先生方の意向を聞きながら、熱心に子どもたちに関わることができた。児童生徒の成長を目の当たりにでき、全員が楽しんで参加している活動である。

（３）土曜講座では、小・中学生の学力向上を図ることができた。また、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として評価され、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

今年度も活動への制限があったため、毎年活動を楽しみにしてくださる方以外にも広く活動を知っていただくために、広報等を活用したり、ＦＡＸや有線放送、ＦＭ放送、口コミ等で随時ボランティア募集している。


【　こども園の自然保育見守り　】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、「校園の子どもにとり、どのような地域支援が必要か」「地域人材を活用し、開かれた学校づくりをどのように進めるか」等について、ＣＳアドバイザーの指導を受けた研修を重ねている。多賀町に相応しい学校運営協議会を導入するため、他市町の取り組みも参考にしてイメージを膨らませ、今後の具体的な方向性を探っている。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、土曜講座会場を町立博物館から多賀中学校に変更し、換気・消毒等の徹底を行った。その他、少人数での実施、距離を保つなどの工夫をするとともに、屋外での活動を積極的に実施した。

令和3年度　地域学校協働本部一覧　　12市町119本部

No.	市町名	本部名	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区地域学校協働本部	東中学校、城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校	7	17	7
		西中学校区地域学校協働本部	西中学校、城西小学校、城北小学校、城北幼稚園			
		中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校、平田小学校、金城小学校、平田こども園 金城幼稚園			
		南中学校区地域学校協働本部	南中学校、城南小学校、城陽小学校、亀山小学校			
		彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校、河瀬小学校、高宮小学校			
		鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校、鳥居本小学校			
		稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校、稲枝東小学校、稲枝西小学校 稲枝北小学校、稲枝東幼稚園、みづほ会みづほ保育園 ふたば会稲枝ふたば保育園、ことぶき会ことぶき保育園			
		若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校			
2	近江八幡市	八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園	7	12	4
		金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園			
		馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵幼稚園			
		北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園			
		武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園			
		老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園			
		八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校			
		島小学校地域学校協働本部	島小学校			
		沖島地域学校協働本部	沖島小学校			
		岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校			
		金田小学校地域学校協働本部	金田小学校			
		桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校			
		桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校			
		北里小学校地域学校協働本部	北里小学校			
		武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校			
		安土小学校地域学校協働本部	安土小学校			
		老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校			
		八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校			
		八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校			
		八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校			
		安土中学校地域学校協働本部	安土中学校			
3	草津市	志津小学校地域協働合校	志津小学校	0	14	0
		志津南小学校地域協働合校	志津南小学校			
		草津小学校地域協働合校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校			
		渋川小学校地域協働合校	渋川小学校			
		矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校			
		老上小学校地域協働合校	老上小学校			
		老上西小学校地域協働合校	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働合校	玉川小学校			
		南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働合校	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校			
		笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校	常盤小学校			
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	0	1
5	野洲市	中主小学校区地域学校協働本部	中主小学校	0	6	3
		篠原小学校区地域学校協働本部	篠原小学校			
		祇王小学校区地域学校協働本部	祇王小学校			
		三上小学校区地域学校協働本部	三上小学校			
		野洲小学校区地域学校協働本部	野洲小学校			
		北野小学校区地域学校協働本部	北野小学校			
		中主中学校区地域学校協働本部	中主中学校			
		野洲中学校区地域学校協働本部	野洲中学校			
		野洲北中学校区地域学校協働本部	野洲北中学校			

6	湖南市	石部小地域学校協働本部	石部小学校	0	9	4
		石部南小学校区地域学校協働本部	石部南小学校			
		みくもっ子地域学校協働本部	三雲小学校			
		三雲東小地域学校協働本部	三雲東小学校			
		岩根小学校地域学校協働本部	岩根小学校			
		菩提寺小学校地域学校協働本部	菩提寺小学校			
		菩提寺北小学校地域学校協働本部	菩提寺北小学校			
		下田小学校地域学校協働本部	下田小学校			
		水戸小地域学校協働本部	水戸小学校			
		石部中地域学校協働本部	石部中学校			
		甲西中地域学校協働本部	甲西中学校			
		甲西北中学校地域学校協働本部	甲西北中学校			
		日枝中学校地域学校協働本部	日枝中学校			
7	高島市	マキノ地域学校協働本部	マキノ中学校、マキノ東小学校、マキノ西小学校、マキノ南小学校	0	13	6
		今津地域学校協働本部	今津中学校、今津東小学校、今津北小学校			
		朽木地域学校協働本部	朽木中学校、朽木東小学校、朽木西小学校			
		安曇川地域学校協働本部	安曇川中学校、安曇小学校、青柳小学校、本庄小学校			
		高島学園地域学校協働本部	高島中学校、高島小学校			
		新旭地域学校協働本部	湖西中学校、新旭南小学校、新旭北小学校			
8	東近江市	玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校	0	22	9
		御園小学校地域学校協働本部	御園小学校			
		八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校			
		箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校			
		八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校			
		八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校			
		布引小学校地域学校協働本部	布引小学校			
		市原小学校地域学校協働本部	市原小学校			
		山上小学校地域学校協働本部	山上小学校			
		五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校			
		愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校			
		愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校			
		湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校			
		能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校			
		能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校			
		能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校			
		能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校			
		蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校			
		蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校			
		蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校			
		玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校			
		聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校			
		船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校			
		永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校			
		五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校			
		愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校			
		湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校			
		能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校			
		朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校			
9	米原市	柏原学区地域学校協働本部	柏原中学校、柏原小学校、柏原こども園	7	9	6
		河南学区地域学校協働本部	河南中学校、河南小学校、かなん認定こども園			
		伊吹山学区地域学校協働本部	伊吹山中学校、伊吹小学校、春照小学校、いぶき認定こども園			
		米原学区地域学校協働本部	米原中学校、米原小学校、まいばら認定こども園			
		大東学区地域学校協働本部	大東中学校、大原小学校、山東小学校、山東幼稚園、大原保育園			
		双葉学区地域学校協働本部	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校、おうみ認定こども園			
10	日野町	日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	0	5	1
		西大路地域学校協働本部	西大路小学校			
		南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校			
		必佐地域学校協働本部	必佐小学校			
		桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校			
		日野中学校地域学校協働本部	日野中学校			
11	竜王町	竜王町地域学校協働本部	竜王中学校、竜王小学校、竜王西小学校 竜王幼稚園、竜王西幼稚園	2	2	1
12	多賀町	多賀町地域学校協働本部	多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園 大滝たきのみやこども園、多賀ささゆり保育園	3	2	1

子ども、ボランティアをお客さんにしない活動をめざして

彦根市	活動名 ： 東中学校区地域学校協働本部	東中学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①昼休みの図書室開館
②特別支援学級の畑づくり
③特別支援学級の校外活動（地域のプレーパークで焼き芋づくり他）
④外国にルーツのある生徒の学習支援
⑤商店街の祭り（ゑびす講）での書道部の発表



【 支援学級の校外活動（焼き芋づくり）】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・生徒・ボランティアに運営について相談し一緒につくることを大切にした。
・ＳＮＳを活用して、本部とボランティア、教員の情報共有をはかった。
・マスク・消毒・換気・密を避ける等の徹底

■　事業の成果

①昼休みの図書室開館

ほぼ毎日昼休みの開館ができ、たくさんの生徒が利用することができた。これまでボランティアに頼りすぎていた開館について、図書委員が自分たちの仕事として自覚し、ボランティアへの感謝も強くなった。

②特別支援学級の畑づくり

校内の一画の荒れ地が畑となり、生徒の手で季節に応じた野菜を収穫することができた。畑のサポートとして、あらたに地域の方とつながることができた。

③特別支援学級の校外活動

地域にあるプレーパークで、地域の方の手を借りて、焼き芋づくりや山での活動が体験できた。子どもは生き生きと活動し、地域の方との新しいつながりもできた。



【 ゑびす講での書道部パフォーマンス 】

④外国にルーツのある生徒の学習支援

日本語での会話には不自由がないため見落とされがちな外国にルーツのある生徒を、地域の方の支援によって、学習面・生活面で支えることができた。

⑤商店街の祭り（ゑびす講）での書道部の発表

コロナで発表の場を失っていた生徒たちに、発表の場をつくることができた。コロナの影響を受けていた商店街のお祭りを盛り上げることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日々忙しい業務のうえ、コロナ対策などでさらに多忙化している学校が、地域と何かをしようとすると、さらに仕事が増えるため、なかなか新しいことに取り組もうという空気は生まれない。まずは学校の困りごとに目を向け、子どもや地域を巻き込んで、一緒に解決していくとこで、信頼関係をつくり、次の一歩を踏み出すステップにしていきたい。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員
■その他（　担任・学年主任・担当教員（PTA・部活動・委員会・日本語指導）・読書支援員・PTA 役員　）

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンド学習の充実に向けて～

彦根市	活動名 ： 東中学校区地域学校協働本部	城東小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数 80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・マーチングバンドの各パートの練習（毎週金曜日６校時）
・運動会・音楽会などの校内行事への参加
・ゑびす講などの地域行事へマーチングパレードの参加

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・コロナ感染拡大防止のため、マーチングバンドの発表の場でもあった「城まつりパレード」が中止された。そこで、商店街連盟の方や地域コーディネーターと連携し、地元商店街が行っている「ゑびす講」の中で、移動する区域と時間を限定して、静止演奏とマーチングパレードを実施した。
・６年生から５年生への「引継式」に向けての取組として、楽器の体験学習ではなく６年生による楽器の紹介を実施した。
・「引継式」後の 12 月上旬から１月下旬にかけて、６年生から５年生への引き継ぎ期間を設定している。楽器ごとに学習場所を分け、密になることを避けながらボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心の引継ぎも大切にしている。
・本校卒業生の若鮎インターン生や滋賀の教師塾生が自分の担当していたパートを指導する機会をもった。

■　事業の成果
・コロナ禍で発表の場が限られている中、保護者や地域の方の目の前で、子どもたちは達成感や充実感を味わいながら堂々と演奏をすることができた。演奏するすぐ近くで拍手や手拍子、励ましの声などをかけていただいたことは子どもたちにとって大きな自信につながった。また、沿道で見てくださった地域の方々も、演奏曲である校歌等を懐かしそうに聞いてくださっている姿が見られた。
・新型コロナウイルス感染症の感染レベルが上がったこともあり、例年より学習回数が減ったが、指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が向上し、意欲向上へとつながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域学校協働本部を通じて学校と地域とともに連携していくことが大切である。
・地域コーディネーターと人材の発掘と情報交換に努め、「学校」という場を核に、地域の人間関係の中に「あてにする - あてにされる」相互関係を生みだせるような活動を計画する。


【ゑびす講でマーチングの発表　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
マーチング学習に関する児童の感想
今日は最後のマーチング発表でした。終わったときにはやりがいがあって、とても気持ちよかったです。マーチングが終わって帰るときに、いろんな人に「すごかった。」と言われてうれしかったです。この思いを在校生に受け継いでもらい、みんな感動できるようなマーチングにしてほしいです。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「佐和山応援隊」　地域・保護者の方々とともに

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：45 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　■その他［長期休業前の印刷物の作成］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本年度も地域コーディネーターの発信により『佐和山応援隊』を募集していただいた。保護者・地域の方々45 名に登録いただき、様々な教育活動を支えていただいた。

○　朝のさわやかタイムでの「ミニ英語タイム」【低学年】
○　家庭科ミシンの調整
○　校外学習の引率・見守り支援【３年生】
○　長期休業前の印刷物の印刷【全校】
○　外部学校支援団体との連携・調整
○　図書ボランティア「ポケット」の読み聞かせ【全校】および図書室環境整備
○　体力テストの活動補助【全校】
○　運動会の保護者参観受付



【　体力テストの活動補助（記録測定）　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

年度当初に、地域コーディネーターから、募集案内を発出していただき、協力内容を具体的に挙げ、支援していただける活動を事前に回答していただいた。依頼窓口は原則として地域コーディネーターにまとめ、ボランティア各位との連絡調整をしていただいた。

緊急事態宣言発令中は、協議の上、支援活動を中断していただくこととし、宣言解除とともに活動を再開していただいた。また、来校時の検温、読み聞かせ等にご協力いただく方へのマスク配布など、感染防止対策を講じながら実施した。



【　朝のミニ英語タイム（低学年）　】

■　事業の成果

原則として依頼の窓口を地域コーディネーターにまとめているため、支援体制が分かりやすい。また、募集時に協力いただける内容を回答いただいているため、ボランティアの方にそれぞれの得意分野や専門知識を生かして支援いただくことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの依頼については、文書での案内のほかに個人携帯で連絡を取り合って調整をしていただいている。地域コーディネーターとボランティア各位との連絡方法の確立が必要である。

コロナ禍で、授業に参加いただくなど直接的な学習支援の機会は減少傾向ではあるが、印刷支援・体力テストの活動補助・学校行事での保護者参観受付など、学校全体・教職員の業務全体へ、広い視点で支援いただく機会が増えた。『佐和山応援隊』としての支援が、本校の教育活動の充実に欠かせない力であることを児童・教職員一同実感している。

今年度の成果と反省を踏まえて、教育活動のいっそうの充実に向け、協力いただく活動の見直しや検討を行い、次年度に生かしていきたい。『佐和山応援隊』を地域や保護者の方に広く知っていただき、気軽に学校へ足を運んでもらえるように環境を整え、子どもたちの健やかな育ちの姿を、地域の皆様と共有できる学校にしていきたい。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「安心と学びの保障」～保護者・地域とのつながりを深めるために～

彦根市	活動名 ： 東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：53 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等

□行政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動をしていただいている。今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、事前に読み聞かせを録画し、ビデオ放送による形態で読み聞かせを行った。子どもたちの心に響く本や季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業、図書室の掲示など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。今後も、「すまいる」さんと連携しながら、読書活動の充実を図っていきたい。



【「すまいる」さんによる図書室の掲示】

○子どもたちの心を耕すためのゲストティーチャーの招聘

新型コロナウイルス感染症対策のため今年度も「密にならない学習の場づくり」等の対策をとった上で多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできている。２年生の「モビリティマネジメント出前授業」、３年生の「警察署出前授業」、４年生の「福祉学習」、５年生の「トヨタ出前授業」、６年生の「職業体験談」等を行った。どの学習活動においても子どもたちは、本物に触れることにより心を耕し、深まりのある学習を行うことができた。子どもたちの学習を支えていいただいたゲストティーチャーの方々への感謝の気持ちでいっぱいである。


【３年生　警察署出前授業】

○「旭森ボランティア」の活動

６月、保護者対象にコロナ禍における学校での子どもたちの安全管理と学校の教育活動を支える①３年生の地域学習、②６年生の職業体験談、③５・６年生の家庭科・裁縫学習、④水泳授業の監視、⑤教室の消毒、⑥トイレ掃除、⑦マーチング指導　についてのボランティアの募集を行った。12 名の登録があり、コロナの感染状況に合わせながらゲストティーチャーや水泳の監視、トイレ掃除、マーチング指導を行っていただいた。旭森小学校における新たな地域と学校の協働の大きな一歩となった。３学期には音楽学習発表会での消毒作業ボランティアを募集し連携を図る予定である。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーとして来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや１時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。新型コロナウイルス感染症対策のため、電話やメール等による事前打合せも行った。

○保護者の授業・行事への分散参観と学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者による密を避けながらの授業や行事の参観を実現するために、地域や学年ごとに割り振った参観を行った。また各ご家庭からの参観人数も１名と制限を行った。保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。

参観が制限される中で、日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真とコメント」による学校の情報の積極的な発信に取り組んできた。多くのアクセスがあり、「一定の情報公開を行えている」という評価も得ている。今後も定期的な更新を行っていきたい。

■　事業の成果

○密を避けるための取り組みの中で、クラス単位の交流や分散参観の実施など新たな形態の協働の在り方が模索できた。

○コロナ禍で保護者の温かな支援のありがたさをより強く感じる。「旭森ボランティア」の輪を是非広げていきたい。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○「旭森ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。

○Ｔｅａｍｓなどの活用でリモートを用いたゲストティーチャーや地域の方との連携の場を探っていく。

○小さな集団での協働や関わりのあり方のよさを今後も探り、活用していく。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者　（　主幹教諭　）

地域と共に創る「瞳輝く　明るい　楽校」（たがやす　きたえる　つなぐ）

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：20 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・中学生の地域での貢献について
・コミュニティ・スクールと地域との関わりについて

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・学習環境を整備するために、地域の方と職員が協働して前庭の樹木の剪定等を行った。
・地域の方に竹を用意していただき、生徒が七夕飾りを制作し校舎内に飾った。
・地域の方の所蔵の美術作品を校内に展示し、生徒の情操教育を行った。
・学校が主体となって地域の諸団体の方と生徒代表による「中学生の地域貢献」に向けての意見交換会を実施し、今後の地域での行事や活動に生徒が参画する足がかりとなった。
・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問し、全校生徒制作の「クリスマスカード」を生徒と民生委員さんが協力して届ける取組を生徒会が主体となって行った。社会福祉協議会とも連携し、生徒の福祉学習を深めることができた。



【地域貢献に向けての意見交換会】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地域コーディネーターと管理職や地域連携担当教員との綿密な打ち合せを行った。
・昨年度の反省から、クリスマスカードを手渡す取組では「感染症対策」と「生徒と地域の方とのふれあい」の両立ができるように、手渡し方や言葉かけの方法等を工夫した。
・会議を持つときには、感染症対策のために、広い会場の確保、参加人数の調整など密を避けるようにした。
・来校いただいた地域の方の検温、健康チェックを徹底した。
・活動後に振り返りを行い、成果と課題を明らかにした。

■　事業の成果

・地域の方からの率直な意見や感想に耳を傾けることにより、今後の活動に反映することができた。
・地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。また、地域の方の中に、生徒との活動にやりがいを感じておられる方もおられた。
・クリスマスカードの取組の後に、地域の方から多くのお礼の手紙や電話をいただき、生徒も温かい気持ちになった。
・社会福祉協議会をはじめ、地域の諸団体と連携協働をすることにより、生徒の学習を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・情報のネットワークを広げ、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
・小学校との連携についても進めていきたい。
・活動をした後で、子どもたちの意見や地域の方の意見を互いにフィードバックして今後の活動に繋げていきたい。



【クリスマスカード大作戦】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・コロナ禍の中であることや、コミュニティ・スクールとして動き出したばかりのため、先を見通した活動が難しかった。次年度に向けて、年間計画の見直しを図っていきたい。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

児童の豊かな学びを、地域とともに創造する

彦根市	活動名 ：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行 政　□その他（　　）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

・４年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行い、地域での取組も教えていただいた。

・６年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めた。また、直弼公が愛した湖東焼き体験やお茶体験から、調べた内容を実感することができた。



【 ６年生 お茶体験 】

（２）学びを豊かにする学習支援の充実

・１年生：生活科の学習では、チューリップの球根の植え付けに地域の方に来ていただき、丁寧に植え方を教えていただいた。

・５・６年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

（３）地域とつながる

・城西学区社会福祉協議会と連携し、地域のお年寄りにお手紙を書き、各学年の学習や生活の様子を伝えた。子どもたちのお手紙への返事もいただき、お手紙を通して交流をすることができた。



【 ６年生 湖東焼き体験 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・９月は緊急事態宣言が発出されていたため、直接交流することは難しかったが、少しずつ体験活動や、校外での学習を復活させてきた。しかし、どこで、どのように関わるのかを事前に綿密に打ち合わせをする必要があった。また、ボランティアで来てくださる方々の安全を守るために、子どもたちと距離をとっていただくことも、事前にお願いした。密を防ぐために、学年ではなく、学級単位で体験活動を実施してきた。

■ 事業の成果

・コロナ禍の中、子どもたちと地域の関わりがどんどん薄くなってきている。そのような中で、学習において地域と関わることが、子どもたちの地域を大事にしようという気持ちを育てることにつながっている。地域の方に様々な内容を教えていただき、地域のよいところを見つけ、また、それを周りの人に伝えることで、地域から学んでいるという意識を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・中学校ブロック内の地域コーディネーターや地域連携担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換したい。

・学校運営協議会の設置に向け、地域コーディネーターの増員、役割分担を明確にし、様々な分野でお手伝いいただける地域ボランティアの募集を行いたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校 長　■教 頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域に学び、人、もの、自然への愛着心を育てる『城北たんけん ～このまち大好き～』

彦根市	活動名 ： 西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：40 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・学校の応援団として協議会の委員が普段の教育活動も参観する等して児童の様子を見守り、より適切な支援ができる体制づくりに努める。

・地域ボランティアの積極的な募集を行う等、人員の確保が必要である。



【野菜の育て方を教わる様子】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）学びを豊かにする学習支援

・地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動の充実を図った。

※のぞみ「野菜を育てよう」、１年生「昔遊び」、３年生「クルーザー体験」「ミシガン州立大学連合日本センターってどんなところ？」、４年生「松原内湖の話を聞こう」

（2）読書環境の整備（読み聞かせ活動・図書室の整備）

・毎週１回の読み聞かせ活動や月１回の図書室の整備（時節にあった飾りや本の紹介コーナーを工夫する等）を、地域と学校が連携して進めることができた。

（3）学習環境の整備

・校地内の樹木の剪定や運動場の整備を協働で行った。

・２年ぶりに使用するプールの掃除を、地域の方に協力いただいた。



【地域の協力によるプール清掃の様子】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・本校の特色ある教育活動である「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、コロナの感染状況から地域の方との交流を中止したが、地域の方を招聘した出前授業は、場所や時間、人数等を工夫して可能な限り実施することができた。

・読み聞かせ活動では、児童を集めての場の設定はできない中で、大型テレビに絵本を映し出す等、挿絵の見せ方や読み方を工夫していただき、児童は自席からでもお話の世界に浸ることができた。

・昨年度プールを使用していないため、掃除の協力を地域コーディネーターに相談したところ、地域の方々にも呼びかけてくださり、高圧洗浄機を使ったりたまった泥を取り出したりする等、熱心に整備していただいた。その後に児童が地域の方への感謝の気持ちをもってプール掃除を行い、より美しくすることができた。

■　事業の成果

・学習過程において、実際に地域の方から話を聞いたり一緒に体験活動を行ったりすることで、児童の興味・関心が高まり、学びを深めることができた。また、地域の人と触れ合うことで、地域で出会った際に挨拶する等、人とのつながりが生まれ、地域への愛着が育ってきている。地域の豊かな人材や教育力に、学校教育が支えられていることを痛感した次第である。

・地域の方々が支えてくださる活動について、全校放送などを通じて発信し、感謝の気持ちがもてるように努めている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域ボランティアの高齢化、次年度の見通しが十分にもてない状況であることが課題であるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層の連携を図って活動を行っていきたい。また、児童が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会を可能な限り設定し、つながりを絶やさない努力を学校として行っていきたい。

・地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・活動の様子は本校のホームページに掲載しています。　https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（学級担任）

報告書記入者（　教　頭　）

地域・公民館とともにある学校　SCHOOL　SUPPORT

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：14 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）ＰＴＡ活動である学校清掃作業に協力を依頼し、地域コーディネーターなどが、作業の段取りについての助言をし、当日は９台のトラックで伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。



【 ＰＴＡ学校清掃作業での協働活動 】

（２）特別支援学級の授業で、年間を通して中庭での野菜作りを行った。キュウリや茄子や大根を育てたことに加え、一度途絶えた地元の「大薮かぶら」の再興に取り組み、様々な野菜作りの補助を行っていただいた。

（３）校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備や、地域学校協働本部活動掲示板を作成・補修し啓発に取り組んでいただいた。

（４）「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの作品を、地域の公民館に１週間展示していただくとともに、その設営や後片付け等で支援していただいた。



【 公民館での中央中博覧会準備 】

（５）美術部や３年生の制作物を、定期的に地域の公民館に展示させていただいた。企画や設置、後片付けをはじめ、管理や運営についても公民館職員や地域の方が担ってくださっている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇生徒が地域行事に参画・参加する取組として実施してきた夏祭りや文化祭が昨年度に引き続きコロナ禍により中止となった。さらに、地域活動へボランティアで参加してきた清掃活動の多くが中止となったが、地域の公民館での生徒作品展示や公民館事業に協力することにより、学校と公民館との連携がこれまで以上に深まり、地域とともにある学校につながった。

■　事業の成果

〇毎年行っている活動については、支援の方々によく理解していただいており、スムーズな協働活動ができるようになってきている。地域学校協働本部事業の活動スタッフの高齢化・固定化が課題であったが、新たな人材を発掘でき協働いただいている。

〇学校と地域さらに地域の公民館と連携した取組ができるようになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。

〇本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事等の教育活動への計画的な導入や連携を図っていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

活動の様子は本校ホームページに掲載　https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：26 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習環境の整備（教材園の整備、学校敷地内樹木の整備）

１、２年生の学年花壇や特別支援学級の花壇では、生活科や生活単元学習で野菜や植物の栽培を行った。その際、花壇の土起こしや畝づくり、マルチかけなどの定植準備をしていただいた。すっかり整えられた学年花壇で、スムーズに生活科などの学習を行うことができた。その後の除草作業や手入れも行っていただき、有意義な学習活動を行うことができた。

（２）本校伝統行事「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本校が長年続けてきた「全校ふれあい遠足」において、彦根城までの行程の安全指導ボランティアをしていただいた。地域学校協働本部登録メンバーと保護者に広くボランティアを募り、合計 19 名のお手伝いをいただいた。各たてわり班に１名から２名のボランティアさんと本校職員が付き添うことができた。途中、交通量の多い交差点や観光客の集まる場所を通るため、各たてわり班とともに行動することで安全面をしっかりとカバーできた。



【全校ふれあい遠足での出発式】

（３）豊かな言語活動の育成をめざした「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語活動を育成するために、朝学習の時間を活用して国語の学習をしている。その言語学習を補足する形で、各月の第１水曜日を「読み聞かせ」の時間とし、地域ボランティアの方に絵本などの読み聞かせをしていただいている。



【読み聞かせボランティアさん】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○本校では例年、年度当初に「平田小学校地域学校協働本部事業総会」を開催し、地域学校協働本部事業登録メンバーに集まっていただき、１年間を見通した活動計画を立てていた。しかし、昨年度に引き続き今年度当初も３密を防ぐため、メンバーの方に来校頂くことは難しいと判断した。そこで、コーディネーターと相談し、今年度も紙面による総会を開催した。年間の活動計画等についてコーディネーターと予め立案し、昨年度登録のメンバーの方へ送付し承認のお返事をいただく形で総会とした。

○地域学校協働本部事業登録メンバーから要望の多かった「子どもたちとともにできる活動を」との意見を受け、全校たてわり遠足で子どもたちと一緒に歩いての補助をお願いした。また、２学期末の「学校クリーン作戦」の期間に、お掃除ボランティアを募集し、子どもたちと一緒に年末の大掃除活動に取り組んでいただいた。延べ 11 名の参加をいただき、子どもたちと一緒に掃除をしながら交流を楽しんでくださった。

■　事業の成果

○学年花壇づくりでは、普段から畑仕事をされておられる方がボランティアとして活動してくださった。畑を耕し、草を取って畝を作った上からマルチをかけてくださった。担任からは、除草作業や畝づくりなど、これまで放課後の時間を使ってしてきた学習準備をボランティアさんに行っていただけたので、効率的に時間を使うことができ、教員の働き方改革にもつながると感謝の声が出ていた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○この数年来、事業実施上の課題は同様で、地域学校協働本部事業登録メンバーの高齢化と固定化である。毎月のように来校して作業をしてくださっている方々は、もう何年も本校をお支えいただいている方ばかりである。なかなか新規のメンバーが増えない。それどころか、近年は健康上の理由から退会を申し出られる方が増える一方である。今後、この組織を維持させていくためにも新たな人材を発掘していくことが大きな課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○ボランティアさんとの活動の様子を、学校の子どもたちの様子やお知らせとともにホームページで紹介している。
（https://www.fureai-cloud.jp/hirata-hikone）

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（地域連携担当教員）

地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動

彦根市	活動名 ： 中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：129 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）登下校の安全パトロールとあいさつ
・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、あいさつの声かけやコミュニケーションをとり、子ども達の安全を見守ってくださっている。

（２）体験活動の支援
・３年生社会科「昔のくらし」、総合的な学習の時間「昔のあそび名人になろう」の学習活動にゲストティーチャーを、４年生学校行事「荒神山活動」、５年生家庭科「ミシンになれよう」の学習活動補助をお願いした。

（３）読み聞かせ
・年間を通じて、朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。



【３年生「昔あそび名人になろう」】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍における登下校については、マスクをしているためにあいさつの声が届きにくくなるため、昨年度より、声とともにハンドシグナルを活用したり、横断歩道を渡るときは手を挙げて渡ったりと見廻り隊の方々から率先して例を示し、コミュニケーションをとる様々な工夫を入れて取り組んでいただいた。

来校いただいての学習支援や読み聞かせ等は、例年の回数に近い状況に戻すことができた。３密対策や検温消毒等を行い、実施した。

■　事業の成果

〇通学路の見守りをしていただくことで､子どもの安全確保につながっている｡また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握することができた。
〇ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
〇地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じ取ることができた。



【５年生家庭科「ミシンになれよう」】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと。
〇子どもたちが、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会をより充実させること。
〇ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなってきたこと。また、ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

彦根南サポートオフィス11年目の取組　～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）　ボランティア登録数：30人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）グリーンカーテンづくり（６～９月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで７年目。今年度も、地域のボランティアや生徒の手により、支柱立てや植え付け、摘芯や水やりなどに頑張り、何とかグリーンカーテンをつくり上げることができた。

（２）環境整備作業（今年度は延期により２月に実施予定）

11月に学校周辺のフェンス際の草刈りを、地域貢献活動として参加の生徒、保護者・地域の方総勢80名程度で行う予定だったが、雨で２月に延期になった。２月の取組では、草刈りの他に、卒業式を見据えて、プランターの花植にも取り組む予定である。

（３）図書室環境整備

今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を見合わせている。



【地域の方と生徒によるグリーンカーテンづくり】

（４）地域貢献活動（年間）

例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき、地域貢献活動を実施していたが、今年度もコロナ禍の影響を受け、中学生が地域に積極的に出かける活動は見合わせている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇地域と学校が連携した活動を推進するために、保護者や地域のボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを定期的に作成し、地域への啓発を行った。

〇校区の小学校の地域コーディネーターと担当の教員が定期的に中学校で会議を持って、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。

〇自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、今年度は見合わせている。

■　事業の成果

〇ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている環境整備活動が地域や保護者の方に定着してきている。今年度は、親子での申し込みが比較的多かった。

〇毎年、地域コーディネーターが校区の小学校の活動を取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。親子での活動など保護者と生徒が協働する場面を設定していくことも大切と考える。また、大学等と連携・協働も模索しながら事業を推進していきたい。

〇今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため生徒の地域行事への積極的な参加は見合わせた。今後は感染症対策を講じながら、どのように連携を進めていけばよいか、さらに協議を重ねていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校ホームページ　https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　教頭　）

つながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名 ： 南中学校区地域学校協働本部	城南小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度も、コロナウイルス感染拡大防止から、例年行っていた活動を自粛したり、縮小したりせざるを得ないものばかりであった。そのような中で、学校と地域が話し合い、なんとか実施できた活動を記載する。

〇徒競走発表会における学習支援

例年のように、全校児童と保護者が集って運動会を行うことができず、２グループの分散発表会となった。テント内で見学する児童の指導や運営など学年の教員だけではできない補助をボランティアの方にお願いできた。

〇読書ボランティアによる読み語り

２学期後半より、朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。例年のように周囲に児童を集めて聞かせることができない中で、教室後方の児童にもよく内容が伝わるように、挿絵の見せ方を工夫したり、大きな動作を交えたりして読んでいただいた。

〇保存会の方々による「幌踊り体験」

３年生では総合的な学習の時間に、彦根の無形文化財に指定され、地域で受け継がれている「幌踊り」を体験した。保存会の方々の手本を見ながら、実際に太鼓を身に付けてたたいたり、踊りを踊ったりした。



【　幌踊り体験　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナウイルスの感染を防ぎながら、学習のねらいを達成するためにはどうすればよいか、地域コーディネーターと学校がよく話し合った。コロナ対応について、地域の方々に理解いただくための地域コーディネーターの尽力と、学校、地域相互の綿密な準備により、安全に実施することができた。

■　事業の成果

〇徒競走発表会では、限られた時間の中で、混乱もなくスムーズに会を進めることができ、児童もカー杯日頃の成果を発揮することができた。

〇児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。

〇児童のために「幌踊り体験」をなんとか実施したい、伝承したいという保存会の方々の熱意と、地域コーディネーターを通した事前の十分な打ち合わせにより実施することができた。少人数で体験できるようにクラス単位で指導していただいたり、１回ずつ消毒作業を行ってくださったりしたことで、有意義な学びが実現した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

本年度もコロナウイルス感染防止対策が必要となり、高齢者の方々に多く協力していただいてきた本校では、特に感染が多い時期は、協力していただきにくい状況が生まれてしまった。その中でも、「幌踊り」の保存会の方の思いを聞き、新しい生活様式を実践しつつ、効果的な学習活動ができるような工夫をしていく必要があると感じた。また、本校は児童数が多く、集まれば密になる状況である。ＩＣＴ等をうまく活用して、直接でなくても地域の方々とつながり、学校、地域相互に有意義な事業を推進したい。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　主幹教諭　）

つなげよう　子どもを育む地域の力　　～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：75 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）第５学年　家庭科「ミシンでソーイング」　第６学年　家庭科「生活を豊かにソーイング」

家庭科の学習への支援を地域の方々にお願いして、昨年度から来てくださるようになった。５年生は、２学期に、ミシンを使ってのエプロン製作に取り組んだ。ミシンを使うのは初めてで十分に使いこなせない児童が多い中、活動の手順や子どもたちの様子を常に把握しながら、担任とともに一人ひとりに丁寧に支援いただいた。６年生は、ミシンの使い方こそ理解しているが、縫い方の難しい箇所については技能が伴わずに苦戦していた。昨年度からの顔なじみである支援者に気軽に声をかけてアドバイスをもらうことができた。

（２）読書活動支援

地域の方々に、週に１日、図書室の本の整理や、年中行事に合わせた図書室のデコレーション、隔週で学級毎に読み聞かせをお願いしている。また、秋のお話会を、ひこね市児童図書研究グループの方にお願いして、紙芝居や読み聞かせ等をしていただいた。



【　秋のお話会　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇家庭科ボランティアの方の中には高齢の方もおられたため、依頼するにあたり本校の感染防止対策について説明をするとともに、状況に応じていつでも辞退いただけることをお伝えした。学習中は、ミシンの作業中は確実にマスクを着け、密を避けるため、ミシンの作業は児童一人と支援者で行うこととした。

〇読み聞かせ時は、児童を近くに集めることをせず、ボランティアの方と児童との距離を取るようにした。お話会では、会場の体育館の広さや児童をどのように並べるかなど、事前に確認をしていただき、すべての児童が聞きやすくなるようマイクの音量を調節したり、大型絵本の見え方を確かめたりしていただいた。



【　ミシンボランティア　】

■　事業の成果

〇家庭科の学習では、初めてのミシンを使った学習に戸惑う児童もいた。困ったときにすぐ質問できる環境は、児童の学習意欲を高めることや技能の習得にたいへん有効であった。また、継続的に支援いただくことで、学習のねらいを理解していただきやすく、担任との連携もスムーズにでき、学習が充実した。多くの目があることで、安全面についても有効であった。

〇子ども達は、毎回の読み聞かせを楽しみにしている。また、図書室に行けば読みたい本がすぐに見つけられる環境が整っていることも読書意欲の高揚につながった。お話会は、様々な工夫でお話の世界に浸ることができ、子ども一人ひとりの想像力を掻き立て豊かな心の育成にもつながった。

〇身近な地域の方々に、学校の取組を知っていただき、子どもの状況を体感的に理解していただくことができた。また学習の様子をホームページで紹介することで広く周知でき、地域と学校のつながりを深めるきっかけとなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇毎年実施している活動とその支援は今後もできるだけ継続しつつ、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアをさらに発掘していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校運営協議会の立ち上げに向けて、組織作りや活動内容について今後検討していきたい。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

We Love かめやま

彦根市	活動名: 南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校	学校運営協議会 : □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。今年度も１年生から３年生までの児童がボランティアの指導でさつまいもを植え、収穫することができた。

（２）３年生 総合的な学習の時間「亀山っこ探検隊」

３年生は、毎年地域に出かけて地域を知る学習をしている。昨年度は出かける活動を自粛していたが、今年度は、感染症対策をしながら地域に出かけることにした。地域コーディネーターと担任とで事前打ち合わせを十分行い、校区を４つに分け、それぞれの地域で、公民館、蘭の栽培ハウス、太鼓部屋、神社、寺などの特徴的なものを紹介できるように、行先や日程を組んでいただいた。大変実りのある学習になった。



【 ３年生「亀山っこ探検隊」 】

（３）６年生 総合的な学習の時間「未来とつながろう」

６年生はキャリア教育の一環として様々な職種のゲストティーチャーから話を聞く学習活動を計画した。地域コーディネーターの紹介で、農業をしておられる方に来ていただき、仕事に対する思いを聞くことができた。



【 ６年生「未来とつながろう」 】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

昨年度は地域に出かけたり地域の方を招いたりする活動を自粛していたが、今年度は感染症対策をしながらできるだけ通常の学習活動ができるよう工夫した。感染症対策のため、現地に出かける際にも少人数にしたり、広い場所を確保したりするなど工夫し、安全に実施することができた。

地域コーディネーターは、学校の事情や子どもの実態について理解していただいているので、学校と連携を密にし、交渉や話合いができている。また、校区内の地域コーディネーターと担当教員が定期的に会議をもって、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。

■　事業の成果

〇地域コーディネーターに、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。

〇ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。

〇支援の必要な行事や学習内容の時期になると、地域コーディネーターから声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。

〇今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ　：　https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各担任　）

報告書記入者（　教頭　）

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数： ４人　ボランティア登録数：25 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
(1) 地域貢献活動への参加協力
・コロナ禍の影響により、当初予定していた各地域で中学生が参加できる活動がほぼ中止となった。
(2) 学校行事などへの参加協力
・入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備（葉刈り、除草作業等）などの活動を行い、地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集した。
・今年度は夏（６月）、秋（９月）と冬（12 月）にも花いっぱい運動を行った。（年間を通して、３か月に１度のペースで実施）
・年間を通して、校長室および正面玄関に、観賞用の花を設置していただいた。
(3) 緑のカーテンプロジェクト（取組８年目）
・５月上旬に支柱作り、ネット張り、プランターへの苗植えを推進員の指導のもと、生徒と地域の方、職員で実施した。環境委員会や各部活動およびボランティア部による水やりを行い、10 月上旬に支柱の撤去を行った。
・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。


【　９月　第２回花いっぱい運動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・実施に当たっては、マスクの着用と参加生徒には事前に家庭での検温および当日の健康観察を行った。
・長時間の作業にならないよう、時間配分に気をつけて行った。
・行事ごとに地域コーディネーターと担当者で、活動の反省と今後の予定について協議してきた。
・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
・地域コーディネーターの顔写真を入れたポスターを作成し、活動を紹介するよう校内に掲示した。

■　事業の成果
・生徒が地域の一員として地域貢献活動のボランティアに参加する中で、感謝の心を持ち、地域の良さを知る機会となった。
・緑のカーテンプロジェクトは取組８年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちでよくしていく意識づけになった。
・花いっぱい運動や葉刈作業では、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることが実感できた。


【　11 月　校地内葉刈作業　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。また、ＰＴＡの参画もより一層促していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・活動の様子を、学校通信と本校ホームページにて紹介している。
https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　　教　頭　　）

見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市	活動名　：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：65 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）「大豆はかせになろう」（３年）

総合的な学習の時間には、国語科で学習した「姿を変える大豆」で学んだことから関連させて「大豆はかせになろう」というテーマで、食育に取り組んでいる。大豆に焦点を当てて、丁寧に探求的な学習を進めている。１学期より畑で大豆を育て、水やりや草抜きなどのお世話をしながら 11 月に収穫を行った。２学期には、大豆からできる醤油や豆腐などの学びを深める体験学習を行った。地域の方の中に「大豆はかせになろう」の取り組みに協力してくださる方がおられるので、充実した活動ができている。



【　豆腐作り体験　】

（2）「町探検」（２，３年）

今年も２年生の生活科、３年生の社会科で町探検に出かけていった。普段何気なく見たり、通ったりしている地域ですが、この学習を機会に、これまで知らなかった河瀬の歴史や地域の良さについて学んでいる。訪問する場所は東西南北、それぞれの地域を訪ねて行き、地域の方にその施設の役割や歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。



【　町探検　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○大豆からどのようにして醤油ができるのか。実際に醤油づくりをされている方に学校に来ていただいた。実物を見せて製造過程をわかりやすく説明していただいた。豆腐作りでは、自分たちが育て収穫した大豆を使って体験学習を行った。

○「町探検」では、２年生では地域の様子を知り、３年生ではさらに地域の方や地域の歴史や特徴を調べるなど、自分たちが住んでいる河瀬の良さについて、改めて見つめ直すことができた。また２学年にわたって取り組むことで、より探究的な学びにつながった。

■　事業の成果

「大豆はかせになろう」

○学習過程の中で、体験活動を多く位置づけることにより、子どもたちの興味が深まり、学びが深いものになっている。

「町探検」

○地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を誇りに思う気持ちが育っている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○年度当初に、コーディネーターの方を紹介し、その役割について本校職員が理解をする場を設けることが大切である。

○支援をお願いしたい内容と日時を早めにコーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただけ、よりよい「連携･協働」に向けての準備ができる。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○コロナ禍の中なので、なかなか地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、学校行事の案内を届けることができていない。今後、状況を見ながら学校での子どもの様子を見ていただけるようにしていきたい。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域力を学校に，学校力を地域力に

彦根市	活動名 ：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度も、新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、ゲストティーチャーを招く機会が少なかった。しかし、子どもたちの登下校の安全確保のために活動をしてくださる方等、地域の子どもたちを学校と共に育てているという意識の高い方が多い。そこで、地域と学校をつなぐ手段の一つとして、今年度も、子どもたちの作品を通して学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。

【地域商店や銀行、ＪＡをつながりの場とした交流（児童作品展）】

高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」があり、昨年度から、定期的に児童の作品展を開催して、地域と学校を繋ぐ場としてきた。

今年度は、さらに広げ、地域の銀行やＪＡ、商店などにも協力を依頼し、児童の作品展を開催してきた。作品展は、学校と地域だけではなく、地域住民同士を繋ぐ場ともなっている。訪れた地域住民からは、児童の作品を通して「コロナ渦の中で沈んだ心に、勇気と元気をもらった。」等、温かい言葉をいただいた。

また、「高宮コミュニティセンター」を利用して、今年度は校内書き初め展も開催した。地域の様々な場で児童の作品を目にすることがあり、地域と学校が身近な存在であることを認識することができた。



【　ＪＡによる作品展示　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

【高宮の歴史を調べよう】

６年生の総合的な学習の時間の学習では、中山道高宮宿の歴史を学び、地域の良さや伝統を未来へ引き継いでいくことを目標にして活動を進めてきた。この学習は、本校に伝統的に続く学習であり、コロナ禍以前は、地域の歴史に詳しい方を学校に招いて話を聞いて学びを深めてきた。しかし、コロナ禍のため、密を避けることが必要となり、以前と同じように学習を進めることができなかった。そこで、子どもたちが少人数で地域に出かけ、五感を通して学ぶ機会を設けることとした。

まずは、同じ彦根市にある隣の宿である「鳥居本宿」から「高宮宿」まで歩き、江戸時代に旅をした人々の目線で中山道を再発見する活動をした。歩くことにより、細かな発見をしたり、偶然出会った地域の方に話を聞いたりすることができ、深い学習につながった。子どもたちは、学校で話を聞くよりも熱心に耳を傾けたり、見学したりして、詳しく学びたいという意欲を感じた。また、歴史的に重要な拠点であったこと、かつて人通りが多く繁栄していたことを知り、改めて高宮の地域に対する思い（地域愛）を深めることができた。

■　事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者の家庭が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない子どもが増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業を通して、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿を喜んでくださり、好評価である。

また、コロナ禍だからこそできる活動を通して、地域から学校への協力だけではなく、学校から地域へ発信することの重要性にも気づかされた。コロナ禍であるがゆえの活動を見いだし、今後も継続し、さらに学校と地域のつながりを深めたいと考えている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちだけではなく、保護者、教職員もコーディネーターとの繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の学年の活動を知らないものも多い。保護者（ＰＴＡ役員）、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。

そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。また、カリキュラムマネジメントに、コーディネーターの位置づけも確立できるようにすることも大切である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今後、学校運営協議会を設置する際には、地域学校協働本部役員の参加を求めるなど、一層の繋がりを深める必要がある。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（各学年主任）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：200 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

〇鳥居本に通ってよかったなと思えることや地域の活動の楽しかった思い出など、今の子どもたちが大人になってから振り返ってよかったなと思えるような活動をお願いしたい。

〇親も一緒に勉強できる機会があるとよい。

〇少ない人数だからこそ、みんなの意見が聞きやすい。一人ひとりの子どもたちが学ぶよい環境。先生の取組と鳥居本の良さが出ている。

〇自然に触れる体験も大切にして子どもたちの心を育んでほしい。地域の持つ魅力を味わわせてほしい。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験した。

森林の保全と有効な活用との調和について理解することができた。

（２）地域との連携

中学校の前庭の葉刈り、剪定及び、芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいた。

学区文化祭において、吹奏楽部の演奏及び、書写の作品等を展示した。

（３）さんあかレンジャー

あいさつ運動を小学校で行い活躍している。10 月に１年生より新メンバーを選出した。



【　男鬼森林学習の様子　】



【学区文化祭・吹奏楽部の演奏】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇新型コロナウィルス感染症拡大予防対策をしっかり行って、男鬼森林学習を実施した。マスク着用、手指の消毒、三密にならない間隔等について、事前にしっかり協議し、生徒にも徹底させた。

〇地域の交流を主とする行事については学区文化祭以外は中止（宿場祭り、学区運動会）になり、感染拡大防止を図った。３学期に予定していた「お年寄り交流」も中止した。

■　事業の成果

〇地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や学区文化祭での活動に特に表れている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇１小学校・１中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。一昨年度は、体育大会を小中合同で開催したが、昨年度・今年度は、コロナ禍で合同開催は実施できなかった。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「ふるさとと共に生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：約 50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

幅広い地域住民の参画によって、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。地域の方の参画を期待する教育活動の内容や支援の内容、また予算執行の見通し等について共通理解した。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇５・６年生家庭科　ミシン支援

10 月に、５・６年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ひとたびミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、５年生はエプロン、６年生はナップザックを全員仕上げることができ、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じとることができた。



【ミシンでソーイング】

〇読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域の方に図書室の環境整備をお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物のデコレーションなどを行っていただいている。また、毎月２回（火曜日 8：15～8：30）、約 10 名の方に学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や 発達段階により様々な工夫を凝らしていただいており、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【読み聞かせ活動】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナウィルスの感染には十分配慮しつつ、子ども達の学習活動は可能な限り停滞させないことを念頭に置き、地域の方の支援もいただくこととした。ミシン支援では、支援いただく方の配置や十分な手指消毒、確実なマスク着用等に留意いただいた。読み聞かせ活動では、子ども達が集まってお話を聞くのではなく、各自の座席に着席して密を避けるスタイルをとり、感染予防を図った。

■　事業の成果

学校の事情に添った支援をいただき、子ども達が、地域の人・もの・自然に触れながら、体験活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増えている

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイディアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しが十分もてない状況にあるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域にある主幹団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、体育振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ　https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/　小中学校の様子をお知らせしています。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　教頭　）

地域の人と共に歩む地域協働活動

彦根市	活動名 ：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：５人　ボランティア登録数：101 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

□学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）地域の諸団体と共に行う地域貢献活動（稲枝駅前環境美化活動）

・稲枝地区青少年育成協議会と稲枝地区公民館との共催で稲枝駅前環境美化活動に取り組み、プランターへの水やりを定期的に行い、稲枝駅利用者に心の安らぎを感じてもらうことができた。

（２）読書活動支援

・一学期途中から読み聞かせボランティアさんが増え、割り当て実施計画が立てやすくなった。隔週の火曜日で月２日実施している。

（３）部活動支援

・地域運動部活動推進事業の実践研究校として、地域学校協働本部事業と連携して活動を開始した。

（４）特別支援学級への学習支援

・本年の支援学級の生徒は８人と大所帯で、毎回活気があり楽しく活動できた。単に一緒に栽培活動をするだけでなく毎月の「作業暦」を先生と打合せをし、生徒達に見通しを持たせ「期待感」が感じられるようにした。生徒達は、下記の感想に見られるように、意欲的に楽しんで参加し多くのことを学ぶことができた。

生徒の感想

・僕は、３年間農業をしました。１年生のときは、「あんどんつくり」「マルチ張り」などわからないことが一杯でした。でも、北川先生が優しく丁寧に教えてくれたお陰で少しずつわかるようになりました。３年間農業をして、物を育てる喜びを知ることができました。ありがとうございます。

・農園でトマトやなすなどの夏野菜を育てました。トマトの苗を植えるとき、肥料をまくということを初めて知りました。農園に行くたびに大きくなっていてビックリしました。夏野菜を収穫しました。家で食べたらおいしかったです。

・さつまいも収穫では、スコップで掘り起こそうとしたとき、スコップでさつまいもを傷つけてしまいました。かぶとだいこん収穫では、一つ一つ丁寧に洗って先生に買ってもらいました。僕は、農業が好きです。これからも頑張りたいです。

・僕は、農園でイチゴの苗植えをしました。やり方は難しかったけど上手に植えることができました。来年の収穫が楽しみです。

・農園でさつまいもをつくりました。苗植えでは、茎を斜めにするのが大変でした。秋には、さつまいもの収穫をしました。雨が降らなかったので、スコップで掘り起こして、たくさん収穫ができてよかったです。

■　実施に当たっての工夫

・コロナ禍での活動となるので、三密を避け基本的な生活様式を守った上で、できる範囲内の活動を実施する。

■　事業の成果

・コロナ禍で、様々な事業が制限されたり、中止されたりする中、一定の地域支援活動が実践できたことは、大変よかったと思われる。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域コーディネーター、ボランティア共に高齢化となっているので、支援活動を継続するには新しい人材発掘が重要である。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　特別支援学級担当教員　）

報告書記入者（地域コーディネーター　）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名 ： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：56 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）１・２年生　「やきいも大会」（生活科）

２年生が生活科の学習で栽培・収穫したさつまいもを使ってやきいも大会を行った。学校支援ボランティアの方がいもを焼くまでの準備の仕方を教えてくださったり、当日、火の準備調整をしてくださったりしたので、子どもたちは、美味しい焼きいもを食べることができ、満足感が得られる活動になった。



【　やきいも大会　】

（２）全校　「読み聞かせ」（読書活動推進）

各学級では、月に１～２回、図書ボランティアさんに朝の活動の時間を利用して、絵本の読み聞かせをしていただいている。子どもの発達段階や教科学習との関連、季節などを考えて絵本を選んでくださっているので、子どもたちは毎回の読み聞かせを楽しみにしている。



【　読み聞かせ　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・活動実施にあたり、マスクの着用、参加者の検温、手指消毒を徹底して行った。
・同じ時間・場所にたくさんの人数が集まらないように、ボランティアさんの人数を制限したり、活動の時間短縮をしたりした。
・密を避ける手立てとして、ＩＣＴ機器を活用した。
・読み聞かせ時に、モニターを用いたり、Ｗｅｂ会議ツールを利用したりすることにより、密集や密接を避ける対策を講じながらも、子どもたちと講師（地域人材）とがつながれるようにして活動を進めた。

■　事業の成果

・専門的な知識や技能をもった人から学ぶことで、より学びが深まっている。
・地域の方と出会い、様々な体験をすることで、多様なものの見方や考え方に触れることができる。
・地域のために活躍する人や地域のよさに気づき、ふるさとを大切に思う子どもの育成につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・コロナ禍で、地域のボランティアさんが学校に来ていただく機会が減り、地域の方のことを知らない子が増えてきているため、子どもたちがボランティアさんの顔や名前、どんな支援をしてくださっているのかを知る機会を工夫していく必要がある。
・ボランティアさんの活動を多くの方に周知し、ボランティアとして活動してくださる方を確保していくことが重要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクールの取組を進めるにあたり、地域や保護者の理解を得られるように、情報を発信していく必要がある。
※ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介しています。
（https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/）

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「ALL　はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：45 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

主体的に活動できる力を伸ばすためにはどうすればよいか。

昔は、祭りなどで子どもたちにも仕事があり、年上の子が年下の子に教えたり指示を出したりしていた。学校だけでなく地域でも子どもの役割を作り、責任をもって活動する場づくりの必要性を話し合った。



【　フラワーサポーター苗植え　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

特色ある学校づくりとして、本校では「花作り」に伝統的に取り組んでいる。全校みんなで花の世話をし、校庭は四季折々の花でいっぱいである。その中でも『メイン花壇』は我が校のシンボルであり、「子どもたちの優しい心、思いやりの心を育みたい」という地域と学校の共通の願いのもと、フラワー委員や５・６年生の子どもたちは、地域のフラワーサポーターの方々と共に、苗の植え替え、除草、水やり等の活動に取り組んだ。

また、３年生の総合的な学習の時間「はえみおたから探検隊」では、編み物・革細工・木工・切り絵について、地域の名人から技を学んだ。５年生の総合的な学習の時間「守ろう未来のびわこを」の学習では、身近な水路や湧き水（井）の調査のため地域の方とフィールドワークをした。６年生の総合的な学習の時間「はえみ歴史調査隊」では、地域の方から地域の歴史についての話を聞き、学習を広げる手立てとした。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

フラワーサポーターの方には、それぞれ距離をとり横並びになって、苗の植え替えをしてもらった。また、「読み語り」では、マスクを着用していただき、児童も間隔をとって座って聞いた。

■　事業の成果

花のポット植えなどは、児童には難しいこともあるが、フラワーサポーターさんの支援のおかげで、きれいな花壇を作ることができた。

地域の方を招いた学習では、どの学習においても、地域の方の詳しい話を聞いたり実物のものに触れたりでき、児童にとって大変深い学びとなった。

コロナ禍において不安な児童もいる中、登下校では、地域の方があいさつ運動をしたり、安全の見守りをしてくださったりした。児童が安全に登校することができた。



【　５年生　総合的な学習の時間　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

事業を行うにあたって、日程調整や内容の打合せが難しいと感じた。そこで年度初めに、年間指導計画を基に、支援していただきたい活動と時期について、事前に地域コーディネーターの方と話す機会を設け、計画的に進めるようにしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

年間３回の会議を行う。１学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。２学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見をいただいた。３学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担当教諭　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：168 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇環境整備活動（目に美しく・耳に美しく・心に美しく）

まちづくり協議会ボランティアの方々の協力をいただき、５月に環境整備作業を行った。「菁莪（せいが）の池」とプールの清掃が活動内容であった。プールは、昨年度、新型コロナウイルス感染症対策によりプール水泳を実施していなかったため２年ぶりの清掃となった。かなり汚れがひどかったが、高圧洗浄機等できれいに清掃していただき、その後のプール水泳では、子どもたちが美しいプール環境の中で、意欲的に学習を進めることができた。本校の合い言葉「目に美しく・耳に美しく・心に美しく」であるが、環境整備作業により、美しい学校環境を整えていただくことができた。



【プール清掃】

〇地域ボランティアの方々による学習支援

本校では、毎年多くの地域の方々に学習支援をしていただき体験学習や郷土学習に取り組んでいる。１年生・２年生は、学校園で収穫したさつまいもを使って、焼き芋体験を行った。地域の方に籾殻・煙突等の準備や火の管理をしていただき、ほくほくの焼き芋をいただくことができた。３年生は、梨園を見学したり、梨農家の方から話を聞いたりする中で、梨づくりにおける工夫や苦労について学び、改めて地元の特産品である「彦根梨」に対する興味・関心を高めることができた。４年生は、地域の方から、曽根沼干拓の様子や地域の人々の思いなどを聞かせてもらう機会をもった。そして、学んだことを「曽根沼テレビ局」として、２月実施の学習発表会で紹介する予定である。５年生は、ニゴロブナ放流体験に取り組み、これを契機にして琵琶湖環境学習において、各自が学習課題を設定し、課題解決に向けて追究しているところである。６年生は、校区にある「稲村神社」を訪れ、本殿や境内の建物を見学したり、宮司さんから話を聞いたりして、豊かな歴史を肌で感じ取り、ふるさと「いなむら」を誇りに思う心をさらに高めた。



【梨園の見学】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地域連携担当教員を通して、ボランティアを探したり日程調整をしたりした。また、窓口を一本化し、日程が重ならないように配慮した。
・話の内容や人数に応じて広い場所で換気しながら実施した。
・検温、マスク着用、手指消毒等を実施した。

■　事業の成果

・地域のボランティアの方と関わることで、子どもたちの「身近な地域の人に教えてもらった」という意識が働き、地域への愛着も深まった。また、これらの取組は、子どもたちの心を豊かに耕すとともに、本校の学校教育目標「ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成」に大きく寄与しているところである。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアの高齢化が進み、多くの方が「そろそろ引退を」と言っておられ、後に続いて指導してくださる方を見つけていく必要がある。
・ボランティア一覧表を作成して、学習支援を依頼する際に活用した。新しいボランティアの方の加入を積極的にすすめ、人材確保にあたっていきたいと考える。

■　その他

本校は、地域の方から様々な支援をいただいて教育活動を進めている。今年度は、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の制度は取り入れていないが、「地域に開かれた教育活動」の理念のもと、より一層の地域との連携を深めるため、次年度（令和４年度）から学校運営協議会の制度の導入について協議した。その結果、次年度より学校運営協議会を発足させることとなった。

学校ＨＰのＵＲＬ　https://www.fureai-cloud.jp/inaekita-hikone/

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク６年目の取組

彦根市	活動名 ： 若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［　土曜支援「教室」（第２，３週の土曜日午前　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
・地域学校協働本部（わかバンク）の組織について　・年間の活動内容について　・育成する児童像について

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①命の学習

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。この活動の目的は、子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切にし、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいて進めてきた。今年度も新型コロナウイルス感染症予防を考慮して、地域コーディネーターとも入念に打合せを行い、可能なかぎり３密を回避しながらの畝立て、苗植え、収穫に支援をいただくことができた。


【プログラミング学習】

②地域の高校との協働によるプログラミング学習

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り、防災教育の一環として６年生が防災かまどベンチ製作に取り組んできていたが、今年度は新たに電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施した。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際に Scratch を使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。

③環境整備部による校内整備

本校は、地域の方も「若葉の森」として親しみをもっている 2000 本を超える樹木が敷地内に植えられている。開校当時からこの「若葉の森」の木々を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等で樹に関わる学びを深めている。そのため、今年度はこれまでから支援いただいている５部門（図書・学習・見守り・広報・土曜）に加えて新たに環境整備部を新設し、敷地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等を進めていただくことができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。


【環境整備部による葉刈り】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、例年と同様の活動は実施できていない。しかしながら、地域コーディネーターとの連携を大切にし、制約された状況下においても、できることは実施していく方向で準備を進めてきた。ボランティアの皆さんは高齢な方が多いため、お互いの安全を考慮し、ボランティアさんの数を厳選すること、デジタル機器を活用することなど、できるだけ直に児童と接触する機会は減らすようにしてきた。また、土曜教室（学習会）では児童の間にパーティーションを設置して、感染予防を図ってきている。

■　事業の成果

○地域コーディネーターを中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の６つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、例年とは回数は減少している面はあるが、どの活動も価値ある成果を感じることができた。
○６年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、ＰＴＡをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

子どもは地域の宝！地域のみんなで育てよう！

近江八幡市	活動名：八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：　平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人　ボランティア登録数：15 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■学校運営協議会で熟議された内容

○地域に開かれた幼稚園を目指し、八幡幼稚園のよいところをどのようにアピールしていったらよいか。地域への様々な発信の工夫などについて。また、大事な幼児期の人とのふれあいの機会をどのように育んでいったらよいか。「心を育てる」には園・保護者・地域が一体となっての取組が必要である。今後も話し合いを重ねていきたい。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○歌指導　コロナ感染症対策をし、地域の講師による５歳児中心の歌指導を実施した。歌うときの基本的な姿勢や、声の出し方、心を込めて歌うことなどを教えてもらった。12 月の音楽会では、たくさんの保護者の前で自信をもって歌う子どもたちの姿が見られた。これからも歌うことが好きな子どもたちを育てていきたい。

○英語で遊ぼう！　講師を迎え、４、５歳児が英語に触れる機会を２回もった。絵本や遊びの道具を取り入れ、手遊びやクイズ形式で楽しく学ぶ場となった。英語が初めてでも“楽しい”という気持ちをもち、英語を身近に感じることができた。



【　英語であそぼう！　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○園の取組の様子を知ってもらえるよう、園情報誌「あっぷるつうしん」を地域にも発信し、関心をもってもらえるようにした。

○歌指導では、子どもと子どもの距離間をとり、リズム室を広く使って実施した。参観日には密を防ぐために、一家庭一人の参加や健康チェック、消毒等を徹底した。また、園内ボランティアによる未就園児の託児を行った。

■　事業の成果

○歌指導では、講師から歌うことの基本を楽しく教えてもらうことで、“歌うことが好きな子どもを育てる”ことにつながっている。今年は、教師向けにも研修をしていただき、歌うことの楽しさを共に感じることができた。

○英語であそぼう！は、２年目の取組となった。小学校で英語の授業が取り入れられるようになり、就学前にも楽しく英語に触れて遊ぶことの積み重ねを大切にし、今後につなげていきたい。

○園内ボランティアは、保護者のもつ力を発揮できる場となり、親同士のつながりが生まれている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○活動内容や園の行事に合わせて、保護者ボランティアや地域の人材をうまく活用することで子どもの育ちにつながり、ボランティアにとってもやりがいにつながっている。このような活動の様子を園だよりや「あっぷるつうしん」で発信したりチラシを配布したりして園に関心をもってもらうことでボランティアを増やし、さらに事業を広げていきたい。

○継続的な地域の方々との関わりにより、温かく関わってもらった経験を積み重ね、感謝する気持ちがもてるよう、子どもの心を育てていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○「よりよい子どもの育ち」について共に考え、八幡幼稚園の子どもを地域で育てていくという同じ目線での意見がたくさん出ており、毎回充実した話し合いの場となっている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園長　■副園長　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　副園長　）

保護者・地域の方のキラッとを保育の中に・・・

近江八幡市	活動名：金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：20 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・今年度からコミュニティ・スクールが発足し、その在り方について話し合ったり研修を行ったりしながら進めてきた。園・保護者・地域がどのように連携し取り組み、子どもたちの育ちを保障していくのかということを話し合い、今後も継続して議論していく予定をしている。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・週１回の読み聞かせ活動は、継続している活動で、毎年新たな方にボランティア登録をしていただいている。今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大状況を見ながらの活動となったが、子どもたちは、ボランティアの方に親しみをもち、いろいろな絵本との出会いを楽しみにしている。

・地域の方から毎年栗林での栗拾いに招待していただいている。20 年以上続く秋の行事となっている。手作り紙芝居で、地域の思いやお世話をして下さっている方がいてくださるから栗拾いができることを分かりやすく伝えている。

・コロナ禍が少し落ち着いていた時期に地域（篠田神社）に出かけ、地域の行事である和薬花火の話を聞き、伝統行事にふれることができた。

・栽培活動では、地域の畑の先生に種まき（苗植え）から教えていただき、子どもたちも一緒に収穫の喜びを感じることができた。収穫したサツマイモは地域の田んぼを借りて焼き芋にして子どもたちと一緒に味わっていただけるように招待し、地域の方とふれ合う時間を持つことができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・園が必要としている支援にボランティアの方の得意分野を生かしていただけるように推進委員と連携をしている。

・コロナ禍ですべてを中止にしてしまうのではなく、互いに無理なく安心して実施できることを考えながら取り組んできた。

・園畑や園周辺の除草や葉刈り、芝刈りは、園児には直接見えない時間に活動してくださることが多い。また、以前から配膳台カバーを毎年作成していただいている。色々な面でお世話になっていることに、感謝の気持ちを持てるようにしている。直接園児がボランティアの方とふれ合うことができない方には、子ども達からの手紙を教師が渡すことにしている。

■　事業の成果

・コロナ禍の中で例年のように実施できることは少なかったが、戸外での活動など工夫しながらできることを考えて実施する中で子ども達の経験につながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域の方からは、積極的に声かけをしていただいているが、負担感があるのではと危惧している。

・園児の保護者がもっと参加できるようにボランティアの登録を呼びかけてはいるが、登録が進んでいない。活動内容を考えたり、人材発掘の方法を工夫する必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・今年度からコミュニティスクールとなり、学校運営協議会の開催も増えたことから、子どもの日ごろの様子を参観していただく機会も増え、よりよい子どもの育ちについて協議を深めることができた。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■副園長　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

【絵本の読み聞かせ】



【かぶの収穫】



報告書記入者（　副園長　　）

自分が好き・人が好き・馬淵が好きな　馬淵っ子　～地域の人とのかかわりをとおして～

近江八幡市	活動名：馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵幼稚園　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：７人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○地域の人との関わりの温かさや地域を大切に思う子ども達の育成、小学校に就学しても繋がっていく継続した活動内容の検討や地域の方の人材についての共有。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○新型コロナウィルス感染症拡大防止対策の一環として、マスクづくりや保育活動の一環としたあいさつ運動のたすき作り。また、園の環境整備として花の苗植えや食育教室でのサポート。

○保育参観時に保護者が安心してゆったりと参観できるための未就園児の託児。

○未就園児の絵本貸し出しのサポートや未就園児の親子が幼稚園での遊びや行事への参加の見守りや保育補助。

○園外保育に出かける際の子ども達への交通指導や園外での活動を楽しめるような見守りや保育補助。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○活動を実施するにあたり、マスクの着用、参加者の検温、手指の消毒の実施や人数制限や時間短縮を行った。また、活動中は３密をさけ感染拡大対策の徹底に努めた。食育教室や園外保育では事前に対応の在り方についての打ち合わせを行い意識の向上に努めた。

○地域の方や未就園児とのふれあい活動、デイサービスセンターの慰問などの感染リスクが高まる行事は見合わせるようにし、できる範囲内での活動を再検討した。

○園が必要としている支援に対して、ボランティアの方々の得意分野について連携・把握をして協力していただけるように依頼した。また、コロナ禍においてご家庭でできる作業はご家庭で進めていただくようにし感染予防に努めた。



【　園庭の花苗植え　】

■　事業の成果

○子どもたちの園生活や活動、園環境が充実した。

○子ども達へできた物を披露したり具体的な話をしたり、また、実際に関わったりすることで、感謝の気持ちをもったり、地域の方々に大切に思われていることを知ったりすることができた。

○ボランティア活動を通して、子どもたちと親しみをもった関わりや、園教育や園運営に対しての理解をより深めていただくことができた。



【　あいさつ運動たすきづくり　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

人材の高齢化が進み、地域の方々やボランティアの人材発掘が課題となっている。学校運営協議会での投げかけや、保護者の方々への声掛けなどを重ね、人材確保に努めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今年度、学校運営協議会を設置し地域学校協働活動推進員さんには学校運営協議会委員になっていただいた。今後、どのような協働活動が充実していくのか協議会を通して検討を重ねていきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園長　■副園長　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　副園長　）

心わくわく　みんなが輝く　ボランティア活動

近江八幡市	活動名　：　北里地域学校協働本部	北里幼稚園　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：15 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

子どもを取り巻く環境の安全や交通安全について、それぞれの立場でできることをしていこうということを再確認した。コロナ対応も習慣づいてきているのでポジティブに考えていくことが必要である。子ども達には五感で感じられる活動を大切にしていきたい。また、コロナ禍で制限はあるが、地域に親しみを持ち、人と関わる活動を考えていきたい。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

近隣の高齢者の方との交流は今年度も中止せざるをえなかったが、毎年お世話になっている近隣の町の老人会の方々とは今年度は芋の苗植えと芋ほりをすることにより関わりを多く持つことができた。また、七夕の笹をいただいたり、運動会で使用する竹太鼓の竹をいただき活用したり、年末お楽しみ会のサンタさんの衣装を作っていただいたりするなど、交流以外でも幼稚園の行事にご協力いただいている。

園外保育に出かける際はボランティアに声をかけて子ども達の安全に配慮しながら、地域の四季の美しさを子ども達に伝えることも大切に考えている。北里幼稚園コミュニティ・スクールがめざす子どもの姿として『地域で育てる　地域を愛する　地域の子ども～北里で　遊んで　つながり　大好きに～』を合言葉にしており、今後も子ども達が地域に出かけいろいろな人と関わり、様々なことを経験していけるように考えていきたい。



【　芋の苗植え　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

活動内容によっては参加する学年を分散したり、室内では保育室、リズム室と人数によって部屋の大きさを考えたりして密を避けた。また換気や加湿、座り方などを工夫し安全に活動できるように心がけた。緊急事態宣言中は活動を控え、その後も安全対策を十分に考えて活動できるようにした。

■　事業の成果

めざす子どもの姿を具体的に考えていく中で地域とどのように関わり、どんなことをねらうのかということがよりはっきりと見えてきた。コロナ禍により人との出会いやつながりの場が少なくなってきている中で、制限は多いものの地域のいろいろな人と関わって一緒に体験したり、感じたりすることは子ども達の地域を愛する気持ちの芽生えにつながっていると考える。



【　コスモス畑散策　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

長年継続している活動もあり、今後も工夫をしながら活動を発展させていきたい。

ボランティアの方の高齢化が進んでおり、コロナ禍のなかで活動を控えておられる方もいらっしゃることから、新たなボランティアの方の募集についても積極的に考えていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

ボランティアの方に学校運営協議会委員になっていただき、ボランティアの立場からのご意見や考えを聞かせていただいている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　副園長　）

報告書記入者（　副園長　）

げんき・いきいき・あづちっ子　～つながる・ひろがる・ボランティアの輪

近江八幡市	活動名：安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：53 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○令和３年度園経営管理計画について　○地域学校協働本部活動について

○子どもの様子および保護者の現状と課題について　○目指す子ども像について

○子どもたちの遊びの姿について　○園評価について



【絵本の読み聞かせ】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）子どもの見守り・保育補助

４月初めから入園当初の３歳児クラスの保育補助を実施した。地域の方とＰＴＡの方で３歳児の子どもたちを見守ってくださり、初めての園生活となる３歳児にとっては安心して園生活のスタートを切ることができた。

（２）図書ボランティア・おはなし会

おはなし会を月に１回各クラスで実施した。読み聞かせをしてくださる方々を『まんまるさん』という愛称で呼び、子どもたちは親しみをもっておはなし会を楽しみにいる。

また、図書ボランティアの方々が絵本にカバーを付けたり修繕したりしてくださり図書環境が充実した。

（３）環境整備

園庭の除草作業や芝刈り、落ち葉拾いや樹木の剪定を環境ボランティアの方が実施してくださった。身近にいる大人たちが園庭で作業している姿を子どもたちが見ることでつながりも生まれ、ボランティアの方々への感謝の気持ちにつながった。



【　園庭の芝刈り】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍の中でも園児たちが園生活をいきいきと送れるように、ボランティアの方々が得意とする分野で活動してくださり地域学校協働活動推進員と連携し事業を実施した。

■　事業の成果

絵本の読み聞かせ活動は、メンバーが入れ替わりながらも毎年実施することができている。『まんまるさん』と親しみを込めて子どもたちが呼ぶことも定着しており親しみがより深まっている。子どもたちが園生活を安心・安全に過ごせるようにボランティアの方々が得意な分野で関わってくださり、ボランティアの方々を身近な存在として意識することができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティア登録を呼びかけているが登録者数が増えていない。活動の内容をより分かりやすくしていくとともに、地域の中で活動されている方に参加してもらいやすい活動形態を今後模索していく必要がある。様々な形で子どもたちと関わっていただく方を増やしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会で子どもたちの遊びの姿を実践事例を交えて協議し合えたことで、今の子どもたちの現状を共有することができた。今後、地域の方々と子どもたちをつなぐために学校運営協議会と連携をして事業を進めていたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副園長　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　副園長　）

“にこにこ　きらきら　武佐っ子”を育む　あったかい支援の力

近江八幡市	活動名：武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園	学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：20 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①　保育教材作り（布製おもちゃ作り）
フェルト生地の誕生ケーキやお菓子、エプロンシアターの修理などを行う。
子ども達の遊びの様子を口頭で伝えることで、次の制作への計画につながった。

②　栽培活動（さつまいもの苗植え・いもほり）
さつまいもの苗植え前には畑を耕したり、マルチをかけたりと植える前の環境を整えていただいた。収穫も園児と一緒にしてくださり、収穫を共に喜び合う。

③　行事支援（やきいも・もちつき）
もみ殻への火の広げ方や餅の丸め方など、職員や子どもたちにコツや方法など、長年の経験を元に教えていただくことができた。


【　もちつき　】

④　あいさつ運動
毎月１日、15 日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶をしながら園児や保護者を迎える。保護者会役員や５歳児もあいさつ運動に参加することで、他の保護者への啓発につながっている。

⑤　絵本の読み聞かせ
毎月各クラスに絵本の読み聞かせをしていただく。手遊びなどを交えながら、たくさんのお話にふれることで、ボランティアの方との交流も深まり、子どもたちは毎回楽しみにしている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・ボランティア活動を知ってもらうために、活動の様子を保護者向けに通信を発行し、情報発信を行っている。
・今年度も、コロナウイルス感染症の予防のため、保育教材作りは園で作成してもらうのではなく、各家庭で制作してもらえるよう型紙や材料などを用意し依頼する。作成したおもちゃを使って、一緒に遊んでもらうことができないので、材料を家庭に届けに行く機会に子どもの遊びの様子を伝えたり、会えない方には手紙で知らせたりした。
・絵本の読み聞かせでは、フェイスガードを使用する、子ども達とも距離をとるなどの感染予防対策を行い実施する。

■　事業の成果

・行事支援では、地域の経験豊かな方から方法や知識などを教えていただくことができた。また、保育の中に取り入れることで、子どもたちの意欲や興味、関心につながった。
・おもちゃ作りでは、温かみのあるフェルト生地で誕生日のお祝い用ケーキを作成して頂くことで、どの子も自分の誕生日を心待ちにしたり、優しい雰囲気の保育環境となった。
・絵本タイムでは、季節の絵本を子ども達と楽しむだけでなく、季節を感じていけるように小道具を利用するなどの工夫を実践され、保育者も保育導入の方法や環境づくりの大切さを再確認することができた。


【　絵本タイム　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度も新型コロナウイルス感染症の予防のため、作っていただいた布製おもちゃで一緒に遊ぶ『ふれあいタイム』などは実施できず、行事支援も人数制限をしての活動となった。
・行事支援については、事前の打ち合わせと当日のスケジュールの確認を行うことで、活動がスムーズに実施できている。今後もていねいな対応を心掛ける。
・地域の方や保護者の方にも、ボランティアに参加してもらえるよう働きかけていきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員　■その他（　主幹保育教諭　）

報告書記入者（　主幹保育教諭　）

は・あ・と・がだいじ～地域の方と心でつながる園教育を～

近江八幡市	活動名：老蘇こども園地域学校協働本部.	老蘇こども園　学校運営協議会 ：□有 ■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：26 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■ 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■ 学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■ 地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■ 郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○栽培活動：畑作りや苗植えのアドバイスをしていただき収穫を一緒におこなっている。運びプランターの土作りや栽培のアドバイス・花苗植えの作業をしていただいている。

○環境　：運動会に向けて地域ボランティアの方、保護者、職員が協力しあい園庭整備をおこなっている。

○絵本　：月１回のペースで絵本ボランティアの方に読み聞かせをしていただいてる。ポルトガル語を母国語とされるボランティアの方にも来ていただき多文化に触れる機会となっている。



【絵本の読み聞かせの様子】

○避難訓練：老蘇コミュニティセンターへ２次避難

→避難訓練時に老蘇コミュニティセンターと連携し第２次避難所として、コミュニティセンターに避難し、防災についての話や施設の見学をおこなっている。

■　実施に当たっての工夫

○コロナ禍ということで、参加していただく人数や、場所等を考慮した参加方法をとるようにしている。

○収穫時や年度末にボランティアの方との交流会を実施し、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝える中で、園に対する理解を得られる機会を設けている。

○卒園児の保護者に声をかけ、継続してつながっていただけるように、ボランティアの登録をお願いしている。

■　事業の成果

○ボランティア活動を通して、地域の方に親しみを感じていただき園運営の理解に繋げられた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○コロナ禍の中、保護者の方だけでなく、ボランティアの方においても、行事を縮小し、制限をしたり、形式を変えたりしながら参加していただくことが多く、次年度も実施に際して工夫が必要である。

○ボランティアの方が地域や多方面でも活躍され募った日に先約があったり、登録されている方が高齢化し行事の内容によっては体力的に難しいこともあったりする等、新たな人材確保に努める必要がある。



【花の苗植えの様子】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■ 園　長　■ 副　園　長　■ 域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　副園長　）

地域とつながり、愛情あふれる協働活動

近江八幡市	活動名 ： 八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）　ボランティア登録数：138 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域連携のあり方　・放課後の児童の過ごし方

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

新たにボランティア登録をしていただいた方が２名あり、登録者は138名となった。

①環境整備･･･花壇整備、花の植え替え、樹木剪定・枝葉処理、生け花、図書室整理、体育発表会テント設営・撤収、学習用仕切り板作り

②本の読み聞かせ･･･全学年毎週火曜日、朝 10 分間

③学習支援･･･ミシン補助、ソーイング補助、八幡堀学習、ヴォーリズ学習、戦争体験、九九の聞き取り、英語ボランティア、授業補助

④児童引率補助･･･町たんけん、校外学習

⑤クラブ活動支援･･･琴、茶、生け花、江州音頭

⑥栽培活動支援･･･大根・夏野菜・北之庄菜作り、へちまの棚作り

⑦その他･･･賞状筆耕、ベルマーク作業、そうじの指導



【　体育発表会テント設営　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地域の感染状況を踏まえ、子どもに直接関わる活動の可否を判断した。
・入校時の検温、健康観察カードの記入をしていただき、健康状態を確認した。
・昇降口を入ってすぐの位置にボランティアルームを設けており、ボランティア活動の前後にも児童との自然な交流ができるようにしている。
・児童、保護者、地域に活動内容を幅広く知ってもらうため、学期末には「ボランティア通信」を発行し、校内には活動風景の写真を掲示している。
・体育発表会や６年生を送る会等の行事にボランティアの方を招待し、児童がいきいきと活動する様子を参観していただいている。



【　そうじの指導　】

■　事業の成果

・多くの方との触れ合いから、児童は愛情を感じ、地域とのつながりを深めている。また、自分たちが地域のためにできることを考え、５年生では環境学習の一環として地域のごみ拾いを行った。
・学習支援やボランティア活動を通じて、教員が地域の方から直接お話を伺うことで、地域理解を深めることができた。
・地域で活躍されている様々な職種の方を招いてキャリア学習を行い、仕事の内容や働くことの意義について学ぶことで、児童は大人への憧れや将来への希望を持つことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・コロナ禍にあり、学年対象の講演を学級ごとに行ったり、学年を２分割にして行ったりすることになり、講師の方の負担が増えた。また、インタビュー動画を撮影したり、オンライン通信したりするなど学習方法を工夫して行った。ＩＣＴの活用により、交流の範囲や学習形態がさらに広がることを期待している。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営協議会の開催前に事前協議を行って協議内容を絞り、活発な意見交換ができるようにしている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　教頭　）

地域とともに育てよう！「ふるさとを愛し　瞳輝く島っ子」を

近江八幡市	活動名　：島小学校地域学校協働本部	島小学校　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：360 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等

□行　政■その他（島学区まちづくり協議会）



【　２年　権座でおいも　】

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動にかかわる内容等）

・地域で学ぶ、地域の人から学ぶことで郷土愛を育てる。

・お膳立てされた「いいとこ取り学習」ではなく、子どもが準備や苦労をする体験を！

・防災学習の重要性（大雨の時の大中の様子・土砂崩れの起きやすい学区の地形）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）郷土学習、食育・環境学習、各教科等の学習支援

〇ふるさと学習　環境学習　防災学習

２年「まちたんけん」（むべ園・コミセンの防災施設見学など）「権座でおいも」（権座のお話・いも植え・いも掘り）

３年「ヨシ・菜の花学習」（ヨシちまき・ヨシの働きとくらし・ヨシ原の保全・ヨシ刈り・よしず・よし笛・菜種栽培等）

「まちたんけん」（地域の特徴・砂防ダム見学）

４年「ヨシ・菜の花学習」（菜種栽培・収穫・油を使ったクッキング　松明づくり・地域伝統の祭りと技を学ぶ）

「大中学習」「島っ子防災マップを作ろう」（地域の地形と暮らし・防災施設見学・一次避難所巡り）

５年「ヨシ・菜の花学習」（松明奉納）「たんぼの学習」（ＳＤＧｓ）「水郷ブランド野菜」

１・５年「島小ワクワク野鳥観察会」（雨天のため、教室でに学習のみ実施）

〇授業支援（昔遊び　昔体験　ミシンボランティア　雅楽体験　米づくり等）

〇エディブル・スクールヤード活動への支援　全学年（栽培　調理　食育　農業体験）

〇行事支援　３・４年「運動会」　６年「地域と連携した避難訓練」（避難所設営等）

（２）見守り活動

・保護者による下校時の巡回パトロール「見守り車パトロール」

・地域の方による登校、下校時の見守り「みまもり隊」

・地域の方、保護者による朝の見守り　「行ってらっしゃい運動」



【　５年　ほんがら松明の奉納　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇食を伴う活動の一部と密になると予想される活動については中止とした。活動をする場合は、グループ分けをする、十分な距離をとるなどの密にならない対策を立て、健康観察やマスクの着用・消毒を徹底した。

〇推進員と担任の打合せの時間の確保が難しい現状があるため、校長や教頭が学習の内容や流れを担任と相談して把握し、推進員や地域ボランティア、島学区まちづくり協議会等との連絡調整を心がけた。

〇地域の方に支援いただいた活動内容や学習の様子を、学校だよりやまちづくり協議会だより、学校ホームページなどで発信し、子どもの様子や感謝の気持ちを伝えるよう努めた。

〇「防災学習」や「ＳＤＧｓ」という新たな視点での連携を模索した。

■　事業の成果

〇まちづくり協議会との連携で、新たな活動や子どもたちの学びにつながる人との出会いを作り出すことができた。

〇地域の自然や伝統文化について地域の方とともに学ぶことで、大切に受け継いだ思いや生き方にふれることができた。

〇エディブル・スクールヤードの取組を様々な教科や活動に結び付けることができ、本来の趣旨であるSDGｓの学習ができた。

〇地域の方の支援を受け、見守られることで子どもたちに安心感を持たせることができるとともに働き方改革の一助ともなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇推進員や地域ボランティアは経験が豊富であり十分な支援をしていただけるが、担任が単元全体を見通し授業を組まなければ学習が深まらない。担任教員が地域に愛着をもち学習を進められるよう、教材研究、地域の方との交流を進めていきたい。

〇学校運営業議会を活用し、新たな視点からの意見をいただくとともに教育活動の後押しをさらにお願いする。

■　その他　　島小ホームページ　　http://www.fureai-cloud.jp/shima-es/

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　教頭　）

沖島を愛し、自ら地域に親しむことで、心豊かでたくましい沖島っ子の育成

近江八幡市	活動名 ：沖島地域学校協働本部	沖島小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：10 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○島民とのふれあいの場の設定。
○あいさつがしっかりできる子どもの育成。
○学校の存続に向けて。
○特色ある教育活動について



【ふなずし作り】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○ふなずし作り
　地元の漁師の方にニゴロブナを用意していただき年間３回の体験活動を行った。
○地元「沖島アイス」
　沖島町離島推進協議会と協働し、全校でサツマイモを育て、全校で食べたり、収穫の一部を沖島アイスの材料にして販売した。
○おきしま通船での避難訓練
　通学に利用している「おきしま通船」内で、島内の消防司令補の方を講師に招き、びわ湖の沖合でライフジャケットを着用した避難訓練を実施した。
○沖島太鼓の練習
　クラブ活動の時間に全校で練習に取り組んでいる。学校行事、地域行事で発表の場を設けて披露している。
○市行政の「子ども防災塾事業」を沖島学区まちづくり協議会に委託され、文化祭・運動会・授業等で学習を深めた。
○沖島オリエンテーリングの実施
　学校運営協議会で提案を受け、２回に分けて全校教職員児童で島内のお店や神社・お寺を訪問し、ふれあい交流を行った。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○自治会・老人会・まち協の願いを学校教育活動に生かせるように努めている。
○全校児童が、歴史ある「沖島太鼓」の練習に取り組み、講師を招いて「全校心をひとつ」にして取り組んでいる。

■　事業の成果

○地域の願いを受け止め、島民の方とのふれいあいや学習活動に生かし学びを深められた。
○地域学校協働活動推進員との連携を密にとり、年間を通して計画的に活動が進められた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○沖島の活性化のためには、自治会・老人会・まちづくり協議会との協働した活動を絶やさず、区域外・弾力化を利用した児童の確保に努めていく必要がある。
○沖島の歴史に関わる学習を進めていく上で、島内の高齢化が課題になってくる。
　今後、資料の収集や整理、後継者の発掘に努めていく必要がある。



【沖島オリエンテーリング】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○活動の様子を学校ＨＰや学校だよりで保護者や島民に広く周知している。
（http://www.fureai-cloud.jp/okishima-es/）

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

『学校と地域の両輪で』　～地域と協働した学びを～

近江八幡市	活動名：岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：180 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○２年生では、学校菜園にて野菜栽培に取り組んだ。地域ボランティア「野菜の先生」の方々に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、いろいろな野菜を育て収穫した。

○３年生では、ふるさと学習の一環として、地域の花火師さんを招いて特色ある産業について学習した。花火模型を使いながら分かりやすく教えていただいたり、安全に十分配慮したうえで、運動場での打ち上げ実演を行ってもらったりした。

○５年生では、地域ボランティア「裁縫お助け隊」の方々に、家庭科実習の裁縫の時間に実技指導の補助をしてもらった。個別の指導が行き届き、子どもたちの技能の習得につながった。



【　２年生　野菜栽培　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○ボランティアの方々に協力いただく時間を学年の時間割調整によって分散したり、活動において密を回避したりするよう計画を立てたりした。また、様々な制限がある中でも、子どもたちにとって実りのある学習となるように、地域学校協働活動推進員を通じて綿密に打ち合わせを行った。

○学校だよりを学区全戸に配布したり、学校ホームページで活動の様子を詳しく紹介したりしながら、支援活動等を随時地域に発信している。

■　事業の成果

○地域ボランティアの方々の協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを知ったり、学んだりすることができ、ふるさとに愛着をもてる子どもの育成につなげることができた。

○地域ボランティアの方々に礼状を作成することで、社会性や感謝の心を育むことができた。

○教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動の推進につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域学校協働活動推進員を通じて、地域ボランティアの方々と学校教育目標や学校経営の位置づけを共有しながら、学習活動の目的やめあてを明確にして打ち合わせを行っていく必要がある。

○地域のよさや伝統を伝えていただく方の高齢化に伴い、支援していただくことが年々困難になってきている。地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○前述の「地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題」に関わって、学校運営協議会にて熟議をはかることができると思われる。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　教頭　）

地域への愛着と誇りを胸に！未来を拓く金田っこ

近江八幡市	活動名　：金田学区地域学校協働本部	金田小学校　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：70 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［伝統芸能鑑賞、防災学習］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）１年「生き物探検」・・・地域の自然に触れ、環境を守る活動に取り組み人々とふれあう。

（２）２年「地域の自然に親しむ」・・・地域の自然に触れ、環境を守る活動に取り組む人々に学ぶ。

（１）３年「金田の祭りを調べよう」「ホタルを守る活動について知ろう」・・・地域の伝統や環境を守る活動に取り組む人々とふれあう。

〇浅小井町の祭り・篠田の火祭りを継承する人たちに学ぶ。

〇ホタルが住む川を守る金剛寺の取組に学ぶ。

（２）４年「福祉学習」「寺子屋」・・・住む人にやさしい地域づくりを考え、地域を守る人々とふれあう。

（３）５年「田んぼではたらく人々」「環境学習」「手縫い名人になろう」・・・地域の環境について考える。

（４）６年「ミシン名人になろう」「平和学習」

「戦争中に金田学区の様子を知ろう」・・・地域の平和について考える。



【５年　手縫い名人になろう】



【４年国語・福祉学習　盲導犬の訓練】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇講話だけでなく、本物・実物に触れたり体験したりできる場づくりに努め、発見や感動のある学習を目指した。

〇担当学年の主任と地域学校協働活動推進員との連携をとり、打合せ時間を確保した。

〇広い場所を確保し、マスクの着用、換気や消毒につとめた上で、講話を聴いた。

■　事業の成果

〇地域に愛着と誇りをもって活動されている方々の話を聞いたり、仕事の様子を見学したりすることで、教室ではできない学習・体験ができた。

〇金田学区にお住まいの講師、ボランティアに来ていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。

〇地域の安全を守る活動（スクールガード、地域の消防、地域の川の整備等）を日常的に目にしたり、体験したりする中で、防災や安全に対する意識の高まりが見られた。

〇放課後子ども学習「寺子屋金田」では、コミュニティセンターを学習の場として、学力補充に加えてニュースポーツの体験、防災に関わる学習等も取り入れた工夫あるプログラムで、参加した児童にもその保護者にも大変好評だった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇大規模校で、どの学年も人数が多い。（140 名～160 名）その分、講師・ボランティアの方も多数お願いする必要がある。人数確保や日程調整が難しい。コロナ禍で、子どもたちを分散させる配慮をすると、学級単位で講話・体験をお願いすることになり、１日に４～５回、お話をしていただくことになる。その負担は非常に大きい。

〇講師・ボランティアの方々の高齢化が進んでいる。新たな人材確保が急務である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学期に１度集まっていただき、協議会を開催している。地域と学校が協働で活動した取組について紹介し、理解と協力を求めている。協議会では概ね好意的、建設的な意見が聞かれる。

〇高齢化に伴う新たな講師・ボランティアの確保については、協議会でも懸案事項とされている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長　■教頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者　（　教　頭　）

共に伸びる　～　みんなで学び　元気にチャレンジ　～

近江八幡市	活動名　：　桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：120 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・第１回（５月）…学校経営管理計画の承認・今年度活動計画について
・第２回（７月）…活動報告、子どもたちの安全を守る活動について
・第３回（11 月）…活動報告、コロナ対策について、子どもの居場所づくりについて
・第４回（２月予定）…活動報告、学校評価に対しての方針案、来年度の活動について



【生ごみプロジェクト～大根づくり～】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○４年　環境学習：生ごみプロジェクト

地域ボランティアの方々の指導により、給食の残飯をたい肥化したものを、畑に肥料として入れ、栄養たっぷりの大根を育てる取り組みを行った。１学期はたい肥の作り方、２学期は大根の苗植えと育て方、３学期は収穫の仕方についてのお話をいただき、一緒に作業のお手伝いをしていただいた。お世話になった方々を収穫感謝祭に招待し交流を深めた。

○４年　地域ふるさと学習：日野川フィールドワーク

日野川の恵みとともに人々の暮らしがあったが、時には洪水等の水害にも見舞われてきた。その中で先人の暮らしやまちづくりにおける知恵も育まれ伝えられてきた。

日野川の歴史や先人の知恵などを詳しく知っている地域の方から事前学習をしていただいたり、県の流域政策局の職員の方、地域ボランティアの方とともに、フィールドワークを行ったりしてふるさとへの思いを高める学習に取り組んだ。



【　日野川フィールドワーク　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○　学校支援ボランティアさんの活動予定を示したボードを活用することで、教職員全体に活動時期や内容を周知するとともに計画的に進められるよう配慮した。
○　地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりに活動の様子を紹介するとともに、学校支援の輪を広げる取組を進めてた。
○　日頃お世話になっているボランティアの皆さんに対し、子どもたちからのメッセージカードや、収穫した大根の収穫感謝祭に招待する取組など、コロナ禍の中でも可能な地域の方との交流を工夫した。

■　事業の成果

○　地域の方々が朝や休み時間を利用して、さまざまなメニューを用意して子どもたちと関わってくださっている。このことは、子どもの居場所づくりや居心地のよい空間づくりにつながっている。
○　校外学習では、教員だけでは子どもたちの様子を把握できないこともあるが、ボランティアの方々のおかげで、安全に注意を払って取り組むことができている。
○　ボランティアの方々が日常的に学校に来ていただいていることから、子どもたちの様子を複数の目で観察することができ、安全な学校生活を送ることにつながっている。
○　図書館の環境整備や、おはなし会の開催などを通して、本を身近に感じ、本に親しむ子どもたちが増えてきている。
○　スクールガードの方々の登下校時の見守り活動により、子どもたちは安心して登下校できている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

校外学習や授業での支援活動において、ボランティアさんの存在は大変大きく、学校ボランティアとして定着してきているが、高齢化が進み無理をされている部分もみられる。この活動が継続していくためにも、まちづくり協議会・他の地域団体との連携を図り、新規募集を含めた組織的、継続的な仕組みの見直し・工夫が必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

「支援」から「連携・協働」に向けて、さらに地域人材を確保し、一歩進んだ地域住民による学校との連携・協働を充実させ、地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、ビジョンをもって進めていくことが大切である。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域ともに体験学習を・ボランティアさんはできるときにできることを

近江八幡市	活動名：桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：約 150 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・学校支援グループとしての活動から気づいた子どもの様子について
・地域や登下校中の子どもの様子や通学路の安全について

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）校内での学習活動：地域学習や専門分野でのゲストティーチャー、家庭科でのミシン実習補助
（２）安全見守り活動：自転車での校外学習のルートづくりと付き添い、危険個所の安全見守り
（３）校外での体験学習：まち探検での施設案内と取組説明、白鳥川での観察観測の指導、たんぽのこ活動の補助
（４）環境整備活動：図書室の掲示物作成や本修繕の整備と貸出補助、校地内樹木の剪定作業、昇降口清掃、落ち葉そうじ
（５）文化活動：朝読書での読み語り、校舎内生けこみ、木工パズル広場
※これらの活動を円滑に行うための、毎月の学校支援グループ代表者会（学校運営協議会を含む）の開催。



【６年　安土への校外学習引率】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・検温と手指消毒の実施と体調を考慮し無理をしない活動を実施した。
・室内での活動はマスク着用や必要な距離を保つようにした。
・コロナ感染状況により活動時期や活動内容に変更があることを前提に計画した。

■　事業の成果

・コロナ禍ではあるが、活動を継続できるよう工夫をしながら実施することができた。
・地域ボランティアの方やゲストティーチャーがくり返し来校される機会があることにより、児童や学校との温かい関係性が感じられる。



【５年　白鳥川での学習指導　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアグループの次の世代をいかにつくるか、人材確保についてどのグループについても話題になっている。
・子どもや学校教育に地域の方が関わっていることが、保護者にも実感してもらえるはたらきかけが必要。こうしたことが次のボランティア人材確保にもつながるのではないか。
・学校のＨＰへの紹介はしているが、「顔の見える、声が聞こえる」紹介を実施することとした。（１月の学習参観の機会に実施。）
校運営協議会の持ち方の工夫をし、学校や地域が目指す子どもたちの成長をめざすための熟議を重ねていく。
・すべての教職員が学校運営協議会との協働について、日々の教育活動との関係性や仕組みを理解する機会をもつ。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（各教員　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域でともに育てる馬淵の子

近江八幡市	活動名：馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：39 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・農業、栽培に関する活動…ヘチマ栽培、野菜栽培、稲作体験
・歴史、伝統文化に関する活動…地域の祭り、古墳・史跡見学
・平和学習に関する学習…戦争体験、校区への疎開体験の聞き取り活動
・地域防災に関する活動…消防団見学、河川学習、水害被害の聞き取り、ハザードマップづくり



【４年理科　ヘチマ棚の設置】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地域ボランティアには必ずマスク着用と検温への協力を求めた。
・学習補助、児童活動支援は、接触、密接を前提とするため、また高齢のボランティアが多いことから依頼をとりやめた。
・地域ボランティアの授業参加は、児童と一定の距離が確保できる講話形式のみとした。また、現地に出かけて、屋外で話を聞く形式を主体に計画した。
・授業者と地域ボランティアとのマッチングや日時の調整について、推進員があらかじめ十分に授業者の要望を聞き取って仲立ちした。具体的な活動内容や支援方法などについて、授業者、推進員、支援者が事前の打ち合わせを行って決定した。



【２年まち探検　地域の神社説明】

■　事業の成果

・感染症拡大防止の対応のため地域と協働した活動を一部制限せざるを得なかったが、その中で可能な内容や方法を模索することによって、新たな活動や地域ボランティアの発掘につながった。
・推進員の役割に対する教員の理解、事業についての地域への周知が進んだことにより、様々な分野で授業のねらいに応じた効果の高い支援が得られるようになった。推進員や地域ボランティアとの協働によって、教員の地域理解が深まり地域の素材を教材化する力が高まった。
・継続した活動を行うことによって、児童は顔馴染みとなった支援者の来校を楽しみにするようになり、支援者は児童への理解が深まって効果的に支援を行え、継続することにやりがいを感じるという好循環が生まれている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域との連携、協働の効果を高めるには、事前の授業者と地域ボランティアの打合せが重要であり、推進員の限られた勤務時間内で効率的に行うよう工夫する必要がある。
・一人のボランティアが複数の分野の活動に関わる場合も多いため、各学年の活動の日程を早期に調整する必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・推進員が、学校運営協議会の場で学期ごとに地域学校協働活動による取組を報告し、委員か活動への理解を深めた。運営協議会での情報交換によって、次年度の活動に向けて、地域の願いをくみ取ったり新たな地域の素材を活動に生かしたりすることや、地域人材の発掘につながることが期待される。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　各担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

未来のきたさと（喜多郷土）をつくる　子どもを育むコミュニティースクール

近江八幡市	活動名：北里小学校地域学校協働本部	北里小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 1 人）　ボランティア登録数：110 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・ボランティアの在り方について　・登下校時の児童の安全確保について

・北里小学校 110 周年等記念行事で設置した施設(ウッドデッキ、水車等)の維持管理について

・子どもの学力について　・ふるさと学習について

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）メダカシンポジウム

メダカの学校小田分校の方と一緒に田んぼでの田植え、観察・肥料まき・草刈り・稲刈り・脱穀・籾摺り・精米という米作りの一連の作業を体験させていただくとともに、12 月 8 日に実施したシンポジウムでは、『田んぼの向こうに世界が見える』というテーマで田んぼの学校で体験したことや『米作り』や『田んぼにいる生き物』など５年生児童が総合的な学習の時間に調べた環境学習の内容を壁新聞にまとめ、ポスターセッションの形式で発表した。

また、メダカの学校の方からは、これまでの活動のパネル展示をしていただき、５年生の児童や保護者対象に環境にかかわる講演をしていただいた。



【　メダカシンポジウム　】

（2）子ども安全地区懇談会

北里学区青少年育成会が主催し、「地域で子どもを守るために」をテーマとして、民生委員や自治会、まちづくり協議会、駐在所、幼小中のＰＴＡが一堂に会して子どもの安全について話し合う地区懇談会で、平成 12 年から続いている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学校が行う地区懇談会と合同で行った。駐在所から地域の現状、幼小中から各校園の様子を伝え、その後、各方面から意見をいただく。この懇談会は、あらゆる方面から貴重な意見を聞くことができ、北里学区民が一体となって子どもの安全について考える良い機会になっている。この懇談会で出た意見は学校に持ち帰り、学校運営に役立てている。

今年度、学校で開催する地区懇談会を兼ねて行った。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○メダカシンポジウムでは学級別に発表を行い、発表する学級の保護者だけを会場に入れることで、密集をさけた。

○子ども安全地区懇談会は参加者を絞って行い、密集を避けるように開催された。

■　事業の成果

○事業開始から 12 年になる。本活動が年間計画の中に位置づけられていることにより、かなり定着している。毎年、実施時期、活動内容について、地域学校協働活動推進員と一緒に各学年の担任が見直しをすることにより、より精査しながら本事業が実施できている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○平成 21 年度の本事業を開始してから、同じ地域学校協働活動推進員が一人で地域と学校を繋ぐ役割を担ってきているが、今後後継者の育成や選任に困難さがある。

○地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐ重要な役割を担っており、学校の思いを地域に、地域の思いを学校に伝えることで双方向にメリットがあるような活動を実施するように心がけている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○平成 31 年度からコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を立ち上げた。３年目になり、より実効的なコミュニティ・スクールの在り方を考え、協議会での協議内容も検討している。学校の記念行事で作られたウッドデッキなど施設が老朽化し、その対応策などを検討した。他にも通学路など子どもが安全に学校生活を送るための意見をいただき、学校運営の支援をいただいた。今後も、地域の担い手として活躍できる子どもの育成を目指して、地域ぐるみの活動を考えていく。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

保護者支援・子どもの居場所づくりと地域を愛する子どもの育成

近江八幡市	活動名：武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：73 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

〇本校は、今年度からコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会で改めて活動内容を検討している。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇地域の特徴・産業等や生き方学習等について、ゲストティーチャーを招き、お話をしていただいた。
〇体験的学習で、茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらった。
〇焼きいもや畑づくり、花壇の整備などの学校環境づくり等に協力いただいた。
〇低学年における読み聞かせをボランティアさんにより進めている。



【　１年　焼き芋のようす　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇ゲストティーチャーとしてお話いただく取組を中心に行った。
〇焼きいもや畑づくり、花壇の整備など、野外での活動を中心に実施した。
茶道等の指導では、できるだけ密にならないように広い部屋で児童を少人数に分けて実施をした。

■　事業の成果

〇ゲストティーチャーの専門的な内容や経験に裏打ちされたお話、生きざまを聞くことにより、教科書を中心とした授業だけでは得られない、実感を伴った学習となった。
〇自分の生まれ育った地域について、地域の方のお話を聞くことで、より身近なものとして学ぶことができ地域を愛する子どもたちの育成につながった。
〇焼きいもや畑づくり、花壇の整備など、教員の力では難しいことを、専門的な支援をいただきながら進めることができた。



【　３年　野田町コスモスの話　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇コロナウィルス感染防止の対応による制限の中、ボランティアさんの活用も含め、実施できる内容を再度検討し、状況によって活動を再開していきたい。
〇コーディネーターの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや教員との打合せ、聞き取りが不十分になることがある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇本校は、今年度からコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会で改めて活動内容を検討している。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

学校保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動

近江八幡市	活動名 ：安土学区地域学校協働本部	安土小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 1 人）　ボランティア登録数：220 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）全校児童対象の活動

学年	項　目	具体的な取組内容
全校児童	朝の読み聞かせ	・読書ボランティア「にょきにょきさん」に、毎週木曜日、朝読書の時間に、2 学年ずつ各学級で読み聞かせをしていただいている。
	見守り あいさつ運動	・日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしていただいた。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんが参加して、校門であいさつ運動を実施した。

（2）学年の活動と連携・協働した活動

学年	項　目	具体的な取組内容
3年生	安全・防災学習	・地域の消防団 10 名の協力で、学区の災害対策の学習と放水消火訓練を行った。
3年生	ふるさと体験学習	・信長ねぎの収穫や牛舎での仕事を体験し、地場産業を題材に地域学習を行った。
4年生	西の湖学習	・地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
5年生	米作り体験	・米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
6年生	キャリア教育	・飲食店や弁護士として働く方から、仕事内容ややりがいを聞き、将来への生き方を考えた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○3年生のふるさと学習においては、一昨年までの事業所には高齢者の方が活動されておりコロナ禍の活動においては自粛されたため、新規の事業所の開拓を行った。

○日常的に教職員が地域学校協働活動推進員と日常的に連絡を取り合い、学年が必要とする地域人材の情報を共有することに努めている。また、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域学校協働活動推進員から、多くの有益な情報を得ている。

○読書ボランティア「にょきにょきさん」と教職員や地域学校協働活動推進員が、日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。



【　3年ふるさと体験学習　】

■　事業の成果

○地域学校協働活動推進員が教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々を講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。

○地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。

○子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、体験を通して子どもたちと関わることで、やりがいや生きがいを感じていただいている。



【　4年西の湖総合学習　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方の高齢化に伴い、支援者がだんだん減ってきている。地域の新しい人材を発掘し、いかにボランティアの登録者を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で広く発信するとともに、情報収集に努める必要がある。

○コミュニティセンターやＰＴＡとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

新しい生活様式で取り組む老蘇っ子の「ふるさと学習」

近江八幡	活動名 ： 老蘇地域学校協働本部	老蘇小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成２３年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：６０人

■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員　□行政　■その他（　地域防災につなげる　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）豊かな自然から学ぶ

（全学年）・ビオトープでの体験活動　（３年）・れんこん掘り　・　イチゴ農家見学　・　信長ねぎ農家見学

（４年）・西の湖学習　・ヨシ灯り作品作り　（５年）・ニゴロブナの放流（特支）畑でとれたサツマイモで焼き芋を作ろう

（２）働く人から学ぶ

（２年）・野菜の栽培・ハチミツ採取体験・まち探検・たけのこ掘り・郵便局の見学

（３年）・ネギ農家見学・イチゴ農家見学　・れんこん掘り・消防署の見学

（３）歴史や伝統から学ぶ

（１年）・昔の遊び体験　（２年）・神社の見学　（３年）・昔の暮らしについての聞き取り

（４年）・ゴミ処理についての学習・教林坊の見学・杉原邸の見学

・ふるさとの偉人についての聞き取り・祭りについての聞き取り

（５年）・シーサー作り

（６年）・お茶碗製作・お茶たて体験・和太鼓体験・信長時代の文化・演奏会

（４）地域の人から学ぶ

（２年）スーパーの見学（４年）・防災拠点としてのコミセンの役割

（５年）・自動車部品工場見学・米作り学習　（６年）・木箱作り

（５）支えのもと学ぶ

（全校）・登下校の見守り・絵本の読み聞かせ・芝生管理委員会



【れんこん掘り体験】

■　実施に当たっての工夫

・コロナ禍における新しい生活様式の考え方に則って、三密状態回避を意識した取組を実施した。

・以前から引き続き行われている活動が多いので、コロナ禍をきっかけに活動の意義やねらいを明確にすることを意識して内容を決定し実施した。

・教科の学習や領域とも関連付けながら活動を進められるように、カリキュラムを構成している。

・活動の様子を「地域支援だより」「学校だより」やホームページ上で発信し、指導者や協力者にお礼の気持ちを伝えるとともに、地域や保護者に対して、活動内容や活動意図への理解が進むようにしている。

■　事業の成果

・ふるさとの自然や歴史、文化、人などについて知ることで、“老蘇”のよさを再発見することにつながり、そこに住んでいる自分にも愛着と誇りが持てるようになった。

・コロナ禍でも工夫を凝らして多くの人と出会い触れ合うことや様々な体験をすることで、いろいろな考え方、生き方に出会うことができ、将来の夢などについて考える機会が増え、夢や展望を持つ児童が増えた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・子どもたちの活動は、それぞれ効果的に単元全体の構成を熟考して実施する必要がある。

・講師を招いてご講話いただく方法を取ることが多く、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、もう少し児童の主体性を生かす工夫が必要であり、課題作りの段階で、児童の課題意識を高めること、その課題を解決し、それを自らの言葉で表現する力が重要である。

・コロナ禍でも、工夫をして受け入れてくださる事業者の方や地域の方が多く大変ありがたかった。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・学校運営協議会が密に連携することで、地域の文化、歴史、人材など地域の思いを反映した教育ができ、また、学校が要望する支援を地域からスムーズに受けられるようになる。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長　■教頭　■地域連携担当教員　■その他（教務主任、各担任）

報告書記入者（　教頭　）

「地域が学校づくりに参画する学校」をめざして！

近江八幡市	活動名：八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：約 80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・令和３年度学校経営方針
・地域学校協働本部事業の目的と事業内容
・登下校中の交通安全
・学校教育目標の改定



【　八中サミット　】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

全学年　：八中サミット、図書館司書支援
１年　：書道実習支援、被服実習支援、八幡ＦＷ支援
２年　：職場体験代替学習講演会講師
３年　：芸術鑑賞
太鼓部　：地域行事での公演活動

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・コロナ禍のためやむなく水泳・剣道実習支援や２・３年での書道（毛筆）実習支援等を見合わせることになったが、代替活動として、八中サミットや被服実習支援、芸術鑑賞を提案し、多くの方の協力を得て実施することができた。
・職員室に地域コーディネーターの座席を設けることで、連携を密にし、コロナ禍における対応等を協議した。

■ 事業の成果

・初めて学校運営協議会にも参加していただき開催した八中サミットでは、地域・生徒・保護者・学校の四者が、学校の課題について熟議した。サミットで出た「地域とのつながり」や「地域の中にある」、「チーム八中」というキーワードが学校教育目標の改定につながった。また、地域は生徒を知る、生徒は地域に学ぶ良い機会となった。
・昨年度から課題となっていた交通マナーについては、学校運営協議会から地域への働きかけてもらうことで、地域全体で中学生のマナー向上を実現していく流れができつつある。
・コロナ禍のため例年通りの取組とはいかなかったが、多くの代替活動を実現することができ、生徒の学びを深めることにつながった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域の方には、学校を支援しているという立場から、学校運営協議会と同様に、ともに学校をつくるという参画意識を持っていただくことが、さらに活動を充実させていくためには必要である。スクールボランティアからスクールサポーターへと名称を変更する等、今後工夫していきたい。
・被服実習支援では、学区の小学校のボランティアさんにも協力していただいた。今後、学区の各小学校と連携し、小学校のボランティアさんにも中学校へ足を運んでいただくことで、ボランティア登録者数のさらなる増加や小中連携の充実につなげていきたい。



【　芸術鑑賞　】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・ホームページにて随時活動について公開しています。
右の２次元コードからご覧ください。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

開巻有益　～心ときめく図書館の充実を目指して～

近江八幡市	活動名　：　八幡東地域学校協働本部	八幡東中学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

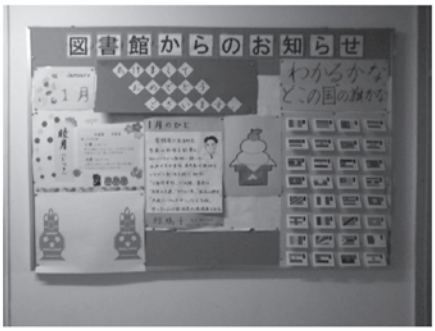
■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校司書、地域コーディネーターとの連携した活動。
○行事や学習内容に合わせた特設コーナーの設置。
○季節や時期に応じた図書館内、図書館前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫。
○ＰＴＡによる学級文庫の蔵書充実のための支援・協力。
○図書ボランティアによる書架整理、学級文庫書架の製作。
○近江八幡市教育大綱の目標にある「読書環境の充実」をめざす。
○家庭科の実習支援



【　図書ボランティアによる掲示板　】

■　実施に当たっての工夫

○本年度、地域ボランティアの方々に授業支援に参加していただいた。来年度以降も継続できるよう、まずは実習の授業がある教科で授業内容の検討をした。
○学校行事や授業での学習内容を把握し、教員、学校司書、地域学校協働活動推進員、ボランティアが連携し、特設コーナーを設置するなどして生徒の興味や関心に応じた図書館運営を行う。
○生徒が主体となって図書館運営をするために、生徒会図書委員会や放送委員会などと連携し、ボランティアだけの取組にならないように配慮する。
○季節や時期に応じた図書室内、図書室前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫をする。

■　事業の成果

○図書館の雰囲気の向上により、生徒会図書委員会の活動が活発になり、開館日の当番活動や、本の紹介文（ＰＯＰ）の製作など様々な活動を精力的に行うようになった。
○ボランティア任せにならないよう、協働の視点を大切にすることで、教職員、生徒、地域の方に自分たちの学校という意識が芽生えているように感じる。
○図書館の充実に特に力を入れており、継続的に取り組むことで、生徒の図書館利用者が増えており、落ち着いた学校づくりに結びついている。
○地域の方に指導いただくことで、普段とは異なる雰囲気の中、集中して取り組むことができ、より深い学びにつながった。



【　家庭科授業支援　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○図書ボランティアと教職員だけの取組ではなく、本事業として地域コーディネーターを配置されたことと、市から週２回学校司書を配置されたことにより、より組織的に図書館運営が行えるようになった。しかしまだ定着とまでは至っていないため、事業の継続を望む。
○授業支援は現時点で家庭科のみであるが、今後は体育科などの実技教科でも実施したい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

※開巻有益…読書はためになるということ。読書を奨励する語。「開巻」は書物を開く意。転じて読書。「有益」は役に立つこと。「八幡東中学校図書だより」のタイトル。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域とともに子供を育てる地域学校協働本部事業

近江八幡市	活動名 ： 八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

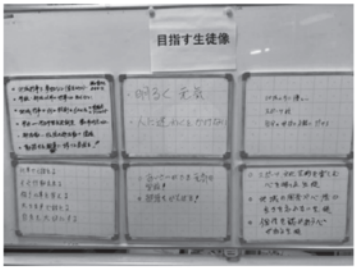
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

２度目となる学校運営協議会において、「八幡西中学校の目指す生徒像」というテーマで熟議を行った。まず協議会委員６名がそれぞれの立場から「生徒像、学校像」をホワイトボードに列記し、それを掲示することで交流を行った。興味深い意見が多く、その後の委員の間での意見交流は盛り上がりを見せた。



【　熟　議　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「地域花いっぱい運動」の予算を活用し、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、コミュニティセンターや子どもセンターなどの施設へ届けることを行っている。

・本校は地域行事への生徒の参加を積極的に推進している。今年度は中止となったが、学区運動会の開催日の部活動は原則中止としている。また、学校を通じて募集された生徒が役員として運営に携わることも毎年行っている。

・地域学校協働活動推進員の働きかけ等で、学生ボランティアを積極的に登用することができた。今年度は地元の大学生３名が登録し、毎週大学の空き時間を利用して参加している。内容としては教員の職務や生徒の学習活動のサポート、質問教室への参加、部活動への参加がある。

・キャリア教育（２年）において、地域学校協働活動推進員の働きかけにより、講師を招聘して生徒との交流を行い、学びを深めることができた。



【 花いっぱい運動 ひまわり贈呈式 】

・部活動において、ソフトテニスをはじめ数多くの部において、地域の方々からの支援を受けて活動する様子が見られた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・今年度はコロナ禍への対応に特化した活動は行っていないが、職場の環境（机、収納棚の配置、整理整頓等）について推進員と積極的に改善に努めた。結果として換気等の面で職員室や特別教室の環境が良くなった。

■　事業の成果

・保護者や地域の学校への関心が高まり、理解と協力が増え、学校としての評価が高まった。

・今年度は学区民の運動会が中止となかったが、様々な機会をとらえて生徒が地元で活躍する場を作っていただいている地域の方々（自治会、まちづくり協議会）には学校として心から感謝したい。すべての生徒、というわけにはいかないが地域に帰って「認めてもらう」機会を持つ生徒が今後も増え続けるよう、学校から働きかけていきたい。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校の教育活動に関心を寄せておられる方は、他の校区と比較しても多数存在する。しかしその存在をスピード感をもって活用するには、「登録」等の手段で、常に連絡を取れる状態にしておくことが必要である。

・生徒が地域で、または地域の方が学校で安心して活動するためにはやはり「保障」の問題もしっかり確認しておく必要がある。様々な制度が用いられているが、今後はよりよい環境になるよう内容を精査していきたい。

・この事業において、教職員が地域に出向いて活動することは当然必要となる。より活動の質を高めるためには、その時間帯は平日の昼間ではなく、勤務時間外の平日夜間、または休日である。振替等を用いて多くの教職員が地域とかかわれる時間を生み出すことが今後の課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・推進員が学校運営協議会の委員としても活動しているので、積極的に橋渡しを行っていただく。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

ふるさとに愛着と誇りを　～地域の人材を活用したふるさと学習の推進～

近江八幡市	活動名：安土中学校地域学校協働本部	安土中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：50 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ○ 学校の運営方針について
- ○ ふるさと学習の推進について
- ○ 制服について
- ○ コロナ禍における学校協働本部事業の推進について
- ○ 生徒の学校生活等の様子について
- ○ 校内研究を含めた生徒の学力向上について
- ○ 通学路について



【　ヨシ灯り展出品に向けた制作活動　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）地域との協働活動・環境ボランティア

環境ボランティアと中学校ＰＴＡが協働で、中庭の植え込みの剪定等の環境整備を行った。また、環境ボランティアと環境委員の生徒が協働でアジサイの剪定を一緒に行う予定でしたが、コロナ等の事情で一緒にはできなかった。

しかし、環境ボランティアの方々が一定期間に個々で来て実施くださった。生徒会環境委員は、安土学区少年補導委員と学校のアプローチ道にパンジーの苗を植える環境整備を行った。

（２）総合的な学習の時間「ふるさと学習」・地域への発信

地域を知るため、地域ボランティアを依頼して「安土城趾」「観音寺城趾」をめぐって、フィールドワークを行う。西の湖のヨシの学習において、地域の専門的な方に講演を行ってもらった。さらに地域行事のヨシ灯り展に作品を出展する取組で、ヨシ灯り作品の制作に長けた地域の方々に来ていただき指導を受けながら、一緒に作り上げ作品の出展を行った。３年生が１年時から取り組んできた観音寺城プロジェクトで、地域の観光ボランティアと一緒になり、観光客に向けた地域観光の活性化となる活動を行った。



【　読み聞かせボランティアの活動　】

（３）読み聞かせ、図書館ボランティア

地域の読み聞かせボランティアに朝の会で読み聞かせをしてもらう。また、民生児童委員を中心とした図書館ボランティアとして昼休みの図書室の開館をお願いし、毎日図書室を開館するとともに、地域の方と中学生が接する機会とする。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ○ 学校と地域のニーズを結びつけることを地域学校協働活動推進員と連携して考え、具体化するようにしている。
- ○ 学校の教育課程に「ふるさと教育」として年間計画に位置づけて取組を行ってきた。

■　事業の成果

- ○ 地域の方に得意分野を活かした活動内容（環境整備や図書館ボランティア等）で参画してもらい、教育活動が深まった。
- ○ 中学生の活動を地域に発信・紹介することで、地域から評価を受け、活動の場が広がってきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ○ 地域ボランティアのスタッフを充実させるように図る。
- ○ 地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討するしていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

- ○ 学校づくりに関して、生徒代表者数名と学校運営協議会委員との間で意見交流会を実施
- ○ 安土中学校 HP　https://www.fureai-cloud.jp/azuchi-jh

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

好きです、ふるさと志津。私も参加、つくるよろこび　（志津小学校）

草津市	活動名 ： 志津小地域協働合校	志津小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務３人）　ボランティア登録数：200 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
○第２回学校運営協議会で、今年度の地域協働合校の取組について熟議した。「地域に根ざすために、どんな学校にしていきたいか」など、めざす子どもの姿や課題とビジョンを共有し、その課題解決の方策やアイデア出しを行った。熟議を通して、教育活動の充実や学校・家庭・地域の課題解決に取り組み、地域ぐるみで子どもを育てていこうとする機運を高めることができた。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）４年総合的な学習の時間「志津の森林からのおくりもの」～地域課題解決型学習～
志津学区にある森林や、学区内にある大型公園(ロクハ公園)に生息する鳥や生き物等について、地域人材と共に、調べる学習を行った。志津学区の自然環境を守るために、様々な努力をされていることに気付き、志津学区の自然を守り育てるために、これから自分たちができることについて考え、提案した。
（２）全校「けん玉活動」～学びによるまちづくり～
本校は、学校運営協議会と連携して、「けん玉活動」を特色とした学校づくりに取り組んでいる。「けん玉活動」を通して、集中力や自己肯定感を高めている。学校での学びを志津学区のまちづくりに活かそうと、志津まちづくり協議会が毎月１回「けん玉広場」を開催し、参加児童と共に技術の向上だけでなく、地域の世代間交流にも寄与している。「けん玉活動」が子ども・学校・地域に効果的なつながりをもたらしている。
（３）「志津環境ボランティア」の結成　～学校周辺環境整備～
本年度８月より、地域有志の方々が 15 名程度集まり、学校運営協議会と連携して、「志津環境ボランティア」を結成された。自然豊かで、市の環境保護林に囲まれた本校の敷地は、落ち葉や枯れ枝などが多く、環境の整備に苦慮していた。その課題を解決するため、毎月１回本校の学校周辺の環境整備を行っていただいている。


【　志津の森林からのおくりもの　】


【　志津環境ボランティア　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○コロナ禍における対応として、緊急事態宣言中など感染レベルが高い時期には、活動を自粛したり、実施を延期したりするなどして開催方法を工夫した。リモートや動画による学習にするなどして、密になることを避けた。
○活動後には、子どもたちが書いたお礼状や感想文、成果物などを講師や地域ボランティアの方々にお渡しして、今後も支援や交流が持続していけるようにしている。

■　事業の成果
○子どもにとって、多様な人との関わりの中で、社会性やコミュニケーション能力が育まれている。まだ十分にはできていないが、地域の課題に対して提案や発信をすることで、志津学区への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が芽生えてきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○『地域ボランティアルームの整備』
学校と地域援ボランティアとの連絡・調整も密に行え、学校のニーズに合った協働活動の効果的な実施につながることを期待して、校内に「地域ボランティアルーム」を整備していきたい。現実問題として、児童数増加で教室数が不足しているため難しい課題ではある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○地域の強みを生かした持続可能な取組を吟味し、実践を積み重ねることが重要である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各学年主任　）

報告書記入者　（　地域連携担当教員　）

地域の方と一緒に、学び育つ南っこ！！　（志津南小学校）

草津市	活動名　：　志津南小学校地域学校協働本部	志津南小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：125 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
・各学期の学校（児童）の様子
・ＳＯＳプロジェクトについて
・各学期の地域協働合校の取り組みについての紹介や協力依頼
・学校と地域との連携について意見交流

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）「芝桜プロジェクト」（５年生）
志津南環境ボランティアの方々を中心に、昨年度４年生の時に教えていただいて植え付けを行った「芝桜」が更に育つように、今年度は追い土、追い肥を行った。追い土や追い肥の必要性も教えていただきながら、活動を行った。


【　地域の方と追い土、追い肥　】

（２）「シトラスリボン」の作成活動（ハート委員会）
「志津南アンサングパワー」の方々に御協力いただき、シトラスリボンの製作を行った。コロナ過における取組の一つとして、児童が調べる中で、「より知りたい、リボンを作りたい」という児童の思いを実現する取組となった。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
地域コーディネーターや担当していただく地域の方々と、事前の打合せを実施した。打合せの際には、感染予防を意識し、マスクの着用や手指の消毒の徹底、そして活動の際にも、同様の内容の徹底を大人も子どもも行った。


【　シトラスリボン製作　】

■　事業の成果
昨年度教えていただいたことに加えて、大きく成長させて美しく花を咲かせるために必要な事を、理科の学習で学んだことの実体験として取り組めたことは児童のよい経験となった。
シトラスリボン製作では、シトラスリボンの取り組みの意味を詳しく教えていただき、リボンの製作まで行ったことで、活動の充実につながった。学んだことを全校の児童に伝えたいという気持ちも生まれた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域の方の「児童のために、学校のために、自分たちの活動のために…」、学校の「児童のために、地域の方々とともに…」というお互いの思いや意図をしっかりと話し合いの中で確認して実践することが大切である。
今後は、そのような事をしっかりと話し合い確認して、お互いにとって有意義な活動にしていくことが大切である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
年に４回、学校運営協議会において、地域協働合校の事業計画や実施状況を報告している。そこで出された意見や助言等を参考に次の活動に生かしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

ふれあい　学び合い　心をひびかせる　草津っ子　（草津小学校）

草津市	活動名　：　草津小学校地域協働合校	草津小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：120 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○なでしこガーデンの整備について

○草津未来プロジェクトの実施について

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「なでしこの花を育てよう」

「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、子どもたちにより愛着を感じさせながら愛校心を育てる活動を実施している。総合的な学習の時間等を活用し、環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、なでしこの苗を植え、水やりや草引き作業等、日々世話をし、育てている。



【　第１学年　サツマイモ収穫　】

（２）「水のめぐみ“米づくり”（５年）」「花を育てよう（３年）」

「サツマイモ作り（１年）」

第５学年の総合的な学習の時間では、敷地内の学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで、環境ボランティアが児童一人ひとりに丁寧な指導をしており、草ひきなどの世話も児童と共に実施している。サツマイモづくりや花の植え替えも実施しており、例年だと、収穫後に「お米パーティー」や「サツマイモパーティー」を開催し、収穫したお米やサツマイモをともにいただきながら交流を深めている。今年度は、会食等の活動ができないため、学んだことの発表会に参加していただいたり、収穫した作物を持ち帰っていただいたりした。参加された地域の方々も児童の姿に感動され、交流の場を楽しみにされている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○昨年度に引き続き、密を避けるために、学年ではなく学級単位での活動を基本にし、他者との距離をとることを意識して行った。マスクの着用、事前事後の手洗い消毒の指導も徹底した。

○事前のミーティングでは、ボランティアの想いや活動の工夫などを伺い、活動学年の担任や関わる児童に伝えることで、学校とボランティアがともに活動をつくっていけるように心がけた。事後のミーティングでは、活動の良かった点や改善点を確認することで、次回も見据え、継続的な取組になるように話し合った。

○活動中だけでなく、活動後にもボランティアの方が「来てよかった、続けていきたい」と考えていただける活動を目指した。

○児童との交流がその時限りになるのではなく、感謝の気持ちを感想文やお礼状として渡すことで、ボランティアの方々のやりがいにつながるように取り組んだ。

■　事業の成果

○何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多いので、活動の流れや学校の様子をよく知っていただいていることから、スムーズに活動を行うことができている。

○継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。

○関わりが深まることで、児童は、収穫の喜びとともに「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校環境の整備など活動を問わず、共に考える場をさらに設け、学校の各職員に伝えることで、よりよい関係を目指したい。

○ボランティアの方が熱心に、児童一人ひとりに丁寧な指導をしていただいているおかげで、学習は予定通りに進んでいるが、一方で、「児童が試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指す必要性も感じている。そのためにも、学習のねらいや役割分担について、ボランティアと学校が十分に共通理解を行うようにした。

○ボランティアの方々の高齢化が目立ちはじめてきたこともあり、ＰＴＡや地域の方々への参加協力を得られるよう学校から地域へ発信していきたい。

○コロナ禍ということもあり、児童活動について制限するものがあった。見学や資料提示等で補った。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○例年、年３回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（地域コーディネーター）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！　（草津第二小学校）

草津市	活動名　：　草津第二小地域学校協働合校	草津第二小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：103 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　■その他（草津駅前商店街・草津川跡地公園（de 愛ひろば））

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

地域と学校で連携しながら取り組み、子どもたちに地域社会とのつながりや、自分たちができることなどを考えていく機会にする。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【２年生　町たんけん】

草津第二小学校区は、駅前で今でこそ多くのマンションが立ち並んでいるが、駅前の商店街や街道の歴史が残る街並みである。

２年生では、生活科の学習で自分たちが住んでいる町について知る学習を行っている。１学期は「とびだせ町のたんけんたい」として、校区を２コースに分かれて歩き、行く途中の様子や、それぞれの場所について関心を持つことができた。２学期は、「もっと知りたいたんけんたい」として、もっと知りたい場所を決め４つのコースに分かれて探検した。それぞれのコースに３、４か所の施設やお店があり、それぞれで詳しく話を聞くことができた。自分たちが事前に聞きたかったことを質問して神社、町づくりセンター、草津駅、de 愛ひろば、各お店の方々に答えてもらうなど、自分たちの町で生活する人々や働く人々と交流して学習を深めた。学習のまとめとして、「町のすてきをみつけたい」という学習を通してグループごとに発見したことをペープサート、○×クイズなどで他のグループに伝える方法を考えた。発表会当日は、出題する側とお客さん側とに役割を交代しながら学年全体で取り組んだ。自分が行ったことのない場所についても楽しみながら知ることができ、関心を持つことができた。



【　もっと知りたいたんけんたい　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

なるべく少人数で行動できるように時間帯やコース数を工夫した。２学期の探検では、児童が行きたいところに行き、知りたいことを聞けるように多くの施設や、場所を選択できるようにした。密をさけるため、自分がもっとも知りたい場所を選んだ子どもたちのみがその施設やお店などに入って説明を聞いた。少人数のため説明していただく方とやりとりをしながら集中して話が聞ける良さがみられた。また、インタビューの時間が長引かないように、予め選択した質問を１人１つすることができた。「町のひみつをみつけたい」では、４つの教室で発表ブースを複数作り、それぞれに工夫された発表を少人数で聞くことができた。



【　まちのひみつをみつけたい　】

■　事業の成果

地域のいろいろな場所や施設に関心を持って探検することで、自分たちが住んでいる町の自然や人々、公共物などに興味を持つことができた。町で生活している人たちや、働いている人たちの生活や場所を知ることで自分との関わりに気づき、親しみを持つことができた。また、自分たちが発見したことや気づいたことを、いろいろな方法で発表することができ、その場所を直接探検できなかった友だちに伝えることができた。学習後、探検したお店に行くと、インタビューしたお店の方から声をかけてもらうなどの交流がみられた。子どもたちが地域の人々とのつながりをより深める機会になった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域協働合校コーディネーターから各場所の担当者に連絡を取り、学習への協力の有無を確認した。コロナ禍ではあったが、快く引き受けてくださるところがほとんどだった。その後の連絡などは担当学年で行った。連絡先が多く打ち合わせなどの連絡も多かったので、地域コーディネーターとの役割分担の工夫を考え（今年度初の取り組みのため）、今後、調整がよりスムーズにできるようにしていく必要がある。地域協働合校のいろいろな取り組みを通して、子どもたちに地域社会との関わりや、自分ができることなどを考える機会にしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

各学年、児童が体験し、感じ、考えて学ぶ機会を大切にしている。活動内容は、学校運営協議会や、学校ホームページや学年・学校だよりなどで保護者に知らせている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各学年担当　）

報告書記入者（　地域連携当教職員　）

いいな　いいな　ともに学んでふれ合うまち　渋川　（渋川小学校）

草津市	活動名　：渋川小学校地域学校協働本部	渋川小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：250 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

学校運営協議会では、地域の方に学習の様子を紹介している。また、地域の中で学習の内容に合った人材がいらっしゃるかという相談をしている。１月の渋川ＥＳＤミュージアムは、地域の方にも見に来ていただけるよう発信をしている。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。全校の学びの成果を展示物にまとめ、交流、発信。

○「渋川Ｅ（いいまち）Ｓ（しぶかわ）Ｄ（だいすき）ミュージアム」を開催し、保護者や地域の人々に発信している。

○５年生では、「滋賀の郷土料理学習」を核に滋賀の５つの食文化財を中心に郷土料理の魅力について考えた。学習では、琵琶湖の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食して味わった。また、日野町から和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。作った丁稚羊羹はパッキングしてもらい、家に持ち帰って家族に学んだことや魅力を伝えた上で、家族と共に味わった。さらに、地域の人々に発信するために、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。

○６年生では、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」について学び、滋賀の農業・水産業を中心に学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を知ることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。また、琵琶湖真珠の歴史や養殖の技術について学び、さらに修学旅行で三重県の海の真珠の養殖業について学びを深めた。

近江茶学習では、近江茶の歴史や産地の特徴について学び、ほうじ茶づくりを体験し、味わうことができた。学習のまとめでは、滋賀の魅力や農業・水産業の価値を地域の人々に発信するために、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。



【　琵琶湖の漁師さんと湖魚　】



【　琵琶湖真珠のお話　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

味わうことで、味覚に残り、記憶に残る。このことを大事に体験を積み重ねてきた。コロナ禍では、みんなで調理をする活動に制限があったことから、子ども達による調理実習は控え、ゲストの講師が調理実演を行い、子どもたちが少量を味見できるようにした。また、下学年の栽培活動でも、ゲストの調理がどうしてもかなわない時は、レシピと栽培した野菜を持ち帰った。

■　事業の成果

本報告では、２事例であるが、すべての学年が地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもの実態や学習の内容に合わせて工夫の余地がある。めあてをしっかり設定して見通しをもって取り組みたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域の先生に学び、地域に誇りを持てる子に！　（矢倉小学校）

草津市	活動名　：　矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　■その他（ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクト）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○学校行事に、地域の協力があることは、喜ばしいことである。コロナ禍においても児童と地域の方との交流があることは、今後の児童の健全な育成にとって必要である。



【　田植えオリエンテーション】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○米の一生について学ぼう（田植え　５年生）

５年生の「田んぼの学校」の事業と連携し、地域の方の田を借用して米の一生について学んだ。昨年はコロナ禍のため田植えができなかったが、今年は感染防止に気をつけて行うことができた。

ほとんどの子どもたちは田んぼに入る経験は初めてで、真剣な様子で稲の苗を植えることができ、貴重な体験ができた。

○稲刈り・収穫の喜び（稲刈り　５年生）

９月に緊急事態宣言が出たため、稲刈り体験を行うことができなかった。その代わりに地域協働合校コーディネーターや学校ボランティアが借用田に出向き、地域の方々と一緒に稲刈りをしたり、稲刈りの様子をビデオにおさめたりした。

児童は、５月の田植えの体験から９月の稲刈りまでの経過を知ることで、米の一生や米を大切にすることを学習した。また、地域の方々に感謝の気持ちを伝えた。



【　田植え体験　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○田植えについては、感染症対策を行った上で、１クラスずつ時間をずらしマスクを着用して行った。また、クラスをグループ分けするなどして密を避けた。事前にオリエンテーションを行い、苗を植えるときの注意を確認した。

○稲刈りについては、稲刈りの体験はできなかったが、地域協働合校コーディネーターが稲刈りの様子をプレゼンテーションソフトにまとめ、後日、児童に見せた。実際の稲わらを学校に持ち帰り、稲刈りの時の様子を分かりやすく説明した。

■　事業の成果

○コロナ禍で予定通りの実施とはならなかったが、できる限りの感染防止策を講じて学びの場を保障することができた。児童は、自分たちが植えた苗から米ができることを学習し、米が収穫できるまでの苦労や収穫できることの喜びを感じ取ることができた。

○コロナ感染防止を念頭に置き、地域協働合校コーディネーターを中心に、実施方法等を学年担任とで打ち合わせをした。学校ボランティアの方々とも連携して実施できた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○コロナ禍や熱中症の予防をしながら、どのように充実した体験活動が仕組めるのか、今後も成果と課題を出し合い、考えていく必要がある。

○ボランティアの方々の高齢化が進み、活動の存続が危ぶまれている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○学校運営協議会に、まちづくり協議会会長や、地域コーディネーターにも参画していただいている。会議の中で、地域協働合校の取り組みについても紹介し、よりよい活動になるよう、助言などをいただいている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（各学年の教員）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

手をつなぎ、心通わす　誘・融（融け合う）老上　（老上小学校）

草津市	活動名　：老上小学校地域協働合校	老上小学校　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：170 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○本校が行っている老上ふれあい農業合校との連携による農業・自然体験をこのまま実施していく。

○課題解決型地域協働合校に向けて、定期的な情報交換の場を設け、地域と学校の連携をより取っていけるようにしていく。



【　田植え　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○米や野菜の栽培・収穫

「老上ふれあい農業合校」と学校が連携・協働して、子どもたちの農業体験・自然体験を行っている。米や野菜を作る楽しさ、収穫の喜びを知り、食材に感謝の気持ちが持てるようにめあてを設定し、学習している。地域住民と協働する姿から世代間の交流も図られている。学校では、学習のみの関わりにとどめず、地域に戻った時にも声をかけあえる関係ができ、地域の活性化にもつながっている。

○地域の人に学ぶ

３年生が「地域の人に学ぶ」取組を行った。南笠方面へまち探検に出かけ、地域の方のご指導のもと、まちの歴史や様子について今まで知らなかったことをたくさん学んだ。



【　さつまいもほり　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○実施にあたっては、地域コーディネーターや各学年の担当が連絡調整を行いプログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいなども意識することで学校と地域の取組がつながるようにしている。また、農業合校の畑には行事予定や年間の作業を掲示するホワイトボードが設置されており、いつでも地域住民が確認できるようになっている。

○新型コロナウイルス感染症対策として、収穫した作物で一緒に調理したり、食したりする活動はできなかったが、家庭へ持ち帰り、家族間で話題を共有しながら味わうことができた。

■　事業の成果

○学校運営協議会において、学校と地域のそれぞれが求めていること、できることを互いに意見交換する場が必要とされ、意見交換会を実施することができた。

○推進委員は世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、家庭内で地域の話が話題にのぼるなど、家庭教育的な役割も果たしている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○取り組みを充実させるため、入念な打ち合わせや準備が必要となる。今後も継続して取り組みを図っていくためにも、学校・地域双方の負担を軽減していくことが必要である。また地域の方の高齢化も進んでいるため、新規の推進委員・ボランティアの確保も必要なことである。地域や保護者への発信や円滑な情報の共有のためにも地域コーディネーターの果たす役割がより必要不可欠となっている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○学校ホームページ　http://www.oikami-p.skc.ed.jp

○定期的な会合を行うことで、情報の共有化・協働を図っている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

やってみよう！2021　～地域とともに協同（協働）する学校～　（老上西小学校）

草津市	活動名：老上西小学校地域学校協働本部	老上西小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　）

■学校運営協議会で熟議された内容

〇地域協働合校の活動方針や実施した内容について

〇登下校の見守り活動（高齢化への対応）について

〇家庭教育についての保護者への啓発の必要性について



【　２年生　大根の収穫　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験活動

１年生のさつまいも、２年生の大根、５年生の米などの作物を、農業合校やサポーターの方の協力を得ながら栽培した。栽培中は、適宜様子を観察し、成長を見守った。

収穫した作物は、家に持ち帰り、収穫の喜びを感じることができた。



【　６年生　ナップザックを作ろう　】

（２）学習支援

５・６年生の家庭科の学習で、裁縫や調理実習の支援をしていただいた。

支援のサポーターは、各学級の学習日程ごとに募集し、参加いただける範囲で協力いただいた。

４人程度のグループに１人程のサポーターについていただいたおかげで、安全に配慮しながら、きめ細かい支援を行うことができ、子どもたちは、充実感を得ることができた。

（３）読書活動の推進

図書ボランティアの方には、本の貸し出しや整理、掲示物の作成など、子どもたちが本に親しめる環境づくりに貢献いただいている。

毎週火曜日には、低学年を中心に、朝の学習の時間を使って読み聞かせをしていただいた。子どもたちは、読み聞かせを大変楽しみにしていて、読み聞かせをきっかけとして読書の幅を広げることができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇年度当初に「サポーター活動年間計画」を作成、配布し、保護者や地域の方に１年間の見通しを持てるようにしている。

〇サポーターのみなさんには、検温や消毒をお願いし、感染症対策を徹底した。

■　事業の成果

〇地域コーディネーターを中心として、地域や保護者との連携を密にすることで、子どもたちの体験的で主体的な学習を安全に実施することができた。

〇感染症対策の点から昨年度は実施できなかった地域探検なども、サポーターの支援を得て実施することができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇健康管理や衛生環境の維持などの感染症対策を実施しながらできそうな活動が定着しつつある。

〇サポーターとして来ていただいている方が、固定化してきているので、新しく来ていただく方を増やすために、活動の周知や発信を積極的に行っていきたい。

■　その他

〇学校ホームページ　http://www.oikaminishi-p.skc-edu.jp/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

すきです玉川　わたしも参加　つくるよろこび　（玉川小学校）

草津市	活動名 ： 玉川小学校地域協働合校	玉川小学校　学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：15 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他（　　）

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

例年通りに固執せず、学校・子ども・地域の実態に即した新たな取組を協議会で提案し、実現に向けて具体的な計画の立案を諮ってきた。また、継続的に実施してきた活動についても、児童がより主体的・発展的に取り組めるよう、内容の検討を行った。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（萩の植樹祭～玉川学区地域探検）

玉川小学校がある野路は、平安末期より「萩の玉川」と称されるほどの美しい水辺と、その周辺を彩る萩で有名な景勝地であり、校名の由来にもなっている。

その後、時の経過とともに水辺は枯渇し、萩もそのほとんどが消失してしまったため、近年、地域の方々が昔の景観を取り戻すための活動に取り組まれている。その一環として、地域の方より、学校敷地内に萩を定植することを提案いただき、４年生（卒業時に開花予定）の児童とともに「萩の植樹祭」を行うこととなった。植樹を行うにあたり、事前に「萩の玉川」の歴史や意味等について学び、植樹する理由や、地域の方の思い・願いにふれることを大切にした。植樹当日は、用意していただいた萩の幼木を一人１本ずつ植え、学級ごとに水やり当番を決め、その後も丁寧に世話を行っている。



【　地域の方と萩の植樹祭を開催　】

植樹を終えた４年生はその後、社会科で「地域学習」を行った。学習では、地域の数か所に設置されている玉川学区・地域を紹介する看板を導入教材に用いた。自治会長の講話から、看板には、「地域の良さや名所・歴史を知り、大切にしてほしい」という思いが込められていることを学び、現地に赴き調査したいという学習意欲が高まった。それを機に、グループごとに学区・地域でのフィールドワークを行い、その調査結果をまとめたファイルを、地域へ寄贈することとなった。



【　自治会長より地域の名所等を学ぶ　】

一連の活動を通して、子どもたちは自分たちの住む玉川学区・地域への愛着を持ち、改めて地域や地域の方々への感謝の念を抱くとともに、自分たちが地域のために貢献する活動へと発展することができた。そんな姿を地域の方々も喜んでいただき、子どもや学校へのさらなる支援・協力へとつながっていく好循環が生まれた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

従来、学年単位で行っていた活動を、三密を避けるために、できる限り学級ごとに分けて実施するように変更した。少人数での活動となるため、指導効果や、活動への集中力の高まりが見られ、感染防止とは別の効果も生まれた。また、学級単位での活動への変更に伴い、活動の総時間が長くなることを受け、活動内容の精選、方法の修正を行い、短時間でも教育効果の高い在り方について、改めて考えるきっかけとなり、「例年通り」からの脱却につながった。

■　事業の成果

地域の方々との活動や学びについては、これまでも充実した活動計画を行ってきたが、「受け身」的な活動がほとんどで、児童の主体的・発展的な活動は見られなかった。しかし、「萩の植樹祭」のような「地域に貢献・還元」する活動に発展できたことは大きな成果と考えている。現在実施している地域協働合校に係る活動についても、発展的な活動へと昇華できるよう見直していきたい。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

玉川学区は、地域人材に恵まれ、多彩で充実した地域との連携活動を実施できる強みがある。しかしながら、活動に携わる方の多くが高齢であり、今後、現在の活動を継続していくための引継ぎ方法や、組織的な関わりについて、早急に検討していく必要がある。

また、先述のように、「受け身」的になっている現在の活動を抜本的に見直し、総合的な学習の時間との関連を意識した単元計画を新たに作成することの必要性を強く感じており、学校全体で取り組むことを考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

毎回、地域協働合校の活動報告を行うとともに、委員からの指導・助言を受け、活動計画の立案・修正等を行っており、学校運営協議会との協働・連携を重視している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

素敵な出会い　みんなで創るまち　南笠東　～つながろう～　（南笠東小学校）

草津市	活動名　：　南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：100 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容

「みな小おうえんたい」の活動の様子の写真などを、「学校だより」に掲載したり、まちづくりセンターに掲示したりすることで、「みな小おうえんたい」についてより多くの方に知っていただけるようにする。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

みな小おうえんたい＜学習支援＞

＊おみせやさん【１年生】：国語科「ものの名まえ」の学習で、１年生がお店屋さんになって用意した品物を、地域の方がお客さんとなって買ってくださった。言葉のやりとりを通して、地域の方との交流を深めることができた。お金も使って算数科の学習の要素も取り入れることができた。

＊九九を聞いてもらおう【２年生】：一度にたくさんの方に聞いていただけたことで、一人が何度も挑戦することができた。また、回数を重ねることで力が定着した。地域の方の名前を覚え、次に来てくださる日を心待ちにし、聞いてもらうことを励みにがんばって覚えようとする姿も見られた。

＊くぎうちトントン【３年生】・糸のこぎりを使って【５年生】：困ったときに聞ける方がいてくださることで、安心して活動に取り組め、また、よりこだわって作りたい作品を仕上げることができた。

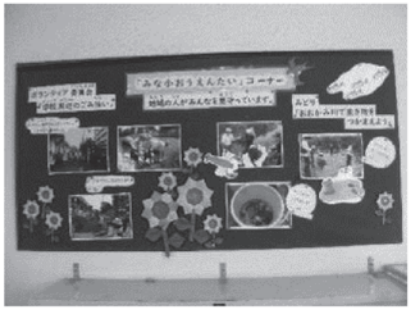


【　おみせやさん　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・外での活動（さつまいも【１年生】、まちたんけん【２年生】、狼川たんけん【３年生】など）を中心に、昨年はできなかったことも、健康観察や手指の消毒などの感染症対策を講じて実施した。また、上記の活動や、「たんぽぽさん」の読み聞かせなど、いろいろな中での活動も、マスク着用や換気をし、体育館やワークスペースなど広い場所を利用することや、学年単位ではなく学級単位で行うなど、密にならないように工夫しながら行った。

・校内の掲示板にコーナーを設け、月ごとに活動を紹介した。折り紙は、地域の高齢者クラブの方々が折ってくださったものである。



【　校内の掲示板　】

■　事業の成果

・子どもたちと関わることに喜びを感じてくださり、ボランティアとして登録してくださる方がさらに増えた。共に活動することで、子どもたちも地域の人々に親しみを感じることができつつある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・コロナ禍ではあるが、共に活動することの意義は大きい。対策をしながら、より充実した活動になるよう話し合いながら進めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営協議会に、地域コーディネーターやまちづくりセンターの職員も参画していただいている。

・HP にて、活動を紹介している。　http://www.minamigasa-p.skc.ed.jp/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

出会い・ふれあい・学び合い　～みんなで育てる山田の子～　（山田小学校）

草津市	活動名　：　山田小学校地域協働合校	山田小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度（地域協働合校事業は平成 10 年度）　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■学校運営協議会で熟議された内容

・山田校区ならではの特色ある取り組みを継続して行っていく。
・地域との関わりを深めるとともに、新たな人材の発掘を行っていく。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）ニゴロブナ稚魚の放流【４年生】

山田漁業共同組合の皆さんの協力のもと、琵琶湖にニゴロブナを放流する活動を続けている。この活動を琵琶湖の環境を考えるきっかけとし、５年生の琵琶湖環境学習につなげていく。



【　ニゴロブナ稚魚の放流　】

（２）室戸台風殉難慰霊式

本校では、今から 87 年前の室戸台風で大勢の被害者が出た。例年、地域の方々にも参加していただき、被害にあわれた方の記録をもとに話を聞き、亡くなられた方々を追悼するため、全校で持ち寄った花を献花している。また、歌い継がれた「学友の霊に捧げる歌」を歌い自然の偉大さについて考えさせるきっかけとしている。

今年度は、コロナ感染拡大防止のため、代表児童のみ体育館に集まり、他の児童については、教室からのリモートでの参加とした。



【　室戸台風殉難慰霊式（リモート）　】

（３）その他

読書サークル「トトロ」の皆さんによる読み聞かせ、地域の農家の方々からネギやアスパラガスについての講話等。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地域との窓口を担任から、地域コーディネーターに移行していくことで、スムーズに調整が進み、より有意義な活動になるようにしている。
・今年度も、コロナ禍の対応として、全校児童で集まることは避け、リモートでの実施とした。また、学年を集める場合は、一人ひとりの間隔が開けられる体育館を使用するとともに、換気と手の消毒等を実施した。

■　事業の成果

・校内の掲示板に『地域協働合校コーナー』を設け、それぞれの学年の取組について紹介することで、多くの子ども達が掲示板を見るようになった。また、「〇年になったらこんなことができる！」「こんな場所、今まで知らなかったし、行ってみたい。」と自分達が住む地域への関心も高い。
・歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあり、様々な体験ができる環境にあるため、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。アンケート等でも「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・昨年度に続き、コロナ禍において、高齢の方を学校に招いたり、行事に参加してもらったりすることが大変難しい状況であった。次年度についても、感染状況等をもとに十分に検討しながら進めていきたい。

■　その他

・学校運営協議会に地域コーディネーターと担当教諭も参画し、連絡調整を年間３回実施。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

夢と笑顔いっぱい　生き生き学ぶ　笠縫の子　（笠縫小学校）

草津市	活動名　：　笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：７人（兼務７人）　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・学校経営に関する基本的な方針…学校目標の達成のため、協力して取り組んでいく。
・学校組織や今年度の取組　…中止でなく、方法を工夫して実施していく。
・新型コロナ感染防止について　…徹底した取組によって、クラスター発生を防ぐ取組を継続していく。
・学校評価について　…自尊感情が低いことがすべての結果にも通じているのではないか。
・ボランティアについて　…学校がどんなボランティアを必要としているかの集約が必要。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培活動

３年生の総合的な学習の時間で、地域の伝統産業である青花紙用の青花を栽培する最後のお一人である「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世話の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染める体験もすることができ、地域の産業について理解を深めることができた。また、中庭の「ふれあい花壇」では、環境美化委員会の児童がボランティアの協力を得ながら、季節の花の栽培活動をすることができた。



【　青花紙づくり体験　】

（２）地域の人から学ぶ

６年生の総合的な学習の時間では、学区の「ふるさと絵」から、伝統の「サンヤレ踊り」や「上笠天満宮」などに関心を持ち、フィールドワークで取材を行ったり、ゲストティーチャーを迎えて話をうかがったりしたうえで、自分たちでも調べ活動を行って地域について理解を深めることができた。特別支援学級の子どもたちは、学区の民生委員児童委員さんと製作活動を通して交流を行った。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要な物を準備していただいたりと、積極的に関わっていただいた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・学校運営協議会の開催方法について、集合による会議だけでなく、資料を配布して意見を回収する方法により、集合を回避した。
・ＰＣを活用したリモート中継を活用し、競技委員が別会場で学習の様子を参観した。
・学習支援などにあたっては、年度や学期の初めに地域コーディネーターと打ち合わせを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持てるようにした。
・ゲストティーチャーによる講話については、リモート中継やタブレットＰＣの録画機能を活用し、対面での実施を回避した。

■　事業の成果

・継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、読書や下校パトロール、授業支援などスムーズに活動できた。
・授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験をしたりでき、子どもたちの学びが深まった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアとの授業前の打ち合わせによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間をとることは難しかった。地域コーディネーターやボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように記録の方法を工夫していくことが必要である。
・継続してボランティアに協力してくださる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。年間計画を見直す過程で、併せて必要となるボランティアについて整理していきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

ふるさとの「いのち」とふれ合う東っ子　（笠縫東小学校）

草津市	活動名 ： 笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校　学校運営協議会：■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動すべてに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：100 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援〇図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア〇体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容

〇本校独自の活動（葉山川を基点とする学習や「東っ子句会」）を大事にして継続させ、支援していきたいとのこと。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇「町のすてきをみつけよう」　（２年生　生活科）

２年生の生活科「町のすてきをみつけよう」の学習では、自分たちが住む町にある場所やお店、そこで働く人について知ることを通して、ふるさとを大切にし誇りに思う気持ちを育むことをねらいとしている。しかし、この学習を進めるためには、地域に出向き、店舗等の方々と直接出会って話をすることが不可欠である。そこで、コロナ禍の中におけるこの学習の進め方を考えてみた。

１学期は、学区を２つの方面に分け、町を歩いた。２学期は、その際に見つけた場所や店舗を中心に、自分が興味をもったところについて、さらに調べていくという学習を設定した。



【　まちのケーキ屋さん　】

そのために、指導者（担任）が学習に適した８つの場所・店舗を選び、現地へ出向いて店舗の様子や働く人の生の声をビデオで撮影し、「チームス」を使ったオンライン形式で子どもたちに見せた。子どもたちはもっと知りたいと感じたところを選び、それに応じてグループを作り、働く人への質問を考え、質問動画や手紙を書いて相手に送った。それに対する先方からの返事（手紙）によって、分からなかったことが解決し、みんなに知らせたいことを新聞やクイズなどにまとめ、グループごとに発表をし合って、自分たちの「町のすてき」を伝え合う学習をすることができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇例年は実際に各店舗や場所に行き、店内を見学してその場で質問のやりとりをしたが、３密を避けるため、紹介ビデオや手紙のやりとりによって、従来の学習をした。

〇質問の回答をもとに、個々で新聞を作成したり、グループごとにクイズや紙芝居を作ったりするなど発表形式を工夫することができた。



【　まちのすてきの発表会　】

■　事業の成果

〇昨年度は全くできなかった町で働く人のことを知る学習に取り組み、直接出会うことは難しいが、手紙や動画という手段を用い相手意識をもって学習に取り組むことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇昨年度から続くコロナ禍において、従来通りの活動ができず活動規模を縮小せざるを得ないものがあった。しかし、地域とのつながりを継続してもっておくことで、コロナ禍が明けたとき、実際に見学したり対面で話を聞いたりする活動を再開することがスムーズにできるのではないかと感じた。また、オンライン等を活用した新しい形の学習を模索することもできた。

■　その他

〇学年ごとに地域の学習ボランティアと取り組む環境学習（「葉山川学習」）を実施している。

〇「東っ子句会」には、地域の方々が積極的に優秀句への投票に来てくださり、地域を巻き込むイベントとして定着してきた。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長　■教頭　■地域連携担当教員　■その他（　該当学年教員　）

報告書記入者（　　地域連携担当教員　　）

ふるさと常盤から豊かな生き方を学ぼう　（常盤小学校）

草津市	活動名　：　常盤小学校地域協働合校	常盤小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：300 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○講師の先生の紹介や、地域に関わる学習の協力体制など困っていることを相談すれば、解決に向かう手立てについて助言を受けた。また、学習ボランティア等の組織や体制について示唆を得る。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

✤「さつまいもを育てよう」（１年生）

地域の方から、さつまいもの苗の植え方を教えていただいたり、収穫の際には子どもたちが掘りやすいように伸びた苗を切るなど準備をしていただいたりして、さつまいもをたくさん収穫することができた。グランドで地域の方が用意してくださったドラム缶で、自分たちが育てたさつまいもを焼いて一緒にやきいもパーティーをした。子どもたちは「こんな美味しいやきいも食べたことがない!!」と喜んでいた。



【　やきいもパーティー　】

✤「もっと知りたいたんけんたい」（２年生）

子どもたちが２つのグループに分かれ、地域のお店や公共の施設に訪れ、話を聞いたり、子どもの質問に答えてもらったりした。普段何気なく店前を通っていても、どんな仕事をしているのか、どんな思いで働いておられるのか知らない子どもたちも多く、あらためて「常盤の秘密」をみつけ、もう一つのチームに紹介している姿が見られた。



【　まちづくりセンターにて】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○必ずマスクを着用し、密にならないように、できるだけ室内ではなく、室外で活動した。また、体育館やわくわくルームなどの広い部屋を利用し、換気を忘れず、子ども同士の間隔をあけて学習できるように工夫した。できるだけ時間を短縮するため、事前に質問内容を相手に伝え、要点を絞って話していただけるようにした。校外へ出かける際には、消毒液を持参し、手指消毒もまめにおこなった。

■　事業の成果

○常盤の町を探検し、地域の方からいろいろな話を伺ったり、共に活動したりすることを通して、自分たちが住む「常盤」のよさを見つけることができた。どの学年の子どもたちも地域や地域の人々に親しみを感じ、自分のふるさとに誇りをもつことができつつある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○昨年度に引き続き、今年度もコロナの影響で、保護者や地域の方と共にする活動が減り、非常に残念である。どのように復活していくかが課題である。これを機に参加をやめてしまう方や、ボランティアの高齢化も進み、活動の存続が危ぶまれるものもある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○毎回、学校運営協議会で進捗状況を報告して、各委員から相談、助言等を得ている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　該当学年教員　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

～地域と学校がともに子どもを育てる「おらが学校」をめざして～栗中サポーターズクラブ

栗東市	活動名：栗東中学校地域学校協働本部	栗東中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 19 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：33 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　■その他（サポーターズクラブのボランティア：サポーター）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

安全で落ち着いた学習環境の支援

・環境整備支援…自習コーナーの本棚つくり、更衣場所設営のためのカーテン設置支援、校内グラウンドや中庭などの草刈支援
・学校行事支援…三者懇談会期間中下校時の立番、駐輪場見守り支援、家庭部浴衣着付け教室支援
・図書室支援　…整頓、清掃と消毒支援
・学習環境支援…玄関前生け花支援　地域の方からいただいたタオルで雑巾作り支援
・学校の通信を地域の役員にも配布、広く学校の活動や地域の方の支援をお伝えした。



【　近隣ゴミ拾い清掃支援　】

豊かなこころの醸成

・栗中コミュニティガーデンで季節の野菜作り支援
　聾話学校高等部が育てた野菜と栗中産野菜の合同スクール農園野菜販売
　民生委員とサポーターさんにご支援いただき、地域の方に広く来校いただき本校で販売。
　聾話学校、地域との交流も深めることができた。
・家庭訪問期間中部活動生徒と学校近隣のゴミ拾い清掃「生活向上部活隊」支援
　コロナ過で回数が減ったが、例年２回部活動参加生徒全員を対象として活動しており、
　近隣の方からも「ありがとう」の声をかけてもらうことがあり活動が定着してきている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・近隣ゴミ拾い清掃「生活向上部活隊」は、本来全部活動参加者で５日間にわたり実施しているが、参加部活数や日数を縮小しリスク回避をした。
・本来、生徒と一緒に活動をすることが多いが、持病や高齢のサポーターも多く今年度についても、サポーターのみの活動に限定することが多かった。

■　事業の成果

・コロナ禍によりＰＴＡ環境整備（２回実施予定）がすべてなくなり、サポーターが年間を通して、かなりの頻度、機械で草を刈ってくださり本当に助かった。花壇や畑を耕す際、耕運機を借りて耕してくださるので学校の負担が減った。
・トレーニングルームにカーテンが吊れるようにしてくださり生徒増による更衣場所の確保ができた。
・野菜作り、収穫、販売を通して聾話学校の方たち、両保護者、地域の方などの交流の輪が広がった。収益で生徒達が読む本を購入することができ生徒に還元できた。
・サポーター、コミセンの方、生涯学習課の方に年間を通してご支援いただき、通信で報告、地域の方から幅広く関心と御協力をいただくことができている。



【 聾話学校高等部と合同スクール農園
野菜販売会　地域の方と一緒に　】

・三者懇談会期間中の下校見守りで、校内から道路に出るとき一旦停止、左右確認の声掛け、徹底ができ、きめ細かな支援ができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・サポーターとしてこられている方は地域の役職も兼ねておられる方も多く、視野が広く素晴らしい知恵と技量を備えておられる。生徒達への対応も優しく、受容的な態度で接してくださる。地域とのつながりなども含め、なくてはならない活動であるが、一方で立ち上げから 14 年が過ぎ、高齢化が進み、力仕事が年々難しくなってきたこと、車で来ていただくことにも配慮が必要な場合があることにより、次の世代の方へつなぐことが必要になっている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校協議会のメンバーとしても学校に参画してくださり、しっかり連携できている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（ 生徒指導主事 ）

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

★ 心豊かでたくましい実践力のある中主っ子 ★　つながる・ひろがる・かがやく!

野洲市	活動名 ： 中主小学校地域学校協働本部	中主小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和２年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：52 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習支援

・生活科や社会科、総合的な学習の時間の学習支援
（中主のすてき発見学習、福祉学習ゲスト、田植え稲刈り体験学習支援等）
・環境学習支援（ヨシの苗植え、びわ湖への植え替え支援等）
・学習補充における支援（算数のびっこタイム）
・読み語りボランティアによる読み聞かせ

（２）環境整備

・教室の消毒作業、校内の除草作業や樹木の伐採等
・読書ボランティアによる読書環境づくり
（掲示物、本の整頓や修繕、しおりづくり支援等）

（３）見守り活動

・登下校の見守り　・愛の声かけ運動



【　中主のすてき発見 干し柿づくり　】



【　地域の方と一緒にどろんこ田植え　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

（１）感染拡大防止のため、例年実施の活動の見直し
（近距離で行うミシンや手縫い、調理実習等の家庭科学習支援は今年度見送り）
（２）感染対策を十分考えた上で実施する活動
（距離感や換気、マスク着用を徹底して、地域の方を招く学習等）
（３）コロナ禍だからこそ協力依頼をして実施した活動
（放課後の教室や廊下手すり消毒作業等）

■　事業の成果

・学校の教職員だけでは満たせない「専門的な立場での関わり」や「たくさんの目できめ細やかにみること」、「安心安全面でのサポート」等により、児童の学習の充実とともに、不安感を減らし安心して学校生活が送れる環境づくりを支えていただけた。
・地域ボランティアの方との触れ合いにより、その人柄にも触れ、温かい繋がりができた。
・消毒作業等のサポートにより、教職員の負担軽減に繋がった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・年度初と年度末に、地域協働活動推進員と学校主担当、学年主任が簡単な打合せを実施し、主旨の確認、年間の活動の見通し、振返りからの次年度への引継ぎ確認をしておくようにし、有効活用ができるようにする。
・優しく丁寧に関わってくださっている地域の方々への感謝の気持ちを常にもち、表現できる児童の育成を図っていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・合同学校評議員会や次年度から始まるコミュニティ・スクールの場で、今後さらに、地域と学校でどのような子どもを育てていくのか、そのために双方どのような動きができそうかについて、具体的な話合いを進めていく必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

しのっこの豊かな心を育てるための活動～応援から協働へ～

野洲市	活動名：篠原小学校地域学校協働本部	篠原小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：登録なし

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇読書推進活動

・毎週木曜日の朝読書の時間にあわせて読み聞かせを実施した。週ごとに学年をローテーションしていき、すべての学年での読み聞かせを実施した。

・定期的に図書室の環境整備作業を実施した。子どもたちが本に親しみが持てるようにレイアウトや分類番号の整理を行った。

・各学年の年間の学習内容を聞き取り、時期に合わせて関連する本を配置した。

〇環境整備活動

・ＰＴＡや地域の方々と連携をとりながら校庭の整備、除草等を実施することができた。

・マラソン大会前に、学校周辺コースの草刈りを実施した。



【　環境整備活動　】

〇広報活動

・保護者、地域を対象に広報誌「つなぐ」を発行し、広く活動の紹介ができた。



【　読書推進活動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・コロナ禍において、多くの人数が集まっての会議が出来なかったため、少人数での話し合いを活動ごとに行った。

・会長・校長・コーディネーターによる三者懇談会を開き、今後の活動について話し合った。

・ボランティアさんとの連絡ノートを作成し、連絡調整に活用した。

■　事業の成果

・読書推進活動で、子どもたちの読書に対する意識を高めることができた。

・広報誌や学校ホームページを活用して、地域学校協働本部の活動を地域や保護者の方々に広めることができた。

・少人数での会議を開催することで課題やビジョンがたくさん出たり、本質的な部分の話し合いができたりした。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校は地域からたくさんの応援を受けているが、受け身の姿勢になってしまっている。子どもたちが活動内容を考え、主体的に取り組めるよう、今後は子どもたちの意見も取り入れていく。また、学校から地域へと取組を広げていけるように環境面も整えていく。

・地域行事と学校教育活動を改めて整理し、地域と連携を取りながら本校に合った活動スタイルの構築を目指す。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営協議会の設置に向けて、現在の地域学校協働本部（学校応援団）の活動を、学校運営協議会の取組と連動していけるよう準備を進めている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員　）

おらが学校　地域の学校　地域を担う祇王小学校の子どもたちとともに

野洲市	活動名：祇王小学校地域学校協働本部	祇王小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：54 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員等　□行　政
□その他（　）



【　５年田植え体験　】

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・学校運営協議会はまだ設置していないが、学校の課題となっている不登校傾向児童の対応等の具体的事案から活動できる運営委員を選出していく予定である。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・クラブ活動

毎月のクラブ活動に、地域で活動されているグラウンドゴルフ愛好家の方々に来ていただき、ルールやゲームの進め方、戦略や技術指導をしていただいている。各グループに一人ずつついていただいているので、児童もわからないことや尋ねたいことがあるとすぐに聞くことができる。児童と地域の方が楽しみながらクラブの時間を過ごすことができている。

・５年米づくり

学習田として田んぼを使わせていただき、田植え及び収穫祭を社会科の学習および総合的な学習の時間の活動として実施。農作業の工夫や思いなどを話していただくとともに田植えの体験学習の指導に当たっていただいた。稲刈りは中止。

・家庭科学習支援

５年生では、初めての裁縫での手縫いとミシン学習で糸の通し方から直線縫いまでを支援していただいている。６年生では、ミシンでの制作を支援していただいている。各グループに一人ずつついていただき、学習がスムーズに進んでいる。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・年度当初にコーディネーターと年間計画を共通理解し、教職員及びまちづくり推進協議会において活動を広く周知している。
・ボランテイアさんにも参加してよかったと思えるやりがいのある活動を心がけている。なぜ、この活動でボランティアが必要なのかの説明を事前にしっかり行った。
・事前のミーティングをやめ、当日に学習のねらいや支援していただく点を説明する形を継続し、コロナ対応とした。
・ボランティアさんには、高齢者も多いことからマスクをはずして行う体育科学習等では支援の依頼を取りやめ、児童も地域の方も安心安全に携われる活動に絞って行うことにした。

■　事業の成果

・コロナ禍ではあったが、できることをできる範囲で行うことで、子どもたちが地域の方々とふれあう機会となり、地域により親しみが持てたとともに、地域のよさを学ぶことができた。
・児童へのきめ細かな指導という点で複数の目と手で当たれるので、担任だけでは不十分になる点の支援で助かっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアさんが高齢の方が多いということから、コロナ対策も含め、継続可能な体制を考えていかなければならないが、新たなメンバーは見つかりにくい状況にある。
・今年度も開催されず参加できなかったが、地域行事への参加をできる範囲で行えるようにしていきたい。
・子どもが主体的に考え活動できるよう、地域学校協働活動推進員もその主旨を理解した人でなければならず、人選が難しい。
・子どもの主体的な活動にするため、支援してあげるという地域の方の考えを変えていかなければいけない。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・来年度のコミュニティ・スクール開設のため、学校運営協議会準備委員会を設定する予定。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　校長　）

「地域を大切に！３ＵＰ（やさしく、かしこく、たくましく）」<三上っ子応援団の取組>

野洲市	活動名：三上小学校地域学校協働本部	三上小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：個人登録 43 人 ＳＧ登録 180 人 同窓会役員登録 12 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（本部内の各団体：同窓会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）天保義民の生き方に学ぶ（６年）

６年生は、総合的な学習の時間で、郷土の偉人「土川平兵衛」や天保義民の生き方について学んでいる。読本「郷土の偉人」などの資料を用いて事前学習を行い、地域ボランティアを講師に招いてフィールドワークを行うなど、深く学んできた。

例年であれば 10 月 15 日に行われる天保義民祭に６年生全員が参列しているが、今年については、新型コロナ感染拡大防止のため参列を取りやめた。

子どもたちは土川平兵衛の生き方や義民の心を学び、日々の生活や将来に生かしている。



【天保義民フィールドワーク】

（２）瓢箪の栽培と作品制作（４年）

５月１２日（水）、学校応援団２名のボランティアの指導で瓢箪苗の植え付けを体験した。苗を植え、その周辺に溝をつくり、その溝に水を流す。その後、水やりや雑草を抜いて成長を見守った。応援団の方は事前の土づくり、苗植え後の見回りや支柱を立てるなどお世話になった。９月には瓢箪を収穫し、穴を空け水につけていただいた。１か月後、１０月１日（金）、腐った種を抜いて乾燥させた。絵付けをし、地域の祭りに出展。この体験で、瓢箪の歴史を学び、育て、地域行事に参加することができた。



【ひょうたんの種抜き作業】

（３）その他、特徴的な活動

①郷土学習（３年）「まち探検」でのフィールドワーク、「ずいき祭り」のお話など
②稲作体験（５年）　③マラソン大会（全校）でコースの各ポイントでの見守り
④左義長体験（６年の組み立て参加と全校での体験）　など

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

①感染状況を踏まえ、例年３～６年生で行っている三上山登山は５・６年生のみとするなど規模の縮小を行った。
②緊急事態宣言下など感染が厳しい状況下での行事や実習は取り止め、時期をずらして実施、または中止した。

■　事業の成果

①学校目標の３ＵＰ（やさしさＵＰ、かしこさＵＰ、たくましさＵＰ）の実現に向け、豊かな地域人材を活用することができた。
②子どもたちは、郷土（三上）の自然や人々、文化のよさや素晴らしさを学ぶことができた。地域に根ざした特色ある学校づくりの推進につながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①学校教育目標の実現をめざして地域・家庭との連携で行う「３ＵＰ運動」を、本事業の柱（テーマ）に位置づけて進める。
②地域学校協働本部のもとに様々な地域の諸団体と連携を図るとともに、学校による企画だけでなく地域等による企画も進めていく中で、子どもが地域行事等に参画する場や機会をつくる。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校応援団の会長やコーディネーター、コミュニティーセンター等と協議し、ＣＳマイスターの助言を受けながら、学校運営協議会の設置に向けた準備をはじめている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　校　長　）

「できる時に・できる範囲で」温かい学校支援を！

野洲市	活動名：野洲小学校地域学校協働本部	野洲小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要

開始年度：令和元年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校からの依頼支援は、コーディネーターが支援ごとに参加サポーターを調整・決定をし、学校の担当者に報告している。

☆各学年校外学習　引率補助

☆５・６年生　家庭科授業指導補助（手縫い・ミシン）

☆３年生：昔のくらし学習支援　４年生：そろばん授業指導補助

☆委員会活動補助



【朝の読み聞かせの様子】

■　実施に当たっての工夫

○学校からの依頼支援のほかに応援団独自の支援をしている。

☆朝の読み聞かせ　…　朝学習の時間に各クラスにおもむき、絵本の読み聞かせを実施

☆図書美化　…　図書室の整備、図書の整理、図書の修理などを実施

☆落ち葉清掃　…　11 月～12 月に校門付近・駐車場周りの落ち葉清掃を実施

☆給食エプロン修理　…　子どもたちが使っている給食エプロンを預かって、ゴム交換やボタン付けなどの修繕作業を実施

○活動の詳細は、「応援団通信」や学校応援団の校内掲示板、学校だより・学校ＨＰでお知らせしている。

■　事業の成果

（１）児童にとって

地域の力が学校へ入ることにより、より豊かな学習効果を得られた。

（２）教員にとって

授業中に支援が必要な児童への支援が充実した。

（３）地域住民にとって

学校や地域の子どもたちが身近に感じられ、学校での活動に生きがいなどを見いだすことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・コロナ禍による感染症拡大予防のため、時期や人数などを制限しながらの実施となった。

・登録されている人数は多いが、活動されているのは一部の人に偏っているので、「学校の役に立ちたい」と思っている人と学校をよりスムーズに結んでいくシステムづくりが必要である。

・「できる時に・できる範囲で」温かい支援をモットーにこれからも取り組む。


【校外学習引率補助の様子】

■　その他

・地域学校協働本部の代表が、学校評議員として学校評議員の会に出席し、様々な意見交流をしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

「夢がふくらむ☆心豊かな☆元気に育つ」わくわくのびのび北野っ子

野洲市	活動名：北野小学校地域学校協働本部	北野小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：72 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　■その他（　学校応援団推進委員会　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

ボランティアが依頼を受けて活動する形態が主流

（１）学習支援（家庭科ミシン縫いや手縫い、生活科昔遊び体験等）

（２）読み聞かせ

（３）環境整備（除草作業や学級園の畑整備等）

（４）見守り活動（校区探検引率、自転車交通安全教室等）

（５）その他（給食エプロンの修理、正面玄関の生け花）



【学校正面玄関には地域の方が活けた花がいつも飾られています　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・ボランティア募集段階での「コロナ対策にかかる協力」を要請。ボランティアに対しては、学校の行う安全対策に賛同、協力してもらえるよう、求められる行動について的確に示し、その上でのボランティア参加であることを丁寧に情報発信した。また、それらの対応を（応援団）広報紙等で保護者と共有している。活動を継続した結果、ボランティアに当該行動様式が定着した。



【毎週水曜日は学級園の整備。この日は２年生生活科で、芋の苗植えの補助もおこないました　】

■　事業の成果

・コロナ禍においても、例年以上の活動を展開した結果、今まで培ってきた地域と児童のつながりが途切れることなく、教育活動に貢献することができた。

・広報紙の発行や保護者へのＰＲなどにより、単独で入会する者が増えつつある。

・「安全対策」の徹底をボランティア現場で体験した保護者は、学校が真摯に取り組む様子を目の当たりにし、信頼を厚くするとともに、家庭でのふるまいへの好影響につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

課題：　授業支援を依頼する場合、学習の流れや目当てなどをボランティアと共有し、教育的効果が向上するように企図する。

　また、登録者の中には様々な資格やスキルを多数有する者や、特色ある地域活動に従事する者がいるため、それらと学習が関連づけられるよう、ボランティアの詳細情報を積極的に教員に提供する。



【畑の空いた場所で巨大かぼちゃを栽培、重さ当てクイズ等の児童向けイベントを毎年開催しています】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営協議会は設置していない。

・学校と学校応援団（地域学校協働活動）との連携のために、年４回程度の会議（推進委員会）を開催する。また、教員と学校応援団（地域学校協働活動）との連携の為に、定期的に学年主任との懇談会を実施している。

・学校応援団の地域アピールのために定期的に行ってきた「学校応援団フェスタ」（祭り）がコロナ禍の為休止している。自主運営のための財源創出策でもあるため、できるだけ早期に安全に開催できる状況を整えたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（教職員は各々が必要に応じて協働する　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進委員　・　教頭　）

地域とともに創る子どもの未来～つながり、広げ、深める地域との歩み～

野洲市	活動名：中主中学校地域学校協働本部	中主中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

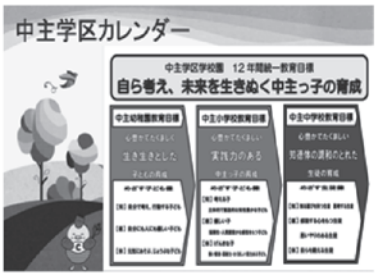
地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：７人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　■その他［ 配食ボランティア、小中合同あいさつ運動 ］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　■その他（社会福祉協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・中主学区カレンダー作成（４月）
・小中合同あいさつ運動（５月、11 月）
・「キラキラ中主タウン」生徒会による地元地域清掃活動（６月）
・スマイルチュッピー弁当づくり、配食ボランティア（６月）
・中学生地域貢献活動（７、８月）
・地域読書ボランティアによる読み聞かせボランティア講座（７月）
　幼稚園児への読み聞かせボランティア活動（８月）
・おにぎり講習会、配食ボランティア（10 月）
・チュッピーフェスティバル（12 月）



【幼小中連携 中主学区カレンダー】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・健康観察、検温、マスク、手洗い、換気、手指消毒等の徹底
・活動後の消毒の徹底
・三密にならないようにソーシャルディスタンスを意識した活動


【幼稚園児への読み聞かせ】

■　事業の成果
　地域学校協働活動をとおして、地域の人たちに教えてもらうことやほめてもらうこと、時には叱られること全てが、生徒の成長の糧となっている。中主学区カレンダーの作成、配布も定着し、幼小中連携の意識が醸成されつつあり、体制づくりも進んでいる。生徒が地域活動へ参加することで、自分たちの住む地域の自然や歴史はもとより、連綿と引き継がれてきた教育に対する期待や思いにふれ、ふるさと中主を愛し、仲間や後輩を大切にする意識の高まりが見られつつある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
①地域学校協働活動の実施にあたって
・教育課程に位置付けた取組、事業の洗い出し、教科との紐づけ
　（社会に開かれた教育課程の実現を図る）
・地域学校協働本部の立ち上げと組織的な活動の実施
・地域学校協働活動推進員と地域コーディネーター（学校）の役割の確認と連携
・幼小中一貫教育に向けた組織体制の整備・構築


【チュッピー弁当、配食ボランティア】

②教職員の意識改革
　地域学校協働活動は、生徒の教育効果のみならず、教員の負担軽減にもつながることをふまえ、教員が地域と積極的につながる意識を持つ必要がある。
③コミュニティ・スクールを意識した推進体制の構築
　持続可能なしくみづくりに向け、地域ボランティア、ＮＰＯ、社会福祉協議会等との連携を図る。
④地域と学校・生徒との熟議
　事業の形骸化、目的化を防ぐため、子どもに付けたい力や事業目的等について「熟議」を行う。その際、大人の意見だけでなく、子どもたちが参加できるようにする。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　本年度、コロナ禍において予定した活動が実施できなかったが、中主学区地域学校協働活動コーディネーター会議を行い、協働活動の進め方や具体的な取組について協議する。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教頭　）

地域とともに学校の活力を創る

野洲市	活動名 ： 野洲中学校地域学校協働本部	野洲中学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和３年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：１人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
コロナ禍のなか、保護者・地域・学校が協力してできる具体的な活動内容。
地域の人材と学校をつなぎ、継続して活動していただけるコーディネーターの確保。


【　除草ボランティア　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
１．校地除草作業：「草刈り隊」
例年、体育祭・文化祭前の校地内環境整備として保護者・地域の方に声をかけ、ボランティア「草刈り隊」を募っている。今年度は感染状況を鑑み、９月実施予定だった除草作業を 11 月に行った。
当日は、教員、保護者、社会体育で学校施設を利用される方を含め 20 名の参加があり、駐車場周辺花壇の草を刈ることができた。
２．地域での文化部の活動紹介：三上悠紀まつりでの美術作品展示
地域のコミュニティーセンターで行われるイベントに、美術部の作品を展示していただいた。
個人作品だけでなく、体育大会で掲示した巨大壁画も展示していただき、地域の方々に中学生の頑張りを知ってもらい、中学校を身近に感じてもらうことができた。
３．図書室の環境整備
10 月より、隔週で、図書室内の環境整備ボランティアに来ていただいている。図書の整理や蔵書のデータベース化など、これまで図書担当の教員だけではできなかったことができるようになってきた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
１．校地内の環境整備には多くの方の協力が必要となるが、感染症拡大防止の観点から、今年度も多数の参加者を募ることを差し控えた。
２．例年、美術部だけでなく吹奏楽部も近隣の高齢者施設等に出向いて演奏を行っていたが、高齢者施設を訪れることはリスクが高いため行っていない。感染状況が落ち着いている期間に、ショッピングモールでの演奏を行うことはできた。

■　事業の成果
１．保護者や地域の方に花壇の除草作業をしていただいたのち、委員会の活動としても、定期的に花壇の除草作業に取り組むことになった。保護者・地域の方の活動を生徒会活動と連携させていくことで、生徒の自主性を育むことにもつながった。
２．文化部に所属する生徒の活動発表の場が増え、活動意欲の向上につながっている。しばらく地域に出向くことができない状況が続くと思われるが、中学生の頑張りを見ていただくことは、地域の活性化にもつながっていくのではないかと考える。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
１．最大の課題は、協力いただける方々の確保である。感染状況が落ち着けば、保護者・地域に広く呼び掛けてボランティアを募ることができると考える。さらに、地域学校協働本部コーディネーターに適した人材の確保も大きな課題である。現在はＰＴＡ会長にコーディネーター役を依頼しているが、学校と地域が「協働」し、継続した活動を続けていくためには、長いスパンで関わっていただける人材が必要となってくる。
２．事業の充実をはかるため、生徒の活動の様子を学校ＨＰや通信等で広報し、本校の教育活動に対する地域の方々の理解を深めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校長　■教頭　□地域連携担当教職員　■その他（　ＰＴＡ担当・教務主任　）

報告書記入者（　　教頭　　）

地域と学校を学ぶ学校応援団の取組

野洲市	活動名：野洲北中学校地域学校協働本部	野洲北中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：０人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・外部指導者による部活動指導
・図書館ボランティアによる平日昼休みの図書室運営
・教職員と推進委員でのグランド等校舎周辺の環境整備活動

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・今年度については、コロナ禍、生徒・保護者の参加をやめ、教職員と推進員での活動とした。



【　図書ボランティア　】

■　事業の成果

・部活動では外部指導者のおかげで、生徒たちが専門性の高い指導を受けることができ、顧問にとっても学ぶところが多かった。
・大規模改修のため環境が様々に変化する中、図書ボランティアさんのおかげで、生徒が安心して読書できる環境づくりに向けた準備ができた。
・環境整備活動について、今年度は教職員と推進員のみで行い、限られた人員のなかで整備する範囲を限定して実施することができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度はコロナの影響で学校と地域の連携が希薄になりがちではあったが、今後、できることは何かを検討しながら、活動のねらいを明確にして、更に拡充したり新たな協動をつくり出したりしていけるかが課題である。
・学校運営の効率化を図りつつ、学校と地域が協働できることを整理し、地域連携担当教員がスムーズに活動できる環境づくりを行う。また、地域と協働するための人材の確保も図り、連携を進めていきたい。
さらに、生徒が地域で活動するための受け皿づくりもすすめ、学校の中だけではなく、地域での協働活動も新しくつくり出していきたい。



【　部活動支援　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教頭　）

「自分の命は自分で守る」自ら判断し行動できる子を育てよう

湖南市	活動名 ： 石部小地域学校協働本部	石部小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：150 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

本校は、「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標において、学校と地域と家庭が協働し、活動を展開している。今年度は、通学路における危険箇所を再度調査し、子どもたち自身が通学路の危険箇所を知り、災害時に適切な回避行動を取ることができるような活動を協議した。
また、『通学路安全マップ』の見直しを図り、作成した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【学校運営協議会の「校外活動支援委員会」の活動】
・通学路での停止線付近に『とまってシート』を設置した。
・石部小オリジナルキャラクターを使い、校内に掲示するポスター作りを計画。
・用水路危険の看板（ピクトグラム）を作成し、設置を予定している。
【学校の活動】
・教職員が夏休みに担当の地区の危険箇所を確認した。
・通学分団会では、地域に合わせた指導を行っている。
・学校運営協議会の活動を児童に周知。
【ＰＴＡの活動】
・朝の危険箇所の立ち番、下校時に合わせた巡回活動。
・横断歩道等に設置したボックスや横断旗の点検。



【　安全マップ作成中の様子　】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・学校運営協議会、教職員、ＰＴＡ、それぞれが通学路の危険箇所を確認し、『通学路安全マップ』に集約した。
・用水路の危険箇所に設置する看板を子どもたちにもわかりやすいピクトグラムにした。

■ 事業の成果

・学校運営協議会、学校、ＰＴＡが同じ安全マップで石部小学校区の危険箇所を確認することにより、共通理解を図っている。
・用水路の危険箇所の看板をピクトグラムにしたことにより、教職員からどの子にもわかりやすい危険の知らせ方であり、伝わりやすく、指導しやすいとの声をいただいた。



【ピクトグラムを教室で紹介】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校運営協議会、学校、ＰＴＡが作り上げた２度目の『通学路安全マップ』を作成した。今後は、子どもたちがこの安全マップを参考にし、自分たちで危険ヶ所を確認し、マップ作りに取り組んでくれることを目標としたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

わたしたちの裏山を整備しよう！　階段作りにチャレンジ！

湖南市	活動名　：石部南小学校区地域学校協働本部	石部南小学校	学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：175 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

「子どもと地域がひびきあう」をキャッチフレーズとし、「ふるさと意識の醸成」「子どもたちの自主性の育成」の取りくみとして、４年生が「ふれあい夢の森」を中心に森林環境学習を行った。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

６月１４日　間伐事前学習
６月２５日　間伐体験・木の皮むき
１１月２９日　裏山整備作業①（階段作り）
１２月２０日　裏山整備作業②（水路の整備）
１月１７日　看板設置作業

森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」の皆さんに協力いただいて作業を行った。



【　階段整備作業の様子　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

４年生は「ふれあい夢の森」を中心に森林環境学習を行うため、例年７月に間伐体験を行い、11 月には間伐した木材を使った木工教室を行ってきた。

今年度は、コミュニティ・スクールのめざす「子どもたちの自主性の育成」の一環として、本校の子どもたちが楽しく遊べて安全な裏山にするためにはどうしたらよいかを子どもたちが自ら考え、話し合った。

裏山の崩れている階段を整備することが決まり、間伐した木材を使って 12 段の階段作りを行った。

■　事業の成果

・地域の方に階段の作り方を教えていただき、子どもたちが見つけた壊れた階段を撤去しグループごとに２段分ずつ作ることが出来た。
・裏山道案内の為の案内看板も４枚製作することが出来た。
・当初の木工教室内容以外に、作業の終わった子どもは折れている木や丸太を自ら見つけ、運びだし、裏山清掃活動を自主的に行う姿が多くみられた。
・一人では持てない大きな木を運ぶために、友だちと協力しお互いに手伝う姿がみられた。
・１回目の作業をしながら、貯水池が土砂に埋まっているため、裏山入り口付近がぬかるむことに気づき、水路を整備することを提案し、予定外の２回目で土砂を取り除き、水路づくりも行った。



【　貯水池に埋まった土を掘り土嚢に入れる様子　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

裏山の良さを感じながら、自分たちの裏山を大切にしていく為に、継続的に裏山環境整備活動の取り組みを行いたい。

作業には危険な道具を使用したりするため、事前に学年の先生との打ち合わせや地域の方との打ち合わせを入念に行う必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働推進員　）

こころゆたかに育て！みくもっ子　　～地域のあたたかいまなざしに見守られ～

湖南市	活動名：みくもっ子地域学校協働本部	三雲小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：３人　ボランティア登録数：290 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
・「らくらく勉強会」（各地区における放課後の学習支援）の立ち上げ

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・登下校の安全確保【各地区スクールガード】
【通学ボランティア】登下校の同行、見守り
・教育環境の整備　【環境ボランティア】花壇植栽、草刈り、修繕等
【掃除ボランティア】掃除方法の指導、支援
【図書ボランティア】図書室の整理整頓、見守り、お話会等
【昼休みの見守り】　折り紙教室など
・学習、行事の支援【家庭科：ミシン】
【持久走大会：危険個所の立番】
【クラブ活動の講師】今年度より４つのクラブ活動において
地域の方に講師を依頼　（→写真参照）



【　ダンスクラブの指導　】



【　掃除ボランティアの活動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・緊急事態宣言の期間中、屋内のボランティア活動は休止し、屋外の草刈りや花壇植栽等の活動に限定した。宣言が解除された後は、通常通りに復帰。

■　事業の成果
・上記に挙げたようなボランティア活動が長期にわたり継続しているので、活動は児童・職員に親しみを持って浸透している。また、小学校で関わりを持ったボランティアが、引き続き中学校でも活動しているので、子どもに寄り添う９か年の見守りが出来ている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域と学校の双方向の活動となるよう、ボランティア代表者会や懇親会等の機会を持ち、両者の願いをすくう。
・熱心な活動が、子どもの育ちに対して過干渉にならないよう、助言を要することがある。
・活動の発信にさいして個人情報を守ること、ＳＮＳ への掲載を控えてもらうよう、各人に依頼している。
・紙面によるメンバー募集に頼らず、地域のなかで主旨に理解のある人材につながるよう心掛けている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・これまでの地域学校協働活動の実績を資源として、中学校区を単位にするコミュニティ・スクールが立ち上がった。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働推進員　）

～なりたい自分になるための地域サポート～

湖南市	活動名 ： 三雲東小地域学校協働本部	三雲東小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 1 人）　ボランティア登録数：130 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・今年度より、甲西中学校区の３校（甲西中学校・三雲小学校・三雲東小学校）でコミュニティ・スクールを立ち上げた。
・３校の強みを生かした運営協議会を有効に活用し、地域の子どもたちを義務教育の９カ年を通して支援し、見守っていける取組の工夫や人材の発掘、各種団体とのコラボ、連携による充実した活動の継続が可能な地域を目指す。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

４年生「将来の仕事について考えよう」　ゲストティーチャー

・すし職人　・映像制作　・ＷＥＢ・ＨＰ作成　・ドッグトレーナー
・コンビニ　・大工



【　映像制作　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・マスク着用、消毒、換気、広い教室の利用
・一度に来ていただくのではなく、個別に日時を設定した授業を設定
・児童からの質問を先にゲストティーチャーのみなさんへ渡す。
・話してほしい内容やタイムスケジュールなどの詳細打ち合わせ。
・ゲストティーチャーからの質問や相談、確認などの応対、担任との橋渡し。
・訓練犬同行のため、犬アレルギーのチェック。

■　事業の成果

・コロナ禍で大人数の校外学習のできる場所にも制限がある中、学校に来てお話していただけることが学校側にはとても画期的で有り難いことだった。
・事前に児童からの質問表を渡すことで話の内容、分かりやすく伝えるための工夫をしていただくことができた。また、複数回参加いただいている方も、回数を重ねる毎に、より工夫してくださっている。
・該当学年の保護者からもゲストティーチャーへの参加があった。
・参加いただいたゲストティーチャーさんへ、児童からお話を聞いて心に残ったことや感想を綴ったお礼の手紙を渡している。ゲストティーチャーのみなさんが仕事をするうえで大事にしている思いは、児童の心にも響いており、手紙を読んだみなさんから、機会があればまたお手伝いしたいという言葉をいただいた。
・担任からの要望もあり、今年度はゲストティーチャーの新規開拓に力を入れた。外部の方の授業は、学校に新鮮な風が吹いたようで、児童、担任を含む小学校にとって、いつもと少し違って刺激のある時間になった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・活動の様子は広報で発信している。運営協議会とも協働して、子どもたちと根気よく付き合ってくださる大人、子どもたちと新しく接点を持って活動してくださる大人の発掘など、さらなるアイデアを出し合って活動を展開し、地域連携を進めていきたい。



【　すし職人　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・様々な活動について３校の情報交換の場でもある。
・夏に協働した事業を予定していたが、コロナ禍で今年度は中止になった。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

持続可能な取組のために　～コロナ禍における活動の工夫と課題の共有～

湖南市	活動名：岩根小学校 地域学校協働本部 （ 根っこ応援団 ）	岩根小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数：220 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■クラブ活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［ 夏休み中の就労体験学習 ］

■　事業を考案する主体

■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　■その他（まちづくり協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校は今年度、コミュニティ・スクールとなって 15 年目を迎えた。感染症に対する安心安全対策を取りながらではあるが、長年大切にされてきたキーワードをもとにふるさと学習を今年も全学年が取り組んだ。特徴的な取組として、３年生及び６年生のふるさと学習を紹介する。

○３年生ふるさと学習・・・地域の方とともに単元構成や指導案を考え、教材作りを行った。植物や鉱石、遺跡などをよく知る地元の知識人がゲストティーチャーとなり、五感で学ぶふるさと学習を行った。

○６年生ふるさと学習・・・ホタルまつりを開催し、６年間のふるさと学習の成果を全校児童に発信した。

■　実施に当たっての工夫

コロナ禍のためやむなくを得ない内容もあったが、地域の方と事前打ち合わせを念入りに行い、感染予防対策を打った上で、可能な限り体験活動を行った。野外での活動を充実させることで、密にならないよう工夫した。

ホタルまつりでは、全学年が一斉に集うのではなく、発表会場を６つに分け、参加児童を交代制にし、どの児童も安心して学習に浸れるように工夫した。

なお、ふるさと学習に関わった地域の方の参観は、感染予防対策により、最小限にしなければならなかった。



【３年生ふるさと学習】

■　事業の成果

○３年生ふるさと学習・・・事前学習で、ふるさとで見られる植物や鉱石を観察し、自然の豊かさを知ることができた。ふるさと探訪では、地元の知識人を発掘し、その方から専門的な話を聞くことで、子どもの学ぶ意欲がわき、ふるさとの豊かさや地域の方の願いに気づくことができた。

○６年生ふるさと学習・・・６年間にわたって学習してきたことをパネルにまとめ、それをクイズや劇にして発表することができた。また、下学年はその発表を通して、ふるさと岩根の良さに気づき、自分たちの手で守りたいという思いが芽生えている。学習後、「地域とともにいつまでもホタルが飛び交うふるさとにしたい」という声が多く聞かれた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

コロナ禍においては、今までの事業をそのまま行うことはできず、見直しをせざるを得なかった。しかし、これを機会にどんな状況下でも持続可能なコミュニティ・スクールのあり方について見直すことができた。

また、子どもを取り巻く家庭環境は、コロナ禍でさらに厳しいものとなっている。本地域の今の課題を再度洗い出し、課題解決するための熟議を行った。今年度、課題の洗い出しと今のＣＳにできることについて何度も話し合えたことは、結成 15 年目としてよい機会となった。今後は、学校関係者評価を担っていただいている地域の方とも課題を共有し、今後の方向性を明確にしていきたい。



【６年生ふるさと学習】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者

■校長　■教頭　■地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　校長　）

子どもたちとともに活動し、子どもたちに共感してつながる「菩っこを育てる会」

湖南市	活動名：菩提寺小学校地域学校協働本部（菩っこを育てる会）	菩提寺小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：3 人（兼務 2 人）　ボランティア登録数：200 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○ボランティアへの連絡手段タウンメールの終了に伴い、新メール配信手続きの手配について。

○ボランティア・家庭教育支援の拠点となる「菩っこはうす」の老朽化のため改善方法を検討。



【　きらめき遠足の様子　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①　恒例の全校きらめき遠足（学校⇔希望ヶ丘文化公園）を実施するにあたり、同行・危険個所の見守りボランティアを募った。

②　校内持久走大会のチェックポイントの見守りのほかに、今年度は、新たに校内で収穫した大根を販売する活動に取り組んだ。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

①全校きらめき遠足

○全校児童を 16 班（たてわり）に分け、各班教師以外に同行ボランティア（1～2 名）をつけ、児童の行き帰りの安全や活動中の見守りをしてもらった。

○目的地までの道中の危険個所に立っていただき、児童の安全を見守ってもらった。

○検温・マスク着用は必須、手はつながず間隔をあけ歩いてもらった。

②校内持久走大会及び大根販売

○畑の先生（地域ボランティア）に指導していただき、児童が育てた大根。上手に育った大根を保護者に販売してみようと企画し、児童が収穫、販売促進用の旗を制作。当日は、地域ボランティアが販売。学校と地域が一緒になって活動できた。

○持久走大会中は、走行コース数か所にボランティアが立ち、児童を見守りながら観覧の保護者たち（入れ替え）の対応にもあたってくれた。



【　大根販売用旗　児童制作　】

■　事業の成果

①移動中や現地での活動時間も、児童を見守り寄り添っていただき、安全かつ安心して活動することができた。行き帰りも危険個所に立って児童を見守り励ましの声掛けをしていただき、くじけず最後まで歩くことができた。

②走行コースに立っていただき、走行中の児童の見守りや保護者の移動の誘導など、事業がスムーズに進むことができた。

大根販売に関しては、学校・地域・家庭の協力のもと 400～500 本ほどの大根がほとんど残ることなく購入いただき、思った以上の成果があった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

事業を実施する際にボランティアを募るのだが、今年度は、事前に市のタウンメールに登録いただき、募集のたびに一斉送信を行った。参加の有無の返信が可能なため参加人数の把握がスムーズになった。ただ、全員のボランティアが登録しているわけではないので、やはり文書等での募集作業も必要としている。今後は、できるだけボランティアみなさんに登録していただけるよう努めたいと考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

コロナ禍でも地域と学校を結ぶあすなろ応援団活動～ボランティアの取組～

湖南市	活動名：菩提寺北小学校地域学校協働本部（あすなろ応援団活動）	菩提寺北小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人　ボランティア登録数 80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［　あすなろカーニバル・防災キャンプ主催　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　■その他（あすなろボランティア）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

＊昨年同様にコロナ禍であり、毎年主催していた「あすなろカーニバル」「防災キャンプ」などは今年度も中止とした。２年続いて中止となり、今後ウィズコロナで開催する際、「あすなろカーニバル」「防災キャンプ」の開催意義・趣旨を壊すことなく安全に開催するため体制や企画内容を再考する必要があり、しっかり時間をかけて話し合いが進んでいるところである。主に今年度は、運動会・音楽集会(広野物語)などの今後の持ち方についての熟議が行われた。これに関しては現在も熟議中である。また来年度からの２学期制の導入と朝学習タイムでの重点科目の学習時間の確保が、スムーズに現行より移行できるように熟議がおこなわれた。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

＊家庭科の学習支援活動　（授業とクラブ活動）

５年生のミシン授業、家庭科クラブ支援などにおいて、「あすなろちくちくボランティア」「地域の赤十字奉仕団」の方々が活動してくれている。

＊図書ボランティア（お話ベアー）

朝の読み聞かせを中止していた時、代わりに低学年・中学年・高学年に分けて、いろいろな分野のお話のＤＶＤをたくさん制作した。ボランティア同士で意見を出し合いながら試行錯誤していいものができた。

給食時は、私語禁止なのでＤＶＤを放送してもらい、黙食の助けになった。



【　５年生のミシン授業の様子　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

昨年度に引き続き、コロナ禍での活動となり、校舎内にボランティアがなるべく立ち入らないようにして、校舎とは別に学校敷地内にある、あすなろハウス　（ボランティアの拠点の家）　での活動を主にした。

学習支援などで、子どもたちと直接関わる場合は、マスク着用・手洗い・手指の消毒・検温などを徹底し、ボランティアには各自の体調管理に気を配ってもらった。今年度は「クリスマスのお話し会」を校舎内の視聴覚教室で映像を映しながら行ったが、子どもたちとは距離をおいて実施した。久しぶりに生の子どもたちの反応に触れられボランティアのモチベーションも上がった。

■　事業の成果

コロナ禍であっても、逐一状況を把握しながら工夫をして、この一年ボランティア活動ができ、じっくり腰を据えての制作活動もできたのがよかった。

また、地域の赤十字奉仕団の方々と繋がれたのも大変ありがたいことである。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校運営協議会の熟議のひとつでもある、来年度の主催事業の持ち方については頭を悩ませる課題であり、今まで行われてきた意義や趣旨をしっかりと引き継ぎ、いかに開催するかをしっかり議論したいと思う。



【　クリスマスお話し会　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

来年度より、学校運営協議会理事は学校行事等において来賓ではなく職員と一緒に運営に関わることになった。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

～ 子どもたちの居場所づくり ～　コロナ禍での「なすびぃずルーム」運用について

湖南市	活動名：下田小学校地域学校協働本部	下田小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：3 人（兼務 2 人）　ボランティア登録数：60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

下田小学校学校運営協議会には３つの部会があり、下田小学校や下田地域について熟議する項目の役割分担をし、理事会にて報告、情報の共有、さらなる熟議を重ねている。

【 今年度の議題内容の一部 】

・1 年生保護者対象「親子集団下校」の企画、立案　等（大成委員会）

・通学路や地域にある危険箇所のチェック、修繕の依頼、地域と学校の情報共有について　等（地域連携委員会）

・コロナ禍におけるボランティアの活動や情報発信の方法、なすびぃずルームの運用方法について　等（ボランティア委員会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

下田小学校地域学校協働本部は教室利用されていない部屋を事務所としていることもあり、事業開始時よりコーディネーターが出勤している日の中休みや昼休みに子どもたちと地域の方々との交流スペースとしても利用してきた。

昨年度からのコロナ禍により、地域の方々が自由に出入りしづらくなったが、ボランティア活動に参加してくださった方やコーディネーターが、地域の一員として子どもたちと交流を続けていた。

しかし今年度、休校措置はなかったものの緊急事態宣言発令があり、他学年が交流するなすびぃずルームの開放を一時停止していたが、コロナ禍で大なり小なり制限がある生活の中、子どもたちもストレスを感じており、居場所を探している様子が見受けられたため、なすびぃずルームの開放を再開した。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

９月の緊急事態宣言以前のなすびぃずルームでは、「なすびぃずルームでの約束事」を基準に子どもたちとの交流をしていた。なすびぃずルーム開放再開後もこの約束事は継続している。



【　なすびぃずルームでの約束事　】

なすびぃずルームを開けている日は、工作やおりがみ、おしゃべりなどができる日としていたが、緊急事態宣言が開けるまではゆっくり話をするだけに限定し、中休みと昼休みで学年を分ける等の工夫をした。

緊急事態宣言が明けてからは、工作、おりがみを一緒に楽しみたい子どもたちと、地域の人に話を聞いてもらいたい子どもたち両方に対応したいため、工作、おりがみができる日「つくれるＤＡＹ」と、ゆっくり話ができる日「話せるＤＡＹ」を分けることにした。

■　事業の成果

なすびぃずルーム開放再開後、中休みと昼休みで学年を分けていたことで、密を回避することができた。「つくれるＤＡＹ」と「話せる DAY」に分けた現在も密の回避ができている。

「つくれるＤＡＹ」と「話せるＤＡＹ」を分けたことで、子どもたちにしっかり対応できるようになった。今後もこの形態を継続していきたい。なすびぃずルーム開放休止中に居場所がなかった子どもたちにとっての居場所のひとつになれているように思う。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

現在、空き教室があることでなすびぃずルーム開放ができているが、下田小学校は今後児童数が増えるため、教室の確保が緊急課題となっている。次年度のなすびぃずルームの確保はされているが以降はどうなるかわからない状態である。このまま子どもたちの居場所のひとつとしてだけではなく、地域の方や保護者の交流の場としてや卒業生の帰ってきてもいい場所としても残していけるように学校運営協議会でも熟議を続けることになっている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今年度も学校運営協議会が運動会の運営にかかわる活動をおこなった。次年度以降も学校とともに地域活性化も視野に入れて活動、熟議を続けていきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

夢にむかつてトライ☆　支え合い高め合うみとっこに！！

湖南市	活動名　：　水戸小地域学校協働本部	水戸小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：2 人（兼務 2 人）　ボランティア登録数：70 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　■その他（ＣＳ理事会　）

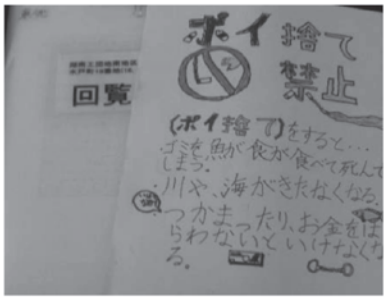
■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
学校行事やボランティアさんとのふれあう機会が減ってしまった中でも、子どもたちが「トライできた！」と満足出来るような活動を続けていくことを目標とした。まちたんけん、水戸のヒーローをさがそう、田んぼの子、環境学習では地域を知る学びがあり、読み聞かせ、家庭科のミシン学習、算数ぐんぐん教室では子どもたちが身につけたい学びを支えることができた。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・まちたんけん…10 グループに分かれて地域のお店、保育園、コンビニ、ガソリンスタンドなどに行きしっかりあいさつをしたり考えてきた質問をしたり、意欲的に活動できるようボランティアさんに引率と声かけをしてもらった。
・環境学習…地域の茶釜川の水を使った実験だけではなく、茶釜川を美しくする会の成り立ちや活動の紹介をしてもらった。茶釜川がびわ湖につながっていくことやびわ湖の水をきれいに保つために何ができるかなどを子どもたちが考えた。
子どもたちには「誰かがしてくれる→自分たちがする」意識を高めることを目標とした。
・田んぼの子学習…新しく田んぼを探さなければならなかった。学区内で田んぼをしている人がほとんどいない地域で休耕田をお借りしたので苦労したが子どもたちは田んぼができるまでの様子も知ることができ、お米作りの大変さを学ぶことができた。
・ミシン学習…授業の進め方について先生と細かく相談しながら取り組んだ。
・読み聞かせ…朝、落ち着いてスタートができるようにと活動してもらっている。


【　感謝の集い　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
ボランティアさんが無理をすることのないように、活動が重ならないように配慮しながら声かけをした。「待ってました！」と活動できるのを楽しみにされている様子だった。
田んぼの子学習では稲刈りの後のおにぎりパーティができない代わりに感謝の集いを計画し案内状を出し子どもたちから感謝の言葉と収穫したお米をお渡しすることにしている。
子どもたちへのお礼にボランティアさんからも歌のプレゼントがあり和やかな会となった。

■　事業の成果
環境学習では５年生の子どもたちが学習の後に「ゴミを減らそう！」というポスターを地域のゴミステーションに貼ったり自治会の回覧板に入れたりするなど、地域との活動に発展できた。ＣＳ理事会を中心に子どもたちが日々のあいさつや体験活動を通してつながる力をつけていこうとする学校づくりをすすめられた。



【　ポイ捨て禁止！ポスター　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
行事や活動が制限される中、これまでのつながりがきれてしまうことのないように地域の方とコミュニケーションをとり新たな関わりも考えていく必要がある。
ＣＳで運営スタッフとして参加した運動会では子どもたちの自信に満ちた顔が見られ目標に向かって練習していくことや発表する経験が子どもの力になると感じた。
地域の中でこうした場がつくれないか熟議していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
それぞれの学年での学びを、水戸まつりの展示で子どもたちが上手にまとめていた。「学校の中だけで展示しているのがもったいない！」とお声かけいただき地域の学習センターでも展示することとなった。地域の方からの声があることが有難く多くの方に見てもらえたことで学校や子どもたち、そしてこの活動に関心をもっていただけたのではないかと思う。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　ＣＳ理事会、委員会、学校応援団　）
報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

学校に地域の力を、地域に生徒の活力を！

湖南市	活動名 ： 石部中地域学校協働本部	石部中学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 26 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数： 49 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　■その他［入学試験面接指導等］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（コミュニティースクール理事会等）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・１年生家庭科浴衣着付け体験

１年生家庭科の授業で『浴衣を着て和服の文化を楽しみましょう』という目的で、ボランティアさんに来ていただいて浴衣の着付けを体験した。

・１年生技術科木工学習支援

１年生技術科の授業で、のこぎりやかんなも初めてという生徒が多い中、一人一人に目が行き届くようにと、ボランティアさんに来ていただいている。



【　浴衣着付け体験　】

■　実施に当たっての工夫

・浴衣着付け体験

まず最初に教師が着てみせた。ボランティアさんに着せてもらうのではなく、生徒が自分で着られるよう、できるだけ手を出さずアドバイスいただいた。

・木工学習支援

毎時間２名のボランティアさんに入っていただけるよう、担当の先生から早めに授業の予定を聞き、ボランティアさんの日程調整をしている。

■　事業の成果

・浴衣着付け体験

帯の結び方などが難しかったけれど、ボランティアの方が優しく、丁寧に教えてくださったので着ることができました。和の文化に触れられて良かったです。すごく貴重な体験ができてとても勉強になりました。（生徒感想より）

ボランティアの方々からも、「楽しかった」の声をいただいた。生徒同士教え合う様子も見られた。

・木工学習支援

生徒たちは、分からないことや困ったことがあれば、そのままにせずボランティアさんを呼び、道具の使い方等をわかりやすく丁寧に教えていただいている。



【　木工学習支援　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度の浴衣着付け体験は１時間の授業だったので、帯の結びを自分ですることまでは時間が足りなかった。来年度は２時間にして、帯も自分で結ぶ体験ができれば良いと思った。

・長年来ていただいている環境ボランティアのみなさんの高齢化が進んでいる。徐々に引き継いでもらえるよう、幅広い年齢層の方に呼びかけていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・今年度も、新型コロナ感染症流行にともない生徒が地域に出て行く機会がなかった。学校運営協議会の中で今までと同様に、地域に生徒がでかけていく仕組みをつくっていくことを確認した。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　教科担当教員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

Chance（チャンス）・Challenge（チャレンジ）・Change（チェンジ） ～人とのかかわりを通して～

湖南市	活動名 ： 甲西中地域学校協働本部	甲西中学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務３人） ボランティア登録数：40 人

■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動

□郷土学習 □その他［ ］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行 政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働活動の内容を地域の方々にもっと知ってもらい参加してもらうためにどのように PR していけばよいか。
・活動資金をどのようにして確保していくか。
・放課後や長期休業中に小・中学生の地域での居場所を作りたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

例年は、ミニ部活（体験活動）、職業講話、みちくさコンパス（地域行事）など地域と学校が協働した活動を多岐にわたって行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度に引き続き今年度も中止になったものがあった。
以下は今年度開催した活動である。

・スモールティーチャー ・・・小学生の夏休みの宿題を中学生が支援する活動。（異年齢交流）
・読み語り ・・・朝の読書の 10 分間で読み聞かせを行う。１・２年生が対象。読み語りスタッフ６名が活動。
・図書室整備 ・・・本の登録やブックカバーをつける作業など、図書館司書さんのお手伝いや図書室の運営の補助。
・書写の講師 ・・・書写の授業の支援を行う。お手本の準備や生徒の指導を行った。全学年生徒が対象。
・文化体験講座 ・・・地域の方々を講師として招いて 18 の講座を開催した。第１学年で親子の活動として実施した。
・校外地域学習 ・・・湖南市の産業や歴史、文化について生徒たちが現地に出向き学習を行った。第１学年で実施。
・ミシンの授業支援 ・・・12 月より２月までの期間で１年生の家庭科の授業支援を行った。スタッフ９名で活動した。



【 文化体験講座 茶道 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

事業を行う際には、講師、参加者はマスク着用で念入りに手指消毒を行った。合唱コンクールでは入れ替わるたびにいすや手すりの消毒にも配慮した。スタッフの中にはご高齢の方もいらっしゃるので体調が優れないときは無理をせずに参加を見送っていただいた。

■ 事業の成果

・書写では講師の方に褒められて回数を重ねるごとに上達していた。
・読み語りは継続して行っており、長い物語のときは話の続きを楽しみにしている生徒もいて読書への興味の喚起になっている。
・読み語りと家庭科での授業支援は、小中連携することで、９年にわたる支援になっている。



【 書写教室 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で事業が制限されたり中止になったりした１年だった。協働するスタッフさん達の健康や生徒の教育的効果もどちらも大切に考え、方法や規模を工夫しながらこれからも事業を継続していく。
・地域の方とともに活動を重ねる中で、地域の良さに触れ、地域の人の温かさを感じ、その中で湖南市の一員であることに誇りをもってくれればと願っている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・生徒たちの学校や地域での活動が学校のＨＰの「お知らせ」に紹介されています。ご覧ください。 https//www.koseichu.com/

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 □地域連携担当教職員 ■その他（ 教科担任・該当学年教員 ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員、教頭 ）

生徒の「やりたい」を引き出す好循環　～一つの取組がさらに次の取組へ～

湖南市	活動名　：　甲西北中学校地域学校協働本部	甲西北中学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 26 年度　　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務４人）　　ボランティア登録数：16 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・昨年度発足したボランティア部の活性化の方策
・授業や行事への地域の方の協力の方策
・図書ボランティアの活動報告、中学生への支援



【　消毒スタンド寄贈　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・校区にある２つのまちづくり協議会の呼びかけに応え、ボランティア部が中心となり、地域行事への参加や小学校での学習会の参加、校門前花壇への芝桜の植栽等を行った。
・夏休みには社会福祉センター主催のボランティア体験にボランティア部員７名が参加した。
・特別支援学級の総合的な学習の時間に地域の方を講師として招き、陶芸体験、藍染め体験を行った。
・昨年に引き続き２年生の職場体験ができなかった代わりに、市内の校外学習を行い、地元で生産されている商品について知ろうという計画を立てた。コロナ禍で部外者の企業への立ち入りが厳しい状況の中ではあるが、湖南市工業会の協力を得て９社の企業の協力が得られた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・コロナ禍で出来ることはないだろうかとボランティア部で話し合う中、生徒たちが段ボールで消毒スタンドを作成。これをもう少し実用化して寄贈できるようなものにできないかと、生徒たちもネットで検索しながら木材で製作しようということになり、地域の方の指導のもと、校内にあった廃材を使って足踏み消毒スタンドを作成。校区の３小学校と地域の高齢者施設に寄贈した。
・例年、小学校や地域の行事で演奏を披露してきた吹奏楽部の出演がここ数年、実施できなかったこともあり、中学校と高齢者施設をつないでのリモート演奏会を５月と 12 月に開催。音響機材などの準備を５月はPTA 本部役員など大人でやったが、12 月は「子どもたちでできるように」と保護者の方が熱心に関わってくださり、生徒が主体となって演奏会を開催、大成功であった。

■　事業の成果

・「大人にやらされる活動」からの脱却を目指した創部２年目のボランティア部。今年度は消毒スタンドの作成、リモート演奏会など、受け身ではなく生徒が主体となって力を発揮し、楽しみながら取り組めたことが何より良かった。秋に開催されたまちづくりセンターでの行事でも、今までのような決められたお手伝い程度の参加ではなく、１ ケ月ほどかけて自分たちで手作りした射的コーナーを設けたところ大盛況。地域の方もとても喜んでくださり、来年２月の行事にもぜひ参加してほしいとの声をいただけた。
・中学生による読み聞かせである「本読み隊」は本校の独自の活動であるが、コロナ禍で動画による新隊員の募集を始めたことで、入隊希望の生徒が増加。質の向上を目指した、図書ボランティアによる指導も定着しつつある。
・校内文化祭では「パプリカ」の音楽に合わせて各クラスで動画を撮影、全校分つなぎ合わせる取り組みをした。ＰＴＡ運営委員会等で公開すると、生徒のいきいきとした様子に触発され、「大人も何かしたい」との申し出があるなど、好循環が生まれている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティア部員中心の活動になっているが、今後、参加する地域行事が増えたりしていけば、ボランティア部員への負担軽減の意味でも、全校生徒を対象に希望者を募って実施していきたい。
・現在は中学生が地域へ出ていくという交流が多くなっている。今後は、地域の方に学校へもっと来てもらう機会も状況が許す限り増やしていきたい。そのためには、教職員の認識や協力もさらに必要である。学校は生徒の学びの場だけでなく、地域の人たちの学びの場でもあるという思いをもって、できることから始めていきたい。



【　力作の射的ブースは盛況　】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域の力を学校、そして、子どもたちへ　共に育む日枝の『輪』と『和』

湖南市	活動名　：　日枝中学校地域学校協働本部	日枝中学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：３人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

学校行事なども制限があり活動が自粛される中コロナ禍においてボランティアさんがどのようにして学校と関わっていけるか、が議題に上がり、地域連携委員会と話し合いの場を設けた。その中で互いにできることを共有しあい協力しながら、今後の活動に繋げられるように連携していく土台ができた。



【書写教室ボランティア１】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・書写教室のサポート

昨年は実施できなったが２年ぶりに再会できた。
全学年９クラス５日間にわたって地域のボランティアさん４人の方に
書写の授業サポートに入っていただきました。

・朝の読み聞かせ
・帯コン
・小中連携の中学生ボランティア派遣
・技術の木工ボランティア

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・来て頂いた地域の方に検温をして頂き、マスク・フェイスシールドの着用・手指の消毒のお願いをしました。
・広いスペース作り（机の間隔、ソーシャルディスタンスの確保）

■　事業の成果

１、２年生は初めての書写の授業。小学生時代とは筆の使い方も全く違うため、筆の動きをボランティアさんに教えて頂きながら何枚もチャレンジし、良い作品が仕上がりました。
生徒とボランティアさんが楽しく笑顔で取り組む様子がとれも印象的でした。



【書写教室ボランティア２】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアさんの確保

同じ方に何クラスも長時間入っていただいているので年齢的にも、体力的にも少し厳しい。新しい方にも声かけをしたが、中学生の書写ということで難しく考えられ、なかなか良い返事がもらえない。

・女性ボランティアさんばかりなので、今後は男性ボランティアさんに入ってもらうため新しく技術の木工ボランティアさんをスタートすることを学校側に打診し了解を得ることができた。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会の委員さんとも連絡を密にして情報を交換しながら生徒たちのために活動していきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～マキノ地域学校協働本部～

高島市	活動名　：　マキノ地域学校協働本部	マキノ東小・マキノ西小・マキノ南小 マキノ中学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員等数：1 人　ボランティア登録数：57 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　■その他（社協）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

(1) 小中合同学校運営協議会での内容

「現在の児童の様子」「今後への期待」「そのために自分（委員等）が出来ること」について、各グループで意見交換、意見の取りまとめ、発表が成され、参加者は小中の委員、教師が参加し、幅広い意見が出ました。今後は、保護者の参加増や児童の声を反映できるよう検討していきます。

(2) 各学校での学校運営協議会での内容

初回は「児童への期待」と「学校、地域で出来ること」等のテーマで実施されたが、回を重ねていくことで「自分たちの関わり」、「具体的な地域の人材、素材探し」等具体的な動きにつながる内容に発展しています。



【小中合同学校運営協議会】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域の人材と地域資源を活かした個人探求の実施

マキノ中学校で、地域資源理解の取り組みについて生徒が 12 の探求テーマをまとめた。そのテーマについて地域の方 12 人に講師に来ていただき、教室で座学と現地で校外学習を実施しました。また、12 人の講師を招待し発表会も予定しています。

(2) 小学校での学校運営協議会、協働活動の連携

今年度は各小学校で３学期にキャリア教育につながる授業を実施する計画となっており、これまでなら講師は学校が探してくることが多かったが、今年度は学校運営協議会やボランティアとの話し合いの中で講師候補を選んでおり、学校と学校運営協議会、協働活動の連携が具体的に目に見える形となってきています。また、協働活動に参加いただいた地域の方を学校での発表会に招待するという形で双方向の関係が出来つつあります。



【地域の方を招待した発表会】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍により制限されていた活動について、10 月の緊急事態宣言解除に伴い学校での協働活動も再開されたが、感染予防対策を配慮し実施した。修学旅行が宿泊なしの日帰りでの２日間の実施となったため、うち１日は地域の方を講師に地域の自然、歴史を学ぶ校外活動に変更されたことにより、地域の方に参画いただく機会となった。

■　事業の成果

○子ども　地域への理解・関心の深まり、新型コロナウイルスなど社会的課題への関心の深まり、社会貢献
○学校　新たなボランティア人材の発掘、円滑な学校行事の実施、地域への理解・関心の深まり、児童に社会貢献機会の提供
○地域　地域の教育力の向上、地域の活性化、社会参加の提供、世代を超えたコミュニティの形成

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校運営協議会委員には十分理解されていないところもあったが、熟議の実施やボランティアの登録に配慮して頂いたことで、地域の方との連携が出来つつある。今後は、児童向けの事業や協働活動発表会について、地域の方も参画する機会を増やし、学校運営協議会活動、協働活動の充実につなげていきたい。また、学校でも自分が住んでいる地域の地域資源への理解促進について、夏休み期間中の教員研修に取り組まれたことから、引き続き実施して頂けるよう働きかけていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

熟議の必要性を提案してきたことにより、今年度は学校運営協議会でも熟議が行われるようになりました。引き続き、ＰＴＡ、生徒を含めた熟議が行われるよう提案していきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～今津地域学校協働本部～

高島市	活動名　：　今津地域学校協働本部	今津東小　今津北小　今津中 学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：35 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

〇地域の特性や伝統を大切にした活動を継続させていく。
- 北小学校では、伝統行事の左義長に取り組んでいるが、運営が難しくなっている。地域の力を借りて継続させたい。東小学校でも導入が可能ではないか。
- 中学校でスキー競技に取り組む生徒に対し、理解を広め、地域の指導者や企業の協力により活動への支援を継続させたい。

■地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇今津東小学校（学校支援ボランティア「はなまる広場」による活動）
- 環境整備・・・除草作業、花壇整備、雪囲い設置　など
- 学習支援・・・九九まる（九九暗唱確認）、計算チャレンジ（加減の確認）
- 事務作業支援・学級配布物の仕分け、九九まる確認用シートの作成　など
- 工作支援・・・クリスマスリースの作成に必要な部品の作成　など

〇今津北小学校（学校支援ボランティア「箱館応援団」と民政委員による活動）
- 行事支援・・・校外学習への引率補助、左義長用葦束の確保
- 学習支援・・・九九道場（九九の暗唱確認）
- 公民館との連携事業・・・学校菜園づくり支援

〇今津中学校
- 福祉分野との連携・・・・福祉すごろくづくりの協力
- 青少年育成学区民会議との連携・・・環境整備（プランターの花植）



【　九九まる（九九暗唱確認）　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
- 学校側（各担当教員のニーズ）の要望把握に努めた。
- ボランティアへの参加要請の情報発信を工夫した。（はなまる通信の発行　など）
- コロナ対策として、対人間にアクリル板設置など子どもたちに対策が見えるようにした。
- ボランティア参加希望者へ情報発信を工夫した（ラインによる状況変化や活動方法に関する情報の発信）
- 「今津ふくしの会」（今津住民福祉協議会）や今津民政委員児童委員協議会との連携を推進した。

■　事業の成果
- 学校の活動内容を理解し、意欲を持って参加する地域の人が増加した。
- 小学校から中学校への成長過程を、継続して見ているボランティアが増加し、学校運営協議会などにおいて学校へ子どもの成長の様子を地域の眼で語ることができる様になってきた。
- 子どもたちが、ボランティアの存在に慣れてきて、挨拶や感謝の言葉を発することができるようになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
- 課題　ボランティアの人数が限られてくるため学校側の要望に応える体制が組めない。
- 工夫　子どもたちの学習活動と地域の産業やボランティア活動をリンクさせ、地域理解の学習と活動を充実させていく。
- 展望　地域学校協働活動と昨年発足した住民自治協議会の活動をリンクさせていくことで活動の幅が広がる。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

コロナ禍で開催を見送られていた地域学校協働本部会議を開催し、学校単位での活動を中心としながら地域の特性に３校が連携できる活動を推進することを確認した。（例：琵琶湖周航の歌発祥の地として各学校で対応に取り組む　など）

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～朽木地域学校協働活動本部～

高島市	活動名　：　朽木地域学校協働本部	朽木東小学校・朽木西小学校・朽木中学校 学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 30 年度　地域学校協働活動推進員等数:1 人　ボランティア登録数:99 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　■その他（社協・日赤奉仕団）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
・子どもの現状　目指す子ども像　解決方法
・子どもの弱みと強み　目指す生徒像（生徒につけたい力）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・学習支援　中学校では、選択総合の時間に朽木の自然を活かした学習内容に取り組み、事業所と担当教師（推進員も打ち合わせ等に参加）が中心となり、地域の方（保護者）にも支援していただき、「杉葉による草木染め」や「地域の木材を使用してのラック作り」等の学習ができた。
・環境整備　昨年度から毎月１回の定例になった、日赤奉仕団・更生保護女性会・老人会による除草作業を今年度も実施していただいた。うち２回は子どもたちも一緒に活動し、地域の方を身近に感じることができた。
・小中一貫教育　保幼小中一貫教育全体会と学校運営協議会の合同研修を開催し、園や小中の教師と学校運営協議会委員が「学校運営協議会と地域協働活動の一体的な推進について」共有し、一緒に研修できた。


【学習支援：１～２年計算聞き取り】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・授業内容との連携　学習内容に地域連携が可能な単元を見つけ、協働活動を実施。
・オンライン研修　小中一貫教育と学校運営協議会の合同研修
・ボランティア保険加入　地域の方が安心して協働活動に参加いただく環境を確保。
・事業所との連携　朽木の自然を活かした学習内容を事業者と教員が相談し実施。
・感染防止対策　学習支援（計算聞き取り）におけるアクリル板設置や音響機器（マイク、スピーカー等）の活用。

■　事業の成果
小学校１～２年生を対象に、計算の基礎である「足し算、引き算、九九」の計算聞き取りを、地域の方に協力いただき実施した。地域の方は、子どもたちと話すことで元気をもらい、「頭の体操にもなる。楽しいなあ。」と笑顔になることができ、子どもたちも張り切って計算し、日に日に計算が速くなっていく様子が見られた。
学校運営協議会と地域学校協働活動の一体化に向けて、教師や学校運営協議会委員の意識に少し変化が見られた。環境整備については、地域の方の主体的な活動が定着してきた。


【小中一貫教育・
学校運営協議会合同研修会】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
コロナ禍での活動は、制約が多く特に中学生の活躍の場が激減した。今できることは何か、中学生の意見を聞きながら考えていきたい。
朽木地域では、「学校づくりは地域づくり」の言葉どおりの活動が必要と考える。今後もっと地域の方に地域学校協働活動を知ってもらう必要があるので、朽木全戸配付のお便りや公民館や支所での広報活動を工夫したい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
学校運営協議会開催後、次の会議までに、委員の意識が途切れてしまう。学校や子どもたちや地域についての思いや考えを委員同士で話す場や機会があると、課題解決に近づけると考える。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（担任等教職員）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う地域づくりをめざして　～安曇川地域学校協働本部～

高島市	活動名：　安曇川地域学校協働本部	安曇小　青柳小　　本庄小　安曇川中 学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成３０年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人　（兼務２人）　ボランティア登録数：33 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［各学校同士の連携　物品の調達　講師紹介　地域の方々の情報提供　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■地域学校協働活動推進員　■行　政　■その他（住民福祉ネットワーク・民協）



【 中学生 駅前落ち葉拾い 】

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

①環境整備（地域内全学校）として、学校敷地の除草作業について地域の方の参画と、除草や伐枝が山積していた箇所にかかる取り組みについて。
②子ども達の日常の様子から、どのような子どもに育ってほしいか。またタブレットを活用した授業の取り組み報告や課題。今後のタブレットの取り組みについて。
③コロナ禍における学校行事の取り組み方、本年度の反省や次年度への思いなど。また、地域と一緒にできることはどんなことがあるか等。
④生徒や児童が地域の方に支援してもらうばかりでなく、地域貢献できることはないか。
⑤保護者や子ども達の学校評価などから、今後、学校や保護者、子ども達がしていかねばならないことはどんなことがあるか

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①区域内の清掃（安中）
生徒・職員・地域の方々で結成されているボランティアグループで年３回～４回、地域の清掃・除草作業を実施した。
②小学校で、地域・ＰＴＡ・子ども達・職員と一緒に、運動会前に３回運動場の除草をした。３日間で延べ約 70 人出てくださり本当に運動場がきれいになった。また子ども達のお礼の言葉もあり良かった。ボランティアの方も、昔の話や情報交換をしたりして、楽しそうだった。きれいな運動場を見てみんな満足気。（本庄小）
③廃校になった元母校の学校を拠点としたマラソン大会（安小　５～６年）
地元の方、近隣の保育園、事業所、諸団体と連携して開催された。当日までに会場がきれいになり、また見守りのボランティアも多数参加してくださり、伴走者もありで非常に盛り上がった。地域の方々は楽しみにされていた。
④環境整備・花壇の整備・畑の整備や準備（全学校）
地域内の学校において、ボランティアの方と一緒に子ども達が種をまき、ポットへの植え替えなども協働でできた。
青小では、近隣の保育園、諸施設に苗やプランターを配った。安中では社会福祉協議会のイベントの時に苗を配った。
⑤社会福祉協議会と連携して、法人への共同募金のお礼として渡すペットボトルのマグネットを、地域の方と作って、社協からも喜ばれた。民生委員の手で配られた。（安中）
⑥支援学級の取り組みのお手伝い。（特に中学校）
耕作・植え方・世話の仕方等協働活動することで、学習の発展があった。



【青柳郵便局前プランター設置】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

来ていただく場合は、毎日検温をして、体調を整えておいていただく。（当日も検温記録）
マスク着用や手指消毒等、みんなで十分気を付けて行動。

■　事業の成果

①支援のみではなく、生徒や児童がボランティアの方と一緒に活動することが増えた。
学校も、「してもらうばかりではなく、一緒にしてできないところを助けてもらう」という考えになってきた。
②文化の発信・・学校でのミニコンサートなど、地域の方にもお知らせをして一緒に楽しんだ。（本庄小）
③担任や担当の先生が、こんなことしたい、こんなことできないかなと思うことで意識が高まり、活動が広がった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①規模の大きい学校は、もっとたくさんの方が関わってもらえるといい。関わり人口が少ないため組織の拡大が必要。
②子どもが地域の方々と関わることにより、子ども達にボランティア精神と地域の良さを更にわかってもらいたい。
③支援が主流になっているので「地域貢献」「地域との協働活動」を話し合って深めていきたい。
④中学校の委員会活動と地域の方と繋がる工夫を、次年度から増やしていく。（先生の意識が高まった）

■　その他（学校運営協議会との協働等）

①学校運営協議会の委員が一緒に活動できる事が大事。開催時間の変更。子どものことをもっと知ってもらえるように工夫。
協議会に管理職だけでなく、多様な方々に参加してもらい話し合いを深め、活動に繋がる取り組みを作って行きたい。
②地域と学校が「どんな子どもにしたいか」共通の目標を持ち、協働活動につなぎたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（担任・担当者）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響きあう教育を目指して　～コロナ禍でも出来る活動が生まれる、広がる！～

高島市	活動名　：高島学園地域学校協働本部	高島学園（小・中学校）学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：53 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［　福祉活動　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　■その他（　公民館　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

（１）学校評価について

学校運営の組織的、継続的な改善方法について、また保護者や地域住民に理解と協力を得られるようにするにはどうすれば良いかなど話し合う。

（２）地域学校協働活動の取り組みについて

協働活動の様子を熟知し、学校や地域の良い所や特色を生かす活動となるよう話し合う。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）授業へのかかわり

コロナ禍でも出来ることを念頭に、高学年の「家庭科」で裁縫支援、低学年の「生活科」で花壇の整備活動、また昼休みには毎年恒例の「九九道場」など行ってきた。３学期も昔遊び道場開催も予定しており、子ども達にも根付いた活動となっている。

（２）小・中学生の地域へのかかわり

住民福祉ネットワークと連携し、２年目を迎えるメッセージカードの作成活動。４～９年生が配食サービスを受けられている方を対象に月１回、心を込めたメッセージを届ける活動は大好評。生徒・児童に定着した心温まる活動。

（３）団体の活動へのかかわり

今年度は「人権の花運動」について小・中学校共に学校全体で受け入れた活動が展開。小学校では委員会活動で、中学校では技術の授業に取り入れて行われ、そこへボランティアが加わり心を一つにしてサルビアの美しい花を咲かせることが出来た。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍の中、校内での活動には制限があるが、それでも出来ることということで新たに始まった環境整備活動。夏休みの期間を中心に校内の除草活動を数回実施。地域の方と教員が共に汗を流すことで交流も深まった。冬場は除雪なども計画中。



【皆で育てたサルビア、満開！】

■　事業の成果

〇コロナ禍でも出来る活動が生まれた（環境整備など）

〇民生委員児童委員、赤十字奉仕団、住民福祉ネットワーク、また人権擁護委員会や青少年育成学区民会議との連携の幅を広げ、つながりが拡がった。

〇参観日以外にも子ども達の様子を見守る活動が浸透し、ボランティアの年齢層も若返って活気が出てきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

コロナを機に新しい活動も出来、協働活動の範囲も広がったが、やはり持続出来る様、活動ごとの話し合いを継続して行きたい。また、活動の様子をより多くの方々に知ってもらえるよう発信していきたい。またボランティアが活動の様子を発表する場も設け、ボランティア活動に自信とやり甲斐を感じてもらえるようコーディネートしていきたい。



【第 77 回コミュニティ・スクール】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今年度はコミュニティ・スクールの活動が活発となった。協働活動ボランティア・教職員・学校運営協議会委員・公民館・近隣地域の学校が参加し、多くの回数を重ねることが出来たことで、両方の一体的推進が図れ、より良い協働活動に結びつけることが出来、これまでの学校運営協議会から大きく前進したと言える。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長　■教頭　■地域連携担当教職員　■その他（生徒会担当教員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

つながり響きあう教育を目指して　～みんなであたたかく見守り育てよう「学而事人」の人に～

高島市	活動名 ： 新旭地域学校協働本部	新旭南小・新旭北小・湖西中学校 学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 30 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：87 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［教育相談窓口開設］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　□その他（　　）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
（１）湖西中学校：持続可能な地域学校協働活動について。協働活動の意義や協働活動を維持発展する方策について学校運営協議会の委員、学校支援ボランティア、中学校の教職員が同じテーブルで議論した。
（２）南小学校：学校運営協議会と地域学校協働活動の一体化に向けて「学校に地域の力をどう生かすか」について。学校が地域に求める協働活動、ボランティアが活動する意義を相互理解し、活動を拡げることについて議論した。
（３）北小学校：地域と協働した活動の実施について。自治会等へのアンケートを実施した結果、「地域行事においてお客さんになっている。」などの意見が多かったため、自治会と協働して小学生の自主性を高める取り組みを行うことについて議論した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）**『徹底した学校支援活動』の展開**（学校支援の会である南小「夢の会：会員 48 名」、北小「希望の会：会員 43 名」を核にした活動）「登下校の見守り」、「校庭などの草刈り等の環境整備」、「読み聞かせ」、「図書ボランティア」、「九九道場」、「マラソン大会の安全監視」等できることなら何でも学校の支援要請に応える。
（２）**『学而事人おはようミーティング』の活動**（学校支援の会である湖西中学校「むくげの花の会：45 名」を核にした活動）
中学校の要請に応えて平成 30 年度から毎日欠かすことなく続けている。会員が都合のよい日、始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶・声かけをする。会員、生徒、教職員、保護者のにぎやかなミーティングの場としている。支援活動の情報交換や打ち合わせの場でもある。この活動を中心とした新旭地域の協働活動が、「学校の敷居が低くなり、より活動しやすい環境作りに努めている」と評価され令和２年度文部科学大臣表彰を受けている。
（３）**『郷土への理解を深める』活動**
新旭の偉人「清水安三先生」の教えである『学而事人』（学んで人に事える）をスローガンに掲げて地域住民や関係者が協働活動に親しみをもって関わっている。本年度新たに中学校の防災訓練に地域のボランティアが加わり、新旭地域の災害の歴史や活断層の位置などの学習を一緒に行い理解を深めるとともに災害時の生徒たちの役割などについても話し合った。また、認知症サポーター養成講座の受講や家庭部の部活で高齢者世帯への贈呈品（ティッシュペーパーケース）を作成し、地域の民生委員から渡してもらう取り組みを行った。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
各校の「支援の会」の世話人会で新型コロナウイルス感染防止対策についても十分協議して支援活動を行っている。

■ 事業の成果
・「地域のボランティアの支援で教職員の負担が減り子どもに関わる時間が増えた。」小学校教職員の声。「遅刻がほとんどなくなった。」、「生徒が地域のボランティア活動へ積極的に参加するようになった。」中学校長の声。「学校に入りやすくなった。」、「以前に比べ子供たちが落ち着いて授業を受けている。」ボランティアの声。
・各校「支援の会」においては少しずつ保護者の会員も増えている。コロナ禍でも３校のボランティアのべ活動人員は約 6,000 人超が見込まれている。特に下校見守り活動が充実し、不審者の減少や運転者の交通マナーも向上した。


【おはようミーティングの様子】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・各校「支援の会」のリーダーの発掘、自主運営化、支援の輪を広げ持続可能な体制を構築していくこと。
・関係の団体や機関・施設等との連携を進め、小中学生の体験活動や地域貢献活動の場を拡げていくこと。
・地域内の保育・幼稚園や学童保育所にも支援・協働の活動を拡げる地域総がかりの子育てにつなげること。


【九九道場の様子】

■ その他（学校運営協議会との協働等）
・各校の「支援の会」の世話人に「各学校運営協議会委員２名」が加わり、協働本部と学校運営協議会との連携を密にしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（学年主任）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域とともにある学校・子ども応援団

東近江市	玉緒小学校　地域学校協働本部	玉緒小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：34 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・生活科（１年・２年）

「サツマイモを育てよう」：昨年度、臨時休校により実施できなかったサツマイモの苗植えも、今年度は児童自らが行うことができた。ボランティアの方が、畝づくりや苗植え、マルチシート張りを協力してくださり、１、２年の児童はボランティアの方のアドバイスを受けながら、苗植えや収穫の体験学習をすることができた。

学校でサツマイモを試食することはできなかったが、収穫したサツマイモを題材とした絵を描いたり、家庭での試食の様子を日記に書いたりと学習の中で活用することができた。



【 サツマイモの苗植え 】

・社会科・理科・総合的な学習（　３年・４年・５年・６年　）

３年「地域探検」：　校区探検～自分たちの町の事を知ろう～

総合的な学習の時間に、東は土器・瓜生津、西は下二俣、南は大森神社や大森城址など自分たちの校区の様子を歩いて見学した。実際に見て回る中で、玉緒小校区にはたくさんの神社やお寺があることや、土器の牧場では、たくさん牛のお世話をしていることなどを知り、自分たちが住む町を今まで以上に大切に思う気持ちが育った。

４年「里山体験学習」：「里山と人をつなごう大作戦」では、地域にある大森町の里山広場に出かけ、自然の中での薪割りや、切った木や木の枝を集めて秘密基地づくり等をした。まちづくり協議会の皆さんに丁寧に指導していただき、学校の中だけでは出来ない貴重な体験学習ができた。12 月には、まちづくり協議会の方を招待し、総合的な学習の時間で学んだことを生かして、里山をよりよくするためのプレゼンテーションを行った。



【「里山と人をつなごう大作戦」での
プレゼンテーション】

５年「田んぼの学習」：農業委員さんや、地主さんの協力を得て田植えや、稲刈り、脱穀の体験学習をした。その後お世話になった方々を招いて「たんぼのこ感謝の会」を開催し、米作りについて学習した成果を発表した。

６年「キャリア教育」：６年生は、市内の工務店の方から木に関わる仕事についてお話を聞き、「くむんだ一」という教材で木組みの体験をした。他にも、市内でデニムの製品を手作りされている方を招いて、仕事に対する思いや姿勢などの話をしていただき、総合的な学習の時間のキャリア学習に生かした。

・その他

〇図書室の環境整備　〇ミシンの点検作業（随時）　〇登下校の見守り（毎日）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染症予防を考慮しながら実践した昨年度の取組をもとに、現状で可能な時期や内容についてボランティアの方とも共通理解して実施した。図書室の環境整備については、各自が家で作成した飾りを持参して飾り付ける等、感染症の予防を考慮しながら、工夫した取組をしていただくことができた。

■　事業の成果

・ボランティアの方との打ち合わせでは、学習のねらいやご指導いただくポイントを確かめるだけでなく、児童の思いや提案なども伝え、主体的な学習になるように打ち合わせをした。その結果、児童が発信したり、ボランティアの方と話し合ったり共同したりするような学習を実現することができた。

・回数を重ねるごとにボランティアさん同士も顔見知りになり、お互いに意見を出し合ってくださる姿があった。コロナ禍の中では、参加していただけるボランティアの方の数が減るのは当然であると思う。その中でも、学校でできる最大限の活動の実現にご協力いただき、本当にありがたく感じている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度の取組を見直し、来年度以降も実現可能な活動を検討したうえで、地域コーディネーターさんはじめ、協力いただくボランティアの方に、早い段階でお知らせできるようにしたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

「必要な時に必要な支援を」を合言葉に、今後につながる継続した支援活動を！

東近江市	活動名　：御園小学校地域学校協働本部	御園小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：23 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①　外国人児童へのサポート活動

外国籍児童が全体のおよそ一割程度在籍しており、日本語指導教室（ひまわり学級）に通級している児童を中心に基本的な会話や読み書きについて学習支援を行っていただいている。日本での生活の充実や学習内容が深まっていくよう日本語の学習を中心に定期的にサポートをお願いしている。現在は感染症対策のため活動を中止している。

②　学校行事支援・学習支援活動

マラソン大会での安全見守り活動、高学年家庭科のソーイングでの活動補助、３年総合学習のゲストティーチャーなど、多岐にわたって支援を受けている。これらの活動についても、新型コロナ感染症の影響によりボランティア活動を制限している内容がある。

③　読書活動支援（読み聞かせボランティア）

長年にわたって本校の読み聞かせボランティアとして活動されている団体に、定期的に各教室で読み聞かせ活動を行っていただいている。



【　３年総合学習　御園まちじまん　】



【　読み聞かせ　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

本校では、「必要な時に必要な支援を！」を合言葉に事業を進めてきている。推進員が学校のニーズを的確に把握し、それに応じて人材を発掘していただいて支援を受けている形をとっている。コロナ禍での工夫としては、マスクの着用や手指の消毒に協力をいただくなどして、感染症予防に努めた。

特に今年度はマラソン大会やマラソン試走練習に交通安全ボランティアをたくさんお願いし、PTA 役員を中心に多数のボランティアに協力を仰ぐことができ安全に活動を行えた。それによって教員は支援の必要な児童へのサポートに回ることができ、充実した取組をさせることができた。

■　事業の成果

推進員による地域の方々への積極的な働きかけは、今年度はお願いしていない。本来であれば、ボランティア活動を通して、学校の様子を地域の方々に知っていただけるよい機会となるのだが、今年度も活動の範囲が制限され、厳しい状況である。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きく、この状況が終息するまで今後も地域のボランティアをお願いすることにはためらいを感じている。せっかく今まで築き上げてきた地域ボランティアさんとの関係を切らせることなく、今後も地域との絆を深めていけるように働きかけていきたい。また、地域ボランティアとともに保護者にも様々な活動のサポートをお願いしながら活動を広めていきたい。



【　マラソン交通安全見守り活動　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

お問い合わせ

東近江市立御園小学校　ホームページアドレス

http://www2.higashiomi.ed.jp/misonosho/

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

輝け南っ子！！　～地域を学ぶ、　地域の人々と学ぶ～

東近江市	八日市南小学校　地域学校協働本部	八日市南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：40 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）畑の先生による特別支援学級での植え付け作業（じゃがいも、さつまいも、大根）収穫
（２）芝生化されたグラウンドでの芝生刈りや水やり、施肥などのお世話
（３）南小学校読み語りグループによるスキルタイムでの読み語り
（４）大凧保存会による大凧作りの指導
（５）図書室壁面の飾り製作、飾り付け

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・特別支援学級の畑では、地域の方が先にうねを作ったり、マルチをかけて植える準備をしてくださることで、スムーズな植え付け作業ができた。
・図書壁面では、図書室で作業を行っていたため、休み時間などは児童が興味をもって側にきてくれていたが、密を避けるため、会議室などの別室で作業をし、児童との動線も重ならないように工夫した。
・読み語りでは、ボランティアと児童との間隔を空けるために、自分の席に座り静かに聞くようにした。


【　特別支援学級　畑の学習　】

■　事業の成果
・定期的な芝刈りなど適切な管理がされることで、常に快適な状態で授業が行われる。また、休み時間や放課後などにも子どもたちの生き生きと活動する姿が見られる。
・　季節感あふれる壁面飾りにより、図書室に対する子どもたちの関心がさらに高まった。
・特別支援学級の子ども達が、畑の先生に対してお手紙や芋のツルで作ったリースのお礼を渡すなどつながりを深めている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
今年度は中止せざるをえなかった事業に対して、どのような方策をとれば実施できるようになるのか、関係機関と相談しながら活動再開に向けて取り組んでいきたい。
市陸上記録会の指導や、地域学習、昔の暮らし、昔のあそびなど

■　その他（学校運営協議会との協働等）
南部まちづくり協議会と連携しており、スムーズな活動ができている。


【　大凧保存会と６年生大凧あげ　】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　事務職員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域とともに歩む箕作小学校

東近江市	箕作小学校　地域学校協働本部	箕作小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 26 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：103 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・３年生の総合的な学習におけるビオトープを活用した環境学習では、ビオトープの観察をするとともに、ＮＰＯ遊林会の指導員から話を聞き、ビオトープの管理の仕方などを教えてもらった。また、今年度は、３年生児童でビオトープの再生に取り組むことができた。また、社会科の「畑ではたらく人々の仕事」では、地域の農家の方を迎え、ニンジンづくりを中心に農業について教えていただいた。
・５年生の田んぼの学習では、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をしながら、クラスごとに活動時間をずらして実施し、田植えや稲刈り、脱穀をすることができた。年間を通して、太郎坊応援団さんをはじめ、農業委員さんやＪＡの方々、市役所の方々のご協力の下、とても貴重な体験をすることができた。
・６年生児童が、八日市の伝統文化の大凧を東近江大凧保存会の方々の指導を受けて制作した。大凧には、子どもたちが考えた判じもんを入れ、裏に全児童の願い札を貼った。どのクラスも、２畳の大凧をグラウンドで揚げることができた。
・５、６年生の家庭科学習支援や低学年の「畑の先生」、読み語りなど、たくさんの地域の方にボランティア活動に参加していただけた。


【環境学習】


【大凧づくり】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、活動前後の手洗いや消毒はもちろんのこと、密を避けるために、クラスごとに活動時間をずらすなどの工夫をした。
・各学年の学習のねらいや取組のテーマ〝見て・聞いて・やってみる〟をモットーにした学習活動について、地域学校協働活動推進員が教職員との打ち合わせを綿密に行い、適切な支援活動がなされるように努めた。
・地域に出かける活動では、事前に地域学校協働活動推進員と教職員が一緒に下見をし、児童の安全を第一に進めた。
・支援内容に適したボランティア人材を確保し、適宜依頼できるように各所、各団体、個々人に幅広く声をかけた。
・学校と地域、ボランティアの三者が、共に安心感と親近感、信頼感を持てるように、綿密な連携を行った。

■　事業の成果
・各学年の様々な活動に対して広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、公的機関、各種団体などと細やかに連携を図ってきたことで、たくさんのボランティアの方々に協力いただけた。また、ボランティアからボランティアへと支援の輪にもさらに広がりがみられた。
・自分たちの住む町を学習する中で地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域のひとりとしての自覚や地域への親近感をもてるようになり、保護者からも活動を評価する声が聞かれた。地域では、子どもたちへの学習支援の継続と広がりが見られるようになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・昨年度の学校評価では、１学期は感染リスク低減のために、校区探検やゲストティーチャーを招いての学習は控えたものの、２学期以降は工夫をしながらいろいろな活動を行うことができたことで、保護者の方からも、「これまで通り、地域とのつながりを大切にした取り組みを続けていただきたいです。」というようなご意見をいただいた。
・今後も、「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆がさらに深まり、活動が充実したものになるためにも、教職員と地域学校協働活動推進員との打ち合せ等の連携が重要である。また、地域学校協働活動推進員が学習計画の立案への参画、活動後の反省や評価、問題提起、課題解決方法の探求などをすることで、発展的に循環した取組となるよう考えていくことが必要である。
・子ども達が多くの人と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるよう学校と地域との連携の充実を図るためにも、学校から地域への広報活動が不可欠であると考える。

■　協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　全教職員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

地域のパワーが学校の教育活動の推進力に

東近江市	八日市北小学校　地域学校協働本部	八日市北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・学校の運動場の芝生化

全校の児童がポットに入った芝生の苗を植え、運動場を土のグラウンドから芝生のグラウンドに変える活動を行った。一人当たり５０株程度植えなければならず、大変な作業であったが、多くのボランティアの方にお手伝いいただいたおかげで無事に作業を終えることができ、秋には立派な芝生のグラウンドで運動会を実施することができた。

・６年生「夢訪問」

理容師や助産師、カフェの店員など地域におられるさまざまな職業の方をゲストティーチャーとして招き、仕事の様子や自分がその仕事を選んだわけなどを伺った。



【　芝植え活動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・芝生を植えるときには、人と人の間隔が密にならないようにロープを張って植える場所を分けるなどの感染症予防対策を行った。

・６年生の「夢訪問」では、例年使用している部屋よりも広い体育館で実施するなど、密にならない対策を行った。

■　事業の成果

・運動場に苗を植えるときには、大変お世話になったばかりでなく、一緒に作業をすることで地域の方と自然に交流することもできた。密にならない外での活動であり、コロナ禍で地域の方との接触が乏しくなっている中で貴重なふれあいの時間となった。また、地域の方に学校の施設に興味をもっていただくきっかけにもなった。

・地域のサッカーチームの保護者が芝生の管理を買って出てくださり、芝刈りや休日やお盆休みの時の水やりなどをお任せしている。芝生のグラウンドは地域の子ども達の遊び場ともなっておりコミュニケーションも生まれている。

・６年生の「夢訪問」では、仕事の道具を見せていただいたり、実演して見せていただいたりして、子どもたちは興味津々であった。マネキンを使って理容師体験をさせていただいたりもして、将来の職業に対する夢を膨らませることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・芝生化からまだ１年を経過していないので、今後どのような課題が出てくるのか不透明な部分も多い。地域の方に管理をお願いできる今の体制をどのように維持するかも課題である。

・６年生の「夢訪問」については、毎年ゲストティーチャーをお願いしている方もあり、毎年の恒例行事として定着しつつあるが、謝礼を払うことができず材料費などで負担をかけてしまうこともあり心苦しく感じている。



【　６年：夢訪問（理容師体験）　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・昨年度に引き続き感染症対策のため、１年生の「竹とんぼ体験」や２年生の「ザリガニつかみ」など例年地域の方を一緒に行っている活動が実施できなかった。また、図書ボランティアによる読み聞かせも実施できず残念な思いをしている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　　教　頭　　）

「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～

東近江市	活動名：八日市西小地域学校協働本部	八日市西小学校　学校運営協議会:□有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：260 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）地元消防団との連携

３年生社会科「安全なくらしを守る人々の仕事」の学習の一環として、地元消防団の方をゲストティーチャーとして招き、消防団の仕事について話していただいた。消防署員と消防団員の違いや、地域に密着した日常の防火・防災への取組について児童は理解することができた。また、保護者が消防団員である児童も数名おり、父親が地域のために活躍する姿を改めて確認する機会となった。

消防車を写生することもでき、図画工作科の学習としてもよい取組となった。



【消防団との連携】

（２）コミュニティセンターを利用した書き初め展

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策としての取組である。

通常は小学校を会場に校内書き初め展を開催し、学習参観等の機会に保護者に作品を見てもらうようにしている。昨今のコロナ禍の中にあっては、３密を避けるために学校での開催はせず、校区内に２か所あるコミュニティセンターを会場として借用し地域ごとに分散して実施している。これにより、保護者は密を気にせず好きなときに鑑賞することができ、また地域住民にも児童の作品を披露できるよい機会となった。



【消防車の写生】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・地域学校協働活動推進員と連携し、年度当初に年間をとおしてどのような支援が必要か検討しておく。学級担任等との打合せで詳しい内容について検討し、学校ボランティアがスムーズに学習支援が行えるようにしている。
・新型コロナウイルス感染症の感染防止のガイドラインに則り、３密を避け、マスクの着用や事前の健康観察・検温を徹底し、児童と教職員や学校ボランティアが安心して活動できるよう配慮した。

■　事業の成果

・地域学校協働活動推進員と学級担任等との打合せを十分に行ったことにより、学校ボランティアから有効な支援を受けることができた。
・昨年度と同様のコロナ禍の中、これまでに比べ学校ボランティアに支援いただける機会は減ったが、児童にとっては地域の方とふれ合ったり、地域の方から学んだりする貴重な機会となった。



【地域に開かれた書き初め展】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校ボランティアの高齢化や感染症防止対策等を考慮しつつ活動を充実させるためにも、学校から地域学校協働活動についての理解を図るような発信をしていく必要性がある。
・学校を支援してもらうのではなく、今後は地域の行事やボランティア活動への児童の参加など、双方向の取組も考えていく必要がある。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（学級担任等）

報告書記入者（　教頭　）

地域の力を子どもらへ　学校とともにあゆむ　「布引っ子応援団」

東近江市	活動名　布引小学校地域学校協働本部	布引小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数： 55 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

通年　ボランティア読み聞かせ、校外活動引率支援、スクールガード活動支援
　　教育環境整備
４～５月　５年「田んぼの学校」実施計画・打合せ・田植え
６月　５年「田んぼの学校」田んぼの生物観察学習補助
６～７月　３年「まちたんけん」講師・郷土学習の補助
８～９月　５年「田んぼの学校」打合せ・稲刈り・脱穀作業
11 月　校内マラソン大会　マラソンコースにて監視補助
11 月　５年「田んぼの学校」まとめ学習発表会
12 月　布引っこキラリイルミネーション点灯（メタセコイヤ飾りつけ）
１月　６年　キャリア教育　地域先輩に学ぶ（和菓子職人・建築士に学ぶ）
１月　４年　「和楽器を学ぶ」お琴体験学習
１月　１年　昔の遊び体験



【　イルミネーション点灯　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域学校協働活動推進員の出勤日（基本　木曜日）を固定することで、教員との円滑な打合せを進めることができた。
○学校だよりやHP等で、地域と学校が連携・協働している事例を取り上げて広報に努めた。
○「布引っこ応援団」のチラシを継続して配布し、新たなボランティア人材の発掘に取り組んだ。
○コロナ禍の中での実施になるので、検温や体調の記入、アルコール消毒やマスク着用などの感染対策をお願いし、子どもたちとも距離をとっての活動をすすめた。
○コロナ禍の中、密にならないよう実施回数を増やして取り組んだ。

■　事業の成果

昨年度に引き続きコロナ禍での学校スタートであったが、校外学習の相談や教材の発掘、講師の依頼など状況に応じた対応をしていただき、読書活動や郷土学習、キャリア学習等、充実した活動ができた。地域にも学校ボランティア活動が周知されており、地域学校協働活動推進員を通して学校からの要望にも多数応えていただいた。

また校内マラソン大会では、マラソンコースの各ポイントに立ち、子どもたちの様子を見守りしていただいた。本番だけでなく練習日も活動していただき、たいへん有難かった。学校教育環境設備にも尽力いただき、図書館の書棚を制作いただくなどの教室整備を行い、子どもたちが過ごしやすい環境を作っていただいた。さらに、今年度も「子どもたちや地域に明日への希望の灯を」コンセプトに「キラリ輝く布引っ子であってほしい」という願いを込めて、地域企業にも協賛をお願いし、大規模なイルミネーション点灯を実施していただいた。飾り付けには、地域ボランティアやびわこ学院大学の学生の方、また６年生児童も参加し、地域とのつながりを強く感じる活動であった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○支援ボランティアの継続性のために名簿等を作成して、校内での引き継ぎを確実に行う。
○広い校地の学習環境の整備のため、引き続き施設メンテナンス型のボランティアの充実を模索していく。
○地域学校協働本部の活動について地域や保護者への広報活動をさらに充実させる。



【　田んぼの生物観察　】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　事務職員　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり

東近江市	活動名：市原小学校地域学校協働本部	市原小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：３人　ボランティア登録数：約 80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・「いつも身近に本を置こうプロジェクト」（地区集合場所に本があるから、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書）
・学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業（地域農家見学、しめ縄づくり、和楽器鑑賞、江州音頭体験、マラソン大会見守り、昔遊び交流、豆腐づくり等）
・お花のボランティアの皆さんが育てた花の苗で花壇を整備（通年の活動）
・「絵手紙教室（講師は地域の方）」を年１回、お楽しみ昼休み企画を実施
・読み語りボランティアによる魅力ある学校図書館づくり（読書環境 読み語り 創作クラフト 読書祭り等のイベントなど）
・漢字検定の実施（7 月、2 月）児童のみならず、地域・教員・保護者の方からも募集

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・毎月１回、ボランティア会議を開催し、各活動の反省と今後の計画を立てている。
・ぬくもり（ふれあい・手づくり感）を大事にする。（心が通い合うコミュニケーションで、風通しの良い環境づくりを目指す）
・児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。（一体感を目指す）
・「地域の日」をはじめ、持続可能な視点をもって続けることを大事にする。（持続可能な教育環境づくりを目指す）
・児童に豊かな情操が育つように、季節感や彩のある世界、相手意識を持たせた活動内容を提案する。
・保護者連絡アプリを利用し教育活動の見える化を行う。

■　事業の成果

・人と仲良く過ごすことを大事にし、学校は多様な学びの場であることを知っている。（地域の人が行き交う学校づくりの進展）
・保護者連絡アプリの更新を頻繁に行うことにより保護者・地域住民へ情報を提供し、協力を得ている。
・制限のある活動であっても、地域の人と児童の絆が深まり、学校全体に明るい笑顔と活気が感じられる。
・自然に生まれるあいさつや、心のこもった会話ができる。
・教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいＯＪＴとなっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○課題

・保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらう必要がある。
・各活動の前には、学校と地域が、目標の共有化を図る必要がある。
・事前事後の取組をおろそかにしない。コロナ禍の対策は常に考えておく。
・全校マラソン大会の安全な運営（スクールガードによる見守り活動７年目）
・「地域の日」令和３年度はコロナ禍により実質的には訪問者は無し。

○工夫や展望

・保護者連絡アプリや広報紙等で、地域連携事業の周知の徹底をさらに図っていく。
・「地域の日」毎月第２水曜日の昼休みを自由参観の日に設定。
・地域の声を学校が聞くことができる場の実現。
・公立図書館と読み語りボランティアとのコラボ事業「図書館まつり」
・学校と地域が共に成長していく活動になるよう、熟議を重ねる。



【４年生　江州音頭体験】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　市原小学校地域学校協働本部長　）

～地域の自然・人材を生かし、主体的に学ぶ山小っ子を目指して～

東近江市	活動名：山上小学校地域学校協働本部	山上小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：24 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

□学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　■その他（　学校　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【３年生　総合的な学習の時間(親子活動)　「森っ子スクール」】

地域の木材を使い表札を作った。相谷里山の会や振興会の多くの方がボランティアとして指導に関わってくださったので、少し難しい作業もあったが楽しく充実した活動になった。

【４年生　社会科「地域の発展につくした人々：永源寺ダム」・総合的な学習の時間「やまのこ学習：千種街道を歩く」】

永源寺ダムの学習で、ダムの見学とダム建設に伴って転居を余儀なくされた地域の方のお話を聞いた。子どもたちの祖父母等、身近な人々が経験された当時の話を聞くことで、地域についての理解を深める機会となった。また、やまのこ学習の一環で、校区にある伊勢（現三重県）まで続く千草街道を、歴史にも詳しいボランティアさんに案内していただきながら歩いた。針葉樹や広葉樹が豊かに育つ山中を気持ちよく歩く体験ができ、充実した学習となった。



【　６年生：Ｔｅｒａの郷にて　】

【５年生　総合的な学習の時間「愛知川生き物調査」】

愛知川清流会の方にご協力いただき、学校の近くを流れる愛知川で生き物調査、和南川で魚類調べを行った。水生生物や魚類、水の透視度の調査等と関連づけて、郷土を流れる川の水質と生態系について学習を深めた。

【６年生　総合的な学習の時間「キャリア教育」・国語科「町の幸福論」】

相谷里山の会の方々が活動している「Ｔｅｒａの郷」を訪問し、地域の活性化について話を聞いたり、ボランティアさんの指導のもと里山整備活動の体験を行ったりした。仲間とともに生きがいや楽しみを持つことの大切さなどの話をしていただいた。また、この体験を通して感じた地域活性化についての思いを、国語科「町の幸福論」の学習と関連づけて地域の方に発信した。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇どの学年の取り組みでも、ボランティアの方々との活動前に、担任と地域学校協働活動推進員との綿密な打ち合わせを行い、学校とボランティアの方が、活動の目的や子どもに付けたい力について共通の認識を持てるようにした。

〇地域学校協働活動推進員と地域コーディネーターとの話し合いを増やし、互いに持っている情報を交流しながら活動の幅を広げていった。

■　事業の成果

〇地域の自然環境や人材を活用し、学校教育活動の中に地域の力を生かす機会が増えた。

〇地域を教材にして学ぶ子どもの姿から、主体的・意欲的な様子が見られた。本物に触れ、実体験を重ねていくことで、実感を伴った理解や、追及していくきっかけを見つけることができた。

〇地域コーディネーターと担任の意見交換を密にとったり、振り返りの記録を残したりすることで、次年度以降も組織的かつ計画的に活動を進めることができると考える。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

推進員含め教職員の地域に関する知識が必要である。どのような人材がおられて、学校教育とどのように結びつけていくと日々の学習の質が向上するのか考えて交流し、組織化・系統化していくことが必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

山上小学校 HP：http://www2.higashiomi.ed.jp/yamasho/

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　地域連携担当職員　）

地域と共にある五個荘小学校　～地域が元気に！　学校が元気に！～

東近江市	五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：120 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
学校経営方針、本校の現状（生徒指導・教育相談・学校保健・特別支援）、熟議テーマ、先進校視察、学校評価等

■地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）学習支援
・生け花、和太鼓でのクラブ活動支援
・まちたんけん（２年）、校区探検（３年）や地域環境学習（４年）での引率補助
・６年総合学習時における交通安全見守り
（２）学校行事支援、子どもの安全確保、見守り
・登下校時の見守りや集団登校引率等の見守り運動
（学校運営協議会の取組）
・音楽科学習発表会での消毒作業、保護者入場管理
・運動会での路上パトロールの実施
（３）学校周辺環境整備
・校地内、中庭等の植木剪定、樹木の下回り整備作業等
・校地内花壇の除草、整備作業等


【　学校運営協議会の様子　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・まちたんけんや校区探検実施時に、学級ごとに出発時刻を変えた。
・探検ルートをずらしたりして、できる限り児童が分散するようにした。
・移動の際はマスクを着用し、前後の間隔を開けることを心がけた。
・施設入館の際はアルコール消毒を実施した。
・スムーズな実施のため、地域学校協働活動推進員の方との打合せの時間を確保した。


【 地域環境学習（４年）の様子 】

■　事業の成果
・地域に残る歴史的な建物を目の前にして、町並み保存会や近江商人屋敷の方に直接お話を聞くことができ、より地域に誇りや愛着を持つことができた。
・今年度、まちづくり協議会と連携し、「五個荘わくわくてんびん塾　夏休み勉強会」を開催した。学習だけでなく、風鈴作りなどの体験教室を通して、地域の方々との交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・感染症のため、何年か続いていた裁縫支援や、福祉施設の訪問、地域のサロンとの交流といった活動を今年も中止せざるをえなかった。次年度は何らかの方法で再開できるよう方策を探りたい。
・学校の教育方針を学校運営協議会と共有し、ねらいにあった取組を展開していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
学校ホームページ　http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務　）

報告書記入者（　教務　）

地域とつながる学校づくり「みんなで育てよう　愛東南の子どもたち」

東近江市	活動名：愛東南小学校地学校協働本部	愛東南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度　平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務〇人）　ボランティア登録数：28 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇全校【ボランティアグループ「ブッくんの会」による読み聞かせ】
　週２回の「本の時間」の読み聞かせ
〇クラブ活動【手芸クラブ】　消しゴムはんこの制作指導と支援
〇１年生活科【昔遊び名人に教えてもらおう】
　コマ回し、けん玉、お手玉、おはじきなどの指導と支援
〇２年生活科【菜の花栽培と町たんけん】
　菜の花館とボランティアの方の支援を受けて、菜の花の種まきや世話
　菜の花館見学（町たんけん）
〇３年総合的な学習の時間【愛東の農家の名人さんに学ぼう】
　イチゴ、ネギ、柿、白菜を栽培されている地域の農家さんへの見学
〇４年社会科地域教材【井について調べよう】
　ゲストティーチャーの引率のもと、鯰江井の見学
〇４年生社会科【県内の文化財と年中行事】
　ゲストティーチャーから、地域の神社の祭りについての話を聞き、わらで縄をなう体験を行う。
〇５年総合的な学習の時間【米について調べよう】稲刈り、脱穀の作業
〇５年家庭科【ミシンでソーイング】
　ミシンを使ったエプロン作りの学習支援



【2 年生活科　菜の花の種まき　】



【３年総合的な学習の時間（農家さんへの感謝の会）】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇地域学校協働活動推進員と教職員が打ち合わせをする時間を設定し、学校支援の年間の見通しを共通理解した。また、詳細な打合せは電話やメールで行った。
〇学校側のニーズを地域学校協働活動推進員にしっかり伝え、人材の掘り起こしをしてもらった。
〇校外での活動やゲストティーチャーの招へいなどでは、マスクの着用、検温、換気などの感染対策をとりながら実施した。
〇学校だよりや学年だより等で、ボランティアさんの活動の様子などを紹介した。

■　事業の成果

〇ボランティアグループによる読み聞かせは、長年継続していることで、子ども達の読書の習慣化や質の向上につながっている。
〇地域学習においては、専門的な知識や技能をもっておられるゲストティーチャーを招くことで、より学習効果が上がった。その成果を、保護者や地域の方々、また、招待したゲストティーチャーの方々に発表することができた。
〇今年度、PTA が中心となって行った「観察の森再生プロジェクト」と関わって、２年生が菜の花の種まきをしたことや「菜の花館」を見学したことで、地域や環境への関心が高まった。また、来年度３年生では、菜の花の収穫、油の搾取にもつなげていく予定。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇登録の名簿を年度ごとに見直し、異動等で教職員がかわっても、継続的に地域との連携がとれるような体制づくりが必要である。
〇地域学校協働活動について、保護者や地域への広報活動をより充実させ、新たなボランティアの人材の掘り起こしを進める。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域の教育力を結集し、「地域と共に歩む学校」をめざして

東近江市	活動名：愛東北小学校　地域学校協働本部	愛東北小学校	学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 26 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）　ボランティア登録数：32 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

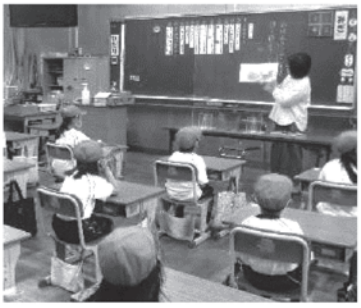
■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①　読み聞かせ活動

愛東北小学校では、読書ボランティアの方の支援によって行っています。全学年を対象にした読み聞かせが、毎月１回、朝の始業前に、また、低学年対象のものが月２回程度、下校前にあります。子どもたちは、ボランティアの方による読み聞かせの日を心待ちにしており、朝、当番が控え室に迎えに来ます。本や絵本や紙芝居など、工夫した読み聞かせをしていただいています。読み聞かせの後、ボランティア間で交流の時間を持ち、お互いの工夫点などを学び合い、常に良いものにしようとしてくださっています。



【　全校読み聞かせ　】

②　５年生「たんぼのこ」体験学習

愛東北小学校は、NPO 法人「茗荷村」、集落の農業法人、ボランティアグループ等の方々の協力を得て、「たんぼのこ」の学習が進められています。

農村地域の本校の児童も、最近では農業体験が少なくなっている中、この体験は、貴重な学習の場となっています。田植え・稲刈りはもちろんのこと、稲の生長を観察する学習を通して、米作りの苦労と喜びを味わうことができました。お米の収穫後には、「感謝の集い」を開き、ご協力いただいたボランティアの方を招いて学習の成果を発表し、収穫の喜びと感謝の気持ちを実感する機会を持ちました。

泥だらけになった田植えや上手に鎌が使えた稲刈りなど、よい体験ができました。



【　たんぼのこ・田植え　】

③　５年生の家庭科ミシン学習への支援・補助

ミシンの学習は、学級担任だけでは十分な指導が行き届きにくく、児童の学習効率や安全面での留意を図るための手立てが必要です。そこで、ボランティアさんを募ったところたくさんの方が協力してくださり、ミシンを使った学習ができました。子どもたちとボランティアさんとで和やかな交流ができ、子どもたちの充実した顔を伺えました。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○　関わっていただく地域の方々と学校との、お互いの負担にならない適度な距離感を保つように努めています。
○　学校への地域住民の関心や思いが高まるよう、ボランティアの人数が増えるように努めています。
○　今年度もコロナ感染拡大防止の観点から、読書ボランティアさんにご協力いただき、検温、体調管理、手指消毒、マスク着用、アクリル板の設置等の対策を講じて実施しました。

■　事業の成果

○　ボランティアの支援により児童の学習効果が上がり、学習への励みになっている。
○　子どもたちと交流する中で、学校に対する理解が深まり支援の輪が広がっているように思われる。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○　子どもたちの学習を充実するため、学校職員と地域コーディネーターの連携を、さらに密にするよう努めます。
○　地域人材を効果的に学校教育につなげるために、地域の情報収集を図るためのアンテナを高くして取り組みます。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○　当本部では、学校の依頼に対し、情報などを集約的に持っておられる所への協力依頼を第一歩としています。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「まちの未来をえがこう！」地域と共に考える子どもたち

東近江市	活動名　湖東第一小地域学校協働本部	湖東第一小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

子どもたちが、自分たちの住む町の未来をえがき、夢や希望を語る場所を作りたい。この課題に向けて、湖東地区の地域コーディネーターが連携して、地区内３小学校で６年国語科『まちの幸福論』（東京書籍）の授業支援に取り組んだ。

各方面で実際にまちづくりに関わる人々にゲストティーチャーとして学校に来ていただき、地域の現状や課題を子どもたちに具体的に伝えるとともに、他の町にない地域の良さも伝え、まちの発展的将来像を子どもなりの発想で考えてもらう取り組みであった。



【地域の取り組みを聞く】

■　実施に当たっての工夫（工夫・対応等）

ゲストティーチャーには市役所職員、まち作り協議会メンバー、民生委員、“コトナリエ（ひばり公園で毎年行われるイルミネーション行事）” 実行委員長など、現状が生で聞ける人々にお願いをした。また、担任の先生の尽力で子どもたちが地域の現場に足を運び関係施設の方々から直接話を聞き考えさせる工夫もあった。町の現実から考え始めることで、自分たちの住む町の未来のために、今あるものを生かした地についた町作りが提案できるように配慮した。

報告に当たっては、手書き資料や写真をタブレットに取り込んでビジュアルなプレゼンテーションを作成し、電子黒板を用いて、一つの画面で参加者が課題を共有できるよう報告もされた。

加えて、子どもたちが考えた町作り提案は、学習に関わっていただいたゲストティーチャーを中心に大人も招いて、学校から外に向けた発信になることを狙った。



【まちの未来プレゼン】

■　事業の成果

市職員の仲介で、湖東地区の行政関係者、商工会役員、地区内の文化施設関係者、そして町づくり協議会役員が集まった「令和４年記念 Year 会議」で、子どもたちが考えた未来のまちのへの提案を紹介する機会が設けられた。この会合から、子どもたちの地域の未来にかける思いを大切にしたい、可能なことから具体的な形で支援していきたい、子どもたちとともに町作りをしたい、と提案のいくつかが実際に動き出している。また、コトナリエ実行委員会との連携で、６年生の手で“コイチナリエ”が小学校の一角に作られ年末の夜を飾ることにもなった。

この取組で、子どもたちは町の課題を知ることはもちろん、知らなかった町の良さにも気づき、町のことをより詳しく知ることができた。

子どもたちが自分たちの町の未来を描くこと、また描いた町づくりが具体的な形となって実現していくことで、町作りへの共同参画意識、将来の町の主人公としての住民意識を高めることができたと考える。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

湖東地区３小学校の連携学習ということで、それぞれの学校の取り組みが交流できることを願っていたが、コロナ禍での対応や時間の確保等で実現はしなかった。ネット会議システムなども活用して交流が図れると、さらに町の将来へつながっていくと考える。この３小学校の多くは湖東中学校に進み、共に学びながら自分たちの未来を共有するだけにその意義は大きい。

国語科に位置づけられた単元であるだけに、来年度以降も継続してこのような取り組みを続けることで、将来多くの実を結ぶものと考えている。市町村合併以降、この地域にあっては少子高齢化社会がいっそう進む傾向が見られるだけに、子どもたちへのこのような働きかけを大切にしたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（湖東中校区内のｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

育てよう湖二っ子！（ありがとう　素直な気持ちを大切に）

東近江市	湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：38 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①読み聞かせボランティア（ポンぽんの会）

毎月第２・第４火曜日の朝読書の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。10 年以上継続して来ていただいている方も多く、子どもたちは大変楽しみにしている。

②総合的な学習や生活科での地域学習

「ふるさと学習」として、地域の特色ある場所や偉人、働く人などにお話をしていただいたり、見学に行ったりさせていただいた。地域の方に出前授業でお話をしていただくこともある。

③学習支援ボランティア

低学年の計算の定着のため、計算ボアンティアとして参加してもらっている。足し算、引き算、九九カードを使って、聞いていただく支援をしてもらっている。また、家庭科でのミシンボランティアの方に製作の支援をしていただいた。

④スクールガード

児童の登下校の見守りをお願いしている。毎日当番制で下校の見守りをしてくださる地域もある。

⑤夏休み宿題教室

長期休業中の学習支援として、平成 29 年から宿題教室を実施している。地域の社会人や大学生、高校生に協力を得て、学習支援を行う。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
・保護者からの人材情報及び地域コーディネーター交流会での情報活用



【計算ボランティア】



【６年生ゲストティーチャー】

■　事業の成果

①学習支援ボランティア

・保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
・子どもの学習を支援していただき、学習意欲の高まりにつながっており、保護者の喜ぶ声もある。
・地域のボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると喜んでくださっている。

②ゲストティーチャー

・学習ニーズに合わせて、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
・地域の方には、子どもたちに少しでもふるさとのことを学んでもらおうと、丁寧に指導してくださる。

③環境ボランティア

・数年来、前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアさんの協力で、前庭や校舎周辺が大変きれいになった。コロナ禍でなかなか環境整備ができない中大変ありがたい支援をしていただいている。

④地域とともにある学校づくり

・地域ボランティアの協力が年々充実する中で、地域の方が主体的に学校支援に向けて取り組んでくださった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域コーディネーターさんには、多くの人材や情報を集めてくださっているので、大変感謝している。環境整備についてのボランティアの人材発掘が難しくなってきている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

（湖東第二小学校）　http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教頭　）

おとなと子どもの「生き甲斐みつけ」「まなび」をつなぐ活動

東近江市	湖東第三小学校　地域学校協働本部	湖東第三小学校　学校運営協議会：□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：27 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考察する主体（該当するすべてに■印）
■学校　■地域学校共同活動推進員　□行政　□その他（　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（１）まち協歴史文化プロジェクトと連携して、２年生の生活科「まちたんけん」、３年生の社会科「地域学習」において、より広がりと深みを持たせた。コーディネーターも積極的にその方針に参画して、『愛知井を辿る』を意識した「まちたんけん」とした。
（２）本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に学校に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、稽古・打合せを実施するなど、熱心な取り組み状況である。昼休みに定期的に発表活動をしている。「朝読書」には、一般の読書ボランティアも巻き込んで毎月の「読み語り」も実施した。中学校への広がりも見せた。コロナ禍にあって、昼休みの「お話会」は学年単位で実施するように工夫した。
（３）１年生の「秋みつけ」で、今年も「すこやかの森グランドゴルフ場」の全面的な協力を得て、工作指導などもお世話いただき、さらに深みと広がりのある活動になった。
（４）２年生では、今年も清水芋（里芋）掘りが実現できた。掘り起こした芋はすべて自分たちが持ち帰るということが、楽しみをさらに深めた。
（５）６年生では、湖東地区小中学校のコーディネーターが互いに連携して、６年生教材「町の未来を考える」に関して、総合的な学習の時間に発展させる取り組みを行った。小学校ごとにプレゼン発表を試みた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇子どもたちが地域のよさに気づいて愛着を持てるよう、４年生の学習として、水道事務所へ訪問した折『愛知井』の箇所とさらに掘削工夫された、「天明」の頃の『天明井』の現場を訪ねた。
〇２年生のまちたんけんと体験学習として、今年も、この地の特産である『清水芋（里芋）』掘りの体験ができた。「植える体験」と「掘る体験」を２回に亘って協力していただき、貴重な体験となった。
〇地域コーディネーター通信を、今年度も月刊で発行した。（通算で 60 号/12 月末で）



【『愛知井とともに』第 60 号は校区（中学校区拡大もあり）に回覧で配布】

■　事業の成果
〇読書ボランティアやその他のボランティアなどが、絡みあって複数の活動へと広がりを見せた。
〇担任とコーディネーターが連携することに、「まち協」歴史文化プロジェクトとの連携も継続した。
〇１年生の生活科「秋みつけ」では、「湖東地区グランドゴルフ連盟」との連携が、すこやかの森での活動に結びついている。
〇『愛知井とともに』を発行し続けている成果として、地域とのつながりがより深くなった。
〇湖東地区のコーディネーターが連携して、６年生の教材「町の未来を考えよう（国語）」を手がかりに、実際の「町作り」への提言を行うなど、コミュニティ・スクールへの連続性が生まれてきた。 その一環として、湖東第二小学校へのゲストティーチャーとして関わった。



【６年生にとって初めての「近江商人郷土館」見学】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇コーディネーターと各担任との連絡調整を行うには放課後のわずかな時間しかない。限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。
■　その他
「まち協」子育て支援プロジェクトとの連携も模索した。

■コーディネーターと協同する学校関係者　（該当するすべてに■印）
■校長　■教頭　■地域担当職員　■各担任　■労務員

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

子どもたちにとって安心・安全な居場所づくりをめざして～人とのかかわりを大切に～

東近江市	能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：74 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【環境整備】

ボランティアさんからの提案で、校舎内外の環境整備を行っている。例年に引き続き、ミシンのメンテナンスを行った。また、家庭科室使用前の清掃・準備をした。

【学習支援】

図画工作科での電動のこぎりや家庭科でのミシンを使う作業や家庭科の調理実習において学習支援を行った。機械操作や電子調理器を使う作業で多くの人が支援することにより、子どもたちが安全に活動できるようにした。

【ゲストティーチャー】

人から直接学ぶ学習や交流体験学習を大切にしている。６年生では能体験学習を行い、地域の方から伝統文化を学んだ。実際に面を見つけさせてもらったり、目の前で演じてもらったりして、貴重な体験となった。３年生では地域で働く農家の方からお話を直接していただき、自分の住む地域の農業の様子を学ぶことができた。



【　調理実習支援　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・２学期前半までは、新型コロナウィルス感染防止のため、ボランティアと子どもたちが直接出会う活動は控えるようにした。子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりに今できることは何かを考えて、できることを少しでもしていくようにした。
・年度当初に各学年と打ち合わせを行い、１年間の見通しをもって、計画的に活動できるようにしている。
・推進員のネットワークやボランティアさんとのつながりを活用しながら、学校支援の輪を広げるとともに、お互いの交流を大切にしている。

■　事業の成果

・今年度も、４名の方が新たに登録してくださり、ボランティアさんが計 74 名となった。なかなか今までと同じような支援活動はできなかったが、コロナ禍でもできるかかわりを考え、子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをしていきたい。



【　能体験学習　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校がめざす子ども像との関連を明確にし、そのために教育活動の中にどのように位置づけ、活用・運用していくかの熟議が必要。
・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくし、「連携」「つながり」を大事にしたい。
・人から学ぶことを大切にし、人とかかわる力・つながる力をつけたい。（教師も）

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

「郷土を愛し、ふるさとを大切にする子」をめざして　～能登川西小学校～

東近江市	活動名：能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：約 60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）ふるさと発見

２年生「町たんけん」、３年生「地域学習」、５年生「みずっこ調査隊」、６年生「ふるさと発見」において、コーディネーターが担任や児童を支援し、地域の自然や人や歴史を発掘し、資料を提供したり打ち合わせをしたりして主体的な学習の連携をしました。

（２）園芸ボランティア

コーディネーターが環境ボランティアを募集して、児童とともに、プランターの苗を植えたり、草取りをしたりしました。このように地域と児童の連携による作物を育てたり、花を育てたりする取り組みは大変有意義なものです。

（３）マラソンとさわやかロードボランティア

コーディネーターが立哨ボランティアを募集して、マラソン試走日とマラソン大会で、マラソンコースの安全立哨と応援を依頼しました。沿道に立ってくださり見守り励ましてくださったことで、子どもたちのやる気が高まりました。朝の交通立哨やあいさつ運動での日常的な取組が、子どもたちの安心につながった連携でした。



【　３年生地域学習　】



【　２年生園芸ボランティア　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○１学期末に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を全戸配付し学区の方々に理解と協力が得られるようにしました。

○西小学校区地域教育協議会のネットワークを活用して、さらに支援者を広げる努力をしています。

■　事業の成果

○地域コーディネーターの働きにより、持続可能な、発展が期待できる事業となりました。

○人との関わりを通して、子どもたちの体験が「ほんもの」の体験になり「感動」の共鳴になり、いろいろな人から認められほめられる場面が増えることで、子どもたちの自尊感情が高まり、ふるさとが好きになり、地域や自分に自信と誇りを持ちました。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○これからも持続可能で発展する取組になるように、丁寧に引き継ぎを行い、アンテナを高くして支援者を募り、子どもたちの自主的な活動となるようにしていきたいと思います。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域に感謝　子ども応援隊

東近江市	能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：150 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）「猪子山活動」

本校は猪子山の麓にあることから身近な教材として、全学年が年間を通して、下記のねらい（一部抜粋）のもと活動に取り組んでいる。

・四季折々の美しさを見せる猪子山に関わることで郷土の自然の豊かさを体感し、身近な自然を愛する態度を養う。

・仲間とともに活動することで、思いやりや助け合いの心を養う。

・活動を支援してくださっている方々への感謝の気持ちを養う。

活動には、保護者を含め地域のボランティア、外部講師、地域の有識者等、たくさんの大人たちがかかわってくださっている。



【　猪子山活動　】

（２）「山路川調査」

本校５年生は、水環境学習の一環として校区内を流れる山路川の水質および水生生物の観察・調査を行っている。この学習では、地域の環境の現状や環境を保全する人々の工夫や努力を理解し、自分たちにできることを考えていこうとする学習である。活動には、地域ボランティアをはじめ、『琵琶湖お魚探検隊』の方を講師に招いている。



【　山路川調査　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

昨年同様に、できる限り密になる活動は避け室内の活動を自粛したため、地域との関わりが減少した。野外活動が中心になったが、来校時の感染予防への協力をお願いしながら行った。

■　事業の成果

コロナ禍により、地域の方とともに活動する機会はここ２年減っているものの、毎週の芝生管理作業や各学年の地域学習への協力・参加、および安全確保に関する取組等をしてくださる地域の方々の姿を見て、子どもたちは感謝の気持ちを深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの方は、地域でも様々な活動をされている方が多く、今後、無理なく安定して活動していただくためにも、新規ボランティアを募り、組織の充実を図っていく必要がある。

コロナ禍で、いかに地域と連携した活動を取り入れて学習効果をあげるか、また、新たな連携・協働の在り方を探っていくことも重要だと考える。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（各活動担当）

報告書記入者（　協働活動推進員　）

地域と共に歩む学校！ボランティアによる安心・安全の学習サポートと環境整備！

東近江市	能登川北小学校　地域学校協働本部	能登川北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数：27 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇地域と学校が協働した活動

（１）学習ボランティアによる学習指導・学習支援

・算数科･･･学力補充の個別指導（全学年）
・社会科･･･米作り体験（５年）
・家庭科･･･ミシン・裁縫（５年）
・音楽科･･･雅楽体験（６年）
・総合的な学習の時間･･･ハウス野菜の土づくり・栽培（６年）
・学校行事（マラソン練習と大会）サポート
・朝学習･･･読み聞かせ（第１週・第３週）（全学年）

（２）環境ボランティアによる校地内環境整備

・樹木の剪定や校地の除草、花壇の世話・水やり等、学校の環境整備を実施

（３）登下校時の児童の見守り活動

・登校時の安全ボランティアや下校時のお迎え当番の活動



【学力補充の個別指導】



【ミシン・裁縫】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇協力体制が必要なものにしぼって取り組んだ。学習面でのサポートの機会が見送られた分、ＰＴＡ活動に代わっての剪定、定期的な除草作業・剪定を行った。

■　事業の成果

〇学習ボランティアの専門的な指導や個別指導により、子どもが分かりやすく安心して学習に取り組むことができた。

〇行事に協力していただくことで、職員の負担軽減と安全安心の見守り体制の確保ができた。

〇地域コーディネーターが、年間のスケジュールを把握し、前年度の経験を生かすことで、見通しをもった支援につながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇これまでからある組織や連携事業を、今後いかに地域と学校の協働事業へと発展させていくのかが課題である。また、地域と学校が連携してどのような子どもを育てるのか、地域学校協働活動の将来のビジョンをどう描くのか等を話し合う機会を設定することが必要である。

〇学校課題として、登下校の児童の安全確保がある。教職員やＰＴＡの活動だけでは、困難な状況にあり、今後は幅広く地域の方々の見守り体制を構築することが急務である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇来年度、コミュニティ・スクールのモデル校になることを受け、地域連携のあり方を新たに設置する学校運営協議会で検討していく。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　担任・養護教員・事務職員　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。

東近江市	蒲生東小学校　地域学校協働本部	蒲生東小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：27 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［ あかね通学合宿ボランティア ］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

「生活科」や「社会科」「理科」「総合的な学習の時間」などで、地域教材をいかしたり、体験活動をもとにして学んだりする活動などで、地域住民ならではの経験をいかしたゲストティーチャーや学習支援・安全支援等を実施しています。

今年度は、１年生の生活科「いちにのさんぽ」、２年生の生活科「学校周辺探検」、総合的な学習の時間では、３年生の「昔の生活体験」、４年生の「福祉シニア体験」「高齢者交流会」、５年生の「田んぼの学習」、他に６年生の社会科「あかね古墳見学」・理科「地層見学」などへの支援をしています。



【１・２年生　焼き芋体験】

また、マラソン大会の走路の安全管理と立哨は、ボランティアですべて行なっており、試走を含めて３回のタイム測定が実施できています。

昨年より、地域のグランドゴルフサークルの皆さんと４年生が交流しています。サークルの皆さんにはたいへん喜んでいただいています。地域の方の生きがいづくりに寄与できる活動を広げていければと考えています。

■　実施に当たっての工夫　（コロナ渦における工夫・対応等）

平成 13 年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続しています。「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性を活かそう」という考えを基本に、少しずつ支援の輪を広げながら活動を続けています。

毎月定例のボランティア会議では、実施した活動について反省を出し合います。また、２～３か月先を見通して参加者を募っています。今年度は、できる限りの新型コロナウィルス感染症拡大防止の対策をして、活動を進めてきました。

調理を伴う活動が困難な状況であり、１・２年が収穫したさつまいもをどうするか困っていました。そこで、ボランティアで焼き芋をすることになりました。煙の香りとともに食べたあつあつの味は、とてもいい思い出になりました。

コロナ渦で通学合宿が開催できませんでした。新たなボランティアの発掘の場となっていますので、残念でした。

■　事業の成果

地域の方々の専門性や技能を生かした支援や安全への配慮をしていただき、豊かな学習活動を展開することができています。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上し、郷土愛を培うことにもつながっています。

子どもたちは、ボランティアの専門的な知識や技能にふれたり、多様な体験の機会を得られたりすることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲を高めることができています。ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながら安心して活動しています

子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を活かした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの誇りでもあり、郷土愛を高めることにもなっています。

恒例となっている活動への支援については、参加されるボランティアの方々が内容をしっかりと把握して参加され、ボランティア会議で振り返りを行い、次年度の活動に生かすという流れができています。



【６年生　あかね古墳見学】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の良さを感じながら創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新しいボランティアの参加や育成、ボランティアに求められる新たなニーズへの対応が課題となっています。毎月のボランティア会議への参加は難しいが、できるところで支援したいという方がおられると考えます。広くボランティアを募集できるシステム作りが期待されます。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

来年度は、学校運営協議会が立ち上がります。ボランティアとの連携が重要だと考えています。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　校長　）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。

東近江市	活動名 ： 蒲生西小地域学校協働本部	蒲生西小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：29 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

（1）「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。

（2）「田んぼの学校」や「総合的な学習の時間」の取り組みでは、学校支援ボランティアに協力してもらい、学習指導をおこなっている。また、地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業をおこない、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、これによって地域の教育力も高められている。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・２年生の生活科「野菜をそだてよう」では、野菜栽培に詳しいボランティアさんに種まきから収穫までの期間長期にわたってご指導・アドバイスをいただく活動を行っている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇昨年度より学校支援ボランティアを広く地域に募集し、応募いただいた方を中心にボランティア活動を推進した。ボランティア会議をもち、活動の予定や活動内容の紹介、ボランティア同士の自己紹介を行った。これまで関わりが限定的だった方も（スクールガードはスクールガード、図書ボランティアは図書ボランティアのみの活動ということが多かった）、広く学校支援の活動に参加いただける形にした。

〇コロナ禍においても感染防止対策を行い、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。



【　２年　さつまいもの収穫　】

■　事業の成果

〇地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇ボランティアの方の高齢化による負担感があるため、保護者や地域の学生へのボランティア活動への参加を呼び掛ける。

〇昨年度地域にボランティアを公募したことを継続して、安定的な人材確保に努める。



【　毎週の読み語り　】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当者　）

地域の文化・歴史・人を知り、ふるさとをもっと好きになろう

東近江市	活動名 ：蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：55 人（ＳＧ47、図書５、その他３）

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

〇蒲生北小学校や校区の「良いところ」と「課題」について協議、集約。
〇今後の活動について提案、協議。
・ボランティアの組織を立ち上げ、活動ごとに参加依頼をする。活動内容によって、地域のエキスパートを呼び込む。
・学校の一室を開放し、公民館的な役割を担わせる。カルチャースクールや放課後クラブ等。
・地域教材をつくり、地域をあげて郷土愛の育成に努める。
・「防災」をキーワードに人をつなぐ、地域をつなぐ。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇ふるさと発見学習・・・２年生社会科「町たんけん」や４年生総合的な学習「日野川探検」で、地域の方から直接地域の文化や歴史などのお話をうかがった。児童からの質問にも丁寧に答えていただいている
〇学習支援活動　・・・５年生「田んぼの学習」や特別支援学級「自立（畑）活動」で、米作りや野菜作りについて指導いただいた。
図書ボランティアからは、読み聞かせのかわりに動画教材を作成いただいた。
定期的に登校旗を修繕いただいたり、学校周辺の除草作業をしいただいたりもしている。



【日野川探検】
川の生き物について説明を受ける

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・例年であれば一般にも広く募集していたボランティア（田んぼの学習等での）の募集を停止した。また、保護者の参加についても見送った。
・地域の方との交流がある場合は、検温の記録や体調のチェック等互いの体調管理に配慮した。また、マスク＋フェイスシールド着用やパーテーションの設置、手指消毒の励行等で感染予防を図った。



【町たんけん】
過去の水害について説明を受ける

■　事業の成果

・地域に根差した文化や歴史を直接お聞きすることで、深い学びにつながった。
・専門的な知識に基づく支援をいただき、教職員の学びにもつながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・例年行っていた「通学合宿」や昨年度行った「防災キャンプ」の取組を、学校運営協議会の取組として改めて立ち上げていきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（事務職員）

報告書記入者（　教頭　）

地域に根ざし、地域と共に育つ学校の創造を目指して

東近江市	活動名 ： 玉園地域学校協働本部	玉園中学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：５人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）３年生玉園フェスタにおける八風太鼓の演奏
御園地区の八風太鼓を、３年生の玉園フェスタ活動の一部に加え、地域の方に指導をしていただき、地域文化を広め、地域の良さを確認する。地域で八風太鼓を習っている生徒が、他の生徒に太鼓の演奏を指導することで、より地域との関係が深まった。また、地域の先輩に指導を受けることで地域における縦のつながりが深まりつつある。



【　八風太鼓練習風景　】

（２）部活動（ソフトテニス）の指導において、専門的な技術指導をしていただいている。

（３）性教育や薬物乱用防止、がん教育の授業など、専門的な知識を持ち合わせている地域の教育機関（大学等）の専門家を招聘して授業をしていただく。（本年度はコロナウイルス感染症予防対策として全ての事業を中止）

（４）平和学習においては、愛東地区の県立平和祈念館のスタッフにお願いして、地域に根ざした平和学習を展開している。（２月に実施予定。）

（５）福祉体験学習として、東近江市ハートピアと協働し学習活動を展開した。

（６）地域の文化祭に生徒作品を展示し、学校での学習活動の成果を地域の方に見て頂く機会とした。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇地域のコミュニティーセンターとの連携をより深くする。
〇校区内に在住する中学校教育に必要な人材（ボランティア）の発掘につとめる。
〇リモートによる講演などを企画していく必要がある。

■　事業の成果

〇地域コーディネーターを中心に、地域の伝統文化である八風太鼓の演奏取り組みは、五年目を迎え定着しつつある。地域の文化と学校の融合、中学校と地域の関わりを築いている。本年度は３年生 20 名（男子 11 名、女子９名）が自主参加した。
〇部活動指導においては、生徒が専門的な技能指導を受けることによって、生徒の健全育成に大いに役立っている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇コロナ禍で地域の活動が困難な状況となる中で「八風太鼓」の取り組みは地域文化の継承・地域の方との交流という意味でも継続発展していく意義はある。
〇地域に精通しておられるコーディネーター的人材が高齢化等により不足しており協働活動のコーディネートが困難な状況になりつつある。
〇生徒会と地域が結びつく協働活動が展開できるアイデアを模索したい。



■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　校長　）

学校と地域が両輪となり推進する学校づくり

東近江市	活動名：聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和３年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：36 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①図書ボランティアによる読み語りを４月から各学年に定期的に実施していただいた。
②朝の挨拶運動に参加していただいた。
③環境ボランティアさんによる除草作業をしていただいた。



【　読み語り　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

①４月当初、挨拶運動・読み語りについては、コロナ禍であるが実施する方向を決定した。
②読み語りの時は、アクリル板を設置し飛沫がとばないように対策を行っている。
③環境整備については、２学期からコロナの感染状況に合わせて検討し実施している。

■　事業の成果

①読み語りは、継続して実施しているので、年々効果は上がっている。生徒も非常に落ち着いて聞き入っている。
②環境ボランティアは、２学期からおもに月２回土曜日に行っていただいており、大規模改修を終えた学校の環境がさらに良くなった。
③朝の挨拶運動も継続して実施しており、徐々に挨拶をかわせる生徒が増えてきた。



【　挨拶運動　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①コミュニティスクールに移行するには、現状では課題が多い。
②これ以上事業規模を大きくすることは難しい。
③中学校が必要とする人材発掘をすることがなかなか難しい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（部活顧問、事務職員）

報告書記入者（　校長　）

『力いっぱい！心いっぱい！』地域とつながろうプロジェクト　～チーム船岡～

東近江市	船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：５人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

＝地域に見守られて＝

（１）図書室開放隊

本校では毎週月・水・木曜日の昼休みに図書室を開放している。生徒会の担当者が図書室の解錠・施錠を行っている。そのため、20 分間の昼休みの内、運営できているのは 10 分程度である。そこで、地域の力をお借りして、図書室の解錠・施錠を行っていただき、運営時間を確保した。



【　図書室開放隊　】

（２）部活動支援の実施

昨年に引き続き男子ソフトテニス部と本年度から女子ソフトテニス部・吹奏楽部に対して、技術指導を行っていただいた。



【　部活動指導　】

（３）その他

・救護用の担架を収納するケース BOX のように、必要な物を制作いただいたり、体育大会で使用する竹を調達していただいた。

・２年生で実施していた職場体験学習が中止となった。そこで、地域の方数名をゲスト・ティーチャーとし、働くことについて学習を行った。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

（１）・コロナ感染を配慮し、現在は、解錠・施錠が中心の動きで、生徒との距離をおいている。今後は、貸し出しなども行い、生徒との交流を予定している。

・図書室の担当教員とボランティアさんが、連携を密にすることで、昼休み時間等の変更に対応する。

（２）・コロナ感染防止のため、活動日や時間等の変更が多かったため、担当教員との連携を密に行った。



【　救護担架収納ＢＯＸづくり　】

■　事業の成果

（１）昼休み時間 20 分を有効に活用することができ、開放時間が増えたことで生徒からの喜びの声も多い。

（２）競技専門者からの指導は、生徒の部活動に対する取り組み姿勢に向上心をもたせることにつながった。

（３）学校だけでの行動・取組よりも、学習内容に深み、高まりがある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

コロナ禍の中、今年も多くの地域交流（祭り、運動会、文化祭など）活動が中止となった。そのため、自分の住んでいる地域の良さを知り、地域の一員として様々な活動に取り組み、参画することで、「自尊感情の育成」につなげることができなかったことが残念である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域と学校が協働し、自然豊かな環境の整備を通して、持続可能な環境づくりを推進する。

東近江市	活動名 ： 永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校	学校運営協議会： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人　ボランティア登録数：4 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

生徒数の減少によるＰＴＡ会員数の減少に伴い、学校環境の維持が難しくなっている。
校地内の木が大きくなりすぎて、落葉や落木による学校環境への影響が出ている。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

校地内環境整備

○葉狩りや除草は労務員が対応しているが、敷地が広く、また高木は対応できないため追い付かない。
○地域の方がボランティアで学校の除草や葉狩りをしてくださるので、とても助かっている。
・PTA 役員の方を中心に、有志の方々による除草活動
・地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）のコーディネートにより、グラウンドやテニスコートに覆いかぶさるように成長した樹木の剪定や伐採など、学校だけでは対応できない部分でご協力いただき、見通しの良い校地になった。
・地域の方で自主的に校地まわりの除草作業をしてくださっている方がおられる。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・窓口を校長が担当し、連絡調整している。
・活動の実施に際して、コロナ対策を含め事前の打ち合わせを丁寧に行った。目的の共有や、配慮を要すること、当日までの準備等について具体的な打ち合わせをすることで、トラブルなく行えた。
・無理なくボランティアの範囲で行っていただけるよう配慮している。



【テニスコートに覆いかぶさっていた木】

■ 事業の成果

・学校の教職員のみでは安全に行うことができない活動を行うことができた。広い校地内に生い茂っている樹木のなかには、立ち枯れしていて危険なものや、校舎に接して光を遮ってしまうものもあるため、技術や機械が必要なため学校だけでは処理することができなかった。
・ボランティアの皆さんや地域の皆さんの力が目に見えるので、地域に育まれている学校という意識が生徒と職員に育っている。



【　軽トラックに積み込み　】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・生徒の学校生活（授業や部活動など）との日程調整が難しかった。
・20 年以上前に植えられた木が育って、素人には手が付けられなくなっていることから、今後もボランティアさんの協力を得ながら環境整備を継続する必要がある。技術を持った方が少なくなっている。
・生徒数の減少により学校職員の数も減り続けることから、持続可能な環境づくりを考えていかなければならない。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・作業していただくには燃料費もかかるが、全て無償でやっていただいている。感謝しかない。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　校長　）

豊かな情操と自主性を育む地域との連携

東近江市	活動名　：五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校	学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：16 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域学校協働活動に関わる内容等

生徒の情操や想像力、自主性を育むために、地域学校協働活動が学校の教育活動やＰＴＡ活動などとうまく連携することが効果的であるという認識のもと、ＰＴＡ講演会では絵本作家を招きお話を聞いた。学校を核としたそれぞれの活動をうまく結びつけることができた。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①読書ボランティアによる読み聞かせ

毎月１回、朝読書の時間に「ひまわりお話会」の方に各教室で読書読み聞かせをしていただいている。絵本や物語など想像力や感受性に訴える内容の読み聞かせとなっており生徒は熱心に聞いている。今年度はPTA 活動でも絵本作家の講演会を行っており、「本との出会い」を大切にした活動を目指している。



【絵本の読み聞かせの様子】

②部活動支援

剣道部の指導をお願いしており専門的な技術をはじめ、礼儀・作法等も指導をしていただいている。生徒たちはたいへん意欲的に取り組んでおり、本年度は交流戦として行われたブロックの大会において個人戦で好成績を収め、団体戦でも女子が２位になるなど、よい結果につながっている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・「読書読み聞かせボランティア活動」についてはボランティア来校時の検温および体調把握、学級でのフェースガード着用をお願いして実施している。

・部活動の支援にあったては管理職、顧問と指導者とが密に連絡をとりながら、指導方法や練習日程について調整を行っている。



【剣道部での指導の様子】

■　事業の成果

昨年度実施できなかった図書館開放支援ならびに朝読書時の読み聞かせボランティアの活動が実施できたことで読書の魅力や読書の味わい方に気づく生徒が増えた。さらに図書館司書やＰＴＡ活動とも連携し絵本の奥深さを伝えるイベントを行ったことで生徒の保護者を含めて読書への興味関心が増した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校の教育活動において生徒が地域と関わって学びを深めていくことや、ボランティアの方にご協力いただくことは効果的であると考えている。しかしコロナ禍において、安心・安全の観点から地域と学校双方が積極的に関わっていくことに多少の不安もあるため、できること・できないことを常に見極める必要がある。ただ、ボランティアの方や指導者の方は学校教育に非常に理解があり、今後もぜひ活動を継続していきたいと考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

五個荘地区は、「地域の子どもは地域で育てる」をキャッチフレーズに、青少年育成に関して熱心な地域であり、地域学校協働活動推進員をはじめ、多くの地域の方々に支えられながら、日常活動や防災学習等の行事に協力していただいている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教頭　）

地域の力で、ふるさと愛東が好きな愛東中生を育てよう！

東近江市	活動名：愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：７人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

地域の素晴らしい自然、歴史、産業、取り組み、施設等を知り、愛東が好きな子どもたちを地域と学校が協力して育てていく取り組みを進めた。

○「総合的な学習の時間」において、地域の人、もの、事業所、施設を活かした地域学習、環境学習、平和学習、職場体験学習、福祉体験学習を実施した。
○生徒会のボランティア活動として、地域の方々と協働して歩道の花植えなどを実施した。
○地域と連携しての人権学習を行った。（ジェリービーンズのライブ）



【　２年　職場体験学習　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○「総合的な学習の時間」の実施に関しては、事前に会議を開き、学校の情報と地域の情報を交流するとともに、感染症対策についても入念に打ち合わせをした。
○定期的にコーディネーター校長が話し合いを持ち、学校の困っていること、地域が学校に望んでいることの情報交換を行った。
○学期に１回、校区の小中学校と校区の地域コーディネーターが集まり、情報交換を行った。

■　事業の成果

○全学年で、ふるさと愛東に関わる「総合的な学習の時間」の授業実施により、生徒たちに郷土愛が芽生えるとともに、地域の方々に生徒の様子を見ていただいたり、学校の学習内容を理解していただいたりすることができた。
○学校やＰＴＡ活動ではできない環境整備ができた。
○生徒も地域の一員としてボランティア参加し、地域活動の意義を学ぶことができた。


【　歩道の鉢植え　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校行事や部活動との関係から、日程調整が難しい。
○コーディネーターと連携し、また学校ＨＰ等で学校の活動について発信・周知し、部活動指導やゲストティーチャーなどに携っていただける地域の人材を発掘していきたい。
○今年度もコロナ感染症の影響で、地域行事の多くが中止となってしまった。
来年度も活動について、地域の感染状況に応じた調整が必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

生徒達の活動の様子は、学校ホームページ（地域向け）や配信メールアプリコドモン（保護者向け）で発信している。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域と連携し、ともに歩む学校

東近江市	湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：15 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）図書ボランティアによる本の読み聞かせを毎月１回行っている。

（２）ボランティアによる地域学習。
　１年生と３年生に、湖東地域の歴史や地理に関する説明をしていただいた。

（３）ボランティアによる人権学習。
　１年生と２年生に、障害者理解についての講演を行っていただいた。

（４）行政（青少年育成会・保護司会・ＰＴＡ）と連携し、登校時の見守りをしていただいた。

（５）部活動支援として、卓球・バレーボール・バスケットボールの部活動で、地域の方による技術指導を行っていただいた。

（６）生徒の普段の活動では行うことが難しい樹木の手入れ等の環境整備をしていただいた。



【　読み聞かせ　】

（７）学校図書室の書架移動と耐震対策整備等の整備を行っていただき、蔵書数を増やすことができた。

（８）地域主催の行事に、中学生ボランティアとして生徒が参加する。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

　例年は、湖東ふるさと祭り等のイベントへ中学生のボランティアが参加協力を行っているが、コロナ禍によりイベントが中止となった。そのため湖東地域のみに流れる有線放送で、地域主催の標語入賞作品を放送する等、できることで地域の活動に協力した。



【　地域学習　】

■　事業の成果

（１）本の読み聞かせでは、穏やかな時間を過ごすことにより良い一日のスタートとなるとともに、読書活動への関心を高めることができた。

（２）地域学習では、自分たちの住んでいる湖東地域についての学びを深め、地域への関心を高めることができた。

（３）部活動の支援をいただくことで、技術面や精神面での生徒の良い成長につなげることができた。また、指導者が増えることで、生徒により細かな対応をすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

（１）生徒会を参加させることにより、地域と学校、生徒にとってより有意義な活動としていくこと。

（２）様々な技能をもつ地域人材の情報集約と協力体制の構築。

（３）開かれた学校を目指し、定期的な運営会議の開催等。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　校長　）

地域コーディネーターを中心とした地域人材による学校・地域の環境整備

東近江市	能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：27 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

１　能登川地区まちづくり協議会が主催している、駅前に設置されているプランターの花植活動に、例年、本校生徒も参加しています。

花植は春と秋の２回行い、その後の水やりなどの世話は、生徒が当番を決め、学校への登校前に行っています。夏休みや冬休み中も欠かさず行っています。本校では、この取組を「フラ輪ー・プロジェクト」と称し、今では、生徒会事業の１つに位置づけ、引き継がれているイベントとなっています。

一昨年から、この取組に地域学校協働ボランティアの方々も加わり、一緒に作業を行いました。その結果、地域学校協働活動推進員の提案により、この取組を中学生だけではなく、中学校区の小学校や高等学校にも呼びかけ、地域全体の取組に広げていく方向で進行しています。



【　駅前での花植活動　】

２　毎月、小学校、中学校の校地内の草刈りや樹木の剪定作業に来ていただいています。地域コーディネーターの呼びかけで、毎回５～６人のボランティアの方々に手分けをして草刈り、樹木の剪定のお手伝いをしていただきました。例年ＰＴＡ奉仕作業などでも校地内の環境整備をお願いしていましたが、今年も新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点より中止となり、環境整備をしていただく機会が激減した中、ボランティアの方々には大いに助けていただきました。



【　校地内の剪定作業　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

一昨年から生徒会図書委員会が行う昼休みの図書室運営を図書委員会とボランティアの方々と協働していただいておりました。ただ、今年もコロナ禍の中、対面で行う活動もあるため、残念ながら活動していただけませんでした。次年度こそは再開できるように準備を進めていきたいと考えています。

■　事業の成果

１　まちづくり協議会と学校との間に、地域学校協働活動推進員が入ったことで、きめ細かな打ち合わせが効率的に行えた。また、中学校だけの協力体制から小学校や高校を巻き込む事業へと広がりを見せた。

２　学校の環境整備につきましては、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症等まん延防止の観点より、ＰＴＡ奉仕作業を中止するなど、学校の環境整備をしていただく機会が激減する中、地域コーディネーターをはじめボランティアの方々には大いに助けていただきました。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校行事の中でボランティアさんにどのようにかかわっていただくかを検証すること。

○ボランティア活動とは言うものの、消耗品等の購入予算がないこと。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域の力で心豊かに育まれる蒲生の子どもたち

東近江市	活動名：朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：３人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

部活動支援

・外部コーチ（協働活動支援員）の方に来校いただき、剣道部とサッカー部等の指導をしていただいた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・協働活動支援員による部活動の指導においては、指導時におけるマスクや専用フェイスシールドの着用、手指の消毒等の感染防止対策の実施。
・事前の検温。
・感染予防を考慮した練習メニューの作成とその指導。



【剣道部の指導の様子その１】

■　事業の成果

・優れた指導により、技術面はもとより、精神面においても生徒の能力が向上した。
・能力が向上することで、部員一人一人に自信が芽生えた。
・地域学校協働活動推進員の働きによって円滑に、地域と連携した取組を進めることができた。



【剣道部の指導の様子その２】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・指導の時間がさらに確保できると望ましい。
・働き方改革を踏まえて、さらに多くの部活動において同様の指導が実施されることが望まれる。
・地域学校協働活動推進員の方とは、今後コロナ禍にまつわる様々な課題について指導や助言及びご協力をいただきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　部活動顧問　）

報告書記入者（　教頭　）

One Team 柏原 「はびろの里コミュニティ」

米原市	活動名： 柏原学区地域学校協働本部	柏原こども園 学校運営協議会 □ 有 ■ 無 柏原小学校・中学校 学校運営協議会 ■ 有 □ 無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務３人）　ボランティア登録数：47 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り
□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員　■行政　■その他（消防署等）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・柏小・・・はびろウォークを行うにあたって、コースやチェックポイントの場所、地域に関するクイズや講話の内容などについて話し合う予定だった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で会議を開くことができず、主に学校が計画した内容を役員の皆さんに確認していただく形をとった。
・柏中・・・市防災課の職員でもある委員の提案により、防災講話や防災訓練で行政と連携して実施することができた。


【はびろウォークラリー】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・柏小「はびろウォークラリー」・・・柏原地区を縦割り班に分かれて歩き、地域の方たちや歴史、自然などとふれあった。10 ヶ所のチェックポイントでは、その場所に関係するクイズに挑戦したり、お話を聞いたりした。また、チェックポイントでは学校運営協議会委員やボランティアとジャンケンをするなど、短い時間だったが交流することもできた。時間は得点に反映しなかったが、クイズとジャンケンの得点の合計点を班で競うことにしたので、クイズでは皆が協力して真剣に考え、ジャンケンではどこのチェックポイントでも大変な盛り上がりだった。
・柏中「地域防災訓練」・・・６月には生徒の手でかまどベンチを製作し、７月には本校体育館・校舎等を使ってコロナ禍における防災訓練を行った。生徒が避難所の設営やかまどベンチを使って非常食の炊き出しを行い、参加いただいた保護者や地域住民に提供した。避難所のテントや簡易ベット、トイレ等は市危機管理課からお借りし、地震体験や煙体験のために消防署にも協力いただいた。



【地域防災訓練：テント設営】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・柏小・・・屋外での活動だったがマスク着用と手指消毒をしっかりと行った。集合時に並ぶときも間隔を開けるように指導した。年度当初は中学生との合同実施を予定していたが、今回は見合わせた。また、ボランティアについてもできるだけ少人数でお願いした。
・柏中・・・「コロナ禍での災害」を想定し、炊き出しは本格的な調理ではなく、非常食「アルファ米」を使用してお湯を沸かすだけにとどめた。しかし、その簡易さが生徒にとって割り当てられた仕事をスムーズに行うことにつながり、全生徒が活躍できることにつながった。

■ 事業の成果

・柏小・・・学校行事の中止が相次ぐ中、はびろウォークを実施でき、子どもたちは学校の外での活動に心弾ませ、のびのびと活動することができた。自分たちの住む地域のことを改めて知ったり、より詳しく探求したりすることができた。また、上学年はリーダーシップをとるチャンスの場でもあり、班長は下学年の子たちに寄り添って歩いたり、皆がクイズに参加できるように声をかけたりすることができた。さらには公共のマナーを守りながら歩いたり、出会う人たちにしっかりとあいさつをしたりする姿も見られた。
・柏中・・・保護者・地域住民のみならず、行政や関係機関と連携しながら実施することで中身の濃い事業となった。生徒が活動の主体となり、災害を自分事として意識するための貴重な体験であった。また、これからの地域を担う者として、これなら自分にもできるという意識が持てた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・事業の実施は学校運営協議会委員やボランティアの協力なしでは難しい。コロナ禍での対応が今後も続きそうなことから、臨機応変に活動計画を変更できる組織作りが必要である。また、このような状況を踏まえた新たな計画を模索しなければならない。また、各校園の交流についても慎重に考えていかなければならない。そのために、学校運営協議会と連携し、さらなる情報の共有や熟議が重要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・事業には学校運営協議会委員にも積極的に参画していただいている。こども園は学運協には参画しないが、柏原区では従来から連携をしており、今後もこども園と小・中学校で地域を巻き込んだ実践を行う予定である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■ 校長　■ 教頭　■ 地域連携担当教員　□その他

報告書記入者（ 中学校校長・小学校教頭 ）

『子どもの地域の宝』　～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てよう！～

米原市	活動名 ： 河南学区地域学校協働本部	河南小学校、河南中学校、かなん認定こども園 学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務２人）　ボランティア登録数：110 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
・コロナ禍であっても、地域人材の力を校園にいかに活用すべきか、その方法等について協議された。
・昨年度はコロナ禍で実施できなかった学校運営協議会が主催する「河南学区まいばら教育フォーラム」を、どのような形態で開催していくべきか、また開催時期についても協議された。さらに開催にあたっての感染対策についても協議された。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
当学区は中山道の宿場町（醒井宿、番場宿）であった地域のため、歴史・文化の史跡も多く、小中学校ともに地域学習に取り組んでいる。その活動には地域活性化を目的に活動されている「番場の歴史を知り明日を考える会」等のご支援をいただきながら実施している。また小学校での「ふれあい広場」では、地域のサロンの方々にご協力いただきながら実施している。


【 河南小学校 ふれあい広場 】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・講師や学習ボランティアはできるだけ河南学区に在住の方々にご協力願うため、地域学校協働活動推進員が人材発掘に努めた。
・昨年度実施できなかった「河南学区教育フォーラム」について、参加対象者を学校ボランティア関係者のみとして密を避けた。ボランティア自身も、他のボランティア活動の様子を知るよい機会となった。


【 河南中学校 家庭科手縫い学習支援 】

■　事業の成果
・河南小学校の「ふれあい広場」では、地域のサロンの方々にご協力いただいた。折り紙や竹とんぼ、将棋、カロム等で地域の方々と楽しいひとときを過ごせた。
・河南中学校の家庭科の手縫いやミシン縫いの授業では、教員１人ではなかなか目の届かないところを、数名のボランティアの方々に学習支援をしていただくことができた。３学期には、国語科の書写指導や音楽科の和太鼓教室には、その道に長けた地域の方々に学習支援をいただく予定である。
・ＣＳ主催の「河南学区まいばら教育フォーラム」ではコロナ禍のために学校支援ボランティアのみを対象に開催した。地域学校協働活動推進員による学校支援ボランティアの紹介やインタビューを通して、他のボランティアの内容について知るよい機会となった。さらに、コミュニティ・スクールについてＣＳアドバイザーの北辺禎雄氏に講演をしていただいた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・コロナ禍のために、今年度はかなん認定こども園での十分な活動を実施することができなかった。
・各校園とも地域学校協働活動推進員との窓口が管理職に偏りがちなところがある。そのため、「地域連携担当教職員」にその職務をしっかりと任せられる校内体制を年度当初に構築しなければならない。
・中学校で取り組むボランティア活動がコロナ禍のために地域行事等への参加も自粛せざるを得なかった。そのため、学校内でのボランティア活動をいろいろと工夫しなければならない。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
小中が連携して「河南学区学校運営協議会」を立ち上げて３年となる。今年度は「笑顔いっぱい花いっぱい活動」「笑顔いっぱい挨拶いっぱい活動」「笑顔いっぱい学びいっぱい活動」の３本柱で事業の推進を図っている。学校運営協議会委員には地域学校協働活動推進員も参画し、コミュニティ・スクール事業と地域学校協働活動推進事業の一層の連携を図っている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

ふるさと伊吹　ふるさとを愛する心を育てる地域協働活動

米原市	活動名：伊吹山学区地域学校協働本部	伊吹山中学校　伊吹小学校　春照小学校 学校運営協議会　：■有　□無 いぶき認定こども園　学校運営協議会　□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人　ボランティア登録数：70 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

〇ＩＣＴ支援事業（ＩＣＴＡＭ：イクタム）

学校のＩＣＴ機器を使って子どものＡ（遊び場）Ｍ（学び場）を創り出す事業。毎月、希望者を募り、土曜日を利用して活動している。毎回 50 人前後の子どもたちが参加をしている。

〇読書推進活動

・読書大好き強調月間…朝のモジュールの時間に、地域の方に来ていただき読み聞かせをしていただいた。
・こもれび読書会…地域にある施設を借り、芝生広場でのあおぞら読書や、地域の方の読み聞かせを楽しんだ。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇環境整備・栽培ボランティア

自然豊かな各校園の敷地は草木がよく茂り、除草作業が大変であることから地域コーディネーターが有志者に声をかけ、校地の除草作業をしてくださった。また、花壇やプランターに花の植え付け等の栽培活動をしてくださり、季節の花で学校を美しく彩ってくださった。



【　環境整備作業　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・計画段階から児童・生徒が安全に活動できるよう検討し、様々なご意見をいただいた。
・感染防止のため、集まることが困難な時期は、オンラインで開催した。（ＩＣＴＡＭ）

■　事業の成果

・教職員だけでは円滑に行うことができない活動を、ボランティアさんが助けてくださった。年間を通じて美しい学校環境づくりにご尽力いただいた。
・読み聞かせや図書室の整備等に来ていただき、子どもたちの本に対する興味関心が高まった。
・専門的な知識をもっておられる方に支援していただき、学習が充実した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度は感染拡大を受けて、各校園の教職員と地域が共に学び合う「伊吹地区教育フォーラム」が中止となった。コロナ禍での対応を継続する必要があることから、中学校区内の連携を深めるための新しい手立てを探っていきたい。
・コーディネーターやボランティアの謝金は予算化されているが、多岐にわたるためやや不足気味である。



【　こもれび読書会　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・各学校の学校運営協議会同士の交流や、情報交換などを進められるとよい。
・ボランティアさんが活動してよかったと思える活動になるよう「地域の学校」という意識を教職員全員がもち取り組んでいく。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（主任事務主査）

報告書記入者（　教頭　）

故郷を愛し、人との関わり、自分を磨く、子どもの育成を地域とともに

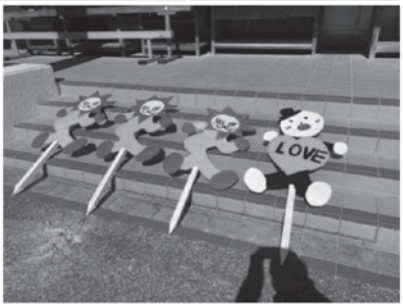
米原市	活動名 ： 米原学区地域学校協働本部	米原中学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）



【完成した飛び出し坊や】


【地域コーディネーターへの御礼】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）と成果

（１）総合的な学習の時間での指導
各学年の総合的な学習の時間に、地域学習としてさつまいも・ネギ・大根・タマネギ等の栽培を行った。農業指導をされている方に畑をトラクターで耕作をしていただき、農作物の植え付けや収穫の方法について指導をしていただいた。各学年の収穫感謝祭を実施にあわせて薪作りや火起こしをお願いした。日頃お世話になっている地域ボランティアに参加いただき、生徒との交流をもつことができた。また、３年生の福祉学習では生徒が育てた葉ボタンのプランター運びに協力いただいた。

（２）生徒会との連携
本校では、ラヴプロジェクトとして、福島県への支援や世界の恵まれない子どもたちへのワクチン接種のために、アルミ缶やペットボトルキャップの回収を行っている。その趣旨を理解していただき、地域での回収活動や後始末に協力いただいた。

（３）認定こども園
農園の環境整備（芋苗の手配や芋つるの処分）、園の環境整備（網戸の整備など）

（４）小学校
夏休みの親子愛校作業への参加と環境整備作業

（５）園・小・中が共同で実施した活動（新規）
交通安全啓発の飛び出し坊やのニーズが各校園であがり、コーディネーターの協力を得ながら制作することとなった。中学校の生徒にデザインを募集し、色塗りなどの作業をボランテイアの方と一緒に実施した。また、小学校６体、園２体、中学校４体の飛び出し坊やを作成、各校園に配布し、通学路等の危険箇所に設置できた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・２名のコーディネーターをそれぞれ中学校担当、こども園・小学校担当として学校との連携調整を密にした。
・中学校内に地域学校協働本部室を設置していることから、校内で地域の方と接する機会が増え、コロナ禍ではあったが、随時活動を進めることができた。コーディネーターには何回も学校園にも足を運んでいただき、積極的に活動いただいた。
・本年度、中学校での親子愛校作業が、コロナ禍のため中止になったが、学校ボランティアの方で学校内及び周辺の草刈りを２日間実施していただいた。そのほか各校園でコロナ禍であっても学校園の環境を整えることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・コロナ禍の中であったが、充実した活動ができているのは、地域コーディネーターの人柄と尽力による部分が大きい。この活動が持続し、発展するためにも、コーディネーターを補佐しつつ，次のコーディネーターを育成していくことが必要である。
・地域ボランティアの固定化・高齢化が進んでいる。新規ボランティアを学校とコーディネーターが連携し発掘していく必要がある。
・コーディネーターを含め、ボランティアの謝金は予算化されているが、多岐にわたる活動のため、不足の事態が生じている。また、食料費の予算措置も必要であると考える。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
コミュニティ・スクールの指定を受け、４年目となる。今年度も地域学校協働本部と学校運営協議会が学校教育を推進するための両輪となりうまく機能していると感じている。今後、新型コロナの心配がなくなれば，生徒が地域へ出向き社会貢献できる取組を推進したい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　　教　　頭　　）

地域人材を生かした特色ある学校づくりの推進～中学校区の連携～

米原市	活動名 ：大東学区地域学校協働本部	大東中学校･大原小学校･山東小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 山東幼稚園・大原保育園 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：５人　ボランティア登録数：35 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

〇環境整備ボランティア

校地内の樹木の剪定や校地整備、除草作業やプール掃除等の環境整備に取り組んでいただいた。

〇部活動支援

バスケットボール、サッカー部で、専門的な技術指導をしていただいた。大会でもベンチに入り指導していただいた。

〇学習支援

家庭科の授業でのマスクづくり､調理実習でミシンや調理のしかた等を指導するボランティアに授業支援をしていただいた。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇大東中学校では、中学生と地域の関係者が一緒に、タブレット等を利用して「三島池撮影会」を実施し、フォトコンテストを行った。また、図書館ボランティアを交えて「ビブリオバトル」を開催し、図書室利用や読書への関心を高めた。中学１年生は総合的な学習の時間に、中学校区の池下再発見プロジェクトチーム関係者を招いて、古くから伝わる昔話をわかりやすい「紙芝居」をしていただいた。



【　地域の花壇に花植　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇今年度中学校区の「教育フォーラム」は山東小学校のみで実施となった。その他計画していた授業公開・交流会は実施できなかった。次年度改めて計画したい。

■　事業の成果

〇教員の働き方改革推進に大変有効であった。

〇児童生徒の学習活動が充実した。

〇地域の方に学校の教育活動に関心を持ってもらったり、足を運んでもらったりするきっかけ作りとなった。



【　三島池撮影会　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇人材発掘・人材確保をさらに進めなくてはならない。

〇学校と地域をつなぐコーディネーターの手腕がカギである。

〇学校側としては、マンネリ化しない手立てが必要である。

〇潤沢に使える予算の確保が必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇コミュニティ・スクール事業とのすみわけを明確にしておくことが必要である。

〇地域の願いを踏まえて、地域とともに歩む学校づくりに寄与できるような取組としたい。

〇学校にも地域にもメリットがある取組を推進していきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域の子どもたちの健やかな育成をめざす「おうみネット支援ボランティア」の取組

米原市	活動名：双葉学区地域学校協働本部	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校 おうみ認定こども園　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　）



【　６年生　キャリア学習　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）読み聞かせボランティアによる読書活動

・毎月２回、朝読書の時間に各学級にて読み聞かせの実施・図書室の環境整備や図書館司書と協働した蔵書の登録

・２年生の近江図書館見学時の引率と見学補助

（２）地域の方に学び地域の方と学ぶ学習活動

・１年生（生活科）…昔遊び体験　６つの昔遊びを紹介いただき、子どもたちがそれぞれ体験する。

・３年生（社会科）…昔のくらし　60 代・70 代・80 代の３人の方から子どもの頃の生活や出来事のお話を聞く。

・５年生（家庭科）…ミシンの基本操作とナップザック制作　ミシン操作の補助説明をしていただく。

・６年生（音楽科）…雅楽鑑賞　神明神社の「紫雲社」さんによる雅楽を鑑賞し、楽器についての説明を聞く。

・５年生（総合的な学習の時間）…地域防災学習　自分の住む地区の防災ついて、現地で説明を聞く。

・６年生（総合的な学習の時間）…キャリア教育　２名の方から、仕事の内容や思いを聞く。

（３）学校内及び周辺の環境整備

・校舎周辺の草刈りと環境整備を行う。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇担任からの要望を学校担当者がとりまとめ、学習の目的の共有と補助内容について地域学校協働活動推進員と打合せを行った。その際に地域ボランティアに協力頂きやすいよう日程を早期に決定した。

〇事前確認の打合せと、事後の振り返りを地域学校協働活動推進員と学校担当者で行い、次年度に向けて改善点を挙げた。

〇児童からのお礼の手紙等を通して、学んだことや感謝の気持ちを地域ボランティアの皆さんへ伝え、活動の様子は通信にして各家庭・地域に知らせた。

〇感染症予防対策として、活動内容の見直しや変更、できる限り広い会場の使用、そして感染状況の変化に伴い変更や中止が必要な場合についても速やかな判断・連絡ができる体制をとった。

■　事業の成果

〇図書の読み聞かせや図書室の整備に定期的に来ていただき、新書の本の紹介や季節に合わせたおすすめの本コーナーを作ってくださったことで、子どもたちの本に対する関心や興味が高まった。

〇保護者や地域の方に学校に入っていただいたり、学校から地域に出かけたりすることで、地域とともにある学校づくりにつながっている。各ボランティアの皆さんは分かりやすく丁寧な準備や説明をしていただけるので子どもたちは安心感や満足感を得ながら学習ができた。

〇専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習が充実した。

〇子どもたちが活動する場所の木の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださるおかげで、安全で美しい学校環境づくりが行えた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇ここ２・３年継続した活動ができている。新しくボランティアを申し出てくださった方も含めて学習を継続していくことができるよう配慮する。

〇より充実した地域学校協働活動となるよう努め、コミュニティ・スクール坂田小学校を支えていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者　（　地域連携担当教職員　）

地域と連携・協働し、一緒に学校・ふるさと日野への誇りを高める学習を目指して

日野町	活動名：日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○地域の人々や施設を教科書に学ぶ「町探検」（第２学年）や「歴史ウォークラリー」（第６学年）

・第２学年では、校区内の各施設（商店・公共施設等）をグループで見学する町探検を実施。訪問施設は約 20 施設。地域の施設を具体的に知るだけでなく、そこで活躍する人々との直接の交流から学習を深めた。

・第６学年では、校区内の歴史的施設等をウォークラリーで見学する学習を実施。事前にふるさと館の館長からのガイダンスを受け、見学地では、観光ボランティアの方に案内していただき、ふるさと日野への誇りを高める学習となった。



【　歴史ウィークラリー（第６学年）　】

○子どもたちの学習活動を活性化させるボランティア活動等

・図書ボランティア

メンバーは６名。活動日は毎週火曜日。子どもたちが読書活動に関心を高めるための環境整備作業を中心に活動をしている。活動内容は、学校図書司書、学校図書担当と連携し、時期に合わせた活動を行っている。

・家庭科ボランティア

メンバーは日赤奉仕団（日野分団・鎌掛分団）。高学年の裁縫活動について、学習支援していただいている。毎回、２～３名が授業支援していただいている。

・なかよしコンサート（年４回開催）

地域で音楽活動をされている個人・グループを招き、昼休みにコンサートを開催している。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○校外の施設に訪問したり、地域のゲストティーチャーの指導を受けたりする活動は、２学期 10 月以降に取り組んだ。保護者に対しては、新型コロナ感染症拡大防止の取組についてのガイドラインを定期的に示し、学習活動への理解を図った。

○教員は、事前にふるさと絆支援員（地域学校協働活動推進員）と学習活動の全体計画を作成する中で、育てたい子どもの姿や付けたい力を明確にすることで、関係機関の思いを大切にしつつ、学習の質が高まるよう意識した。

■　事業の成果

○学習活動の成果を発表会や学習成果物により関係者へ発信することで、地域の方々へ学校教育活動への理解を深めることができている。継続的に学習活動に参加してくださっている方も増えており、教育活動のねらいを意識して児童へかかわってくださる方も存在する。

○仲良しコンサートのように、学習活動以外の場面でも、地域で活躍する方々と学校がつながる活動を計画、実践することができた。コンサートは、毎回、多くの児童が集まり、音楽活動への意欲や関心を高める取組となっている。



【　家庭科ボランティア（日赤奉仕団）　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校教育活動により地域の皆様への理解と参画を推進するために、今年度は地域内の２つの公民館長と話し合いの機会を持った。次年度以降、コミュニティースクール化に向けて、さらに地域の理解者を増やしていくことが求められる。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○学校だよりやホームページで学校の取組を広く発信している。
日野小学校ホームページ：https://www.fureai-cloud.jp/hino-es/

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（各学年担当職員）

報告書記入者（　教頭　）

学校・家庭・地域の　きずな・つなぐ・むすぶ～

日野町	活動名　：　西大路地域学校協働本部	西大路小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

児童にとってより良い活動や学びができるようにと、今年度から小学校、公民館、幼稚園の三者が月に一度集まってミーティングを行っている。情報交換することにより、様々な活動でお互いが協力することができ、児童の活動の幅が広がっている。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学林を活用した学習

わたむき森林組合に協力していただき、今年度から学林を活用した学習ができた。４年生では、森林学習や散策をしながら様々な植物や昆虫を知ることが出来た。１・２年生は、図工に使う木の実や落ち葉を楽しんで集めることができた。

○地域の方の学習支援

３年生の校外学習では、地域の方に同行していただき、地域の歴史や文化などを教えてもらった。地域の方は、児童に説明するために訪れる場所の特徴やいわれを調べたり、資料を作ってくださったりした。「子どもと関わることで、大人も学ぶ」活動ができた。

５年生の家庭科の裁縫では、地域のおばあちゃんに先生になってもらい、基本の縫い方を習ったり、一緒にお手玉を作ったりした。おばあちゃんたちの優しくほっとする雰囲気のせいか、児童たちはいつもより楽しそうに授業に取り組むことができた。おばあちゃんたちも児童に頼ってもらえたことをとても喜んでおられました。地域の方と児童がともに楽しく学ぶ活動となった。

○地域との連携

小学校、公民館、幼稚園の三者が密接に情報交換を行っている。



【　学林での散策の様子　】



【　５年生家庭科の様子　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方に来校してもらう際には、人数調整、消毒、検温、換気等を行い、コロナ感染対策を行った。

■　事業の成果

ボランティアの方にお世話になるだけでは無く、ボランティアの方が学べたり、喜んでもらう活動ができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアは高齢な方が多いので、交代できる人材を確保する必要がある。

地域とさらに充分な情報交換を行い、コミュニティ・スクール発足に向けて活動していきたいと考える。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各学年担任、教務　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「なんぴが大好き」～地域の良さを学校に取り入れ郷土を愛する心を育てる～

日野町	活動名：南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：約 40 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
・本校では次年度以降に学校運営協議会を立ち上げる構想をしている。本校の学校運営協議会の在り方について、地域・学校にて研修を実施し、意見交換を行う等して準備を進めている。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）郷土野菜「日野菜」学習を通した地域とのつながり
・「日野菜」学習は、郷土の野菜である「日野菜」の原種を守り育ててきた地域の方々の協力をいただき、子どもたちが地域を知り、地域に誇りをもてることをめざした学習活動である。本校では、全学年が「日野菜」を栽培し、生活科・総合的な学習の時間等において「日野菜」を深く学ぶ取組を各学年の段階に応じて進めている。年間を通じた「日野菜」栽培には専門的な知識と技能を必要とするため、地域の「南比都佐地区原種保存会」の方に指導に来ていただいている。日野菜の種子は地域の方にも広く販売している。


【公民館での学習成果発表会　６年生】

（２）「南比の町　未来プラン」
・６年生国語科「町の幸福論」での学習において、全国の様々な事例を参考に地域をよりよくするためにどんなことが考えられるか「南比の町　未来プラン」としてまとめ、プレゼンテーションを行った。発表会場の地域の公民館で多くの地域の方々、町長や教育長にも聞いていただき、意見を交流した。
（３）各教科学習等の支援
・家庭科でのミシンを使った実習や音楽科での琴の体験等に地域の方の支援をいただき、充実した学習を行っている。
（４）地域学習
・生活科や社会科における「学探検」等での地域学習では、児童が地域に関心をもてるよう、地域の方が見学場所の歴史的な背景を詳しく解説してくださった。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・緊急事態宣言下の期間は外部の方々との交流が難しかったが、10 月からは、玄関先での手指消毒と検温をお願いし、感染症対策を十分に行った上で実施している。


【　地域学習（学探検）　２年生　】

■　事業の成果
・郷土野菜「日野菜」の取り組みは特色のある活動として 10 年以上継続して取り組み、学校に定着している。６年間を通した地域の方との学習で、子どもたちは郷土への思いを深めて卒業している。
・地域の方も児童と学習を通してふれあうことで喜びを感じておられる方が多い。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・本校はスキー教室を毎年行っているが、近年、近隣の学校ではスキー教室の実施をやめていることが多く、教員も指導の経験が少なくなってきている。そこで、公民館と連携し地域の方々の応援をより多くいただき、安全に有意義なスキー教室を地域と協働して行えるよう計画している。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・６年生が地域の方々を対象に公民館で発表した「南比の町　未来プラン」では、「自分たちが住んでいる地域の未来についてどうしていきたいか」という願いを地域にアピールできた。学校運営協議会を進める上で、子ども側からの意見としたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域ぐるみで子どもを見守り、学校を支援する協働活動のために

日野町	活動名 ： 必佐地域学校協働本部	必佐小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：43 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）見守りあいさつ運動

朝の登校時間帯に、必佐小見守り応援隊やPTA 有志の皆さんが交代で校門付近に立ち、見守りあいさつ運動に取り組んだ。

（２）体験的な学習への支援

焼き芋や餅焼きなどの指導を経験豊かな方にお願いし、裁縫やミシン縫いなど、適切な個別支援を必要とする学習では、アドバイスや手助けなどの支援をお願いした。

（３）ふるさと学習支援

日野町の特産品である日野菜の栽培や伝統行事など、ふるさとをテーマにした総合的な学習で、地域の方に指導をお願いした。



【登校時の見守りあいさつ運動】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・本事業の広報とボランティア募集のためにチラシを全戸配布し、事業に対する理解と協力を得られるようにした。
・見守り活動の全体会議で、各団体の代表の方々に年間の見通しを説明し、協力を依頼した。
・学年で集合し指導を受ける場面は減らし、学級単位など少人数で換気など、感染対策を行って実施した。

■　事業の成果

・見守りあいさつ運動を数年続けてきたことで、地域の方々と子どもたちのつながりが増してきた。あいさつを交わすことだけでなく、子どもたちの登校のリズムがこれまで以上に身についてきている。スムーズな学校生活のスタートに結びついてきている。
・一昨年度「必佐小学校見守り応援隊」を組織したことで見守りあいさつ運動の他、学習ボランティアや支援者として参加してくださる方が増えた。
・ボランティアの方々の適切な支援のおかげで、子どもたちは技能を習得できただけでなく、「苦労しながらもできた」という達成感を味わうことができた。
・教師は地域人材や人材を活かした授業づくりに努めるようになってきている。



【七輪での餅焼き体験】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域にたくさんおられる適任の方がまだ把握できていない。今後も引き続き人材の開拓に努めていく必要がある。
・指導者の思いや指導方針を尊重しながら、活動推進員からの提案も織り交ぜながら打合せを綿密に行う必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営の様子や子どもたちの学習の様子を下記記載の URL で紹介している。
https://www.fureai-cloud.jp/hissa-es/

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

桜谷の子どもでよかった ～地域の温かい支援で学校教育活動をより豊かに～

日野町	活動名 ：桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：100 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）５年生が図工の立体作品作りで、地域の方に骨組み作りや土台板に固定する方法を指導していただいた。子どもたちからは、「本物の鳥みたいに見える。」「こうやって金づちで打てばぐらぐらしないんだ。すごい。」と驚きやあこがれの声が聞かれた。また、地域の方からは、「子どもたちがしっかりと説明を聞いてくれて、熱心に取り組んでいる姿を見て、とてもよかった。」「アルミ缶を細かく切りていねいに取り付けていく作業を集中してできているのに感心した。」という言葉をいただいた。



【図工　立体作品作成】

（２）11 月 24 日(水)に職員研修「地域とともにある学校づくり」を行った。地域の方々にも広く呼びかけ、たくさんの方が参加してくださった。この会議の中で、桜谷の子どもの伸ばしたいよさ、さらにつけたい力について意見交流をし、次年度から本格的に始まる「コミュニティ・スクール」への理解と協力をお願いした。地域の方々からも、「桜谷の子どもたちのため、学校とともに活動を進めていきたい。」とのお言葉をいただいた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇ボランティアとして参加されるのは、「HOT けん桜谷隊」、老人会を中心とする地域の方々である。活動の種類や日程によって参加いただける方を地域コーディネーターが中心となり、呼びかけや調整を行った。

〇昨年の活動を振り返ると共に、年度初めに各学年の活動やコロナ禍の状況下でもどのようにすれば実施可能かを見直し、連携・協働が必要と思われることの年間計画を立て、総会の中で確認し合った。

■　事業の成果

今年度も、新型コロナウイルス感染症防止のため、例年行っている活動がなかなか実施できなかったが、１・２・６年によるいも植え、３・４・５年生による田植えについては実施することができた。また、２年生の生活科で「季節の野菜栽培」や、３年生の総合的な学習で、「日野菜」の栽培を行い、これらの活動では、地域の方々に教えていただいたり、支援していただいたりすることで、それらを上手に育てる方法、食材としての作物の大切さや、自然の偉大さ、地域のあたたかさを体感できる機会となっている。学習や作業・事業後には、子ども達がお礼の手紙を書き、それによる心のつながりが学校と地域の距離を縮めている。



【田植え活動】

地域の方からは、「子どもと対話ができ、楽しく作業が進められた」「子どもが学校に在籍していなくても参加できることがうれしい」など、地域と学校の連携を進んで行ってくださっている感想をいただいた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

年間計画を立てる段階での見直しと、実施後のふり返りは必要である。例年行っている活動が多いが、改善を加えることも大切であり、学校も支援に来てくださる方も双方の考えを聞くことがこの事業では大事である。地域コーディネーターが昨年度末に、学校、地域に向けてアンケート調査を行ったので、振り返ることができた。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今年度も昨年同様、毎年実施している「森のレストラン」の活動ができなかったため、11 月 24 日（水）に校内音楽会のリハーサルと称して、日頃いろいろな場面で支援をいただいている地域の方々をご招待し、感謝の気持ちを伝えることにした。子ども達が生き生きと活動を行っている様子を見ていただくことで、地域の支えに対して、感謝の気持ちを忘れないようにとの思いをこれからも大切にしていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域の方々との交流を通じて学ぶ「ふるさと学習」

日野町	活動名：日野中学校地域学校協働本部	日野中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 30 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：個人 25 人　団体７団体

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）ふるさとで学ぶ（地域学習・総合の学習にて）

・郷土について学ぶきっかけとして、歴史、文化、商業、自然、日野商人をテーマとして、日野町のそれぞれの分野のエキスパートの方々に講演をしていただいた。その後、生徒たちはグループごとに日野町内に出向き、いろいろな分野ごとに前もってお願いしていた日野町内の方に聞き取り調査を行った。生徒たちは学校でも調べ学習を行い、それをパワーポイントにまとめ、最後に講演していただいた講師の先生もお招きし、皆に自分たちが調べた内容をプレゼンテーションした。

（２）読書活動推進事業

・１、２年生を対象に毎週火曜日に、各学年１クラスずつではあるが、地域の読み聞かせグループの協力を得ながら、読み聞かせ活動を実施した。

（３）家庭科・保育実習での校舎外移動に関しての交通立番・見守り

・３年生・家庭科の保育実習で自転車での往復路の安全を支援していただいた。

（４）サツキ花壇を中心とした環境整備



【　ふるさと学習　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・講演やプレゼンテーションを聞く人数を、学年単位で聞くのではなく、５つに分け 30 人ずつの講演とした。学年単位ではなく、学級単位とし、できるだけ少人数で集まることとした。

・常にマスク着用をし、講師の方々や町内の方々にも感染対策を訴えた上で活動した。

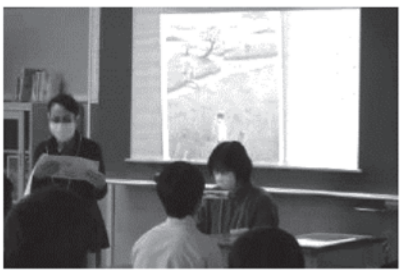
■　事業の成果

・（１）の企画は今年度初めての企画で、中学校の総合の学習担当の先生と協力してできた事業である。生徒たちは日野町のそれぞれの分野で活躍されている方の講演を聞くことにより、日野町の良さを再発見し、もっと日野町について知りたいと興味を持ち、その後の聞き取り調査や調べ学習へとつなげることができた。講師の先生方もこの講演のためにかなり尽力していただき、日野中学校の生徒たちと交流を深めながら、日野中学校の教育活動に興味を持っていただくきっかけともなった。また、聞き取り調査でも多くの日野町の方々に協力していただき、生徒たちが自分で考えた質問に、ていねいに答えていただき、地域の方々との交流を深めながら学習をすることができた。

・（２）の読書活動推進事業の読み聞かせ活動は、生徒たちにも浸透し、１日を穏やかに心豊かにスタートさせることができる楽しい活動となっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校の教職員と地域学校協働活動推進員、ボランティアとの連携を密にし、さらに理解を深めながら事業を展開していきたい。そして現在行っている活動を推進するとともに、新たな地域人材を見つけ、教職員からの要望と地域の方々の思いが重なるような活動を模索していきたい。


【　読み聞かせ　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

本校には、地域学校協働活動推進協議会が設置されており、学期ごとに実施報告や今後についての報告書を出している。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　総合の時間担当の教職員　）

報告書記入者（　　地域学校協働活動推進員　　）

学校・家庭・地域ぐるみの学校支援活動～地域の力で子どもたちの学習を支える～

竜王町	活動名 ： 竜王町地域学校協働本部	竜王幼稚園・竜王西幼稚園 竜王小学校・竜王西小学校・竜王中学校・ 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：６人（兼務１人）ボランティア登録数：625 人（平成 22 年からの累計）

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
□学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　□その他（　　）

■　学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
・学校のグランドデザイン（学校教育目標）を学校運営協議会でも熟議しベクトルを共通にしていく必要性がある。


【ジョギング大会サポート(竜王小)】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）学習支援
・家庭科のミシンや裁縫等の学習でボランティアが授業に参加し、指導補助を行った。
・昨年度より取り組んでいる「はなまる先生」を継続し、児童が家庭で行った宿題プリントやドリルの丸つけを行うことで、先生が子どもたちと関わる時間を増やし、丁寧な指導ができた。
（２）学校行事支援
・幼稚園や小学校の授業参観等に、子育て中の保護者も参加できるように託児支援を行った。
・ジョギング大会中の横断見守りを行い、学校行事に参加する児童の安全確保を行った。
（３）地域学習
・中学校では「地域学習」として 35 ヶ所を訪問し調査・研修を行った。その体制づくりや当日の説明の支援を行った。


【地域学習(竜王中)わら細工体験】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・学校支援中、児童との間隔をとりながら親身な対応を心がけている。
・ボランティアを募集する際に、保護者や家族（祖父母）に声をかけている。
■　事業の成果
・地域学校協働本部に届いた児童からの感謝の手紙を暑中見舞いや年賀状に添付して、ボランティアの方へ送付し、喜びを感じてもらうことで生きがいの場を提供できた。
・ボランティアに参加することで、子どもや孫の学校での姿を見ることができ、新たな発見ができた。
・ボランティアと児童が顔見知りになり、日頃から地域でのコミュニケーションが取れた。
■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域にはたくさんの人材があるにも関わらず、ボランティアの継続や新規発掘に苦戦している。→人材育成の必要性がある。
・学校と地域で双方向性のある展望を持った活動を行うためには、社会に開かれた教育課程をいかに実現するかが重要な鍵となる。そのため、地域連携にかかる年間活動計画を作り、お互いが全体を見据えながら事業を展開する必要がある。
・統括地域学校協働活動推進員を公民館に設置しているが、学校からの急な支援依頼の対応に苦戦している。
■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校運営協議会で熟議した内容（どんな子どもに育ってほしいか、子どもの健やかな成長に地域はどう関わるかなど）を地域学校協働本部でいかに具現化していくか検討を加えたい。
・より深い学校支援を行うためには、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にする必要がある。
・町内にある校園全てに学校運営協議会は設置できているが、まだ地域学校協働本部との連携の完全な実現にまで至っていない。
・学校と地域と地域学校協働本部等が連携をしていく必要があるが、地域学校協働本部に任せきりになっている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　学年主任・学級担任　）

報告書記入者（　統括地域学校協働活動推進員　）

「地域とともに多賀の子を育てよう」　多賀町地域学校協働本部の取組

多賀町	活動名　：　多賀町地域学校協働本部	町内6校園　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：117 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園　□学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）読み聞かせ（小・中・幼・保・こども園）

長年実施している校園での読み聞かせに加え、中学校でも読み聞かせを実施した。毎日の「朝読書」の時間（各自で本を読む時間）に月に数回読み聞かせを行ったが、静かに聞く体制ができており、保幼小中連携の成果が表れていると感じる。

（２）福祉・琴・環境学習

地域のサークル等がゲストティーチャーとなり、感染対策をしながら、教科書に準じて琴や福祉などについて体験も交えた学習を実施した。福祉学習では、自分にできることを考える時間や手話・点字なども教えていただいた。また、環境学習では中学校特別支援学級の生徒に、花・野菜作りを収穫から販売まで、年度当初から継続して指導していただいた。



【　生徒による野菜の販売　】

（３）自然保育時の見守り（こども園の課外活動）

大滝たきのみやこども園は自然保育活動が盛んであり、園児が近くの高取山へ定期的に出かける際の見守り活動を実施した。警報等が出ない限り雨でも出かけ、子どもたちの主体性を大切にしているため行動範囲が広く、毎月当番制により保育士とともに見守り、活動していただいている。笹を使ってササ舟を作るなどもしていただき、園児も喜んでいる。（年間 34 回予定）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度も活動内容が大きく制限され、緊急事態宣言下では中断した活動もあるが、野菜作りなどは充分注意をして実施した。密を避け短時間で活動を終えるなど工夫した。読み聞かせにおいても、クラス単位で実施し、短時間にするなど工夫をした。

■　事業の成果

コロナ禍により屋外での活動を積極的におこなった。特別支援学級の生徒に対して種まきから収穫・販売と一連の流れを指導していただき、毎日の野菜の生育状況を中学生と共有することができた。また、こども園での自然活動見守りでは、ボランティアさんから昔のことを聞いたり、道路脇のササをササ舟にしていただいたりするなど、園児やボランティアの方々との交流がより深められている。



【　こども園の自然保育見守り　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校支援の更なる充実を図るため、より多くのボランティアを創出することが必要である。ボランティアの募集をより広くおこない、子どもたちが本物に触れる学習をすすめられるよう学校との連携を図っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

６校園でのボランティア活動を推進するため、各校園の空き教室を「集いの部屋」として活用し、情報交換等ができるよう働きかける。また、定期的にボランティア活動だより「ボランティア通信」を発行し、地域・校園・公共施設で回覧および掲示。更には一年間の活動報告書を作成し、全ボランティア登録者に配布したり、会議等で紹介するなど活動内容について周知している。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（教務主任、各学年担当者）

報告書記入者（　　地域コーディネーター　　）

令和3年度　地域未来塾　活動事例一覧

市町名	教室数	教室名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
彦根市	20	放課後学習会	東中学校	東中学校	○	東中学校区 支援地域協議会
		さわやま教室	佐和山小学校	佐和山小学校	○	東中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	西中学校	西中学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		放課後バックアップ教室	城西小学校	城西小学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		夏休みきらり学習教室	城北小学校	城北小学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		土曜日曜教室・てみる	中央中学校	中央中学校	○	中央中学校区 支援地域協議会
		学び育ちＬＬ教室	中央中学校	中地区公民館	○	中央中学校区 支援地域協議会
		水曜ゼミ	南中学校	南中学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		中休み学習教室	城南小学校	城南小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	城陽小学校	城陽小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		夏休み学習教室	亀山小学校	亀山小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		彦根中地域未来塾	彦根中学校	彦根中学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		２年生九九マスター教室	河瀬小学校	河瀬小学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		学力向上教室	高宮小学校	高宮小学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	鳥居本中学校	鳥居本中学校	○	鳥居本中校区 支援地域協議会
		夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	鳥居本小学校	○	鳥居本中校区 支援地域協議会
		地域未来塾	稲枝中学校	稲枝中学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		かがやき教室	稲枝東小学校	稲枝東小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		ホップタイム	稲枝西小学校	稲枝西小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	稲枝北小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
湖南市	4	放課後質問教室	石部中学校	石部中学校		
		放課後学習会　放課後日本語教室	甲西中学校	甲西中学校		
		地域みらい塾	甲西北中学校	菩提寺まちづくりセンター		
		日枝中未来塾 外国籍生徒日本語教室、３年進路支援	日枝中学校	日枝中学校		
米原市	5	いつ今教室	大東中学校	大東中学校		
		小論文対策講座	伊吹山中学校	伊吹山中学校		
		放課後＆夏休み全校学習会				
		米原学習教室（MGK）	米原中学校	米原中学校		
		土曜学習会	河南中学校	河南中学校		
日野町	2	ちょこっと学習会	日野中学校	日野中学校		
		立ち寄り学習処 ちょき		日野町少年センター		
竜王町	1	土曜龍王塾（雲竜塾、昇竜塾）	竜王中学校	竜王中学校		
多賀町	1	土曜講座（サタスタ）	多賀中学校	多賀中学校	○	株式会社　ケイ・エム・ジーコーポレーション

子どもたちのやる気を応援！！

彦根市	活動名 ： 放課後学習会	東中学校	学校運営協議会 ： ■有 □ 無

主な活動場所：図書室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：33 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）
平均参加人数：13 人　　学習支援員等 平均人数：５人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまずいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

■　特徴的な学習支援内容
　学習教科は自由。生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら運営。生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れている。
　生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、生徒に学習の振り返りやボランティアへの連絡・メッセージ等を記入してもらい、ボランティアとの交流に活用している。コロナ感染予防のため、生徒・ボランティアともにマスクの着用を徹底。座席の取り方、換気等に配慮。全学年を対象に考えていたが、コロナの感染拡大のため、３年生のみ実施。


【　学習会の様子　】

■　事業の成果
　生徒とボランティアとの関係もよく、生徒は積極的に質問するなど、良い雰囲気のなかで開催できている。生徒はまじめに主体的に取り組んでおり、成績にも反映されている。ボランティア同士の関係も良く、より良い教え方などを相談しあいレベルアップされている。生徒の希望で、水曜日以外に追加開催することもあった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいように、担任をはじめ教職員との連携や情報共有をしていきたい。

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

子どもたちが楽しく学べる場つくりを

彦根市	活動名 ： さわやま教室	佐和山小学校	学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：教室　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：24 日（開催ペース：月３～４日）　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）
平均参加人数：17 人　　学習支援員等 平均人数：　６人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　佐和山小学校高学年児童の国語・算数の学力の向上を目指して学力補充をしている。

■　特徴的な学習支援内容
　学校（担任）と連携をとり、児童の一人一人の弱みを把握した後、学習計画を立てる。
　小グループを作り、学習支援員が小グループごとに学習指導を行う。子どもたちの弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすい。また、終盤 20 分程度は宿題を一緒にすることで、今学習しているところのつまずきを指導している。予習も視野に入れて宿題指導をしているため、翌日の授業への意欲も高まることが多い。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　児童も学習支援者も、検温等による体調管理は当然のこと、教室への出入り時には必ず消毒を義務付けている。また机と机の間隔を広くとったりしている。


【　学習指導の様子　】

■　事業の成果
　始めは戸惑いながら通い始めた児童も、わからなかったことがわかるようになり、この教室に通うことに前向きになってきた。自分でわかるようになったこととわからないことを自覚し、積極的に質問するようにもなった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　人材を確保することがなかなか難しい。本年度は確保できたが、来年度・再来年度については不安もある。

報告記入者　（　地域コーディネーター　）

「あなたの未来のために学力の向上を目指しませんか？」　来たれ！未来塾

彦根市	活動名　：　学力補充教室	西中学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：理科室・被服室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：25 日（開催ペース：５月～２月　週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）
平均参加人数：22 人　　学習支援員等　平均人数：８人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後の時間帯や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が学習指導を行った。

■　特徴的な学習支援内容
・学習支援員の人数を多くすることで、個別の学習支援を充実させた。
・各自の学習課題を自身が準備することで目的意識を明確にして、学習意欲を高めた。
・受験を目前に控えた３年生の希望進路の実現に向けて学力の向上を目指した。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募って実施した。
・コーディネーターを２人、部屋を２つにして、密を避ける対策を行った。
・指導前に、学習支援員の検温と体調チェック、手指消毒を行った。

■　事業の成果
・学習支援員として地域の方と大学生が協働する中で、お互いの交流が深まった。
・一人ひとりの生徒の学力に応じた個別の学習支援を実施できた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・新型コロナ感染症拡大のため、学習支援員に高齢の方を動員することが心配される。

■　その他
・学習支援員の更なる増員を図り、個別指導の時間を増やしたい。



【　放課後学習会　】

報告書記入者（　　教　頭　　）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名　：放課後バックアップ教室	城西小学校　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：教室　　開始年度：平成 24 年度
年間開催日数：17 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：人　　学習支援員等　平均人数：３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・算数科を中心に、基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を４～６年生の希望者を対象に年間通して 17 回開催した。

■　特徴的な学習支援内容
・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援をしている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・下校時、確実に迎えが来られるかどうかを確認し、迎えが可能な児童のみ参加することとした。

■　事業の成果
・個別に対応することができるので、児童の困り感に寄り添い、理解しているかどうかの見取りが的確にできた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。



【６年生のバックアップ教室】

報告書記入者（　　教　頭　　）

夏休みきらり学習教室　　～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名　：　夏休みきらり学習教室	城北小学校　学校運営協議会　：　■有　□ 無

主な活動場所：教室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：３日（開催ペース：年３日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：60 人　　学習支援員等 平均人数：４人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・実施日時：夏季休業中の３日間、（７月 21 日（水）26 日（月）27 日（火））、いずれも 8:30 から 10:00 まで
・目　　的：算数科を中心とした、個別の学力補充

■　特徴的な学習支援内容
・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。
・感染防止対策として、健康状態の確認、マスクの着用、入退室時の手指消毒、換気を行い、自教室の自席での学習とした。

■　事業の成果
・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまずきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった！」「できた！」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。

報告書記入者（　　教　頭　　）

来てみる・やってみる　「土曜日曜教室・てみる」

彦根市	活動名　：　土曜日曜教室・てみる	中央中学校　学校運営協議会　：　□有　■ 無

主な活動場所：理科室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：10 日（開催ペース：月２日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）
平均参加人数：15 人　　学習支援員等 平均人数：　13 人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：■企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■　特徴的な学習支援内容
１対１または子ども２人に指導者１人とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にして、学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみにしている子どもも多い。２時間程度の学習であるが、学習の休憩時間を交流の時間として設定し、支援員と子どもたちとの交流の機会を設けている。毎回のしめくくりの時間に子どもに活動の振り返りをさせて、ここでの学びが他の活動や時間に広がるようにしている。


【感染対策を講じた上での実施】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して行っている。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクをつけて学習するとともに教室内にパーテーションを設置している。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

■　事業の成果
個別指導により、つまずきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、学習意欲の向上や学習方法の定着にもつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
学習支援員やサポーターの確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。

報告書記入者（　　教　頭　　）

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名 ： 学び育ちＬＬ教室	中央中学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：中地区公民館　　開始年度：平成 24 年度
年間開催日数：44 日（開催ペース：週１日、月４回）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）
平均参加人数：14 人　　学習支援員等 平均人数：10 人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：■企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

■ 特徴的な学習支援内容
マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にし、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
中央中学校の土曜教室と同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイスブックページを設け発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。
感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクを着用して学習し、教室内では間隔をとって行っている。


【　ＬＬ教室の様子　】

■ 事業の成果
子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校傾向や特別支援の配慮を要する子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。

報告書記入者（　教　頭　）

放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名 ： 水曜ゼミ	南中学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：南中学校区　　開始年度：平成 29 年度
年間開催日数：11 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均参加人数：15 人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
〇放課後学習「水曜ゼミ」（11～２月）は、３年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。基本週に１回のペースでとしているが、今年度は 12 月に集中講座として４日間連続で開催した。
〇地域未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、今年度は実施していない。

■ 特徴的な学習支援内容
学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
水曜ゼミは受験を控えた３年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。地域コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し学習支援員の確保にあたっている。

■ 事業の成果
家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。また生徒用タブレット端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者（　教　頭　）

小ースタートカリキュラムとして中休みの学習教室

彦根市	活動名 ： 中休み学習教室	城南小学校	学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所： １年生各教室　　開始年度：平成 31 年度
年間開催日数：24 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数： ０人
平均参加人数：15 人　　学習支援員等 平均人数： ２人
・学習形態 ：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）
・教室のもち方 ：□平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 ■その他（ 中休み ）
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO 等関係者 □その他

■ 活動の概要と目的
小１スタートカリキュラムの一環として、学力補充が必要な１年生を中心に、中休みを利用して学力補充教室を行った。

■ 特徴的な学習支援内容
国語と算数を中心に、授業中に課題が終わらなかった内容の学習支援。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
授業中の課題が時間内に終わらなかった児童に声をかけるようにした。昨年度までは、夏期休業中に学力補充教室を行っていたが、今年度は、その期間が登下校の道路の工事と重なり実施しにくく、今年度のような形をとり学力補充を行うことにした。

■ 事業の成果
小１に絞ったことで、小１スタートカリキュラムの一環として取り組むことができ、ひらがな・かたかな・足し算・引き算といった基礎的な学習の補充ができた。例年のような夏期休業中ではなく実施できたことで、授業内容に沿ったタイムリーな学習支援になった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
学習支援員の方に中休みだけ来てもらうというのは申し訳なく、結局は前後の時間の学習支援にも関わってもらうことになったため、地域未来塾と他の事業との時間や謝金の調整が必要になり、事務処理が煩雑になった。

報告書記入者（ 主幹教諭 ）

つなげよう　子どもを育む　地域の力　　～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名 ： 学力補充教室	城陽小学校	学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：各教室　　開始年度：平成 31 年度
年間開催日数： ２日（開催ペース：夏季休業中）　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数：90 人　　学習支援員等 平均人数： ４人
・学習形態 ：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）
・教室のもち方 ：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO 等関係者 □その他

■ 活動の概要と目的
１学期終業式の午後と夏季休業初日の午前にそれぞれ２時間実施した。基礎的学力を高めることをねらいとし、３年生以上の児童を対象として、前学年で学習した算数科の内容を中心に補充学習を行った。

■ 特徴的な学習支援内容
募集時に、発展的な学習は一切せず、前学年の補充学習を行うことを周知し、個別指導が望ましい児童を中心に実施できるようにした。教師が用意したプリントの中から、各自が選んで取り組んだ。そのため、一斉指導ではなく、つまずきに個別に対応するようにした。学習支援員の方々には、各学年に分かれてもらい、教師とともに児童への個別の支援をしていただいた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
趣旨を明記したうえで保護者あてに文書を配り希望者を募ったり、個別指導が望ましいと考えられる児童に参加を促す声かけをしたりすることで参加を呼びかけた。密を避け、教室を分散させて行った。

■ 事業の成果
学習内容を限定したことにより、基礎、基本の積み上げが不十分と思われる児童にとって、個別対応の支援は心強く、「分からない」「教えてほしい」と声をあげやすい雰囲気があった。自身のつまずきに対して意欲的に向き合い学習をすすめることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
実施した時期は、大学の授業がある時期で、近隣の大学生のボランティアを募ることに大変苦労した。地域の方々など、他にも支援いただける支援員の確保に努めたい。

報告書記入者（ 教　頭 ）

夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～

彦根市	活動名 ： 夏休み学習教室	亀山小学校	学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：　　開始年度：令和２年度
年間開催日数：３日　　地域学校協働活動推進員等数：０人
平均参加人数：100 人　　学習支援員等 平均人数：６人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
・夏季休業中の３日間（７月 26 日・27 日・28 日）、いずれも９：00 から 10：30 まで実施した。
・基礎・基本の学力の定着を目的としている。

■ 特徴的な学習支援内容
・基礎・基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまづきには個別に対応できるようにし、子供が理解できるよう支援した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・１学期末の個別懇談会の機会に、学習教室に参加させたい児童（基礎・基本の定着が十分でないと思われる児童）の保護者に趣旨や方法を説明し、理解を得るようにした。
・教室の消毒や換気、室内温度をこまめに確認し、感染症の拡大防止に努めた。


【　夏休み学習教室の様子　】

■ 事業の成果
・それぞれの教室に担任以外の教員（支援員）がいることで、個別指導をしたりプリントの採点をしたりして、効果的に学習を進めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・昨年度は、感染症拡大防止の観点から最低限の人数での学習教室になったが、今年度は、地域コーディネータの声かけで学習支援員を確保し、よりきめ細かな支援ができた。今後も同様の規模で学習教室を実施していきたい。

報告書記入者（　教　頭　）

学びを育む学習会

彦根市	活動名 ： 彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：被服室　　開始年度：平成 28 年度
年間開催日数：31 日（開催ペース：10 月以降週２回、夏季休業）　　地域学校協働活動推進員等数：０人（兼務０人）
平均参加人数：12 人　　学習支援員等 平均人数：４人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
毎日の授業だけでは、十分に学力が定着しない生徒も多く、基礎学力の定着のためには、学力補充が必要となる。しかし、一人では家庭学習に取り組めなかったり、何を学習してよいのかわからなかったりする生徒も多い実情があるため、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

■ 特徴的な学習支援内容
＊夏季休業中の補充学習および質問教室
全学年で、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が数名で学習支援を行っている。
＊３年生の放課後学習会
10 月から毎週火曜日・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材のわからない問題や、数学と英語等の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。


【　３年放課後学習会　】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
＊マスクの着用と使用する教室には消毒液の設置と使用後の消毒作業を実施している。
＊学習支援員を確保するため、教育実習生に声掛けした。

■ 事業の成果
＊家庭学習に取り組めない生徒が、学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが、まじめに意欲的に取り組めていた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
＊学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。

■ その他
・活動状況は、本校ＨＰにて掲載している。https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/

報告書記入者（　教　頭　）

「聞いて、聞いて。言えるようになったよ！」　九九マスター教室

彦根市	活動名：２年生九九マスター教室	河瀬小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　２年生教室　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：　６日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数：０人（兼務０人）
平均参加人数：　23 人　　学習支援員等 平均人数：１人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　■その他（九九が暗唱できたか確認する）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　■その他（休み時間）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・２年生児童のかけ算九九の定着を図る

■　特徴的な学習支援内容
・個別の学習支援　・プリントを採点する　・かけ算九九の定着を図る

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・本校に教育実習に来た地元在住の大学生に声をかけ、学習支援を依頼した。
・２年生の最重要課題であるかけ算九九の習得に特化して、学習進度に合わせて、クラスごとに支援をしてもらった。

■　事業の成果
・従来は担任が１人で暗唱できているか確認をし、カードに合格シールを貼っていたが、２人体制で聞くことができ、短期間に効率的に習得することができた。
・児童も担任以外の先生にも聞いてもらえるということで、意欲的に取組み、定着を図ることができた。


【九九マスター教室】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・本来ならば、夏休み学習補充教室を実施予定であったが、コロナ禍の影響で補充教室は中止となり、代替えでこの九九マスター教室を実施した。
・今後も、学習補充教室以外にも、学年・教科・活動を特化して、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域と共に育てる子どもの学ぶ力

彦根市	活動名　：　学力向上教室	高宮小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：教室　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：７日（夏季休業中、２学期末）　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）
平均参加人数：55 人　　学習支援員等 平均人数：７人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養うため、夏季休業中や２学期末の放課後に希望者を対象とした学力向上教室を実施。

■　特徴的な学習支援内容
学校の学習内容の振り返りとともに、地域教材を利用した生活に密着した内容を取り入れた。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
コロナ禍のため、密を避け、前半後半の２グループ制とする。なお、前半は、全学年を基本コースとし、後半は、１、２年生は基本コース、３～６年生は応用コースとする。


【　学力向上教室　】

■　事業の成果
少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。また、学習支援員を地域住民から募ったことにより、地域未来塾だけではなく、他の学習にも協力をいただけるようになり、継続して子どもたちの学力支援をいただくことができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
長期休業中と２学期末のみの、単発的な学習支援活動の機会であったため、年間を通した継続的な活動にする必要がある。

■　その他
学習支援員として、大学生や高校生、中学生などを招くことができれば、子どもたちのキャリア教育にもつながると考える。

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名 ： 学力補充教室	鳥居本中学校	学校運営協議会 ： ■有 □ 無

主な活動場所：教室　　開始年度：平成 24 年度
年間開催日数：12 日（開催ペース：夏季休業）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）
平均参加人数：６人　　学習支援員等 平均人数：２人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
〇生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■　特徴的な学習支援内容
〇基礎的な学力の補充
長期休業中に出される英語科、数学科、国語科、理科、社会科の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇参加者の募集については、希望者だけでなく、学力の補充が必要な生徒にも教員が声をかけている。
〇実施にあたっては、マスクを着用し、密を避け、個別に指導をする。


【　夏休み補充教室　】

■　事業の成果
〇生徒には、わかりやすく教えてもらっていると好評である。
〇地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。
〇学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
〇学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように確保するかが、大きな課題である。
〇平日の放課後等に実施できないかを検討中である。

報告書記入者（　　地域連携担当教員　　）

輝く笑顔　一人ひとりの「わかった！」をめざして

彦根市	活動名 ： 夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	学校運営協議会 ： ■有 □ 無

主な活動場所：教室　　開始年度：令和２年度
年間開催日数：３日　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）
平均参加人数：50 人　　学習支援員等 平均人数：　５人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
夏季休業中の３日間（7 月 21 日、26 日、27 日）いずれも、8:30 から 10:20 まで実施した。
国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的とした。

■　特徴的な学習支援内容
基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
保護者の希望、または個別指導が望ましいと判断した児童への担任からの呼びかけにより参加を募った。
会場となる教室の消毒や換気、室内温度等をこまめに確認し、感染症の拡大や熱中症発症の防止に努めた。

■　事業の成果
学習そのものに苦手意識があり、個に応じた支援が必要な児童も参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切さに目を向ける児童の姿も見られた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。

報告書記入者（　　教　頭　　）

生徒が意欲的に学習に取り組める学習サポート

彦根市	活動名 ： 地域未来塾	稲枝中学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：多目的教室、図書室　　開始年度：平成 28 年度
年間開催日数：24 日（開催ペース：７月から２月　週１回・月４回）　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）
平均参加人数：平均 9.3 人　　学習支援員等平均人数：　３人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　■その他（　期末三者懇談会時　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い、学力向上を図る。

■　特徴的な学習支援内容
・７月、夏休み、２月までの毎水曜日、保護者懇談会の期間に→３年生を対象に定期考査や高校入試に向けた学習支援

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・生徒の募集→３年生の生徒及び保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集
３年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や受験対策を必要とする生徒に勧める。
・コロナ対策→当初の参加希望者が多かったが、日々の参加者は平均 10 名程度なので、密にならないように席の間隔を取って実施してきた。


【　個別支援の様子　】

■　事業の成果
・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。
・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・地域未来塾の講師の発掘が大変である。
・学校と地域コーディネーターの打合せが重要となる。

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名 ： かがやき教室	稲枝東小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：音楽室　　開始年度：　平成 30 年度
年間開催日数：15 日（開催ペース：月２～３日）　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）
平均参加人数：18 人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
５・６年生の児童を対象に、６月より月に２～３回程度の学力補充の時間を計画した。

■　特徴的な学習支援内容
事前に児童がつまずきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を選択し、学習を進める。学習支援員は児童の困り感に応じて、個別の学習支援を行っている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・５月に年間を通して受講できる希望者を募った。さらに、担任より個別指導が望ましいと考える児童に参加を促した。
・児童が学習内容を選択できるように、複数の学習内容を選びプリントを作成している。また、選んだ学習内容によって児童を少人数のグループに分けている。


【　学習支援の様子　】

■　事業の成果
・算数科の基礎的な学習内容を復習することで、自信をもたせ学ぶ意欲を向上させた。児童が自分に合った学習内容を選択できるようにすることで、意欲的に学習に取り組むことができた。
・同じ内容の学習をする少人数グループに分けることで、子ども同士が困り感を共有し教えあったり、学習支援員が同じところにつまずいている子どもを同時に指導したりすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・今後も取組を進めるにあたり、学習支援員さんの人材確保が必要である。また、学習支援員さんと子どもとの関係づくりが課題である。

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

わくわく　はえみ学習

彦根市	活動名　：　ホップタイム	稲枝西小学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：教室　　開始年度：（令和）２年度
年間開催日数：11 日（開催ペース月１日）　　地域学校協働活動推進員等数：０人
平均参加人数：20 人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・確かな学力の定着をめざす学習。
・苦手な学習内容の復習をする学力補充。

■　特徴的な学習支援内容
・一つの学級を２グループに分け、各グループに２～３人の指導者を配置して実施した。課題については、様々な難易度のものを用意し、自分で選んで問題を解き進められるようにした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・下校の人数が少なくなるため、基本的に児童全員の参加とした。児童によって、自分の力量に合わせた力がつけられるように、プリントの工夫をした。

■　事業の成果
・分からない問題をすぐに聞くことができたり、励ましの声かけをしてもらったりすることで、意欲的に取り組む子が多かった。学級全体で苦手とする内容を復習することで、学力の定着を図ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・指導してくださる方の人材確保が難しいので、早めに声かけをする必要がある。



【　ホップタイム　】

報告書記入者（　　地域連携担当教職員　　）

「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高める

彦根市	活動名　：　ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：２年教室・４年教室　　開始年度：平成 28 年度
年間開催日数：50 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）
平均参加人数：５人　　学習支援員等 平均人数：　２人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
少人数による個別指導で「できた・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高められるようにする。

■　特徴的な学習支援内容
課業日の月曜日（１～３年）水曜日（４～６年）、学期ごとに参加児童を募集し定員を８名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題（プリント等）を準備して実施したりし、個別の進度で学習を進める。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。また、個別指導が有効と思われる児童へは事前に保護者に呼びかけ、参加を促している。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、４～７名という少人数で実施している。感染症対策として、普通教室において、常時換気をするとともにマスクを着用しながら、密にならないように席を離して実施している。

■　事業の成果
集団での学習では身に付きにくい児童への個別の支援が充実し、大変効果があった。学習に苦手意識のある児童にとって、分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもちやすい。また、個別に苦手な分野に絞って復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、募集の仕方を工夫する必要がある。効果があることを知らせ、児童へ声をかけるとともに、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。また、学習支援員と担任との打合せを充実させるなど、連携を一層密にしていく必要がある。

報告書記入者（　　教　頭　　）

学習習慣の定着を目指すための放課後学習

湖南市	活動名 ： 放課後質問教室	石部中学校	学校運営協議会 ： ■有 □ 無

主な活動場所：普通教室　　開始年度：（平成）28 年度
年間開催日数：７５日（開催ペース：週２～３日）　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：１５人　　学習支援員等 平均人数：３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要と目的
・家庭での学習がうまく進まない生徒に放課後の教室を使い、予習や復習をすることで学習習慣の定着をめざす。
・今年度は、1 年生で平日放課後にテーマ別学習会を開催した。（教員と学習支援員で開催）

■ 特徴的な学習支援内容
・テスト前の学習でのわからないことを教える。
・学校の宿題のわからないところを支援する。
・実技教科の遅れている作業を援助する。
・授業内容が理解できていない部分を再度教える。
・テストのポイントとなる部分を再度講座として開設する。（テーマ別学習会）


【1 年テーマ別学習会】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・手洗い、検温、マスク着用など基本的な感染症対策実施

■ 事業の成果
・家庭での学習習慣をつけるために効果があったと考えられる。
・意欲的に学習に取り組む姿が多く見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・支援する人材の確保
・冬季は、6 時間授業を行うとほとんど放課後の時間がない。部活動との兼ね合いが難しい。
・学年が上がるにつれ、学習内容が難しく専門の教科以外は教えることが難しい面もある。

報告書記入者　（　校　長　）

やる気をサポート！　～生徒たちの未来づくり・夢づくり～

湖南市	活動名 ： 放課後学習会 放課後日本語教室	甲西中学校	学校運営協議会 ： ■有 □ 無

主な活動場所：（放課後学習会）理科室、（放課後日本語教室）日本語教室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：58 日（開催ペース：放課後学習会　週１日・放課後日本語教室　週１日）
地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務０人）　　平均参加人数：１５人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
≪放課後学習会≫　本校の生徒の課題として、家庭学習がほとんどできていないことが挙げられる。家庭での学習環境が整っていないことも考えられるが学習方法がわからないことも要因である。そこで、地域の方や元教員などに学習ボランティアとして支援していただき、自主的・主体的な学習習慣を身につけるため、学習会を６月から放課後に週１回１時間実施している。
≪放課後日本人語教室≫　日本語習得がまだ十分でない外国籍生徒にとって授業だけで教科の学習を十分に理解することは非常に難しい。特に国語は漢字や文法など丁寧に教える必要がある。放課後にワークやプリントを中心に少人数でできるだけ個別に支援を行っている。テスト前にも集中講座を開催している。

■ 特徴的な学習支援内容
毎回５教科のプリントを使用して学習に取り組んだ。３年生については過去の入試問題にチャレンジした。


【　放課後日本語教室　】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
参加者が多い時には図書室など広い会場を使用して密にならないようにした。

■ 事業の成果
その場だけでなく家に持ち帰って学習の続きをするなど、家庭での学習習慣につながっている。継続して参加する生徒が増えてきている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
学力に課題やしんどさのある生徒にもっと参加してもらいたい。そういった生徒には個別に声かけを行う。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員・教頭　）

生徒の家庭学習を見守ります　～地域で支える地域の子ども～

湖南市	活動名　：　地域みらい塾	甲西北中学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：菩提寺まちづくりセンター　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：30 日（開催ペース：月２日）　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）
平均参加人数：10 人　　学習支援員等 平均人数：　２人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
　地域の支援による地域での学習の場の提供
■　特徴的な学習支援内容
　学習の進み具合をみながら、希望に応じ個別に支援
■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　事前申し込みなしの自由な参加とし、時間内であればいつ来ていつ帰ってもOK。
スタートは全校生徒へのチラシの配布を行ったが、現在は校内にポスターの掲示とメール配信システムを使って開催のお知らせをしている。



【
■　事業の成果
　さまざまな理由で自宅では自主学習しづらい生徒が、落ち着いた雰囲気の中で集中して学習に取り組んでいる。
■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　家庭環境などさまざまな事情で学習が遅れがちな、本当に必要な生徒に対しての支援ができていないのではないか。
■　その他
　生徒のニーズに応じ、地域みらい塾の開催を増やしていきたいが、学習支援者等への謝金の補助が少なく限界を感じている。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

未来に羽ばたく子どもたちへのサポート　外国籍生徒への日本語教室、３年生進路支援

湖南市	活動名　：　日枝中未来塾 外国籍生徒日本語教室、３年進路支援	日枝中学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：日本語教室　　開始年度：（平成）２９年度
年間開催日数：１１日（開催ペース：長期休業期間）　　地域学校協働活動推進員数：６人（兼務３人）
平均参加人数：１０人　　学習支援員等 平均人数：５～８人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
　学力の保障や学校生活の安定のために、日本語の支援が必要な生徒に対して、学校支援員や本校卒業生、地域のボランティアさんの支援のもと日本語教室学習会、進路支援を実施する。
■　特徴的な学習支援内容
　外国籍生徒が年を追うごとに増えている本校では、通訳機、翻訳版教科書等を活用して、子どもたちの　学習支援を行い、生活の安定と進路支援を行っている。
■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　希望参加ではあるが、三者懇談会や通訳を介し、生徒の状況を話し合い、参加を促進している。また、３年卒業時に本事業の趣旨を説明し、参加募集を実施している。
　コロナウィルス感染拡大防止策として参加者全員に教室開催前からの体温の計測、入室時の検温、アルコール消毒を徹底している。



【日本語教室での学習】

■　事業の成果
　ボランティア、支援員、卒業生等の丁寧で、個別的な支援による取り組みの結果、生徒の学習意欲の向上や学習の促進、進路選択に対する前向きな姿勢がみられる。
■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　ここ数年毎年取り組んでおり、事業も定着してきているが、長期休業中に一定期間実施するために卒業生やボランティアさんを含む指導者の人員確保や学習課題の個別な提供の方法を考えることが不可欠である。
　また、コロナ禍における設備機器や教室内の消毒を施したうえでの人員配置、教室の設定、生徒たちだけでなく参加する協力者の感染拡大防止策を、本教室を実施するにあたり配慮することが必要である。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進委員、教頭　）

学力補充　「いつやるの、　今でしょう！」教室

米原市	活動名　：　いつ今教室	大東中学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：会議室、図書室　他　　開始年度：平成 25 年度
年間開催日数：25 日　　地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 0 人）
平均参加人数：18 人　　学習支援員等 平均人数：　4 人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
概要：定期テスト前や長期休業中、また、３年生入試前の時期に学力補充やテスト対策を実施する。
目的：低学力生徒の基礎学力定着と向上
自宅での学習に取り組むことが難しい生徒への支援
希望進路の実現に向けた個々の弱点補強や支援

■　特徴的な学習支援内容
・参加希望者を募って実施
・課題プリントを作成し、参加生徒の学力レベルに応じた指導

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・各テスト前や長期休業前に参加募集の案内を作成しての呼びかけ

■　事業の成果
・生徒からは「丁寧に教えてもらえるので分かりやすい」という感想が多い。
・保護者からの事業継続実施を望む声が多い。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・学習支援員の一定数の確保や日程調整、開講日数増加の検討



【　学習の様子　】

報告書記入者（　　教　頭　　）

伊吹山中学校　　小論文再策講座

米原市	活動名：小論文対策講座	伊吹山中学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：本校 IT 教室　　開始年度：令和元年度
年間開催日数：３日　　地域学校協働活動推進員数：０人
平均参加人数：18 人　　学習支援員等 平均人数：　１人
・学習形態　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
本校３年生の生徒を対象に、本県県立高等学校特色選抜や推薦選抜での入学検査で課される小論文に対応するため、地域住民であり、高等学校教員でもある講師を招聘し、「小論文対策講座」を実施した。

■　特徴的な学習支援内容
生徒は、本県県立高等学校のこれまでの小論文の問題を課題にして、本番さながらに挑戦するとともに、学習支援員を務める講師が一人ひとりの小論文を添削することで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるように支援内容を工夫した。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
自分の希望する進路に応じて、３年生に講座参加の希望を募った。広い特別教室を会場とし、感染予防に努めた。



【　小論文対策講座　】

■　事業の成果
保護者や生徒からも、「実施して欲しい。」との声があり、地域のニーズに合っている。生徒一人ひとりが複数の小論文の課題に取り組み、また、講師により個別に添削を行うことで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるようになり、充実した講座となっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
小論文の添削に時間がかかるため、今後人材を増やすなど工夫する必要がある。

報告書記入者（　　教　頭　　）

放課後学習会　＆　夏休み全校学習会

米原市	活動名：放課後＆夏休み全校学習会	伊吹山中学校　学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：本校ランチルーム　他　　開始年度：令和元年度
年間開催日数：放課後 13 日　夏休み４日　　地域学校協働活動推進員数：０人
平均参加人数：50 人　　学習支援員等 平均人数：　５人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
定期テスト前の放課後や長期休業中を利用して、生徒一人ひとりが、自分の習熟度や自分のペースに応じて学習を進めることで、基礎的・基本的な知識を習得する。さらに授業で学んだ内容や課題にじっくり取り組んだり、個別に質問できる場として開催した。

■　特徴的な学習支援内容
複数の学習支援員が生徒の要望に応じて支援できる体制をとることができるようにした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
学習内容や課題等は、各生徒が自分で予定を立てて準備し、自由に質問ができるような形態をとっており、多くの生徒が参加を希望し、学習を進めることができている。
部活動に配慮して、長期休業中は、部活動のない午後に行い、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。


【　夏休み学習会　】

■　事業の成果
長期休業中や、部活動停止期間となる定期テスト前に実施したことで、生徒にとっては充実した学習習慣を継続させることができた。また、自分の習熟度に応じて各教科の学習を進めることができるため、目標が立てやすく、十分に理解できるまで学習に取り組むことができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
生徒のニーズに応じるようにするため、学習支援員の確保に努め、今後も個別の学習指導・支援ができる体制づくりを進めていく必要がある。

報告書記入者（　教　頭　）

地域の力を活用し、人との関わり、自分を磨く子どもの育成をめざす

米原市	活動名　：　米原学習教室（ＭＧＫ）	米原中学校　学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：米原中学校　　開始年度：平成 29 年度
年間開催日数：70 日　　地域学校協働活動推進員数：2 人（兼務〇人）
（８月１週目 5 日間、10 月以降月平均 10 日開講
平均参加人数：20 人　　学習支援員等 平均人数：　1～２人
・学習形態　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
コロナ禍の中、不安を抱える生徒も多い中、長期休業中に低学力の生徒を中心に学習支援を行った。３年生は２学期から放課後の時間を活用し、３教科（国語・数学・英語）の講座を開催した。
３学期は入試の小論文講座を１月に４回開催した。

■　特徴的な学習支援内容
今年度は、８月の第１週に１～３年の全学年、生徒が課題を持参し、元教員と地域ボランティアが個別指導を行った。３年生は 11 月より入試に向けた３教科の講座を開講した。１月には入試の小論文対策として元国語教員が指導にあたった。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
全保護者あてに、案内を出した。課題の多い生徒は直接声をかけた。
夏季学習について、３年生を中心に１，２年にも拡大して質問教室を実施できた。


【　放課後学習講座の様子　】

■　事業の成果
一人では課題に取り組めない生徒も、提出することができた。３年生については講座を選択することにより、苦手教科の克服につながった。また、入試を意識した学習を２学期から行うことができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・教員の働き方改革の視点からも本事業は有用であるが、教員ＯＢ等講師の確保が難しい。
・朝の始業前の時間にも補習・質問教室ができると良いが、講師の確保が難しい。

報告書記入者（　教　頭　）

笑顔いっぱい・学びいっぱい活動　～自ら学ぼうとする生徒への学習機会の場の設定～

米原市	活動名　：　土曜学習会	河南中学校　学校運営協議会　：　■有　□ 無

主な活動場所：　　開始年度：平成２９年度
年間開催日数：１５日（開催ペース：月２日）　　地域学校協働活動推進員等数：０人
平均参加人数：6.3 人　　学習支援員等 平均人数：　２人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　月２回土曜日の午前中に開催し、自主的に学ぼうとする生徒のために、その場を提供して、生徒の学びの基礎を育成する。

■　特徴的な学習支援内容
　本校を卒業した大学生を講師に招き、自主的に学習を進めるうえで、わからないところをすぐに質問できる体制を構築した。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　保護者宛に開講予定を事前に周知するようにした。生徒の都合のつく時刻に参加できるようにして、部活動練習後に短時間参加する生徒も多くいた。

■　事業の成果
　家庭では集中できず家庭学習が進まない生徒も、土曜学習会に参加することで、黙々と取り組む生徒に感化されて、集中して学習に取り組めた。また、わからないところをすぐに講師の大学生に質問でき、理解を深めることができた。


【　土曜学習会の様子　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　講師の大学生の都合もあり、開催日を事前に決定することに苦慮した。定期テスト前には多くの生徒が参加することから、今後も学習する場の提供は必要と強く感じた。

■　その他
　土曜学習会を開催する前日には保護者あてにメール配信をして周知した。

報告書記入者（　　教　頭　　）

気軽に訪ね、気軽に学ぼう、ちょこっと学習会

日野町	活動名　：　ちょこっと学習会	日野中学校　学校運営協議会　：　□有　■ 無

主な活動場所：図書室　　開始年度：平成30年度
年間開催日数：14日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　一人では学習に向き合えない生徒や、日頃は質問などがしにくい生徒にとって学びの場となることを目的として、学習支援員の支援のもと学習会を実施している。

■　特徴的な学習支援内容
　本年度は、コロナ禍の影響も有り、11 月からの実施となった。部活動を引退した３年生を対象にしたことと、支援員を本校卒業の大学生にお願いすることで、生徒にとってより身近で親しみやすい存在になっていたと考える。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　３年生全員に参加者募集のチラシを配った。また、朝の会や帰りの会を利用して、担任より、期日の連絡と、積極的な参加を促すようしてもらった。

■　事業の成果
　家庭では、なかなか学習に取り組めない生徒も、集中して学習に取り組めた。また、大学生に分からないことを質問することで、理解を深めることができた。


【　学習の様子　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　学習支援員の確保が難しい。また、実施日数増加および曜日の固定化の調整が、学校行事との関係で厳しい。

報告書記入者（　　教　頭　　）

一緒に勉強してスッキリさせましょう！　ちょっと　ききたい　ちょき

日野町	活動名 ： 立ち寄り学習処　ちょき	日野中学校　学校運営協議会 ：□有　■無

主な活動場所：日野町少年センター　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：60日（開催ペース：週１～２日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：４人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
家庭学習の習慣が十分でない生徒が、学校帰りに気軽に立ち寄り、日常の中学校の学習で十分理解できなかったところを、大学生や教員経験者の指導を受けて学習する場所を提供し、基礎学力や学習意欲の向上を図った。

■　特徴的な学習支援内容
受験を前にした３年生を対象とし、学習支援員は中学生と年齢が近い大学生を中心に配置し、できるだけ気楽に質問・学習ができるように努めた。また、基礎学力の不足した生徒に対しては、習熟度に合わせて気楽に質問できるようできるだけ個別指導となるよう配慮した。教員経験者からは専門的指導を受けることができ、より深まった学習となった。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
参加者の募集については中学校と連携し、３年生全員にチラシを配布し募集した。また、部活動や学校行事との調整を行いながらより参加しやすいように努めた。

■　事業の成果
高校入試を目前にした３年生にとって、日頃の学習で理解できていないところを学びなおすことができ参加者は満足していたようである。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
初年度であったことから事業の周知が十分でなく思ったほどの参加者がなかった。今後は学校とより連絡を密にして１，２年生も含めての事業実施を検討していく必要がある。また冬季は日没も早く生徒の帰宅が遅くならないよう配慮する必要がある。

報告書記入者（　日野町少年センター所長　）

土曜龍王塾～「望み高かれ！」輝く未来に向け“志高く生きていく生徒の育成”を目指して～

竜王町	活動名 ： 土曜龍王塾（雲竜塾・昇竜塾）	竜王中学校　学校運営協議会 ：■有　□ 無

主な活動場所：竜王中学校　　開始年度：平成 28 年度
年間開催日数：平日　24 回、土曜日　６回　　地域学校協働活動推進員等数：０人（兼務０人）
平均参加人数：平日　４～５人、土曜日　50 人　　学習支援員等 平均人数：12 人
・学習形態　　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
中学校３年生を対象に、竜王中学校ＯＢ・ＯＧを中心とした大学生や教員ＯＢなど、地域住民から幅広く協力を得て、水曜日の放課後や秋以降の土曜日に学習を一層深めたい子どもたちの学ぶ機会として、また、家庭学習の習慣が十分に身についていない子どもたちへの学習支援の場の創出として事業を実施する。

■　特徴的な学習支援内容
放課後は日々の授業の補充学習を実施している。また、秋以降の土曜日には雲竜塾（発展的な学習・特色選抜入試対策）と昇竜塾（基礎的基本的学力の定着）の２つのコースを設け、生徒のニーズに合わせ、子どもたちの主体的な学習を支援する内容としている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
昨年度に引き続き、検温・消毒を実施し、教室（会場）を分けて実施した。

■　事業の成果
・受講生も多く、学習支援に貢献するとともに、大学生や教員ＯＢなどの地域住民が講師として協力し、学校と地域が連携・協働する場となっている。また、参加した受講生は希望校に進学する割合が高くなっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
今後、受講生が増えた場合、教材や謝礼などの経費をどう捻出するか、また、安定した指導者の確保をどうするかが課題である。



【　教室の様子】
（竜王中学校より提供）

報告書記入者　（　生涯学習課　生涯学習係　主査　）

教育委員会・学校・塾が連携し、中学生の学力向上を図る土曜講座（サタスタ）

多賀町	活動名 ： 土曜講座（サタスタ）	多賀中学校	学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：多賀中学校　　開始年度：平成 21 年度
年間開催日数：18 日（開催ペース：月３日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務　０人）
平均参加人数：31 人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　　：□個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的

中学生の学力伸長を目的として、中学校との連携をもとに希望生徒を募り、年間１８日間、土曜日の午前中に多賀中学校を会場として開講している。


【土曜講座風景（１年生）】

■　特徴的な学習支援内容

提携塾に講師派遣を依頼し、国語・数学・英語の３教科の学習を、学年別に５０分間ずつ、中学校の年間計画に沿って学習をすすめている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

中学校・提携塾と調整して開講日を決め、家庭学習とタイアップした効果的な学びの場としている。例年は町立博物館で開催しているが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、多賀中学校に会場変更し、換気・消毒等の徹底を図っている。

■　事業の成果

経済的に塾に行けない子どもへの学習機会となり、保護者から大変喜ばれている。また、学校と連携した指導と効果的な個別支援により、学習に自信を付けた子も多い。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

個別支援の充実を図るために、奨学金受給者・大学生中心に広く募集し、ボランティアの参加拡大を図る。

報告書記入者（　町担当者　）

令和3年度　放課後子ども教室　活動事例一覧

市町名	教室数	教室名	主な実施場所	対象学校区名	委託	委託団体名
近江八幡市	5	寺子屋　沖島	沖島小学校	沖島小学校		
		寺子屋　岡山	岡山小学校	岡山小学校		
		寺子屋　金田	金田コミュニティセンター	金田小学校		
		放課後学習「寺小屋安土」	安土小学校	安土小学校		
		寺子屋老蘇「こども学習教室」	老蘇小学校	老蘇小学校		
草津市	2	放課後自習広場	笠縫小学校	笠縫小学校		
		放課後子ども教室	志津小学校	志津小学校		
栗東市	2	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東	葉山東小学校		
		治田西のびのび広場	治田西小学校	治田西小学校		
野洲市	6	中主地域子ども教室（中里学区）	コミュニティセンターなかさと	野洲小学校 中主小学校 篠原小学校 祇王小学校 三上小学校 北野小学校	○	野洲市地域教育協議会
		中主地域子ども教室（兵主学区）	コミュニティセンターひょうず		○	
		篠原地域子ども教室運営協議会	コミュニティセンターしのはら		○	
		ぎおう子ども体験教室	祇王小学校グラウンド 永原御殿跡		○	
		三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ		○	
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		○	
東近江市	5	みなみっこ学習会	南部コミュニティセンター	八日市南小学校		
		放課後子ども教室「まなびぃ」	市原小学校	市原小学校		
		わくわく夏休み勉強会	五個荘コミュニティセンター	五個荘小学校		
		湖東第二小学校　地域学校協働本部	湖東第二小学校	湖東第二小学校		
		東近江アミーゴ教室	東近江市福祉センター ハートピア	八日市南小学校 箕作小学校 御園小学校 玉緒小学校 玉園中学校		
日野町	5	日野小チャレンジ教室 （日野小てらこや）	日野小学校	日野小学校		
		放課後チャレンジ教室	西大路小学校	西大路小学校		
		書道教室・科学教室・茶道教室	南比都佐公民館	南比都佐学校		
		放課後必佐寺子屋	必佐小学校	必佐小学校		
		桜谷小学校　放課後教室	桜谷小学校	桜谷小学校		
多賀町	1	学びっこタイム	大滝小学校	大滝小学校		

自分の「めあて」をしつかり持って、最後まで学習に取り組める児童の育成

近江八幡市	活動名： 寺子屋 沖島	沖島小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

主な活動場所：沖島小学校多目的ホール　　開始年度：平成 28 年度
年間開催日数：54 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務０人）
平均参加人数：12 人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要
内容…宿題や自主学習・読書に取り組む。
対象…水曜日は全児童、金曜日は1，2，3 年生児童

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
わからないところを中心に学習支援員に聞きながら、国語の漢字ドリルや算数の計算ドリル、計算プリントなどの宿題や復習に取り組んだ。
（学習場所を和室で行うことで密を避けた。）

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
必要に応じて学校の教員が補助教員として指導にあたっている。



【 放課後学習の様子 】

■ 事業の成果と課題
○ １年生にとっては、初めての放課後学習だったが、他学年と一緒に学習することで徐々に集中力が高まってきた。少人数のため、密にならず放課後という時間帯を効果的に利用できた。
○ 宿題が中心で、予習や復習といった自主的な学習に取り組む姿は少なかった。放課後学習と家庭学習の連動について指導していく必要がある。
○ 読書時間を放課後学習活動にも取り入れることで多くの児童が読書に親しむことができた。

報告書記入者（　教　頭　）

～新たな発見、新たな学びを～

近江八幡市	活動名： 寺子屋　岡山	岡山小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

主な活動場所：岡山小学校　　開始年度：平成３０年度：
年間開催日数：１８日（開催ペース：月４日程度）　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：１５人　　平均スタッフ数：４人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要
子どもたちの学習意欲の向上や主体的な学びの習慣の確立を図ることを目的とし、学校の教室を使って水曜日の放課後に 30 分程度実施した。学習支援員は４名でいずれも元教員である。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
コロナ禍における新しい学校生活にあわせ、３密を回避できる学習環境を設定している。学習支援員が元教員で、それぞれ国語、社会、算数の専門性をもっていることから、宿題等の課題や授業の補習的な内容は行わず、発展的な学習内容を設定し活動した。算数では数の仕組み、位とりの楽しさを味わい、国語では論語などの漢文や古文なども提示し、子どもたちの探求的な学習意識の向上をはかった。



【学習の一場面】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
特になし

■ 事業の成果と課題
発展的な学習内容や中学校や高等学校で学ぶ内容に取り組んだり、紹介したりすることで子どもたちの学習への興味・関心を高めることができた。ただ、学習支援員が毎回教材を工夫し準備しているが、予算が十分でない。

報告書記入者（　教　頭　）

安全な放課後、安心な居場所づくりを！

近江八幡市	活動名 ： 寺子屋　金田	金田小学校	学校運営協議会 ： ■有　□無

主な活動場所：金田コミュニティセンター　　開始年度：平成 29 年度
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：18 人　　平均スタッフ数：５人

・活動内容：■学習支援　■体験活動　□ 芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 関係者　■その他

■ 活動の概要
・４年生の児童（希望者）が放課後コミュニティセンターに集い、学習やスポーツ、体験活動に取り組む。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・市スポーツ推進課と連携し、スポーツ推進員の指導の下、ニュースポーツ「キンボール」に取り組んだ。
・主に宿題や、子どもたちの主体的な学習を中心にプログラムを組んだ。
・密集を避けた座席の配置や活動部屋を確保した。


【ニュースポーツ「キンボール」】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・推進員と教頭が内容について相談、協議し連携を図った。
スポーツの際はスポーツ推進員さんとも連携した。

■ 他事業との関わり
・特になし

■ 事業の成果と課題
・事後のアンケートでは児童も保護者も大満足な様子で、楽しく充実した活動を振り返っていた。
・例年参加を希望する児童が多いが、今年度は定員を下回った。参加したい児童が一人でも多く参加できる仕組みづくりが望まれる。

報告書記入者（　教　頭　）

地域の方とふれあい地域の中で育つ。様々な文化に触れ多様性を感じて育つ。

近江八幡市	活動名 ： 放課後学習「寺小屋安土」	安土小学校	学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所：教室
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　：安土コミュニティセンター、安土小学校　　開始年度：平成 27 年度：
年間開催日数：10 日（開催ペース：月３日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：40 人　　平均スタッフ数：６人
）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要
・多文化共生、地域交流活動を基本的な活動目的としている。
・教師ではなく、地域のいろいろな方とのふれあいをめざす。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・日本の昔遊びや外国の遊びを体験する。
・日本と外国の伝統行事に触れる。
・コロナ禍において、密集を避けるためコミュニティセンター体育館で実施した。


【　日本と外国の行事体験　】

■ 事業の成果と課題
・退職教員と地域の方が指導者としてかかわっており、子どもたちの接し方には慣れているため、子どもたちも保護者も安心して参加し活動している。
・遊びを通して日本や外国の様々な文化に触れることで多様性を当たり前のように受け入れている。それにより、外国籍の保護者や子どもたちも安心して参加している。
・放課後学習のこれからの課題は、なんといっても指導してくださるボランティアの方のさらなる人材発掘と人材確保である。

報告書記入者（　教　頭　）

寺子屋老蘇で学習方法を身に付け基礎学力アップ！地域とともに

近江八幡市	活動名：寺子屋老蘇「こども学習教室」	老蘇小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

主な活動場所：老蘇小学校　図書室　　開始年度：平成 30 年度
年間開催日数：12 日（開催ペース：週１日　学年別）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務０人）
平均参加人数：７人　　平均スタッフ数：３人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・基礎学力の定着をめざした学習活動をする。
・地域の学生による支援を受け、自主学習や家庭学習の方法を習得する。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・計算力・漢字力の向上をめざして、毎回はじめに「百ます計算」や漢字の書き取りをする。
・決められた学習をするのではなく、各々が目標を決め学習を行う。中には寺子屋を漢字検定を目標に取り組む児童もみられた。


【　寺子屋老蘇　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・対象の３・４年生が６時間授業の火曜日に設定し、図書室を活用できるようにした。
・放課後児童クラブが校地内にあるので、寺子屋が終われば各自で参加できる。

■　他事業との関わり
・老蘇まちづくり協議会でも、夏季休業期間中に「寺子屋」を全学年対象に実施している。また漢字検定の募集案内にも協力をいただいた。

■　事業の成果と課題
成果・コロナ禍での実施なので、学年別に少人数で学習する機会となり、よい支援を受けられた。
・支援員や教職員など、ひとりに関われる大人が多いので、疑問をもったときにすぐ解決できる環境がある。
課題・下校時刻が遅くなるので、保護者の迎えを必須条件としたため、保護者の都合で参加できない児童がいる。

報告書記入者（　教　頭　）

学びのセーフティネット　～学習習慣の定着を目指して～

草津市	活動名　：　放課後自習広場	笠縫小学校　学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所：　　開始年度：平成 30 年度
年間開催日数：35 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：12 人　　平均スタッフ数：２～３人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・１～３年生の参加児童が指定曜日の放課後に集まり、宿題や自主学習に取り組む。
・自学自習を行うことで、児童の学習習慣の定着を図る。
・課業時間に学習したことを反復することで学習意欲を高め、家庭学習へとつなぐ。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・校内の教室で実施し、終了時刻を高学年の下校時刻に合わせることで、安全に過ごして下校できるようにしている。
・学年ごとに学習する部屋を分け、支援員の見守りのもと、集中して学習できる環境を整えている。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・支援員が児童の家庭と参加に関する連絡を取り合ったり、準備を行ったりしている。
・児童クラブとの連携を図り、児童を安全に引き渡せる体制を整えている。

■　他事業との関わり
・特になし

■　事業の成果と課題
・参加している児童は、一定時間主体的に学習したり、質問したりする習慣ができてきた。
・参加または不参加について連絡がとれない家庭への対応が難しい。

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

「自分に必要な学習に、自分で取り組む」～学習習慣の定着をめざして～

草津市	活動名 ： 放課後子ども教室	志津小学校　学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所：志津小学校　多目的室　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：21 日（開催ペース：週３日）　　地域学校協働活動推進員数：３人（兼務３人）
平均参加人数：15 人　　平均スタッフ数：３人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要

放課後の時間を活用し、宿題・今日の復習・持参した課題等に取り組み、学習習慣を身につけることを目的とした草津市教育委員会主催の事業。対象は、事前申込みの後、参加することができることになった小学１年生から３年生までの児童。小学校の１教室を使用し、支援員の見守りの中、自学自習に取り組む。



【　学習風景　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

自学自習を基本とし、学習習慣の定着をねらいとする事業なので、児童は、学習内容を事前に考え、準備して当日、教室に集まってくる。支援員は、あくまで見守り。児童の学習ができるだけスムーズに進むよう、声をかけている。支援員は、地域コーディネーターが軸となり運営。出欠確認や下校方法等、丁寧に確かめ、児童が安心して学習できるよう支援している。

新型コロナウイルス感染症の感染および感染拡大防止対応として、開始前には支援員が会場の整備・消毒等を済ませ、児童を迎えている。また、学習中、共有物の使用を避け、自分で持ってきたものを自分が使って、自分で片付ける形を定着させている。さらに、グループ活動を行わず、自学自習に徹している。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

朝、登校したら、職員室前のボックスに出欠カードを児童が提出する。支援員が確認し、スムーズな運営につなげている。支援員の中には、教室アシスタント等、学校教育活動をサポートする者や児童育成クラブの支援員を兼ねている者がおり、安心できる関係性の中、児童へ支援を行っている。また、放課後子ども教室終了後、保護者迎えの児童や兄弟姉妹とともに下校する児童、児童育成クラブへ移動する児童等がおり、安全確保に配慮した連携を図っている。

■　他事業との関わり

草津市教育委員会事務局児童生徒支援課「放課後自習広場」として平成 28 年度より事業実績を積み重ね、令和３年度「放課後子ども教室」として開設。

■　事業の成果と課題

参加児童は自学自習を積み重ねることができている。また、普段から学校での学習・生活を支援する教室アシスタントや児童育成クラブの支援員、地域コーディネーターが児童に関わり、安心できる環境のもと、学習習慣の定着と放課後の子どもの居場所づくりに寄与している。

ただ、本年度、申込児童は定員内で、「放課後子ども教室」を実施することができているが、定員を超えた場合、ニーズがあるものの支援につなげられないこととなる。また、本校は児童数 1,000 人を超える大規模校であるため、学級数も多く、教室不足が大きな課題の一つとなっている。そのため、空き教室を有効活用する「放課後子ども教室」であるが、空き教室が存在せず、実施のためには、学校教育として使用している教室をあてがう必要がある。

報告書記入者（　放課後自習広場担当教職員　）

放課後のあそびば葉山東ふれあい子ども広場

栗東市	活動名 ： 葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：葉山東小学校体育館、コミュニティセンター葉山東　開始年度：平成17年度
年間開催日数：約30日（開催ペース：週１日　）　地域学校協働活動推進員数：12人（兼務３人）
平均参加人数：32人　平均スタッフ数：12人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■ 活動の概要
毎週水曜の放課後（～16:30まで）、葉山東小学校体育館で［軽スポーツ（ボール遊び等）］、コミセン葉山東で［将棋］［クラフト（工作・塗り絵など）］を実施している。また、年に３回、全員でお楽しみ会を実施している。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
スタッフが季節やその場の状況に応じた遊びや作品づくり等の指導を実施している。
コロナ対策：例年より募集人数を縮小し、集合時の手指消毒・体温計測や、換気をしながら活動している。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
特になし

■ 他事業との関わり
特になし


【お楽しみ会でのニュースポーツ体験】

■ 事業の成果と課題
成果：各教室での活動を通して様々な遊びの体験や文化に触れ、地域住民・他学年ともふれあえる良い交流の場となっている。
課題：スタッフの人員確保（待遇の面でお願いしづらい）が課題となっている。
保護者からは「17:00頃まで実施してほしい」との声があるが、待遇の面もあり、スタッフの方にお願いしづらい状況である。

報告書記入者（　葉山東学区地域教育協議会 事務局　）

地域と学校が連携しなかまづくりと人権意識を高めるのびのび広場

栗東市	活動名 ： 治田西のびのび広場	治田西小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：治田西小学校　開始年度：平成21年度：
年間開催日数：19日（開催ペース：月１～２日）　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：19人　平均スタッフ数：８人
・活動内容：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　■その他（平和学習など）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　■その他

■ 活動の概要
・地域と学校が連携し、互いに助け合い、励まし合う活動を通して、人権意識を高め差別をなくしていこうとする態度の育成や連帯意識の高揚を図り、地域でのなかまづくりを進めてきた。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・人権学習、集団遊び、創作活動、平和学習、スポーツ活動など毎回内容を変えながら様々なジャンルの体験活動を行った。
・人権学習の一環として、地域のふれあい文化祭でステージ発表を行っていたが、中止になったため、作品展示で参加をした。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校教員も参画して、地域のボランティアの方とともに活動を運営。

■ 他事業との関わり
・地域のグランドゴルフクラブとの連携、滋賀県国際協会や滋賀県立聴覚障害者センターの方の講話。


【地域の方とのグランドゴルフ】

■ 事業の成果と課題
・参加希望人数は２０人である。軽スポーツや創作活動、人権学習など様々な体験活動を通じて、子どもたちは楽しく過ごす中で、異学年同士の子どもたちの交流もでき、仲間意識が少しずつ育ちつつある。サポーターとして事業に関わっていただいている地域の方々や、地域の様々な団体の方々と一緒に活動することにより、地域の方々と子どもたちとの交流を深めることができた。スタッフの高齢化、スタッフの不足が課題になっている。

報告書記入者（　教　諭　）

体験は心と体の栄養だ！さあ元気になろう！

野洲市	活動名 ： 中主地域子ども教室（中里学区）	中主小学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：コミュニティセンターなかさと　　開始年度：平成 18 年度：
年間開催日数：18 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要
茶道クラブ、手芸クラブ、各月１回、年間９回を小学生以上対象で行っている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
【茶道クラブ】・子ども達に 12 月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしている。
【手芸クラブ】・子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
小学校を通じてチラシ（申込用紙）を配布している。

■ 他事業との関わり
学校行事と子ども教室事業の日程調整を行い、参加しやすい環境づくりに努めている。

■ 事業の成果と課題
〔課題〕・子ども達の習熟度にバラツキがあるので、少数の指導者で教えるのが難しい。
・子どもたちの集中力を持続させる工夫が必要である。
〔成果〕・集中力の持続性や達成感を得られ、そのことが学習意欲の高揚に結び付く一助となっていると考えられる。


【　茶道クラブの様子　】

報告書記入者（中主地域子ども教室運営協議会事務局／中里学区）

仲良く楽しくみんなでチャレンジ！心豊かな中主っ子

野洲市	活動名 ： 中主地域子ども教室（兵主学区）	中主小学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：コミュニティセンターひょうず　　開始年度：平成 18 年度：
年間開催日数：10 日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要
コミュニティセンター職員が計画、準備をし、主に土曜日に事業を実施している。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業の中止、延期を強いられたが後半期から回数や人数を減らし、検温、換気、消毒等に配慮しつつ活動している。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
小学校の行事と重ならないように連携をとり学校を通じてチラシを配布している。

■ 他事業との関わり
毎年、コミュニティセンター主催の収穫祭において、茶道クラブの生徒にお抹茶コーナーを担当してもらったり、生け花教室の生け花を展示しているが、今年も中止となった。


【　茶道クラブ　】

■ 事業の成果と課題
月に１回程度の少ない時間ではあるが、子どもたちには技術の上達と共に仲間を思いやる心や協調性が養われているように思われる。またのびのびと安らげる居場所作りにもなっているようである。

報告書記入者（　中主地域子ども教室事務局／兵主学区　）

自然に触れ、人に触れ、さまざまな体験を通して健やかな成長を育む

野洲市	活動名 ： 篠原地域子ども教室運営協議会	篠原小学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：コミュニティセンターしのはら　　開始年度：平成 17 年度：
年間開催日数：27 日（開催ペース：週・月２日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：９人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　■その他（　日曜日　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要
子どもたちに様々な体験をしてもらい、集中力アップや仲間作りの一助になるよう居場所作りをする。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
料理教室が開催できないので、代わりに食品サンプル作り教室を開催した。
申し込みが多かったので、同じ教室を２回開催した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
学校を通じて事業募集のチラシを配って頂いた。

■ 他事業との関わり
文化祭にフラワーアレンジ教室、手編み教室、食品サンプル作り教室に参加の児童の作品を展示した。


【　食品サンプル作り　】

■ 事業の成果と課題
コロナ禍の中で感染対策を講じながら出来る教室を開催した。習熟度が異なることを踏まえ、時間別に開催した。新しい教室にも取り組んだ。
児童数の少ない中で、子どもたちの参加を促す教室の開催を考える事が課題である。

報告書記入者（篠原地域子ども教室運営協議会事務局）

いろんなことにチャレンジしよう!!　「ぎおう子ども体験教室」

野洲市	活動名 ： ぎおう子ども体験教室	祇王小学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：祇王小学校グラウンド・永原御殿跡　　開始年度：平成 17 年度
年間開催日数：2 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：８人
・活動内容：□学習支援　■体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　■その他（毎週土日）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要
・今年度は、定期開催にサッカークラブと永原御殿跡発掘体験を企画した。
残念ながらサッカークラブは参加者なし。永原御殿跡発掘体験は、
まん延防止等重点処置により発掘体験前の事前説明会しか開催出来なかった。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・体調の確認と体温チェック、マスクの着用を徹底し、密にならないよう
密にならないように参加日を複数日設けた。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校や地域と、企画や募集を連携している。

■ 他事業との関わり
・なるべく多くの子どもたちに参加してもらえるよう日程・内容を調整の
調整をしている。

■ 事業の成果と課題
・地域の人と交流することで、子どもたち自ら地域の大切さを学んでくれている。


【永原御殿跡発掘体験事前説明会)】

報告書記入者（コミュニティセンターぎおう事務局）

好きなことを見つけよう。　仲間と一緒に楽しもう。

野洲市	活動名　：　三上楽しいクラブ活動	三上小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：コミュニティセンターみかみ　　開始年度：平成 14 年度
年間開催日数：28 日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：３人（兼務０人）
平均参加人数：６人（２人～13 人）　　平均スタッフ数：１人
・活動内容：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要
生け花、将棋、フラメンコをそれぞれ月１回土曜日に行っている。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
昨年と同様、活動時に体調チェックシートの提出、対面する将棋はアクリル板を設置

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
コロナ禍における学校活動の仕方をお聞きし、それに準じた活動を行うようにした。



【　生け花　】

■　他事業との関わり
今年度もセンターで 11 月に開催する悠紀まつりに生け花を展示、地域の方や親御さんたちに見ていただく機会を作っている。

■　事業の成果と課題
飲食を伴う活動は昨年と同様自粛せざるを得なかったものの昨年度の経験を活かし今年度は５月からスタートすることができた。
参加人数は少ないが出席率は高いので、必要とする子どもたちへの居場所づくりとしての機能は果たしていると思われる。
コロナがおさまった後に参加者数が戻るのか、茶道、クッキング（飲食を伴う）が従来通りの活動がいつからできるのかが課題。

報告書記入者（三上地域教育推進委員会事務局）

いろんな活動を通じてみんなと触れ合う「北野っ子フレンドリークラブ」

野洲市	活動名：北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：コミュニティセンターきたの　　開始年度：平成８年度
年間開催日数：20 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：25 人　　平均スタッフ数：４人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
青少年育成会が中心となり、土曜日に２時間各種活動を行っている。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
マスク着用、体調確認、体温チェック等を徹底し、密を避けるため可能な限り大ホールや研修室など大きな部屋で実施した。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
小学校を通じてチラシを配布し、卓球教室等の屋内スポーツは小学校の体育館を利用している。



【　将棋教室　】

■　他事業との関わり
コミセンきたの夏まつりで作品展示等を行っている。

■　事業の成果と課題
地域の指導者と交流する中で、多くの子どもたちが成長している。ただ、指導者やスタッフの確保に苦慮している。

報告書記入者（コミュニティセンターきたの事務局　）

わかった！できた！～地域の人々と学ぶ学習会～

東近江市	みなみっこ学習会	八日市南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：南部コミュニティセンター　　開始年度：平成 26 年度：年間開催日数：８日
（夏休み）開催日数：４日　平均参加人数：16 人　　平均スタッフ数：10 人
（冬休み）開催日数：２日　平均参加人数：16 人　　平均スタッフ数：12 人
（春休み）開催日数：２日　平均参加人数：16 人　　平均スタッフ数：12 人
・活動内容　　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要
休業中の宿題などの支援を通じて、学習習慣を身につける。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
コロナ前は、２時間学習をし、学習後に低学年はカルタ、高学年は百人一首を実施していたが、コロナ対策のため学習のみにし、コミセン全室を貸し切りにして子ども達の間隔をあけ学習した。地域ボランティア、高校生ボランティアには、保護者の了承を得て参加してもらった。ボランティアの方にはフェイスシールドをつけ、体温や体調の確認を行った。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
学校から教職員が訪問したことで、児童のやる気があがっているように思う。
参加児童の担任から引き継ぎをうけ、その子に応じた対応を行った。

■　他事業との関わり
南部まちづくり協議会と一緒に活動をしている。ボランティアの募集だけでなく参加児童のおやつ代や学生ボランティアへの謝礼など金銭的な補助もしてもらった。

■　事業の成果と課題
子ども達の学習支援の受け皿として、地域児童の見守りを行えた。
コロナ禍の状況下で、学習会を実施できる日数の変更などもあったが、コロナが少し落ち着いてきたので学習会を行うことができた。
学習会が必要な児童への声かけを、一番理解している担任にお願いしてみることも必要なのではと思う。


【　学習会の様子　】

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域で学び、地域で育つ「市原っ子」の明るく楽しい共同学習の場

東近江市	放課後子ども教室「まなびぃ」	市原小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：　　開始年度：平成 25 年度：
年間開催日数：13 日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：２人
平均参加人数：30 人　　平均スタッフ数：４人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（コンピュータを活用した自主学習ｅライブラリ、初めてのプログラミング）
・教室のもち方：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・１年生～３年生は前半 16:00～17:00　保護者送迎
・４年生～６年生は後半 17:00～18:00　保護者送迎
・30 分間は図書室で自学・共同学習、30 分はコンピュータ室で「ｅライブラリ」または上学年は「プログラミング」学習

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・『まなびぃ　ふりかえりカード』に「今日のめあて」を記入して学習に取り組む。
・終了時点、児童は「マナビィふりかえりカード」に成果などを記入している。
・児童が主体ですることを決めている。支援者は必要な時に寄り添うのみ。
・ｅライブラリでの学習を個々に積み上げている。
・令和２年度から「初めてのプログラミング」を上学年で行っている。


【まなびぃ：低学年ｅライブラリ】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・要請はしていない。一般教員は適宜自由に児童の様子を見に来る形。
・管理職や事務職員がPCの準備、受付を手伝い、後始末、施錠などの管理は管理職・事務職員。

■　事業の成果と課題
・「まなびぃ」の日を楽しみにして参加申し込みを継続している。リピーターが多い。
・送迎ができにくい保護者の参加希望をどうするかが課題。小字草の根ハウス等での開催を望まれているが人材不足である。
・児童は「小学校（図書室・コンピュータ室）は学びの場」と認識しているので、主体的に学習を行っている。
・担当している人への挨拶、靴を並べて脱ぐなどのマナーが育ってきた。

報告書記入者（　市原小学校地域学校協働本部長　）

みんなでがんばる、楽しいわくわく「夏休み勉強会」

東近江市	活動名 ： わくわく夏休み勉強会	五個荘小学校　学校運営協議会 ： ■有　□ 無

主な活動場所：五個荘コミュニティセンター　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：３日（開催ペース：不定期）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：15 人　　平均スタッフ数：７人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　■その他（レクリエーション）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施（夏休み）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要

子どもたちの学習の場や地域の大人と子どもとの交流の場をつくり出すことを目的として、今年初めて試みた。五個荘地区内在住・在学の小学校３年生から６年生を対象に定員 15 名を募集した。



【 静かに課題に取り組む子どもたち 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・高校生や大学生によるレクリエーション、塾講師や元教師による辞書の引き方（英語等）の内容を取り入れ、定期的に休憩を入れながらスケジュールを立てた。
・コロナ対策については、広い部屋で実施し、密にならないように長机１台につき一人が座るようにした。
・早く課題が終わった子どもには、読書や折り紙などを用意して、静かに過ごすことができるように工夫した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校とコミュニティセンターが連携し、各学年のドリルを学習教材として準備した。

■ 事業の成果と課題

・地域の方々と子どもたちとの交流ができた。欠席する子どももなく計画通り実施できてよかった。
・課題を採点する際に解答を手元に置いて〇つけまでできたほうが良かった。
・実施前に学校の職員と地域の方々とが打合せを行い、期間中に１日でも学校職員が協力できると、さらに子どもたちへの指導がスムーズに行くように思う。
・来年度に向けて、他の地域で同じような活動をされている団体との交流もしていきたい。

報告書記入者（　教　務　）

夏休み宿題教室

東近江市	湖東第二小学校　地域学校協働本部	湖東第二小学校　学校運営協議会 ： □有　■ 無

主な活動場所：教室　　開始年度：平成 20 年度
年間開催日数：３日（開催ペース：週３日）　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：９人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要

長期休業中の学習支援



【 夏休み宿題教室 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方の協力を得て、学習支援を行う。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

担任や関係職員もできるだけ参加し、学習支援を行う。

■ 他事業との関わり

特になし

■ 事業の成果と課題

長期休業中の学習課題など、子どもたちの学習を支援していただき、学習意欲の高まりにつながっており、子どもたちも満足感を感じている。

報告書記入者（　教　頭　）

「地域に根づき育つ子」の育成

東近江市	活動名 ： 東近江アミーゴ教室	東近江市地域学校協働本部　学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：　　開始年度：平成 23 年度：
年間開催日数：36 日（開催ペース：毎週土曜日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（統括 CO）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：７人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・毎週土曜日、午後２時から午後４時
・国語、算数、社会等の学習支援及び日本語の習得

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・参加者それぞれの課題に応じた個別教科学習の実施
・かるた等を活用して日本語習得
・低学年対象に漢字カードやひらがなカードなどを使っての指導
・マスク着用はもとより手指の消毒や机の消毒を実施

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校からの宿題などの支援

■　他事業との関わり
・更生保護女性会との交流会を開催


【　交流会の様子　】

■　事業の成果と課題
・個々の課題に応じた学習支援を実施することで課題克服及び日本語習得の成果が感じられる。
・参加者のつながりが生まれ、よき子供たちの居場所となっている。

報告書記入者（　　統括コーディネーター　）

“わかる・できる・楽しい”を実感する子どもの育成を目指す「日野小てらこや」

日野町	活動名 ： 日野小チャレンジ教室（日野小てらこや）	日野小学校　学校運営協議会 ： □有　■ 無

主な活動場所：少人数教室　　開始年度：平成29年度：
年間開催日数：45日（開催ペース：週３日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：15人　　平均スタッフ数：４人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
今年度は７月から開始した。算数について、学習の土台となる計算等の復習のための補充プリントに取り組んだ。夏季休業期間中は夏休みの宿題教室を開催した。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
補充プリントを多数用意し、児童の実態に合わせて取り組めるよう工夫した。参加児童数を少数とし、個別指導が充実できるようにすることや、隣との間隔を十分確保して感染予防にも配慮した。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
学校から、対象学年全員にチャレンジ教室への参加の文書で呼びかけをした。個別懇談時には、担任からも保護者に声かけをして学力補充の機会として周知をした。


【　集中して学習する児童の様子　】

■　他事業との関わり
特になし

■　事業の成果と課題
（成果）少人数指導で、毎回、集中して学習に取り組む児童の姿が見られた。学習問題に児童がつまずいている姿を素早く指導員がつかみ、個別指導を行い、「わかった。」「次はできる。」とつぶやき、自信を高める姿が見られた。
（課題）今年度は４年生以上を対象に事業を行なった。対象学年を拡大してほしいとの声が保護者からもあり、実施方法、回数、参加方法を検討していく必要がある。

報告書記入者（　　教　頭　　）

苦手を克服！　ゆっくりじっくり学べる放課後チャレンジ教室

日野町	活動名　：　放課後チャレンジ教室	西大路小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：　図書室・２年教室　　開始年度：平成29年度：
年間開催日数：21日（開催ペース：週１～２日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：６人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
　学習に支援が必要な児童（２年～６年対象）を中心に、放課後、学校が用意した算数プリントを行う。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　過去の反省を踏まえ、また、コロナ感染拡大予防の観点からも今年度も少人数での学習スタイルをとることとした。参加児童が、低学年の算数プリントから取り組むことで、それぞれが自分の苦手を理解し復習を行うことができた。
　個別指導をしているため、スタッフも児童の苦手としている単元がわかり、担任とも連携しながら個に応じた算数プリントを次回までに用意することができた。


【　苦手な文章問題に取り組む児童　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
　スタッフが担任に、個々の児童が苦手とする単元を聞き、個に応じた指導に生かした。

■　他事業との関わり
　なし

■　事業の成果と課題
　＜成果＞　少人数での学習なので、個々の学習のつまずきがわかり、個々に応じた学習を行うことができた。
　＜課題＞　大学生を中心としたスタッフのためか、集中してプリントに取り組みにくい児童がいた。

報告書記入者（　教　頭　）

「なんぴが大好き」　～地域の学び場づくり～

日野町	活動名　：　書道教室・科学教室・茶道教室	南比都佐小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：南比都佐公民館　　開始年度：平成29年度：
年間開催日数：約60日（開催ペース：月２書道・茶道　月１科学）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：24人（書道教室）　７人（茶道教室）５人（科学教室）　　平均スタッフ数：２人（書道・茶道）１人（科学）
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・硬筆・毛筆の書き方の基礎を習得する。（書道教室）
・様々な実験を通して、科学の楽しさを味わう。（科学教室）
・茶席の基本作法を学ぶ。（茶道教室）

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・毎月の作品を公民館のロビーに常時展示し、文化祭にも展示している。
・マスクの着用、玄関での検温と手指消毒に加え、密にならないよう広いホールで実施している。


【　科学教室　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・書道教室の講師が学校での書写指導支援に関わってくださっている。初めての毛筆指導や書初めの指導の支援をしていただいた。

■　他事業との関わり
・地域の文化祭に作品を出品している。

■　事業の成果と課題
・多くの児童が参加しており、地域の良き学びの場として定着している。

報告書記入者（　教　頭　）

「分かった」「できた」を増やし、子どもたちの学習意欲を引き出す

日野町	活動名 ： 放課後必佐寺子屋	必佐小学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：学習室　　開始年度：平成29年度
年間開催日数：53日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：７人　　平均スタッフ数：３人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要
・３～５年生児童を対象とした補充学習に実施

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・教科は算数、対象学年を３～５年生に限定する。
・四則計算を中心に授業内容の理解の不十分な部分の補充を行う。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・参加児童は授業終了後、下校せずに放課後 15：35～16：20 に学習室で学習する。
・下校は保護者の迎えを基本とする。

■ 他事業との関わり
特になし


【個々のつまずきに応じて指導】

■ 事業の成果と課題
・履修内容の習得が不十分であった児童の学力向上につながり、日常の授業に意欲的に取り組める児童が増えた。
・参加児童を増やしたいが、十分な指導体制を組めないため、必要と思われるすべての児童の参加は難しい。
・新型コロナウイルス感染症拡大のため、緊急事態宣言下では中止にしたこともあり、行事の変更等の影響で当初の計画通りに進められなかった。

報告書記入者（　教　頭　）

理解に応じてチャレンジ！「わかった！」「できた！」～放課後学習～

日野町	活動名 ：桜谷小学校 放課後教室	桜谷小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：教室　　開始年度：平成29年度：
年間開催日数：15日（開催ペース：月２日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：26人　　平均スタッフ数：４人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要　木曜日　１，２年　14:45～15:30　３～６年　15:30～16:15
校内の少人数教室で算数学習を進めている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・参加の希望者を募るが、放課後の時間帯であるので、下校の仕方が前もってわかるように連絡カードを作る。カードの項目は、学童へ行く、バスで帰る、お迎えで帰るなどを記入できるようにしておく。
・学習したプリントは、各自のファイルにとじ、学習の成果を残していく。
・旧のコンピュータ室とデスクを利用し、一人一人が広いスペースを確保することと、１，２年生と３～６年の入れ替え時には、消毒・換気を徹底している。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・出席カードを作り、参加する日を学習日の月曜には確認する。希望による参加が中心ではあるが、欠席などで補習が必要と思われる子どもには、担任から声もかける。学童に行く子どもは、この学習を終えてから学童に向かう。


【少人数教室での放課後学習】

■ 事業の成果と課題
本年度も、保護者・児童から要望があり、基礎コースと、発展コースに分けて開催した。成果として、基礎コース受講児童からは、「わかりにくかったところがわかるようになった。」発展コース受講児童からは、「難しいけれど、おもしろくてやりがいがある。」という声があった。課題としては、基礎・発展のどちらのコースに向いているのか把握しきれないまま受講したために、十分に力を発揮しきれていない児童もあった。コース選択の前に十分な説明やオリエンテーリング等が必要であると考えられる。

報告書記入者（　教　頭　）

学びも遊びも充実した学びっこタイム（放課後子ども教室）

多賀町	活動名 ： 学びっこタイム	大滝小学校 学校運営協議会 ： □有 ■ 無

主な活動場所：大滝小学校　　開始年度：平成 28 年度：
年間開催日数：約 60 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務０人）
平均参加人数：15 人　　平均スタッフ数：指導者２人、ボランティア１～２人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要

低学年児童の下校時の安全確保、学習時間の確保、地域住民とのふれあいを目的に、大滝小学校と連携して、年間約６０日間、毎週木曜日・金曜日に実施している。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

木曜日は宿題のあと、みんな遊びとして、キーホルダー作りやゲーム、昔遊び等を、金曜日は英語、地域サークル等によるバランスボールやびっくり箱作り、読み聞かせ（本に関するゲーム含む）などの遊びを組み込んだ内容を毎回実施している。参加児童は１・２年生全員。ボランティアを随時募集し、ローテーションにより様々な活動に関わっていただいている。また、児童には月間予定を事前に知らせ、活動に興味を持たせるようにしている。コロナ対応としてはボール遊びなどの外遊びを定期的に実施し、毎回好評のカロム遊びなど密になるような活動は実施していない。



【 凧つくり指導のようす 】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学びっこタイムは多賀町教育委員会を中心にした活動であるが、担任の先生方は業務の合間に児童のようすを見に来てくださり一緒に活動されることも多い。多彩な活動内容にも注目してくださっている。放課後児童クラブとの関わりは特にない。

■ 他事業との関わり

特にない。

■ 事業の成果と課題

児童は「今日はどんなことをするの？」など実施を毎回楽しみに参加しており、保護者も事業の継続を希望されている。ボール遊びを取り入れたことで、ボール投げが苦手な児童も少しずつ上達してきている。ボランティアの方は、子どもたちと学ぶ活動・遊ぶ活動を通して楽しい時間を一緒に過ごし、「子どもたちに昔の遊びを教えたい」「子どもたちといると楽しい」など良い感想を多く持たれ、児童もボランティアもほぼ欠席することなく参加されている。事業内容の充実を図るために、ボランティアの参加拡大を図る必要がある。地域住民やサークル等にも広く募集していく。

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

放課後児童クラブの現状

令和３年５月１日現在

１　放課後児童クラブ数実施状況

（１）　小学校の状況

小学校区数	220 か所	児童数	79,629 人
小学校１～３年生の総数	39,070 人	＊４～６年	40,559人

（２）　放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合　計
	75	160	98	333

（３）　放課後児童クラブの状況

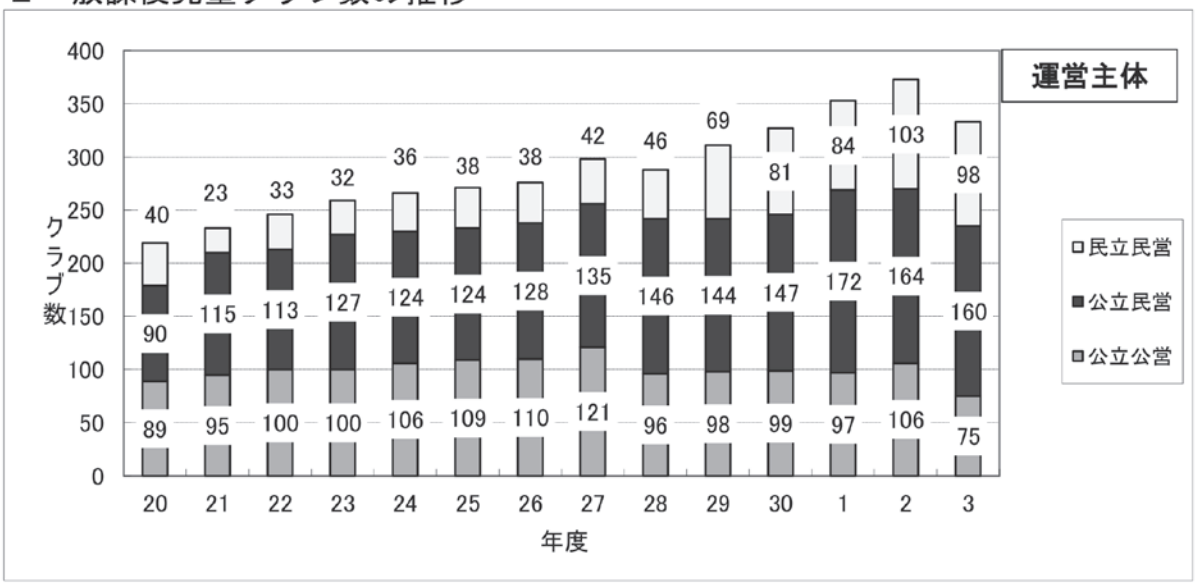
調査項目		公立公営	公立民営	民立民営	合　計
実施場所別放課後児童クラブ数	児童館・児童センター	1	2	5	8
	学校の余裕教室	35	23	0	58
	学校敷地内専用施設	22	58	0	80
	公有地専用施設	14	53	0	67
	民有地専用施設	2	1	22	25
	民家・アパート	0	0	8	8
	公的施設利用	1	12	10	23
	団地集会室	0	1	0	1
	保育所	0	1	7	8
	幼稚園	0	0	0	0
	認定こども園	0	0	0	0
	空き店舗	0	2	44	46
	その他	0	7	2	9
	合計	75	160	98	333
登録児童数別放課後児童クラブ数	１０人以下	0	0	6	6
	１１人～２０人	2	2	10	20
	２１人～３０人	14	46	40	58
	３１人～７０人	19	73	35	163
	７１人以上	40	39	7	86
	合計	75	160	98	333
障害児受入数別放課後児童クラブ数	受入なし	8	14	37	59
	１人	14	22	24	60
	２人	7	24	17	48
	３人	9	28	6	43
	４人以上	37	72	14	123
	合計	75	160	98	333
平日の終了時刻別放課後児童クラブ数	１７：０１～１７：３０	0	0	0	0
	１７：３１～１８：００	16	0	0	16
	１８：０１～１８：３０	20	40	10	70
	１８：３１～１９：００	39	112	45	196
	１９：０１～２０：００	0	8	42	50
	２０：０１～２１：００	0	0	1	1
	２１：０１～２２：００	0	0	0	0
	合計	75	160	98	333
休日の開館状況別放課後児童クラブ数	土曜日（毎週実施以外）	55 (5)	51 (74)	61 (35)	167 (114)
	日曜・祝日	0	26	4	30
	長期休暇	75	154	97	326
学年別児童数	小学校１年生（障害児）	1,773 (112)	2,550 (147)	1,062 (33)	5,385 (292)
	小学校２年生（障害児）	1,689 (82)	2,350 (162)	966 (49)	5,005 (293)
	小学校３年生（障害児）	1,234 (63)	1,926 (145)	822 (38)	3,982 (246)
	小学校４年生（障害児）	804 (27)	1,207 (98)	516 (16)	2,527 (141)
	小学校５年生（障害児）	408 (18)	770 (75)	291 (20)	1,469 (113)
	小学校６年生（障害児）	151 (12)	388 (40)	128 (4)	667 (56)
	その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計（障害児）	6,059 (314)	9,191 (667)	3,785 (160)	19,035 (1,141)
学年別利用（登録）できなかった児童数	小学校１年生（障害児）				9 (0)
	小学校２年生（障害児）				3 (0)
	小学校３年生（障害児）				7 (0)
	小学校４年生（障害児）				5 (0)
	小学校５年生（障害児）				9 (0)
	小学校６年生（障害児）				24 (4)
	合計（障害児）				57 (4)

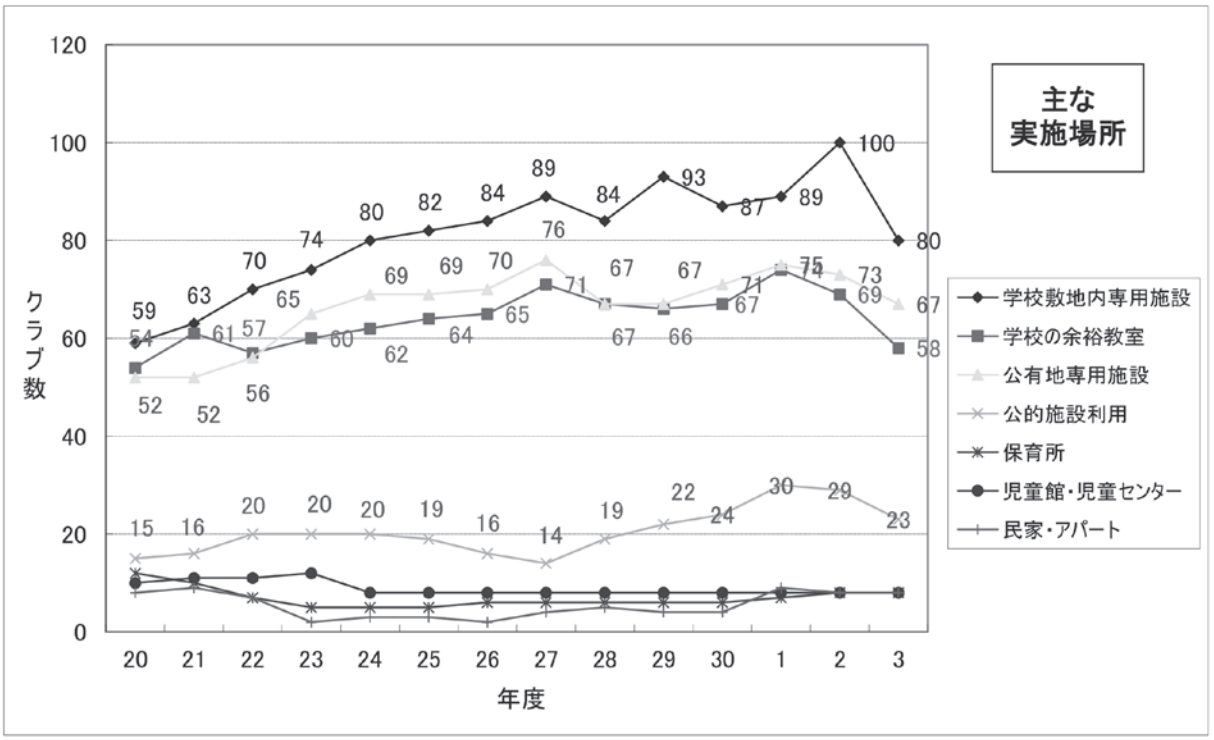
注：（ ）内の数は、再掲である。

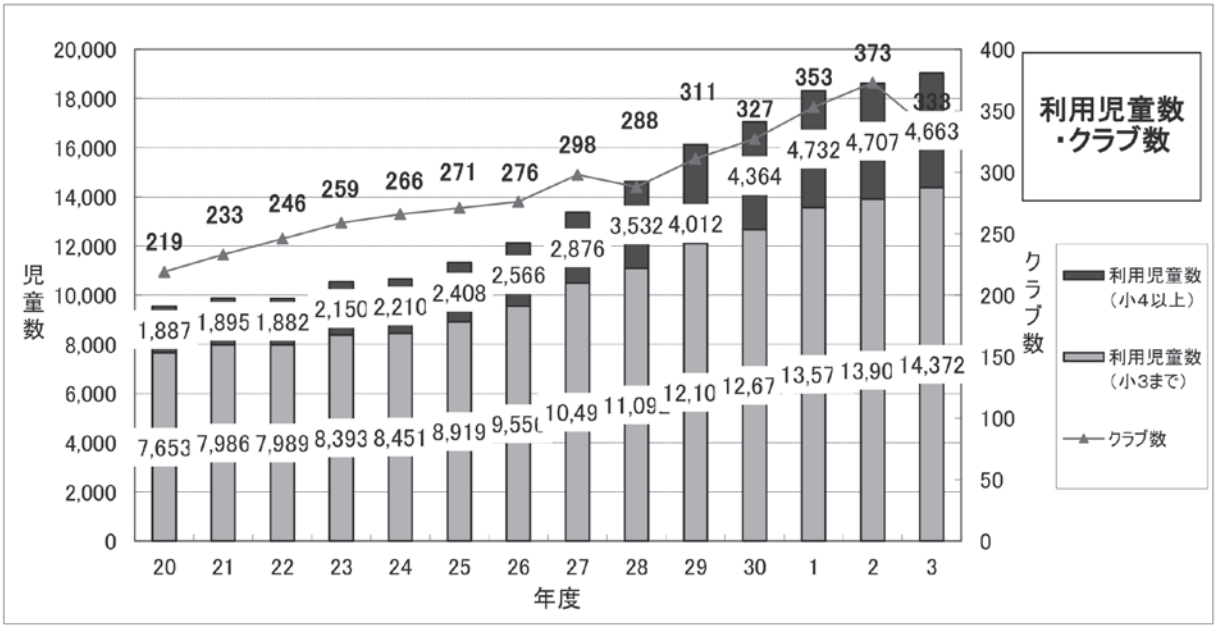
（４）　市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 （B／A）	実施市区町村 市（特別区）	町	村	合　計 B
19	100 %	13	6	0	19

2　放課後児童クラブ数の推移







令和3年度　土曜日の教育支援　活動事例一覧

市町名	教室数	活動名	主な実施場所	委託	委託団体名
湖南市	9	いしべっ子学習教室	石部まちづくりセンター		
		みなみっこ土曜講座	石部南小学校		
		さんさん教室	学区内のまちづくりセンター など公共施設		
		ひがしっこ教室	三雲まちづくりセンター		
		学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校		
		菩提寺学区土曜日の教育支援活動	菩提寺北小学校 菩提寺まちづくりセンター		
		土曜教室	岩根まちづくりセンター		
		しもだっこ土曜教室	各地区の自治会館		
		やってみよう！！みとっこ	水戸小学校		
東近江市	16	蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス　初級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス　中級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス　上級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ KIDS　FLOWER（キッズフラワー）	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター	○	
		キッズダンス（初級）	わたむきホール	○	玉緒地区 地域教育協議会
		キッズダンス（中級）	わたむきホール	○	
		小学生のプログラミング教室	玉緒小学校	○	
		中学生のプログラミング教室	池田町　葉菜屋の母屋	○	
		農業体験・田園アートクラブ	上大森町　農地・田	○	
		小中学生のネイティブスピーカー英会話	村町の公民館等	○	
竜王町	5	竜王キッズクラブ　クッキングクラブ	竜王町農村女性の家 竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ　サイエンスクラブ	竜王町公民館　他		
		竜王キッズクラブ　書道クラブ	竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ　チャレンジクラブ	竜王町公民館　他		
		竜王キッズクラブ　竜王ユースブラス	竜王町公民館　他		

地域で子どもたちを支えるいしべっ子学習教室

湖南市	活動名 ： いしべっ子学習教室	石部小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

主な活動場所：石部まちづくりセンター　　開始年度：平成 27 年度：
年間開催日数：５日（10 回）　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：75 人　　平均スタッフ数：13 人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動
　長期休業期間に集中して学習に取り組める場を提供し、子どもたちの学習意欲が高まるよう支援している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　まちづくり協議会に協力を依頼し、会場を校区の中心にあるまちづくりセンターに設定した。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　学校運営協議会の学習支援委員会が中心となり、協議し、子どもたちが安全に楽しく学習できるように配慮した。参加児童には、ふりかえりを書いてもらい、自分の学習内容を確認させている。また、プラス学習としプリントやオリジナルワークを用意し、終了時間までしっかりと学習できるようにした。
　コロナ対策として、１日の開催を２回に分け、密にならないような参加人数にした。受付前に児童の検温、手の消毒、前半と後半の間に机などの消毒作業も徹底した。


【　冬休み学習教室　】

■ 事業の成果と課題
　地域の学習支援ボランティアやまちづくり協議会の協力に支えられ、のべ 372 人の子どもたちが参加し、集中して学習に取り組めた。いしべっ子学習教室が児童や保護者にも浸透し、毎年参加してくれる児童が増えてきている。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進委員　）

地域探検！（私たちの湖南市を巡ろう！）

湖南市	活動名 ：みなみっこ土曜講座	石部南小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

主な活動場所：石部南小学校　　開始年度：　平成 28 年度：
年間開催日数：12 日　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：41 人　　平均スタッフ数：10 人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動
　３年生社会科の自分たちの市を知る学習で、湖南市の施設やそのような仕事をしているかなどを詳しく学習した。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　湖南市役所・市議会、善水寺、湖南市社会福祉協議会、消防署、長寿寺を訪問。
　子どもたちからの質問等は事前に聞き、訪問先へ事前に内容を伝えた。
　市職員や議会担当者、お寺の方たちの話をしっかり聞くことができた。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
　湖南市を巡る取り組みは昨年度からはじまり今年度も続けることができた。
　市議会の全面的な協力を得ることができた。


【　湖南市議場見学の様子　】

■ 事業の成果と課題
　湖南市議会では議長自ら対応していただいた。子どもたち全員が議場の議員席や職員席に座らせてもらい、議長や教育長に質問し、答弁という形で本格的な議会の体験をすることができた。
　長寿寺地域の伝統行事のお話を聞き、昼食会場に庵を使わせていただき安全に食事をとることができた。
　訪問先の滞在時間が決められており、次の行き先に遅刻しないように行動するため、子どもの質問を途中で切り上げなければならないことがあった。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進委員　）

地域ぐるみで こどもを見守る「さんさん教室」

湖南市	活動名 ： さんさん教室	三雲小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

主な活動場所：学区内のまちづくりセンターなど公共施設　　開始年度：平成 27 年度：
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員数：1 人
平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：10 人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

夏休みの宿題や自主学習の支援。地域で活動されている樹脂粘土の講師を招いて「はし置き」を制作。お抹茶の体験学習。秋季には「歴史探訪」（妙孝寺・常照寺）



【　はし置き作り　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

みくも学区まちづくり協議会と連携することで、材料費の支援を受けたり各地区からスタッフを配置することで安全面にも配慮することが出来た。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ対策として、検温.消毒.換気をし、一会場の人数を減らすため下学年(1-3 年)と上学年(4-6 年)に日程を分けた。飛沫防止対策として会話が少なくなるよう「樹脂粘土ではし置き作り」を主に取り組んだ。「歴史探訪」は屋外活動だが、マスク着用を徹底した。

■　事業の成果と課題

学習だけでなく、作品作りに取り組むことで、集中する時間が増えたように感じる。「抹茶体験」では自分でお茶を点てるという貴重な体験ができ、毎年人気となっている。「歴史探訪」は地域の歴史を知るよい機会なので、発信の仕方を工夫し、参加者を増やしていきたい。

■　その他

今年度は中学生による「スモールティーチャー」を復活させた。

緊急事態宣言のため 8 月の開催（ 8/23～27 ）は中止にし、樹脂粘土の材料・テキストを個別配布し、自宅で制作するようにした。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域と協働して開く「ひがしっこ教室」

湖南市	活動名 ： ひがしっこ教室	三雲東小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

主な活動場所：三雲まちづくりセンター　　開始年度：平成 26 年度：
年間開催日数：10 日（開催ペース：夏休み８回／秋２回）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：30 人　　平均スタッフ数：13 人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

地域で活動されている講師を招いての樹脂粘土を使った箸置き作り、お抹茶体験、折り紙アート（うちわ作り）、お習字教室、夏休みの課題学習、自主学習の支援、秋季には、ふるさと歴史探訪（妙孝寺、常照寺）を甲西中学校区の三雲小学校と合同で実施。



【　習字教室の様子　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

みくも学区まちづくり協議会と連携し、材料費の支援、講師、スタッフの派遣に協力いただいた。

地域のボランティアセンター（ボランティアグループ）の活用。

卒業生（大学生）への参加呼びかけ。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ対策として、会場での検温、消毒、マスク着用、換気、実施前後の机・椅子の消毒作業、密を避けるため広い部屋の利用、学年を 1～3 年生・４～6 年生に分けて参加日を設定。参加者の多い日は、複数の部屋を確保して開催した。ふるさと歴史探訪においても、検温、マスク着用、消毒を徹底し実施した。

■　事業の成果と課題

・ここ数年、夏休みの課題だけでなく体験学習を取り入れているため、コロナ禍でも参加者は多い。会場での検温、消毒、換気等も徹底し、参加者、スタッフ共に安心して参加できる場になっている。
・学年により製作時間に差があり、低学年の参加が多い日は課題学習の時間が少なくなった回があった。時間に余裕を持ってできる内容を検討したい。
・今年度は、甲西中学校から中学生（卒業生であり、ひがしっこ教室参加経験者）をスモールティーチャーとして参加してもらうことができた。支援する側になって参加してくれる生徒がいることは、取り組みを継続している大きな成果である。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

自分たちの地域を知って、いろいろ学ぼう！

湖南市	活動名　：学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：菩提寺小学校　　開始年度：平成 26 年度：
年間開催日数：７日　　地域学校協働活動推進員数：２人（兼務２人）
平均参加人数：37 人　（R3. 12 月現在）　　平均スタッフ数：７人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
　昨年に続き、コロナ禍で当初計画していた郷土学習など年間 10 回の活動が一部中止になってしまった。今年度の活動回数は７回（内、２回は２・３月予定）になる。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　夏休み勉強会には、本校卒業生を中心に多くの中学生が支援に来てくれた。自分も参加していた勉強会に今度はサポーターとして参加してくれてうれしく思う。
　学区内の資源（竹林の竹）を利用した物づくりを、まちづくり協議会の協力を得て体験することも続けている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
　コロナ禍での対応は、密にならないよう活動場所を分け、マスク等の徹底は継続中。


【　夏休み勉強会の様子　】

■　事業の成果と課題
　各回参加した児童たちは、制限のある中できちんとルールを守り有意義な時間を過ごしたと思う。親子で取り組む活動もあり、この事業が保護者により認識されるきっかけになればと思う。

■　その他
　いろいろ制限のある中で、学校・地域・家庭が協力しながら活動できたことは、大きな成果である。

報告書記入者（　　地域学校協働活動推進員　　）

土曜日の教育支援活動　　～地域の子供がつながる～　わくわく体験・学習教室

湖南市	活動名：菩提寺学区土曜日の教育支援活動	菩提寺北小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：菩提寺北小学校・菩提寺まちづくりセンター　　開始年度：平成 22 年度
年間開催日数：７日（開催ペース：1. 2 か月に１回）　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：40 人　　平均スタッフ数：５人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
　菩提寺学区にある菩提寺北小学校と菩提寺小学校の２校が菩提寺まちづくり協議会支援の下、毎年 10 回開催予定で計画を立てているが、今年度は３回中止となり７回開催
（学習教室２回・絵画教室・クリスマスカード作り・習字教室・竹馬作り・ポンポン船作り）　計７回　実施

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　講師や指導はすべて地域の方にお願いしている。地域からも支援員さんとしてたくさんの方がサポートしてくれ、スムーズな体験活動ができている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
　２校が集まっての開催なので、参加者の安全を最優先に感染予防対策を徹底する。受付で全員検温チェックし、密にならないように大きな会場で、換気にも気を付けて開催。


【　クリスマスカード作り　】

■　事業の成果と課題
　今年度もコロナの感染状況で３回は中止になったが、後半はしっかり感染対策をして開催した。

■　その他
　来年度より、まちづくり協議会のサポート体制が少し変わるので、今年度をしっかり終えて来年度につなげていきたい。

報告書記入者（　　地域学校協働活動推進員　　）

自尊感情を高める学習支援　　～ できた！わかった！が実感できる ～

湖南市	活動名　：　土曜教室	岩根小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：岩根まちづくりセンター
年間開催日数：20 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：６人　　平均スタッフ数：８人　　開始年度：平成 22 年度
活 動 内 容　：■学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

３～４年生の通常学級で個別の指導・支援を要する児童のうち、校内の協議結果に保護者の合意が得られた児童を対象として個別の学習支援を実施している。形態は、全体指導者１名と個別対応者約６名と事務局１名でなされている。国語と算数の基礎的内容を窓口として自尊感情を高めることを目指している。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

主に校区在住の元教員や保育士および教育や福祉等を志す学生等で、前任者からの情報により土曜教室に興味を持って市外から参加する学生もいる。



【　ほめて･認めて･励ます　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

・指導・支援の質が保てる範囲を維持できる人数にすること。
・毎回行うスタッフによる反省会によって、個々の児童の課題を共有し、個に応じた手立てを決定する。
・休憩時間には、学生スタッフによるグループワークを導入。

■　事業の成果と課題

〇失敗経験が多いため、自信を失っている児童が多い。根気よくほめて認めて励ますことで、児童の自信につながり、自尊感情が高まり、学ぶ意欲を引き出すことができた。
〇１対１対応での支援によって、かけ算の九九やカタカナ･漢字の習得ができてきた。
〇カルタなどのグループ活動によって、よりよい人間関係づくりができた。
●家庭の状況が厳しく、途中から参加が難しくなる場合がみられる。

（　報告書記入者　校長　）

～ しもしょうサマースクール 2021 ～　「らくらく勉強会」との協働とコロナ禍２年目の対策

湖南市	活動名　：　しもだっこ土曜教室	下田小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：　各地区の自治会館　　開始年度：　平成 26 年度
年間開催日数：　８日　　地域学校協働活動推進員数：　２人（兼務２人）
平均参加人数：　20 人　　平均スタッフ数：　10 人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

昨年度、コロナ禍という状況の中でも実施することができた「らくらく勉強会」との共催で今年度も実施した。昨年度の会場は下田まちづくりセンターだけだったが、今年度は、感染対策の一環として各地区の自治会館を会場として利用した。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・「らくらく勉強会」との共催で実施したことにより、昨年度も地域のボランティアの参加が多かったが、住んでいる地区の自治会館を利用したこと、通常の「らくらく勉強会」と同じ曜日に同じ地区で実施したことで参加しやすくなった。
・昨年度は中学生ボランティアの参加はできなかったが、今年度は通常の「らくらく勉強会」にボランティアとして参加している中学生が参加することができた。



【　会場での様子　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・昨年度と同様「らくらく勉強会」に通っている子どもたちに限定して参加を募った。
・通常の「らくらく勉強会」と同じ会場、同じ曜日に実施することで子どもたちの参加定員を拡大しつつ３密の回避をした。

■　事業の成果と課題

・感染症対策とはいえ２年続けて「らくらく勉強会」に通っている子どもたちだけの参加になっているのは不公平に感じる。コロナ後は下田っ子全員を対象に参加を募りたい。
・夏休みの宿題を進めるということも大切だが、それ以上に子どもたちにとって「自分のことを見てくれる存在」も大切なこと。これからもボランティアとともに子どもたちの見守りに力を入れていきたい。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

やってみよう！みとっこ　～小学校、地域との連携、小・中連携の取組～

湖南市	活動名　：やってみよう！！みとっこ	水戸小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：水戸小学校　開始年度：平成 26 年度：
年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員数：２人（兼務３人）
平均参加人数：23 人　平均スタッフ数：３人
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　■その他（　まちづくり　）

■　活動の概要・特徴的な活動
地域の防災訓練・清掃活動への参加や夏休み、冬休みの体験活動

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
自治会、まちづくり協議会との連携や日枝中学校区での小中連携

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
感染予防対策として人数制限やソーシャルディスタンスを保ちながら小中、地域の方が共に学ぶ場、交流する場として夏休みは「森のクラフトづくり」にチャレンジした。
冬休みには２年ぶりに書道教室を開催することができた。対象学年を６年生のみ定員20 名までの募集とし中学校の吹奏楽部と甲西高校書道部のパフォーマンスはできなかったが会の後半に交流を深めるため、小中学生が協力しながら進める謎解きゲームを企画した。


【　森のクラフトづくり　】

■　事業の成果と課題
昨年はできなかった小中連携事業を今年そのような形で行えるのか、行う意味があるのかと悩むこともあった。クラフトづくりはCS の学校づくり委員会から企画の提案があり積極的に取り組むことができ、子どもたちが普段使わない道具を使って集中する姿が見られた。自然体験活動の指導者とのつながりもでき来年以降も連携が期待できる。書道教室では参加人数は少なかったがその分アットホームで小中学生の交流が深まった。参加した６年生からは「来年中学校に入学することへの不安がなくなった」という感想があり中学生からは「小学生と活動できて楽しかったし学校で見かけたら声をかけてほしい」と応えてくれた。

■　その他
これまで日枝中学校区で行ってきた小中連携は中学生に先生役になってもらい小学生の勉強や体験活動をサポートしてもらう会だったが、参加者として子ども同士同じ場にいることで心が通い合う姿が見られた。コロナ禍でこうした活動が心の育ちには重要であることを改めて感じた。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東・西・北小学校 朝桜中学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　開始年度：平成 14 年度：
年間開催日数：９日（開催ペース：月１日）　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：５人　平均スタッフ数：１人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・茶道経験のない子がほとんどなので基本から学んでいる。
・茶道の所作と併せて基本的な礼儀作法についても話をしている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・指導者を見つけるために人材バンクやボランティアグループのリストを利用している。他に指導者間のネットワークも利用。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・年度末に体験教室を開き、面白さや楽しさをより多くの子どもたちに感じてもらい次年度のクラブ員増につながるよう工夫をしている。
・コロナ対応としては、活動中のマスク着用はもちろん、活動を始める前に子ども・大人全員の検温および手指消毒を実施している。


【　体験会の様子　】

■　事業の成果と課題
・クラブ員はより深く茶道を理解することにより、積極的に練習に集中する様子が見られる。
・動き自体が地味なものなので、その面白さが理解されにくい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：令和元年度：
年間開催日数：８日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：４人　　平均スタッフ数：１人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・制作上の面白さと同時にガリ版発祥の地としての意義もつたえている。
・一人ひとり制作する内容が違うので、それぞれの思いを大事にしている。
・ガリ版を生活に生かす方法として、トートバッグなどにも印刷をしている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・ガリ版の伝承と啓発に努められている新ガリ版ネットワークの方に指導をお願いしている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・最初は簡単な作業でできるガリ版印刷をおこない、次第に自分のすきな図柄などに移行していくようにしている。また、布製のトートバッグなどにもガリ版印刷をし、目先を変えている。


【　体験会の様子　】

■　事業の成果と課題
・ガリ版印刷の楽しさを理解してもらうと同時に、蒲生地区がその始まりの地であることを理解してもらえた。
・地味な作業であるためＰＲがむつかしく、仲間の輪を広げるのがむつかしい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ マックスダンス　初級	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 24 年度：
年間開催日数：８日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：24 人　　平均スタッフ数：１人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・初級のメンバーはほとんどがダンス未経験者である。また低学年が多い。
・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気を大切にしている。そのため、子どもたちの意欲が継続し高まるように工夫している。
・初級はメンバー数が多いので、より広い場所（小ホールフロア）に会場を移して密にならないようにしている。


【　練習の様子　】

■　事業の成果と課題
・子どもたちは意欲的に教室に参加している。
・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。
・練習時間が短いために全体の動きを合せるのが難しいことがある。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ マックスダンス　中級	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 26 年度：
年間開催日数：８日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：12 人　　平均スタッフ数：１人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。
・少人数のため密にはならないが、活動中は常に窓を開けておくなど、換気に注意している。また活動前に検温と手指消毒を行っている。


【　発表会の様子　】

■　事業の成果と課題
・子どもたちはより難度の高い技能を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるためステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのかが指導者として難しい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ マックスダンス　上級	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 27 年度：
年間開催日数：８日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：１人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・中級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
・中級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。


【　練習の様子　】

■　事業の成果と課題
・子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのかが指導者として難しい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ KIDS　FLOWER（キッズフラワー）	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 14 年度：
年間開催日数：６日（開催ペース：２か月に１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：６人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得する。
・じっくりと落ち着いて取り組むことで、創造することの楽しさを味わってもらう。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
・作品を年度末のマックスクラブ発表会などに展示して、創作意欲を高めるようにしている。

■　事業の成果と課題
・熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。
・材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。



【　クラブ員の作品　】

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 28 年度：
年間開催日数：39 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：13 人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・子どもの健康を考え、永久歯が生えそろう小学３年生以上を対象にしている。
・週１回の合同練習と楽器を家に持ち帰っての練習で、技術レベルが落ちないようにしている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・クラブ員の保護者など、経験のある方の協力を得ている。
・指導者の知り合いなどで他地域の指導している方の協力も得ている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・練習が単調にならないよう簡単な曲を演奏するようにしている。
・発表会に出場して、ステージに対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

■　事業の成果と課題
・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれるようになった。
・週一回の練習のため、上達速度がおそい。

■　その他
・コロナ禍のため、息を吐く吹奏楽はより感染防止に気を使わざるを得ない。



【　発表会の様子　】

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 14 年度：
年間開催日数：８日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：９人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・好きな作品を作ったり絵付けをしたりして、思い思いの作品作りをしている。
・マックスクラブ発表会で地域の子どもたちに体験教室を実施している。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・職員以外の人にも声をかけ、幅広く人材を探している。
・クラブ員の保護者に当番制を敷き、活動日には２名ずつ補助として入ってもらっている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・子どもの自主性を尊重し出来るだけ指導者は手を出さないようにしている。
・体験教室を実施することで、その面白さや楽しさを他の子どもたちに体験してもらいクラブ員を増やす工夫をしている。
・活動時は飛沫防止パネルを使い、隣接した子ども同士の感染に注意している。

■　事業の成果と課題
・陶芸に関心のある子どもが増えており、常にクラブ員が一定数集まる。
・作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
・制作時間に個人差があるが、早く終わった子どもには複数の作品制作をすすめている。



【　作陶の様子　】

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 20 年度：
年間開催日数：６日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：４人
・活動内容：□学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・館外活動が基本であり、子どもの五感を使っての活動をこころがけている。
・地域の自然にふれあいながら、新たな発見を体験する。
・低学年は保護者と一緒に、高学年は自分一人で活動してもらっている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・蒲生地区にお住まいの方で協力していただける方を、その回の内容に応じて依頼している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・活動内容の中で継続して観察するものや比較して違いを認識するものなどでクラブ員の興味を引き付けるようにしている。

■　事業の成果と課題
・東近江地域への理解を深めることができた。
・クラブ員に年齢差があり、同じ内容の活動をしても遅い早いができる。
・活動場所が野外のため、天候に左右される場合がある。



【　カヌー体験　】

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター　　開始年度：平成 14 年度：
年間開催日数：36 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：15 人　　平均スタッフ数：５人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
・通常の練習は、初心者と経年者を時間差で分けて練習している。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・わらべ組を卒業した高校生や大学生・社会人などに指導してもらっている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・習熟度別に初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
・先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。
・練習時間をいつもより短くして、マスクをしながら練習している。


【　体験の様子　】

■　事業の成果と課題
・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名　：キッズダンス（初級）	玉緒小学校	学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：わたむきホール　　開始年度：平成 27 年度：
年間開催日数：48 日（開催ペース：月４日）　　地域学校協働活動推進員数：２人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
インストラクターの指導により、低学年層の時から音楽のリズムに合わせて体を動かせる様にした。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
今年はコロナ禍でもあり、地元等への発表は控えた。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
新型コロナウイルス感染症が長引き、わたむきホールに会場を変えてダンス会場の換気、教室の消毒、体温測定、手指の消毒等を厳重に行った。


【　教室の様子　】

■　事業の成果と課題
コロナ禍による巣ごもりでの運動不足解消には大きな成果があったと考える。

報告書記入者（　玉緒地区地域教育協議会　代表　）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名　：キッズダンス（中級）	玉緒小学校	学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：わたむきホール　　開始年度：平成 27 年度：
年間開催日数：48 日（開催ペース：月４日）　　地域学校協働活動推進員数：２人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
　インストラクターの指導により、低学年層の時から音楽のリズムに合わせて体を動かせる様にした。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　今年はコロナ禍でもあり、地元等への発表は控えた。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
　新型コロナウイルス感染症が長引き、わたむきホールに会場を変えてダンス会場の換気、教室の消毒、体温測定、手指の消毒等を厳重に行った。

■　事業の成果と課題
　ダンスに興味を持って欲しい。
　仲間づくりができるように。



【　教室の様子　】

報告書記入者（　玉緒地区地域教育協議会　代表　）

プログラミングで楽しもう！

東近江市	活動名：小学生のプログラミング教室	玉緒小学校	学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：玉緒小学校内　　開始年度：令和３年度：
年間開催日数：５日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員数：２人（兼務１人）
平均参加人数：12 人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
　パソコンを動かす所から始めた。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　平和堂の催し、発表会に参加した。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
　手指の消毒の徹底。マスク、体温測定は事前に行い、教室の換気も行った。

■　事業の成果と課題
　子どもたちが楽しめた。
　コマンドの利用ができるようになった。



【　平和堂の催しに参加　】

報告書記入者（　玉緒地区地域教育協議会　代表　）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名：中学生のプログラミング教室	玉園中学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：池田町　葉菜屋の母屋
年間開催日数：10 日（開催ペース：週１回）
平均参加人数：４人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

開始年度：令和３年度：
地域学校協働活動推進員数：２人（兼務１人）
平均スタッフ数：２人

■　活動の概要・特徴的な活動
パソコンを動かす所から始めた。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
平和堂の催し、発表会に参加した。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
手指の消毒の徹底。マスク、体温測定は事前に行い、教室の換気も行った。



【　プログラム画面　】

■　事業の成果と課題
子どもたちが楽しめた。
コマンドの利用ができるようになった。

報告書記入者（　玉緒地区地域教育協議会　代表　）

自然を楽しもう！

東近江市	活動名：農業体験・田園アートクラブ	玉緒小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

主な活動場所：上大森町　農地・田
年間開催日数：２日（開催ペース：月１日）
平均参加人数：20 人
・活動内容：□学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

開始年度：令和３年度：
地域学校協働活動推進員数：２人（兼務１人）
平均スタッフ数：２人

■　活動の概要・特徴的な活動
自然の中での田園や畑で走り回る事で、健全な遊び健康の増進を図り、情操を豊かにする。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
豊かな田園資源の活用で大人と子どもで楽しめ、健全な育成を図る。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
マスクの着用、アルコールで手指の消毒、手洗いの励行をしっかり行い、ソーシャルディスタンスを守り、密集密接にならない様に配慮する。



【　芋掘り体験　】

■　事業の成果と課題
事業を行う日程の都合上、天候に左右されやすい。

■　その他
地元の農家さん等の協力が必要。

報告書記入者（　玉緒地区地域教育協議会　代表　）

英語を楽しもう！

東近江市	活動名：小中学生のネイティブスピーカー英会話	玉緒小学校・玉園中学校　学校運営協議会 ： ■無

主な活動場所：村町の公民館等　　開始年度：令和３年度：
年間開催日数：10 日（開催ペース：週１回）　　地域学校協働活動推進員数：２人（兼務１人）
平均参加人数：５人　　平均スタッフ数：２人
・活動内容：□学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（英会話　）

■　活動の概要・特徴的な活動
生徒のレベルに沿った英会話レッスンを行う。
子どもの英語の発活量を増やす事。


【　活動の様子　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
従来から子どもキッズ活動に参加していた子が大きくなり、英語を教えに参加してくれている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
マスクの着用、アルコールで手指の消毒、手洗いの励行をしっかり行い、ソーシャルディスタンスを守り、密集密接にならない様に配慮する。
継続的には、身近な会話の中で英語に親しみを持ち、活用できる様にする。

■　事業の成果と課題
英語に親しみを覚え、日常会話の中で活用できる。
自然に使えるように、少しずつ行っていく。

報告書記入者（　玉緒地区地域教育協議会　代表　）

みんなでワクワクッキング～わたしも未来のパティシエ～

竜 王 町	活動名：竜王キッズクラブ　クッキングクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会 ： ■有　□無

主な活動場所：竜王町農村女性の家、竜王町公民館　　開始年度：平成 27 年度（中断年度あり）
年間開催日数：年間８日（開催ペース：２か月に１回）　　地域学校協働活動推進員数：３名（兼務　３名）
平均参加人数：１５名　　平均スタッフ数：１名
・活動内容：□学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　）

■　活動の概要・特徴的な活動
昨年に引き続き、町内在住の栄養士を講師に迎え、調理の基礎を学びながら、技能の向上をはかり、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。


【ハロウィンお菓子作り　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
町健康推進員を長年務めておられる地元栄養士の方の指導を受けることで、お菓子作りを通じて健康や栄養について分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・地元の特産品（果樹等）の有効活用や季節イベントにあったおうちでも親子で簡単に作れるお菓子や料理作りをしている。
・感染拡大防止のため、マスクやフェイスシールドを着用しながら、調理工程を全て１人で行っている。

■　事業の成果と課題
・おうちに帰ってからも親子でクッキングに挑戦したという声もあり、家庭での実践に結びついている。
・感染対策の一環から、全ての工程を１人で調理することで、調理の実践力が高まっている。
・クラブで習得した調理技術が、家庭でのお手伝いの幅を広げている。
・子どもにもわかりやすいようにイラストを挿入したレシピの作成や食材の買い出しなど、職員の負担は大きい。

報告書記入者　（　公民館　公民館係　）

ワクワクサイエンス～ボクもワタシも科学博士～

竜 王 町	活動名：竜王キッズクラブ　サイエンスクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：竜王町公民館　他　　開始年度：平成 18 年度
年間開催日数：年間９日（開催ペース：２か月に１回）　　地域学校協働活動推進員数：３名（兼務　３名）
平均参加人数：16 名　　平均スタッフ数：３名
・活動内容：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動

両小学校の異なった年齢の子どもたちが地域の人々との交流を深めながら、科学工作や実験等を通じて、新しい学びや技能の向上をはかり、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の自然に関する書籍等の編纂に携わり、自然観察や自然素材を使った工作教室などを手がけている団体や元教師が講師として指導をすることで、低学年の子どもでも分かり易く学ぶことができる。


【　化石を磨こう　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・参加者は低学年が多いため、原則保護者同伴で開催をしているので、兄弟等小さい子どもがいる家庭は、事前に連絡をいただき家族参加も可能としている。
・屋内での活動は間隔を広くとるなど、密にならないように工夫している。

■　事業の成果と課題

・天体観望（夏・冬）、自然観察会、野鳥観察会、科学工作など、サイエンスに関わるいろいろな活動内容に取り組むことにより、理科離れがさけばれる昨今ではあるが、サイエンスをはじめ何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。
・家族参加も可能なため、知識の向上はもとより、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。
・活動開始から 10 年以上が経過しているが、１年生から参加できるクラブのため人気が高い。一方、低学年は保護者同伴とはいえ、対象者が１年生から６年生までと幅広く、みんなの歩調を合わせた活動の進め方が難しい。

報告書記入者　（　公民館　公民館係　）

書道の基礎を学ぼう～心のこもった綺麗な字を習得～

竜 王 町	活動名：竜王キッズクラブ　書道クラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：竜王町公民館　　開始年度：平成 23 年度
年間開催日数：年間 22 日（開催ペース：月２回）　　地域学校協働活動推進員数：３名（兼務　３名）
平均参加人数：21 名　　平均スタッフ数：２名
・活動内容：■学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

書道を基礎から学び、硬筆と毛筆の技能向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

県の展覧会等でも受賞経験のある有段者（元町職員）が講師として指導をすることで連携や情報共有が安易で、より分かり易く学ぶことができる。


【　硬筆指導　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・小学校２年生から６年生までの小学生を対象として、同じ教材をもとに継続した取り組みができているので、６年生まで継続してくれる子どもが多い。
・マスクの着用はもちろんのこと、机に１人ずつ着席し、密を回避している。

■　事業の成果と課題

・技能の向上をめざして、練習（復習）を重ねる継続した取り組みにより、進歩が形となって現れるため、何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
・月２回のペースで開催をしているため、学校行事や他の習い事などと重なり、日程変更をする場合の調整に苦慮している。
・１人で準備ができない子（２年生）に１人の講師がかかりきりになってしまい、平等な指導が困難。

報告書記入者　（　公民館　公民館係　）

仲間と自分の限界にチャレンジ～今より一歩成長した自分に会おう～

竜 王 町	活動名：竜王キッズクラブ　チャレンジクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：竜王町公民館　他　　開始年度：平成 22 年度
年間開催日数：８日（開催ペース：２か月に１回）　　地域学校協働活動推進員数：３名（兼務　３名）
平均参加人数：21 名　　平均スタッフ数：２名
・活動内容：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動

屋内外の体験にチャレンジをすることで、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々や仲間と交流を深めながら、協力しあう大切さと何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

町生活安全課や自衛隊の協力を得ながら、活動内容を組むことで、普段の学校生活では体験できないことを体感し知識を身に付けられる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、原則クラブ生のみの参加を条件として開催している。
・２泊３日の防災キャンプは感染拡大防止対策として防災デイキャンプに変更したが、今年初めて自衛隊と連携し充実した内容で実施できた。



【　カヌー体験　】

■　事業の成果と課題

・野外活動が中心となるため安全管理を十分に行う必要があり、内容によっては活動に制限を設けざるを得ないことがある。
・カヌー体験、防災デイキャンプ、スキー教室等では、受講料以外の諸経費を毎回負担金として徴収するため保護者の負担が大きいが、普段体験できない貴重な経験ができるということで保護者の理解は得られている。
・活動内容のマンネリ化や小学生が体験できる屋外アクティビティには、子どもの安全確保のため、大人の引率が必要など様々な条件が重なり内容の決定に苦慮している。

報告書記入者　（　公民館　公民館係　）

明日に煌めけ！未来に羽ばたけ！子ども吹奏楽団

竜 王 町	活動名：竜王キッズクラブ　竜王ユースブラス	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：竜王町公民館　他　　開始年度：昭和 62 年度
年間開催日数：年間 50 日（開催ペース：毎週土曜日）　　地域学校協働活動推進員数：３名（兼務　３名）
平均参加人数：15 名　　平均スタッフ数：３名
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　）

■　活動の概要・特徴的な活動

音楽の基礎知識を学びながら演奏技能の向上と両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方が講師として指導を行うことで、わかり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・３名の講師がいるため、各個人の技能にあわせた練習をすることができる。
・希望楽器の調査を行い、講師が体格や肺活量をみて子どもにあった楽器を選べる。
・卒業生のほとんどが、中学校で吹奏楽部に入部するため、継続した活動ができる。
・楽器演奏による飛沫感染を防止するため、間隔をあけ一方向を向いて演奏している。
・唾抜き部分にビニールを被せ、楽器に溜まる唾の処理を的確に行い感染対策を行っている。



【　楽器練習　】

■　事業の成果と課題

・今般の感染症影響で、様々な発表会が軒並み中止となり、練習の成果を披露できず、モチベーション維持が難しい。
・新しく入部したクラブ生に、経験者が補助をする姿も見られ、責任感や協調性を養うことができた。
・開催時間帯が夜間であるため、保護者の送迎等による理解とあわせて防犯対策を十分に講じる必要がある。

報告書記入者　（　公民館　公民館係　）

令和3年度 家庭教育支援活動一覧

○事業実施市町および取組教育支援活動（9市町18活動）

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援体制の構築	家庭教育を支援する取組の展開	運営委員会の設置	訪問型の家庭教育支援
1	彦根市	○	○	○	○	○
2	近江八幡市	○	○	○	○	○
3	草津市			○	○	
4	栗東市			○	○	
5	甲賀市	○		○	○	
6	湖南市	○	○	○	○	○
7	高島市	○		○	○	
8	日野町	○		○	○	○
9	竜王町			○	○	

○家庭教育を支援する取組

	市町村名	チーム数	家庭教育支援員数	主な活動内容					アウトリーチ型支援			活動対象（それぞれの子どもを持つ保護者に対する活動）			
				学習講座	親子参加型行事・プログラム	相談対応	情報提供	その他	家庭訪問	保育所・幼稚園・小中学校等	その他企業等保護者が集まる場所	乳幼児	小学生	中学生	高校生以上
1	彦根市	2	5			○	○		○	○			○		
2	近江八幡市	12	12	○	○	○	○		○	○			○		
3	草津市	0	0	○			○			○		○	○	○	○
4	栗東市	1	1	○		○			○	○		○	○		
5	甲賀市	1	10	○	○		○					○	○		
6	湖南市	5	7	○		○	○		○	○		○	○	○	
7	高島市	0	0	○	○					○		○	○	○	
8	日野町	1	3	○	○	○	○		○	○		○	○	○	
9	竜王町	0	0	○	○		○					○	○	○	○
		22	38	8	5	4	7		5	7		7	9	5	2

※アウトリーチ型支援（家庭訪問、就学時健診、入学説明会、保護者会・参観日、PTA研修会や企業など、保護者が集まる場所に出向いて行う支援）

（令和3年度事業計画書をもとに作成　令和3年7月時点）

彦根市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や共働き家庭、ひとり親家庭の増加、保護者にとって身近な相談相手がいない等の課題や不登校・虐待などの課題が増加している。また、令和２年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査等の結果（県）において、不登校の要因として「親子の関わり方」が上位となっている。本市の過去の調査においても、小学５年生の保護者の 23.4%、ひとり親家庭の 37.1%が利用したい支援として「進路や生活などについて何でも相談できるところ」と回答し、困難な家庭の子どもや保護者に対して必要な支援について、教育機関の 46.6%が「進路や生活などについて何でも相談できるところ」と回答するなど、家庭教育支援のニーズは大きい。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもに困り感や課題（遅刻、行き渋り、不登校傾向、情緒不安定等）がある小学校児童の家庭で、悩みや不安を抱えたまま自ら相談できない保護者や地域で孤立しやすい家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通じて保護者の悩みや不安等のストレスを軽減するとともに、地域におけるつながりをつくる支援、家庭教育や子育てについての助言、子どもへの学習機会の提供等をすることで、親子に関する問題の解決を目指す。

■本年度の活動

（１）家庭教育支援事業運営委員会の開催（市教委での開催）

市教育委員会事務局、子育て支援部局、福祉部局、モデル校、県ＳＳＷ・ＳＶによる運営委員会の開催（年２回）

（２）家庭教育支援チーム会議の開催（各小学校での開催）

当該校の管理職、関係教員、ＳＳＷ、家庭教育支援員、市事業担当者

（３）家庭教育支援地域協議会の開催（小中連携：中学校に関係者が集って開催）

中学校長、事業実施校関係教員、ＳＳＷ、家庭教育支援員、市事業担当者

（４）家庭教育支援員の配置とアウトリーチ型支援の実施

モデル校の家庭教育支援地域協議会に家庭教育支援員を配置し、訪問型の家庭教育支援を実施するとともに、同一中学校区内の全小学校で支援できる体制を構築

（５）研修の実施

支援のノウハウや成果・課題の共有、ＳＳＷの助言等により家庭教育支援員の資質向上を推進

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・長期休業明けの児童の状況を注視し、必要な支援に努めた。
・家庭教育支援員は、マスクを着用し、訪問家庭の了解を得たうえで対面、相談業務にあたった。
・会議は、基本的な感染予防対策を徹底するとともに、市主催の会議はＷＥＢを活用した。

■本年度の成果

・県のモデル事業として、訪問型の家庭教育支援を行う仕組みづくりを進め、縦（小中連携）と横（中学校ブロック内全小学校での支援）への展開を図ることができた。
・公的機関や学校の教職員ではない立場の家庭教育支援員が関わることで、保護者に変化が見られるなど、地域人材の役割とよさが見えてきた。

■今後の課題

・地域として一貫性のある家庭教育支援を実施し、地域におけるつながりや地域力の向上を図るとともに、事業実施校の拡充を図りたい。
・家庭教育支援員を安定的に確保できる仕組みづくりが必要である。

家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業

彦根市　　本事業実施年度　令和３年度	
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（ 90日 ）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 3 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	（旭森小学校）

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成等

地域の教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

○家庭教育支援チームの設置・活動等

スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当、生徒指導担当、管理職

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

年度当初に連絡会議を行い、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当教員、生徒指導担当教員、校長、教頭が参加して本事業の趣旨や支援する家庭の絞り込みを行った。また、長期休業中にチーム会議を開催し、進捗状況や今後の計画等について家庭教育支援員相互や学校との情報交流を行った。

日常的にも教育相談担当が窓口となり、児童や家庭の様子を情報共有するようにした。

○訪問型家庭教育支援の実施等

不登校児童の家庭への訪問支援を週１回定期的に行った。保護者の不安や悩みについて話を聞いたり、児童と一緒に登校したりした。初めは緊張気味だった児童も、家庭教育支援員といろいろな話をしながら一緒に歩いて登校することで打ち解け、安心につながっている。



【家庭教育支援員との登校の様子】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○家庭教育支援員ごとに訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○家庭教育支援員にケース会議に同席していただき、情報を共有することで、より適切なアセスメントや支援につなげるようにした。

○学校の教育相談担当を窓口とすることで、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し、次の支援の方向性についても相談することができた。

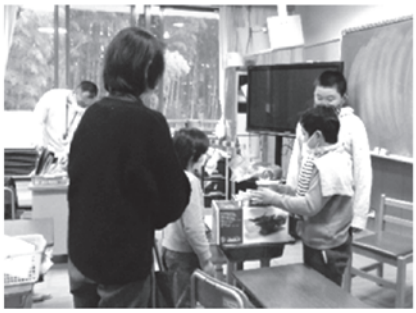
■ 事業の成果

○定期的な家庭訪問が刺激となり、訪問日には保護者が自ら子どもを送り出そうとする姿勢が見られるようになった。

○家から学校まで家庭教育支援員といろいろな話をしながら登校することで、児童の不安が軽減し、登校機会が増えた。登校後もしばらく傍らに付き添うことが児童の安心につながった。

○定期的に保護者と関わることで、保護者と家庭教育支援員が人間関係を築くことができ、訪問した際に子育ての困り感なども話してくださるようになった。

○家庭教育支援員に学校内でも関わっていただくことで、児童との信頼関係を築くことができ、安心して登校することにつながった。



【家庭教育支援員による児童支援】

■ 事業実施上の課題

○児童の状況は日々変わることがあるので、定期的な訪問形式では突発的な事象への対応が難しい時もあった。

○今後は、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていきたい。

報告書記入者（ 教　頭 ）

学校・家庭・支援員の連携強化で、確かな子どもの育ちを

彦根市　　本事業実施年度　令和２年度	
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（ 129 日 ）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
Ａ：家庭教育支援チーム数	（ １ ）チーム
Ｂ：家庭教育支援員数	（ ２ ）人
Ｃ：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ １ ）か所
Ｄ：前項（Ｃ）の配置場所名	佐和山小学校（ベース校） 城東小学校（派遣校）

■ 活動の具体的内容

〇家庭教育支援チームの設置・活動等

昨年度より不登校や行き渋りがある児童の家庭を対象とし、家庭教育支援チームを設置している。家庭訪問や学習支援を主軸としていたが、本年度は支援員から携帯電話番号を知らせ、電話での相談業務も行っている。

〇連絡会議・ケース会議の設置、運営等

ＳＳＷスーパーバイザー、本校校長・地域連携担当教員・彦根市生涯学習課員・２名の家庭教育支援員で、本会を運営している。会議では必要に応じて関係者を招き、家庭への支援について検討をする。

〇アウトリーチ型家庭教育支援の実施等

携帯電話の番号を支援員と母親が交換したことで、両者がタイムリーに子どものことを話し合えるようになった。学校・支援員・家庭の連携も強化でき、不登校児の指導やかかわりが一貫して、そしてタイムリーにできるようになった。

■ 特徴的な活動内容

〇不登校児を抱える母親への支援

保育園の頃から不登校（不登園）の状態にあるＡ児の母親は、家庭の教育環境を変えようと模索しているが、なかなかＡ児は学校に足が向かないのが実情である。昨年度から関わっている支援員は、Ａ児の登校もさることながら、母親の心の内も心配している。そこで携帯電話の番号を交換し、母親のよき相談相手になっている。Ａ児の欠席がかさむと、必ず母親に電話をして母親の労をねぎらい励ましていただくことで、Ａ児と正面から向き合うことも増えた。また、Ａ児にも「まず、生活を創りましょう。朝ちゃんと起きて、食事をとって、太陽に当たりましょう。」と言い続けた。これまでＡ児は、登校しても１時間程度で帰宅していたが、この言葉の後、給食を含み３時間程、学校で過ごせるようになった。

〇家庭・学校・支援員で不登校児に内面の力をつける支援

低学年から行き渋り傾向だったＣ児が、兄の卒業を機にどんどん登校できなくなった。朝、母親と車で登校しても車から下りられなかったり、欠席したりという状況だった。支援員が、少人数の場でなら力を発揮できるのでは？と母親に相談を持ち掛け、学校との協議の後、別室登校を勧めた。始めは、別室でも体を縮こませたりほとんど聞こえない声で会話をしたりしていたが、次第に学習や人とのコミュニケーションに前向きになってきた。支援員と学校が連携し、別室での学習指導や生活指導を進めた。12 月には、指導に来てくださる先生方を招いてクリスマス会を自ら計画・実施した。もう一人の別室登校者が欠席したにもかかわらず、飾りつけやプレゼントの用意・司会やゲームの進行等、１人で行えるようになった。



【クリスマス会の飾りつけ】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇入室に当たっての手洗いや手指消毒はもちろん、学習・生活指導時、給食時には、パーテーションを活用している。

■ 事業の成果

〇保護者との信頼関係が強まり、母親の困り感に支援員が寄り添うことができた。母親のよき相談相手である。母親や児童の心の安定がみられた。

〇Ｃ児については、内面の力の高まりを感じる。意欲の持続や大勢の中に溶け込みにくい等でなかなか学級には行けないが、学級の友達２～３人と遊んだり運動場へ出たりするようになった。

■ 事業実施上の課題

〇不登校児童についての理解が深い者が支援員をしているため、学校や保護者との連携が強化できているものと考える。また、時間的にも融通のつく支援員でないと、子どもや保護者へのかかわりが途切れがちになる。こういった地域人材の確保が難しい。

報告書記入者（ 家庭教育支援員 ）

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

元々、周りとの関係性が希薄だったり、孤立傾向にあったりする家庭が少なくなかったが、昨年度からのコロナ禍において自宅で過ごす時間が増えたことで、経済的に厳しい家庭や、就労形態が子育てのしにくさにつながる家庭、子どもとの関わり方に困難を感じている家庭、子どもの特性を親だけで抱え込み、しんどい思いをしている家庭の課題が、より大きくなってきた。保護者自身が抱える課題も多岐にわたり、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、何気ない立ち話などをしにくい時代で、悩みを抱えている人を見つけにくくなっているという現状がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭教育支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者の支援の一助となるようにする。また、誰かとつながることで、保護者自身の家族や地域で生きにくさを感じていることへの不安や課題を軽減し、安定した子育てにつながるようにする。



【　市子育てサロン　】

■本年度の活動

（１）市内１２小学校における各家庭支援チームによる活動の展開

・定期的な支援チームでの情報共有会議

・各学期の参観行事や懇談会時におしゃべりサロンの実施

・家庭教育支援員による家庭訪問、相談活動

（２）市子育てサロンの実施

・２学期と３学期に１回ずつ、市内小学校の保護者対象の子育てサロンの実施。小学校への概要報告

（３）小学校の管理職と家庭教育支援員との会議、面談

・１１月に管理職、家庭教育支援員全員参加の会議を開催。担当者と県ＳＳＷＳＶの上村先生の２名で、小学校を個別に訪問し、懇談を実施した。



【学校園保護者子どもサポート一覧】

（４）学校園保護者子どもサポート一覧の作成

・学校園が困難な状況にある保護者の支援をする際に、参考になるよう市内や県内各所に存在する支援団体を一覧にまとめた。各学校園の所属長に配布し、全職員に啓発してもらうようにした。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

本年度はなるべく従来の取組ができるように心がけた。

■本年度の成果

家庭教育の大切さが全市的に広まりつつある。各学校を訪問し、校長及び家庭教育支援員と直接話したことで、生涯学習課の務めるべき役割が再確認できた。また、サポート一覧を作成したことで、就学前から高校卒業後までを見通して支援を考えられるようになったという現場の教員からの声を聞くことができた。全校園がコミュニティ・スクールとなる本市にとって、家庭教育を学校運営協議会の中に位置付けて組織的に対応していくことが少しずつ浸透しつつある。

■今後の課題

事務局と学校と関係機関が連携を密にし、隙間をなくすことが必要である。

小学校は家庭教育支援のプラットホーム

近江八幡市　　本事業実施年度　　平成２２年度	
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 ■　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　363　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　　（　１２　）チーム
B：家庭教育支援員数　　（　１３　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 （　１２　）か所
D：前項（C）の配置場所名 （八幡小学校、島小学校、沖島小学校、岡山小学校、金田小学校、桐原小学校、桐原東小学校、馬淵小学校、北里小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校）

■　活動の具体的内容

〇地域人材の養成等

・家庭教育支援チームに家庭教育支援員の後継者候補を入れることにより、地域人材の養成を、家庭教育支援チーム会議を通して行っている。

〇家庭教育支援チームの設置・活動等

・不登校や問題行動をはじめとする教育相談対応が必要な児童の家庭や地域での状況を把握するため、校長、教頭、教育相談担当、生徒指導担当、家庭教育支援コーディネーター、訪問教育相談員でケース会議を開催し、状況の確認と家庭への支援の方法を探る。状況によっては、地域の民生委員との情報共有を図っている。

〇学習講座・行事の実施等

・事前に保護者にアンケートを取り、当日の話題に方向性を持って開催した。11 月の回は外国籍のお母さんに声かけをして、本校児童にも関係のある市の国際協会の方の参加もお願いした。質問内容も事前に考えてこられ、つながりができた。



【小学校でのチーム会議の様子】

〇連絡会議・ケース会議の設置、運営等

・毎月開催する家庭教育支援チーム連絡会において、学校と地域が情報を共有し保護者への対応や日々の児童理解や指導にいかしている。特に長期休業前には、気になる児童をピックアップして地域での見守りを依頼している。

〇訪問型家庭教育支援の実施等

・外国籍児童の保護者支援や孤立傾向にある家庭とのつながりを作るため、個別対応と訪問型による保護者支援に重点を置いて活動している。

■　特徴的な活動内容

〇アウトリーチ型家庭教育支援

・登校時に校門で児童を出迎えている。その際、登校を渋る児童の保護者の話を聞き、相談内容によって担任や担当者につないでいる。

〇広域での訪問型家庭教育支援

・近隣校と情報交換を図り、不登校の児童とつながりのある家庭教育支援員が該当校の家庭教育支援員と連携して家庭支援を実施した。

〇子どもを語る会への家庭教育支援員の参加

・月１回程度全職員で行っていた子どもを語る会へ家庭教育支援員にも出席してもらい、気になる子どもや支援が必要な子どもや家庭についての情報を共有した。また会の後、さらに詳しいことを各担任と支援員で懇談し、その後の支援の方向性を考えた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇保護者懇談会や保護者ボランティア活動では、家庭教育支援員が補助や支援をしながら、保護者同士の会話に入り保護者との関係を築くとともに、何気ない会話の中で子育ての悩みを打ち明けた保護者に相談関係を行っている。



【ボランティア活動への参加】

■　事業の成果

〇主任児童委員等、地域の方が支援チームにおられることで、地域での児童や家庭の様子、祖父母の関わりなど家庭の状況を多面的にとらえ、それを共有して役割分担をしながら支援や見守りを行うことができた。

〇運営協議会および民生児童委員さんとの連携を図ったことで、家庭教育支援を地域とともに進めるうえでの体制づくりに向けたスタートがきれた。

〇本年度から家庭教育支援を始めたため、保護者の認知につなげられるように児童と関われる時間を作った。また、家庭教育相談員が今まで教育相談を継続的に受けておられた保護者の教育相談に同席することによって、保護者と関係を構築できた。

■　事業実施上の課題

〇週末や放課後開催、学童との連携の在り方について今後検討していきたい。

報告書記入者（　　生涯学習課　職員　）

草津市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市においては、市制施行（昭和２９年）より、一貫して人口が増加しており、子育て世帯や核家族、新たに本市に転入してくる若い世帯も多く、家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多い。家庭での子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者へ学習機会を提供することにより家庭教育の推進を図る。

■本年度の活動

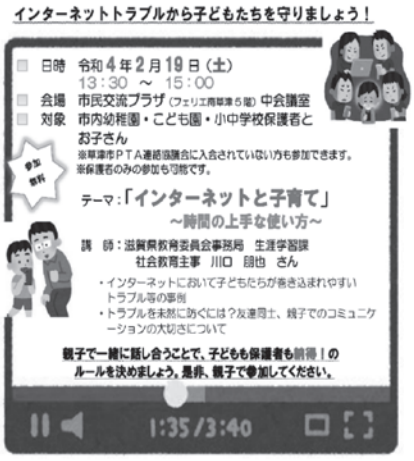
（１）家庭教育学習事業費補助金

家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位ＰＴＡの実施する家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位ＰＴＡにおける特色のある家庭教育学習事業を支援した。

（２）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。

今年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学校と連携した学習会の実施ならびに１歳６か月の乳幼児健診の場の活用が困難であり、草津市ＰＴＡ連絡協議会主催、草津市教育委員会共催、滋賀県教育委員会後援による公共施設の活用や、オンラインによる家庭教育研修会の開催を試みた。図書館との連携により、研修の関連図書の展示を行い、家読の大切さの啓発を試み、家庭の教育力の向上を図り家庭教育機会の確保に努めた。



【家庭教育研修会開催チラシより】

（３）家庭教育に関する情報発信

市広報紙において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、テーマにあったチラシや資料を配布するなどの情報発信を行う。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

〇新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、対面講座を避け、コミュニティＦＭ放送局㈱えふえむ草津の協力によるオンデマンド配信に切り替えた。

・家庭で考える食育に関する講座「しっかり食べてコロナに負けない身体づくり」

■本年度の成果

・地域の公共施設における家庭教育研修会　１講座
・えふえむ草津オンデマンド放送による家庭教育講座　１講座
・乳幼児健診における家読の啓発（チラシ設置）　３６日

新型コロナウイルス感染症の影響により、乳幼児健診の場に外部者の立ち入り不可となったことにより、チラシ配布による啓発を行った。

■今後の課題

・次年度以降についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校での講演会の自粛や、乳幼児健診での外部者の受け入れが困難な状態が見込まれるため、家庭教育サポート事業の進め方を十分検討する必要がある。
・家庭教育講座等に参加することが難しい保護者に対する学習機会の創出について、新しい手法の展開を検討していく。

報告書記入者（　生涯学習課職員　）

草津市家庭教育サポート事業～地域で育む家庭の力～

草津市　　本事業実施年度　平成２６年度	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	２講座（　３７日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
Ａ：家庭教育支援チーム数	（　０　）チーム
Ｂ：家庭教育支援員数	（　０　）人
Ｃ：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（　０　）か所
Ｄ：前項（Ｃ）の配置場所名	（　－　）

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施等

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身につけるため、保護者向けの学習機会の提供や情報発信により、家庭の教育力の向上を図るとともに、子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

〇保護者に対する情報提供等

市広報紙において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、家庭で考えるインターネットモラルや家読、自尊感情に関する啓発チラシや資料を配布することで、情報発信を行う。

〇学校と連携した家庭教育機会の提供

小学校との連携のもと、時期・テーマ等実施希望調査を行い、希望に合致する外部講師を教育委員会が招聘し、学習機会を提供する。（今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を希望する学校がなかった）

〇絵本ｄｅうちどくサポート広場

参加率の高い１歳６か月の乳幼児健診で、家庭読書をツールとした家庭でのコミュニケーションの育みの推進を図るため、絵本の掲示および読み聞かせに関する啓発ＤＶＤの上映、図書館司書による読書相談などを月３回（年間３６回）実施する。（今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、家読チラシ配布のみ実施）

〇地域の公共施設を利用した家庭教育機会の提供

図書館隣接の会議室など、市の公共施設を利用し、家庭の教育力向上を図る講座を実施する。

・草津市ＰＴＡ連絡協議会主催、草津市教育委員会共催、滋賀県教育委員会後援による、インターネットトラブル防止に関する家庭教育研修会。
・図書館司書との連携のもと関連図書を掲示。

■　特徴的な活動内容

〇地域の公共施設を利用した家庭教育サポート事業

・対象年齢等を限定することにより保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施できるよう調整。
・図書館司書との連携のもと関連図書を掲示し、図書の貸し出しについて案内することにより、家庭での継続した学びとなるよう促す。また、普段図書館に来ることの少ない保護者に対しても図書館の利用と家読の大切さの啓発を実施。

〇１歳６ヵ月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

・たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を惹き、また、読書に関心の低い保護者に対しては、家読の案内チラシを配布するとともに、家庭での読書環境に関するアンケートを実施し、口頭で家読の啓発を行う。（今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により家読チラシ配布のみ実施）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇新型コロナウイルス感染症拡感染拡大防止対策として、対面講座の形式をコミュニティＦＭ放送局（株）えふえむ草津の協力によるオンデマンド放送に切り替えた。

・家庭で考える食育に関する講座「しっかり食べてコロナに負けない身体づくり」

■　本年度の成果

・地域の公共施設における家庭教育サポート事業　　１講座
・オンデマンド放送による家庭教育講座　　１講座
・乳幼児健診における家読の啓発（チラシ設置）　　３６日

■　事業実施上の課題

〇学校と連携した家庭教育サポート事業

新型コロナウイルス感染症の影響のみならず、近年のライフスタイルの変化などにより、学校を活用した家庭教育学習機会の確保が困難になってきているため、新たな手法による学習機会の創出が急務である。また、多様化するニーズを汲み取り、関心の高いテーマを設定するなど、より多くの保護者に受講いただけるよう工夫を凝らす必要がある。

報告書記入者（　生涯学習課　職員　）

栗東市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

地域のつながりの希薄化に伴い、子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや行き詰まりを感じながら、一人で悩んでいる保護者は少なくない。当然校園に相談されることはあるものの、支援が必要な家庭があまりにも多く、十分には対応しきれないというのが現状である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭と地域・学校をつなぎ、地域の身近な幼児園、小中学校等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭教育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進し、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことを目指す。

■本年度の活動

（１）就学時健診での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。



【送迎時の保護者相談】

（２）校内適応指導教室における支援・保護者相談

対象児童４名を中心に支援。送迎時に保護者に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

（３）連絡会議・ケース会議への参加

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や当該児童の担任に、保護者対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

（４）保護者に対する情報提供

学校だよりで家庭教育支援員の紹介をし、子育てに悩んだときは、いつでも相談できるということを保護者に発信した。また、毎月実施している教育相談の相談相手として家庭教育支援員を位置づけ、教育相談だよりで発信した。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍で家庭時間が増えたことにより、親が子どもと接する時間が増え、子育ての悩みも多くなりつつあるが、相談にまでたどりつかない保護者がまだまだいる。講演会等の開催ができず、互いに学び合う場を設けることが難しかったが、個別に働きかけ、対応を行うことで、保護者や児童に手厚い支援が行えた。

■本年度の成果

どんな力を家庭で育てていくのか、学校との連携はどのように図っていけばよいのか等について、家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。また、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■今後の課題

家庭教育についての講演会や相談会をさらに多く設定し、学んだり交流したりする機会をたくさんの保護者に提供していく必要がある。参加につながる啓発や周知方法について検討していきたい。

家庭の教育力アップをめざして　～栗東市の家庭教育支援～

栗東市　　本事業実施年度　平成 30 年度	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　８４　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（　0　）チーム
B：家庭教育支援員数	（　1　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（　1　）か所
D：前項（C）の配置場所名	（　治田東小学校　）

■　活動の具体的内容

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等
それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や該当児童の担任に、保護者対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

○保護者に対する情報提供等
学校だよりで、家庭教育支援員の紹介をし、子育てに悩んだ時は、いつでも相談できるということを保護者に発信した。また、毎月実施している教育相談の相談相手として家庭教育支援員を位置づけ、教育相談だよりで発信した。



【個別の学習支援】

■　特徴的な活動内容

○就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設
就学時健康診断では、子育てに悩んだ時は相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

○校内適応指導教室における支援・保護者相談
教育相談等で、児童の様子をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりを円滑にするための手立てについて助言したりした。



【子育て相談窓口】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○コロナ禍で家庭での時間が増えたことにより、親が子どもと接する時間が増え、子育ての悩みも多くなりつつあるが、相談にまでたどりつかない保護者がまだまだいる。講演会等の開催ができず、互いに学び合う場を設けることが難しかったが、個別に働きかけ、対応を行うことで、保護者や児童に手厚い支援が行えた。

■　事業の成果

○連絡会議や日誌を通じて、学校と情報を共有することで児童への支援を効果的に行うことができた。

○家庭教育支援員が、じっくり話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、子どもへの関わりが改善してきた。

■　事業実施上の課題

○福祉部局との連携をどう深めていくかということが課題である。

○保護者が自分の子育てについて振り返ったり、また、保護者同士が家庭教育について交流したりする機会をどのように設けていくとよいか検討していきたい。

報告書記入者（　治田東小学校教頭　）

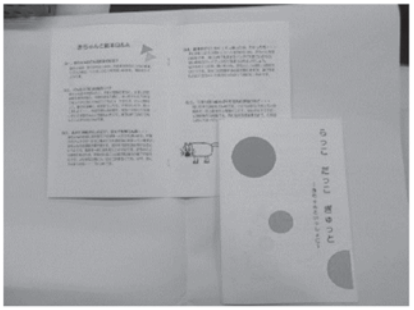
甲賀市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

・核家族化、少子化等に伴い、育児不安の広がり、子育てに悩む保護者は増えており、子育てに自信が持てない人が多いように思われる。また、ＳＮＳの発達により、子育てに関する情報は数多くあるが、意外にも「子どもとの遊び方がわからないので、手遊びなどを教えてください」などの声も寄せられることがあり、保護者が必要としている情報を的確に伝えることが重要であると感じる。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

・子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように、家庭の軸である父親や母親(時には祖父母)に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。



【配布しているブックレット】

■本年度の活動

（１）学習講座・行事の実施等

・子育て親育ち講座（命の学習）【小・中規模小学校対象】
４校実施

・ブックスタート事業
令和３年１２月から、読み聞かせを再開

（２）保護者に対する情報提供
家庭教育についてのブックレットをブックスタート時に配布

■コロナ禍における対応・工夫および課題

【命の学習】

使用する人形や、児童自身の手指消毒の徹底。部屋の換気。児童着席の間隔をしっかりと確保する。
中規模校については、例年の２倍の時間を確保し開催した。（１校時×２コマ）

【ブックスタート】

読み聞かせ時の消毒の徹底。読み手・聞き手双方の間隔の確保。
１組にかかる時間の短縮。



【命の学習での１コマ】

■本年度の成果

【命の学習】

どの児童も、助産師の話を真剣に聞き、真面目に取り組む様子が伺え、命の大切さについてしっかりと考えようとしていた。

【ブックスタート】

「読み聞かせ」を再開することができた。実際に読み聞かせを体験していただき、その重要性を読み手、聞き手とも実感している。

■今後の課題

・保護者のさまざまな悩み解決や子育てのサポートにつながるようなメニューの開拓が必要である。

命の大切さ、かけがえのないものと感じる学び　～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	７日

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　　）チーム
B：家庭教育支援員数　（　　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数
D：前項（C）の配置場所名

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施等

・子育て親育ち講座（命の学習）【小・中規模小学校対象】

・ブックスタート（令和３年１２月から）【４か月健診時】

〇保護者に対する情報提供等

ブックスタート、子育て親育ち講座について掲載している「らっこだっこぎゅっと」ブックレット発行（年間版）



【「命の学習」でのーコマ　】

■　特徴的な活動内容

〇子育て親育ち講座（命の学習）【小・中規模小学校対象】

講座を希望する小学校と連携し、助産師を講師に招き、命の誕生、大切さについて学習し、家族に対し感謝するとともに、自分の命・周囲の人の命、共にかけがえのないものであることに気づく。

【小規模校】

男性教諭の模擬出産、妊婦体験スーツの着用や赤ちゃんのお世話体験の後、あらかじめ保護者から児童に宛てられた手紙を読み、保護者に宛てて返事の手紙を書く。

【中規模校】

講師の話（自己肯定感・自尊感情の話を中心に）、DVD の視聴、赤ちゃん人形の抱っこや妊婦スーツ着用体験を通し、生命の神秘、人の誕生の素晴らしさ、思春期の心と体について理解を深める。

〇「らっこだっこぎゅっと」ブックレット発行（年間版）

ブックスタート時に配布している。



【ブックスタート　再開した読み聞かせ】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇使用する人形や、机等の消毒の徹底。部屋の換気。着席の間隔の確保。

〇中規模校については、例年の２倍の時間を確保し、開催した。

（１校時×２コマ）

■　事業の成果

【命の学習】

〇どの児童も、講師の話を真剣に聞き、真面目に取り組む様子が伺え、命の大切さについても実感しているようであった。

【ブックスタート】

〇読み聞かせを再開することができた。読み聞かせを受ける保護者だけでなく、読み手のブックスタートサポーターも読み聞かせの大切さを再認識していただくことができた。

■　事業実施上の課題

〇事業や講座の参加につながる周知方法を検討する必要がある。

報告書記入者（子育て政策課職員）

湖南市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化に加えて、今般のコロナ禍における地域交流機会の制限等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうなど、家庭教育に困難を抱えた家庭が少なくない。ひとり親家庭の増加や貧困など、家庭教育の充実には難しさのある状況の中、家庭環境が多様化もしており、子どもが学校生活に適応できないといった困難を抱える家庭が増えている。

■家庭教育支援で目指す姿

保護者自らが家庭教育の主体であるという意識を大事にしつつ、地域をはじめとした様々な人とのつながりの中で、家庭教育を支援する協働の関係づくりが重要である。他の子育てを知り協働することで子育てに幅と広がりができ、子どもの育ちを豊かにすることができる。

しかしながら、地域的なつながりが弱くなっている現状においては、支援の必要な家庭・保護者自らがその困難を訴え、助けを求めることがなかなか難しい。このため支援を届けるアウトリーチの取組が期待されており、各チームでの実践に向けて取り組む。

■本年度の活動

（１）家庭教育支援チームの設置・取組

①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」

・保護者対象に毎週水曜日の定例開催を基本にしているが、曜日固定で来ることができない人もいるため、チラシ案内で不定期にも「ほっとサロン」を開設。子ども支援を通して家庭への訪問型支援に発展し、行政とも連携した取組に発展してきている。

②三雲小学校…チーム名「みくもっこ支援委員会」

・支援員２人で、学校での子どもとのつながりの上に立った保護者の信頼を基に、家庭へ「訪問型支援」を実施。また、情報提供の場としてＳＳＷを招いて「ポレポレ子育て応援講座」を開催。

③石部小学校…チーム名「さんぽ」

・保護者対象に毎月 10 日、20 日、30 日を基本に、子育てサロン「さんぽ」を定例開設。数名程度ではあるが毎回参加者がある。

④菩提寺北小学校…チーム名「あすなろカフェ」

・保護者対象に各週水曜日に地域交流室「あすなろハウス」で「あすなろカフェ」を定例開設。保護者が学校へ来にくい状況であることから、行事等での子どもの様子を映像化して視聴会も開催。

⑤甲西北中学校…チーム名「めっせーじ」（今年度新規チーム結成）

・学校へ来にくい生徒たちの保護者を対象に月に１回程度懇談会を開催。保護者として感じている子育ての難しさを聴いてもらい交流する場となっている。

（２）学習講座・行事等の実施　【子育て講演会の開催】

・各チームで保護者のニーズを受け止め、必要な情報を得ることのできる講演・講座を年１回開催している。民生委員等の地域住民の参加もある学校もある。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍による制限などで、保護者も学校へ来にくい現状が昨年度来続いている。学校・子どもの様子を伝えるために映像等で視覚化して情報提供の一助としたり、サロン開催日を固定せず弾力的な運用をしたりして、保護者との接点をできるだけ持てるよう工夫が見られた。

■本年度の成果

コロナ禍にあって各チームはサロンや講座の開催について苦労している。実施に向けての工夫や、支援を届ける「アウトリーチ型」の家庭教育支援について事例報告を基にした支援員の交流会を開催することができた。

■今後の課題

支援の必要な家庭との接点の根本は子どもとの関係作りである。他の活動との併任等の工夫により学校における支援員の活動の幅を広げるための体制作りが必要である。



【家庭教育支援員連絡会】

菩提寺小　　保護者と子どもに寄り添い、見守り続ける家庭教育支援

湖南市　　本事業実施年度　平成２５年度	
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	市内総数２８０日

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　５　）チーム
B：家庭教育支援員数　（　７　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 （　５　）か所
D：前項（C）の配置場所名　菩提寺小学校　石部小学校　三雲小学校　菩提寺北小学校　甲西北中学校

■　活動の具体的内容

○家庭教育支援チームの設置・活動等

・学校校門前にある旧用務員宿舎「ぼっこハウス」を利用して、月３回程度、在校生の保護者のみならず卒業生や地域の方が気軽に立ち寄れる場所として「ほっとサロン」を開設。

・支援が必要な児童および保護者に寄り添い、学校と連携し情報を共有。

○学習講座・行事の実施等

12 月 6 日、作業療法士を講師としてお招きし「感覚統合ってなあに？保護者に知って欲しい五感の大切さ」をテーマに研修会開催。

○保護者に対する情報提供等

ほっとサロンや研修会等の案内を案内状やタウンメールで提供する。

○訪問型家庭教育支援の実施等

支援が必要と思われる児童および保護者を把握し、必要に応じて学校機関や行政と連携し電話連絡や訪問を行う。



【作業療法士による研修会】

■　特徴的な活動内容

○昨年度までは固定の曜日でサロンを開いていたが、固定することで参加しにくい方もいると思われるので、今年度からは固定せずに 10、20、30 日前後を目安に 2 ヶ月単位で開催日を設置し案内を配布。

○児童への支援だけではなく保護者自身が支援を必要としている場合もあるため、サロンに来てくれることだけを目的とせず個別に連絡を取ったり学校関係者と連携し出会いの機会を設ける。



【具体的な事例に基づいての説明】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○大勢で集まることが困難な時期でもあるため、柔軟に個別対応を行う。

○対面にこだわらず、電話で話をすることも実施。

■　事業の成果

○その家庭のニーズに合わせた個別の支援を行うことでよりきめ細やかな支援を行うことができ、児童の学校生活の改善にも繋がった。

○年 2 度、市内の関係者ならびにコーディネーターの会議を行っていたが、地域の小中学校の連携をより深める為に中学校区のコーディネーターが定期的に集まることを提案、実施。

■　事業実施上の課題

○子育てについては多くの保護者が悩みを持っているので、気軽に話が出来る場所としてほっとサロンを開設しているが、まだまだ認知度が低いので多くの保護者に知ってもらうためにもサロン開設日の案内のみならず子育ての情報を発信していきたい。

○築 40 年以上の旧用務員宿舎を活動の拠点としているが老朽化が著しく、現在は活動の場を一時的に学校内に設置している。再び使用出来るように地域のボランティアチームの力をお借りし修繕中である。再開後にはサロンのみならず幅広い分野で利用出来るように利用方法の検討や宣伝が必要と考える。



【地域ボランティアチームによる修繕作業の様子】

報告書記入者（　家庭教育支援員　）

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

子どもを取り巻く環境は引き続き変化し続け、「新しい生活様式」が定着してきた。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外出や人と集まることが困難になり大人も子どもも負担や不安を感じている。保護者が働いている間、祖父母世代と過ごす子どもも多く、タブレットで家庭学習をするなど、これまでにない学習形態にとまどう祖父母も多くなっている。地域の大人も子育て世代や子どもたちとあまり関わることができず、保護者が気軽に相談できる場所が少ないため、様々な問題があっても見つけにくくなっている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者世代と同様に祖父母世代や地域の大人も今の子どもたちが置かれている状況について学び、子どもたちを見守る環境を整える。



【親子で学ぼうお金のはなし】
（共育学習会）

■本年度の活動

（１）共育学習会

日々の生活に欠かすことのできない「お金」について親子で学ぶ機会を設けた。金銭感覚を養うことの大切さや、上手に使うための工夫など、講座終了後も家庭で話していただくきっかけとなった。

（２）地域教育力向上講座

情報を手に入れるのに便利な各種メディアだが、長時間の使用により日常生活や健康に影響を及ぼすことも危惧されている。

メディアとの上手な付き合い方や、子どもたちの発達にどのような影響があるかを専門家よりお話いただいた。



【子どもの成長発達とメディアについて】（地域教育力向上講座）

■コロナ禍における対応・工夫および課題

講座開催にあたり来場に不安を感じる方もおられるため、講師とNPO 法人の協力を得て講座を録画し、終了後動画配信を行った。

■本年度の成果

NPO 法人や福祉部局、市立図書館などそれぞれの担当者が協力し開催にあたって様々な情報提供を行うことができた。

■今後の課題

集合型講座の開催が難しい中、感染症対策や開催方法については引き続き検討が必要である。



【ネット社会と子どもたちの実態】
（子どもにどうかかわりあうか講座）

報告書記入者（社会教育課　担当）

コロナ禍の子育てを考えよう

高島市　　本事業実施年度　令和３年度	
活動内容 □ 地域人材の養成 □ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 □ 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　　7　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　　）チーム
B：家庭教育支援員数　（　　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 （　　）か所
D：前項（C）の配置場所名

■　活動の具体的内容

〇地域人材の養成等

【地域教育力向上講座】

子どもの成長発達とメディアについて専門家よりお話を伺った。

乳幼児のうちからメディアに触れる機会も増え、長時間の利用が健康や、日常生活へ影響を及ぼすことが懸念されている。子育て世代や子育てに関心のある地域の大人が受講し、子どもたちの現状を学ぶ機会となった。



【地域教育力向上講座】

〇学習講座・行事の実施等

【共育学習会】

滋賀銀行、大津財務局の方を講師に迎え、お金について学ぶ講座を開催した。親子で学ぶ講座ではお金の大切さや上手な使い方を学び、子育て世代を対象とした講座では教育資金の貯め方について具体例を交えながらお話を伺った。



【共育学習会】

【子どもにどうかかわりあうか講座】

子どもたちとネットとの関わり、にじみ絵の体験、性教育など各学校や園で取り上げたテーマをもとに保護者が学ぶことができた。

■　特徴的な活動内容

〇研修会場において市立図書館による関連図書の展示、健康推進課から家庭で作ることができるレシピ紹介、NPO 法人のおうち時間を楽しく過ごせるための室内ゲーム紹介を行うなど、複数の担当者が様々な情報提供を行った。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇講師と市内 NPO 法人の協力により、講座終了後に動画配信を行った。

■　事業の成果

〇地域教育力向上講座、共育学習会においては、「金銭教育」をテーマに開催した。

お金を使う上での注意点や、上手な使い方を親子で学び、家庭でも話題にするきっかけとすることができた。また、教育資金の貯め方についての講座では、具体的なスケジュールを記入する書式なども提示いただき、事後のアンケートでは「さっそく取り入れてみたい」という感想もみられた。



【子どもにどうかかわりあうか講座】

■　事業実施上の課題

〇集合型での開催は難しいが、情報の発信方法や十分な感染症対策などを検討しながら学ぶ機会を確保していきたい。

報告書記入者（　社会教育課　担当　）

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、誰ともつながらず、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいない孤立家庭が増え、育児への不安やストレスを抱える親が増加傾向にある。

また、生活習慣の乱れや経済的な困窮などの課題を抱えた家庭は、コロナ禍でより一層増加の一途をたどり、家庭教育支援の必要性がますます高まっている状況にある。



【親子ぷれすて】

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

これから親になる方や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、学習機会や仲間づくりの場の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。そのために、あらゆる手段を駆使し、子育て家庭を地域と結びつけることが必要である。

■本年度の活動

（１）交流の場「親子ぷれすて」の開催

毎月１～2 回、親子が遊びを通してふれあうと同時に、親同士や子育てサポーターと交流することで、情報交換や子育ての悩みの解消の場となっている。

（２）学習講座の実施

・子育て学習会･･･保育園・こども園・幼稚園・小学校・中学校（６講座）
・就学前学習講座･･･全小学校（５校）で年１回
・マイナス１歳からの子育て講座･･･１講座
・子育ち親育ち講座･･･２講座



【マイナス１歳からの子育て講座】

（３）地域人材の育成

・子育てサポーター養成講座･･･２講座

（４）訪問型家庭教育支援

・ケース会議の実施。支援員交流会を開催し、情報共有にあたっている。今後保護者向けにチラシを配布し、より一層支援の周知を図る。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・各講座の開催にあたっては、オンライン配信を実施し、自宅でも参加できるよう配慮した。
・対面での実施には、定員制による人数制限を行い、基本的な感染症対策(三密の回避、マスク着用、消毒換気の実施)を徹底した。

■本年度の成果

・親子ぷれすての開催により、保護者同士のつながりが生まれ、交流や情報交換の場として、子育ての悩みやストレスの解消につながった。
・各種講座の開催により、子どもとの関わり方や成長段階に合わせた接し方などを保護者に学んでもらうことができた。
・各事業の実施にあたり、学校や関係課と連携して取り組み、多角的に充実した支援を行えた。
・子育てサポーターとして、新規で２名のサポーターを確保することができた。(合計１２名)
・学校では行き届かない第３者との関わりがあることで、新たな切り口からの家庭教育支援ができた。
・家庭教育の受け止め先が増えた。

■今後の課題

・各種事業への参加者が固定化している傾向にあるため、これまで参加したことのない親子の孤立を防ぐため、各関係機関との連携や未参加親子への情報発信を強化する必要がある。
・支援者の確保に努め、地域とのつながりを増やす努力が必要である。

「ゆっくり大きくなあれ」　～子育て・親育ちを支える就学前学習会～

日野町　　本事業実施年度　令和３年度	
活動内容 ■ 地域人材の養成 □ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 □ 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　４０　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　２　）チーム
B：家庭教育支援員数　（　２　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 （　１　）か所
D：前項（C）の配置場所名　（　日野町教育委員会　）

■　活動の具体的内容

就学前学習講座(５講座)、ＰＴＡ等子育て学習会(６講座)、子育ち親育ち講座(２講座)、マイナス１歳からの子育て講座(１講座)、親子ぷれすて(１８回）を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議(６回)、子育てサポーター会議（５回）を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（２回）を開催している。



【就学前学習会】

■　特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会（授業参観、１日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、これから結婚や出産を迎える方や乳幼児期の子育て中のお父さんお母さんを対象として、命が宿るマイナス１歳から、子どもの成長・発達について学ぶためにマイナス１歳からの子育て講座を開催する。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

子育て応援通信「ゆっくりおおきくなあれ」（毎月１日発行）を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子で集える行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

「親子ぷれすて」では、近年災害が多いため、家庭内での災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断を下せるようちびっこミニ防災教室を開催した。また、新型コロナウイルス感染対策として、検温と消毒を行うことによって接触からの感染を防ぐよう心がけた。

■　事業の成果

〇就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、１日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「子どもへ寄り添うことの考え方が変わった」「講座を受けたことでもっと子育ての勉強をしていきたい」など概ね高評価を得ている。

〇ＰＴＡ等子育て学習会

多くの親に子育てやしつけなどの家庭教育のあり方を見つめていただける機会となった。家庭教育の関心の少ない親にも家庭教育について考える機会を提供することができ、今後の子育てに対する事前学習となった。

〇マイナス１歳からの子育て講座

出産前から両親がしっかりと学習することで、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、ワンオペ育児の抑制に大きな効果があると思われる。

■　事業実施上の課題

〇親子ぷれすて

参加者の年齢が全体的に下がっており、各イベントの内容を変更することが課題となる。今年度クリスマス会や工作イベントを行ったが、年齢の低い子が多く、クリスマスの歌を知らずに歌えない子や工作を親がほぼ作ってしまうなど少し問題があったため今後年齢を下げたイベント内容を考える必要がある。

〇子育てサポーターの育成

子育てサポーターが支援者として保護者と信頼関係を持ち、相談等に対応できるよう、事業やセミナー等への積極的な参加を促すなど、しっかりと育成していく必要がある。

報告書記入者（　生涯学習課　職員　）

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

大きく変容する社会のあり様や人々の価値観の多様化に伴い家庭および地域の教育力低下が叫ばれて久しい。また、子どもたちのスマホの所持率も年々高くなる中で、子どもたちの家庭での「基本的生活習慣」が乱れてきている。これらに起因して、子どもたちの学力の低下にはじまり、ひいては彼らの未来の可能性を奪うことにつながりかねないことを危惧する。この状況を前にして、地域社会が総がかりでの子どもたちの「基本的生活習慣」の改善をはじめとした子育て世代の家庭を取り巻く様々な課題の解決が求められている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、実践を通して地域全体で子どもたちの健やかな成長を支援する体制づくりをめざす。そのために、学校・家庭・地域が協力し、保護者を対象に学習や子育てにかかる相談の機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共有するだけでなく、子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。併せて、子どもたちの夢と希望の実現に向け、学校はもとより地域社会の理解と支援を得て家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生き抜く力」の向上に努める。

■本年度の活動

（１）竜王町教育フォーラム 2021 の開催（11 月７日）
（２）竜王中学校講演会の開催（12 月 14 日）
（３）家庭教育支援研修会の開催（１月 27 日）
（４）ペアレント・トレーニングの実施（10 月～12 月・全７回）



【　教育フォーラム 2021　】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

検温や消毒などの物理的対策と人数制限や会場変更などの企画内容を見直し開催した。次年度以降もコロナ禍の状況が続くようであれば、オンライン配信なども検討していく必要があるが、これには従来以上に、準備時間や人員、予算が必要となる。

■本年度の成果

・教育フォーラムでは、兵庫県立大学准教授の竹内和雄先生に当町の小学校４年生から中学校３年生を対象に実施したアンケート調査の結果をもとに、当町の子どもたちとスマホとの関係について、ネット接続の状況やスマホ依存度など、その現状を学ぶ機会を提供することができた。
・中学校講演会では、昨年度に続き東北大学加齢医学研究所所長・教授の川島隆太先生にお越しいただき、科学的なデータをもとに生活習慣の大切さやスマホとの付き合い方について考え学ぶ機会を竜王中学校全生徒に提供することができた。

■今後の課題

教育フォーラムや研修会は、参加者が固定化傾向であり、真に家庭教育支援が必要な家庭への啓発や支援には、直接的に結びついていない。「気づき」が必要な家庭の関係者に参加してもらえる研修会や啓発方法、直接的な支援を検討していく必要がある。

竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～心豊かでたくましい竜王っ子をめざして～

竜　王　町	本事業実施年度　平成 24 年度
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　10　日　）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（　0　）チーム
B：家庭教育支援員数	（　0　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（　0　）か所
D：前項（C）の配置場所名	

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施等

・竜王町教育フォーラム 2021 の開催（11 月 7 日）
・竜王中学校講演会の開催（12 月 14 日）
・家庭教育支援研修会の開催（１月 27 日）
・ペアレント・トレーニングの実施（10 月～12 月・全７回）



【　ペアレント・トレーニング　】

■　特徴的な活動内容

〇竜王町教育フォーラム 2021

11 月７日（日）午後に開催。対象者は、ＰＴＡ関係者、社会教育関係者、地域住民等。「学校と家庭、そして地域。共にめざそう！心豊かでたくましい竜王っ子～スマホが私たちにもたらすもの　その「光と影」を考える～」のテーマに基づき、兵庫県立大学准教授の竹内和雄先生をコーディネーターに「小中学生と大人が共に考えるインターネットとのつきあい方～ウィズコロナ、Society5.0 の社会を生きる～」と題し、パネルディスカッションを開催し、子どもたちとスマホとの関係について、その現状を学ぶ機会となった。

〇竜王中学校講演会

12 月 14 日（火）午後に開催。「基本的生活習慣が君たちの未来を決める」と題して、東北大学加齢医学研究所所長・教授の川島隆太先生に科学的なデータをもとに基本的な生活習慣やスマホの使い方次第で学力に大きく差が表れることなどについて講演をいただき、中学生にとって規則正しい生活習慣の大切さやスマホとの付き合い方について考え学ぶ機会となった。

〇ペアレント・トレーニング

町学校教育課のスクールソーシャルワーカーをファシリテーターに発達障がいの有無にかかわらず広く参加者を募り、10 月から 12 月にかけて７回実施。子育てをする中で「育てにくさ」を感じている方や叱りすぎている自分を変えたい方など、自らをより良く変えていこうとの目的意識も高く、参加者の状況に合わせた講座となった。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇教育フォーラムでは、コロナ対策を徹底し開催することを強く示した案内チラシを別途作成し、ＰＴＡ関係者に配付することで、参加者に安心してもらうことにより、コロナ禍においても 192 名の参加者を集めることができた。広い会場への変更、受付や退出口の分散、席の間隔確保、入場制限、検温・消毒などを始めとする徹底したコロナ対策を行った。

〇ペアレント・トレーニングでは、オンライン参加可能で参加者を募集した。実際には、問い合わせはあったもののオンラインでの参加申し込みはなく、対面で感染症対策を徹底して開催した。

■　事業の成果

〇教育フォーラムでは、当町の小学校４年生から中学校３年生を対象に実施したアンケート調査の結果をもとに、中学生や保護者をパネリストにパネルディスカッションを開催した。当町の子どもたちとスマホとの関係、ネット接続の状況から、コロナ禍の影響が大きいと推測されるものの全国平均を上回る危機的状況にあるスマホ依存度について、参加者が喫緊の課題として受け止める場となった。アンケート結果では、早速家庭で話し合う、基本的生活習慣を見直すきっかけづくりになったという声も見られ、家庭での基本的生活習慣に関する教育の重要性を改めて認識するとともに、一部の人には行動変容を促すことができた。

〇ペアレント・トレーニングのアンケート結果では、満足度が高く、子育てに向き合う自信がついた、ひとりで抱え込まず誰かに手伝ってもらって子育てをすることができるようになった、親同士のつながりができたという声も聞かれた。

■　事業実施上の課題

〇教育フォーラムでは、参加者へは素晴らしい啓発となったが、参加していない保護者（聞いてほしい保護者）に家庭教育の重要性などをどう伝えていくのかが課題である。

〇ペアレント・トレーニングでは、子育てに困っているが講座に参加できない人がたくさんおられるため、もっと適切な支援をしていくためには、アウトリーチ型事業のような「つなげていく」支援が必要である。

報告書記入者　（　生涯学習課　生涯学習係　主査　）

多賀町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化・共働き家庭やひとり親家庭の増加など、家族形態が変化することにより、子育てや教育にゆとりを持って取り組むことに困難な家庭が増加している。また、地域コミュニティの希薄化が拍車をかけ、子育ての悩みや不安から、児童虐待など、子どもを取り巻く課題が浮き彫りとなってきている。家庭や地域の教育力の低下に伴い、豊かな人間性や社会のルールやモラルなどを守る規範意識を醸成する場として、社会全体で子どもの学びや成長を支えるための地域づくりが必要である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

（１）子育てへの不安を解消するための、保護者への学習機会の提供、心の教育や相談支援など、地域における家庭教育支援基盤を構築する。

（２）家庭・学校・行政・企業・地域等が連携して、青少年を取り巻く問題を解決し、青少年が自主的に参画できる地域社会をつくる。

■本年度の活動

（１）同世代の子どもを持つ保護者に対して、育児サークルなどとの交流を図るとともに、育児相談などを行った。

（２）地域で活動する子育て団体等を対象に活動支援を行った。

◇子育て支援サークル「パオパオ」による活動

①子育て相談（7 回／年）

②親子ふれあい活動

◇多賀幼稚園での「子育て講演会」

◇多賀町 PTA 連絡協議会による活動支援

（３）多賀町青少年育成町民会議による啓発活動を行った。



【　親子ベビーマッサージ　】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

緊急事態宣言期間中には施設を休館とし活動を自粛した。その他は、基本的なコロナ対策として、検温、手指消毒、マスクの着用、活動中の換気と使用後の室内消毒の徹底を行った。

■本年度の成果

親子ふれあい活動は、年々参加者が増加し交流の場として充実してきている。



【　親子ﾘｽﾞﾑﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ教室　】

■今後の課題

子ども・家庭応援センターや福祉関係機関との連携を強化し、支援の役割分担を明確化していく。

子育てを通しての繋がりを深める活動と、全町民に向けた家庭教育支援活動

多賀町　　本事業実施年度（令和３年度）	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	１０日

家庭教育支援員や支援チームに関すること
Ａ：家庭教育支援チーム数　　０チーム
Ｂ：家庭教育支援員数　　０人
Ｃ：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数　　０か所
Ｄ：前項（Ｃ）の配置場所名

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施等
- ・支援グループ「パオパオ」による「親子バランスボール教室」「親子リズムトレーニング教室」「親子ベビーマッサージ」等の実施。
- ・多賀町青少年育成町民会議による「あいさつ運動」やスマホに関する研修会の実施。

〇連絡会議・ケース会議の設置、運営等
- ・多賀町 PTA 連絡協議会への活動補助金

〇保護者に対する情報提供等
- ・多賀町青少年育成町民会議による「夏休み・冬休みの生活」についての啓発チラシの配布。
- ・多賀町青少年育成町民会議による「子育てカレンダー」の作成と配布。



【親子バランスボール教室】

■　特徴的な活動内容

〇多賀町青少年育成町民会議では、毎年「子育てカレンダー」を作成し、町内全戸に配布している。このカレンダーは、町内の保幼こども園の園児、小中学校児童生徒による「親子や家族のふれあい・絆、豊かな心を育む」をテーマにした絵画や標語を掲載し、各家庭で親子が話し合い活用できるように作成している。また、作成に際して、各家庭からの要望に応えつつ、多賀町を担う子どもたちへの思いを共有し、子ども達が明るい希望を持ち、人と人とがふれあう豊かなまちづくりとなる願いを込めている。



【子育てカレンダー】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇緊急事態宣言期間中には活動を自粛した。その他は、基本的なコロナ対策として、３密を避けるため、検温、手指消毒、マスクの着用、活動中の換気と使用後の室内消毒の徹底を行った。

■　事業の成果

〇支援グループ「パオパオ」の活動では、子どもの成長に応じた様々な活動を実施した。子育てについて学ぶとともに、同世代の母親同士のコミュニケーションを図る場として、とても有意義な活動となった。

■　事業実施上の課題

〇青少年育成町民会議では、中学生までの子育て支援活動を行っているが、青年を対象とした事業があまりなく、若い世代が多賀町に愛着を持てていない様に感じる。
幼少期から学童期・青年期に至るまで、地域で継続して子育てに関われる体制づくりができるように、工夫した活動をしていく必要がある。

報告書記入者（　　町担当者　　）

Ⅷ　滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

1　目的

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。

2　事業内容

コミュニティ・スクールの全校設置と推進体制の構築をめざす教育委員会を対象とした「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」（国庫補助事業）として実施。

（1）CSアドバイザー派遣

①趣旨

・コミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行う実践者（ＣＳアドバイザー）を県教育委員会に配置し、市町教育委員会や県立学校からの要請に応じて派遣する。

・県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進するなど、コミュニティ・スクールの設置や取組の充実に資することを目的とする。

②CSアドバイザー



（令和3年度　滋賀県教育委員会作成　コミュニティ・スクール　リーフレットより）

③派遣実績

	派遣日 出役時間	派遣先 研修名	派遣 アドバイザー	概要　①参加者　②テーマ・内容
1	4月13日　（火） 16:00 ～ 17:00	東近江市役所 東近江市地域学校協働本部 本部長（担当者）合同連絡会	北島　崇雄	① 行政関係者、地域学校協働活動関係者等　54名 ② 東近江市における持続可能なコミュニティ・スクールについて
2	5月19日　（水） 15:50 ～ 16:30	滋賀県CSアドバイザー会議	7名	① CSアドバイザー、県教委生涯学習課員　11名 ② 滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について
3	5月20日　（木） 13:00 ～ 15:30	野洲市役所 コミュニティ・スクール設置に向けての研修会	髙木　和久	① 行政関係者　2名 ② コミュニティ・スクール設置に向けた今後の流れについて
4	5月24日　（月） 10:00 ～ 12:00	野洲養護学校 学校運営協議会	安藤　清代	① 学校運営協議会委員、学校管理職等　10名 ② 野洲養護学校におけるコミュニティ・スクール事業の推進について
5	6月17日　（木） 9:00 ～ 12:00	野洲市役所 コミュニティ・スクール設置に向けての協議会	髙木　和久	① 地域コーディネーター、行政関係者等　7名 ② コミュニティ・スクール設置に向けた協議および今後の手順について
6	7月2日　（金） 10:00 ～ 11:45	彦根市民会館 彦根市定例校長会web研修会	北辺　禎雄	① 市内小中学校長、行政関係者等　37名 ② コミュニティ・スクールの導入・推進に向けて
7	7月16日　（金） 10:00 ～ 12:00	守山北高等学校 学校ファンドに関する学習会	髙木　和久	① 教頭、事務長　2名 ② 守北ファンド設置について
8	7月19日　（月） 13:30 ～ 16:00	野洲市総合防災センター コミュニティ・スクール連絡協議会 （キックオフ会議）	髙木　和久	① 小中学校長、地域コーディネーター、行政関係者等　25名 ② コミュニティ・スクール設置推進に向けて

9	7月28日 (水) 10:00 ～ 12:00	信楽高等学校 CS導入に向けた研修会	山田 薫	① 学校管理職 3名 ② CS導入にあたっての対応について
10	8月3日 (火) 13:30 ～ 16:00	草津市役所 “持続可能な”CSと地域協働合校のための研修会	北島 崇雄	① 学校教職員、学校運営協議会委員、行政関係者等 40名 ② 持続可能なコミュニティ・スクールと地域協働合校（地域学校協働活動）
11	8月6日 (金) 9:00 ～ 12:00	日野町役場 コミュニティ・スクールに関する研修会	伊藤 照男	① 行政関係者、町内学校教職員等 20名 ② コミュニティ・スクールの立ち上げについて
12	8月24日 (火) 15:00 ～ 16:30	高島市立朽木東小学校 朽木地区学校運営協議会	松田 幸夫	① 学校運営協議会委員、学校関係者、協働本部委員等 30名 ② 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進について
13	9月30日 (木) 10:00 ～ 12:00	新旭地区小中学校、自宅（オンライン） 湖西中学校区CSアドバイザー講演会	高木 和久	① 学校運営協議会委員、地域学校協働活動関係者、学校長、行政関係者等 19名 ② 次代の地域の担い手を育てる ～地域創生の視点で学校運営協議会と地域学校協働活動をつなぐ～
14	10月28日 (木) 14:30 ～ 16:45	近江八幡市立桐原コミュニティセンター 近江八幡市コミュニティ・スクール研修会	伊藤 照男	① 市内学校教職員、地域学校協働活動関係者等 14名 ② コミュニティ・スクール 充実に向けて
15	11月4日 (木) 14:00 ～ 15:45	米原市立河南小学校 河南学区まいばら教育フォーラム	北辺 禎雄	① 河南学区学校運営協議会委員、地域学校協働活動関係者、教職員等 ② コミュニティ・スクールの基本的な考え方について
16	11月8日 (月) 10:30 ～ 12:00	草津市役所（オンライン併用） 地域協働合校全体研修会	武井 哲郎	① 地域協働合校関係者、行政関係者等 41名（会場 14名、Zoom 27名） ② コロナ禍における学校と地域の協働 ～課題解決型の地域協働合校（地域学校協働活動）～
17	11月9日 (火) 9:00 ～ 11:30	野洲市役所 第1回地域コーディネーター会	高木 和久	① 地域コーディネーター、行政関係者等 7名 ② コミュニティ・スクール推進に向けた地域コーディネーターの情報交換
18	11月19日 (金) 13:30 ～ 15:00	三雲養護学校 コミュニティ・スクール研修会	安藤 清代	① 校長、副校長 2名 ② コミュニティ・スクール設置に向けた具体的な内容等の相談
19	11月24日 (水) 10:00 ～ 11:30	滋賀県CSアドバイザー会議（オンライン併用）	7名	① CSアドバイザー、県教委生涯学習課員 12名 ② 滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について
20	11月25日 (木) 14:30 ～ 16:45	近江八幡市立桐原コミュニティセンター 近江八幡市コミュニティ・スクール研修会	伊藤 照男	① 市内学校教職員、地域学校協働活動関係者等 21名 ② コミュニティ・スクール 充実に向けて
21	11月25日 (木) 13:30 ～ 15:00	多賀町役場 多賀町教育委員会職員・小中学校教頭・補佐・主任研修会	北辺 禎雄	① 行政関係者、公園管理職等 11名 ② 地域と共に歩む学校園づくり
22	11月26日 (金) 10:00 ～ 11:30	甲賀市役所 コミュニティ・スクールにかかる管理職研修	北島 崇雄	① 市内小学校長、行政関係者等 17名 ② コミュニティ・スクールの導入に向けて ～持続可能な「地域とともにある学校」のために～
23	12月2日 (木) 13:30 ～ 14:30	栗東高等学校 職員研修会	山田 薫	① 学校教職員 35名 ② 学校運営協議会の設置について
24	12月6日 (月) 9:00 ～ 12:00	野洲市役所 コミュニティ・スクール設置に係る準備会	高木 和久	① 行政関係者 2名 ② コミュニティ・スクール設置に係る協議
25	12月14日 (火) 10:30 ～ 12:00	甲良養護学校 学校運営協議会	安藤 清代	① 学校運営協議会委員、学校教職員等 10名 ② 学校運営協議会の改善点について
26	12月21日 (火) 16:00 ～ 17:00	聾話学校 運営委員研修会	安藤 清代	① 学校教職員 10名 ② コミュニティ・スクールについて知る
27	1月11日 (火) 9:00 ～ 11:30	野洲市役所 第2回地域学校協働活動推進員会	高木 和久	① 地域コーディネーター、行政関係者等 ② コミュニティ・スクール推進に向けた情報交換
28	1月14日 (金) 15:30 ～ 16:15	滋賀県CSアドバイザー会議	6名	① CSアドバイザー、県教委生涯学習課員 ② 滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について
29	2月10日 (木) 14:00 ～ 15:00	草津市役所 コミュニティ・スクールにかかる教職員研修会	北島 崇雄	① 市内小中学校教職員 20名 ② 今年度の取組の報告および次年度構想の検討
30	2月18日 (金) 15:00 ～ 16:00	ハーティセンター秦荘 本年度のCSにかかる実践交流会	高木 和久	① 各校園教職員、行政関係者等 16名 ② 愛荘町のコミュニティ・スクールのさらなる発展について

（2）コミュニティ・スクールの研修の充実 （詳細は 「Ⅰ　推進協議会の取組」 の項に掲載）

①「学校を核とした地域力強化プラン」（新規導入市町対象）研修会

②「学校を核とした地域力強化プラン」（事業推進市町市町対象）研修会

③県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

（3）推進協議会・連絡協議会の開催

①「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会

・ＣＳアドバイザーはオブザーバーとして参加し、自身の経験やアドバイザー派遣を通じて得た市町および県立学校等のコミュニティ・スクール導入・取組充実に関する実情や課題等の情報提供を行う。

②コミュニティ・スクール連絡協議会

・県内全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について研究する目的で設置。

・各市町コミュニティ・スクール担当課、県立学校の代表者、ＣＳアドバイザー等が参加し、推進方策や効果的な運営方法等の情報共有・情報交換を行う。

開催実績

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">市町
参加者：担当主管課職員　等</th><th colspan="2">県立学校
参加者：県立学校教職員等</th></tr>
<tr><td rowspan="3">第1回</td><td>日時
会議名
会場</td><td>4月 26 日（月）
「学校を核とした地域力強化プラン」研修会
県庁東館7階大会議室</td><td>日時
会議名
会場</td><td>7 月 20 日（火） ～ 8月 31 日（火）
県立学校コミュニティ・スクール
推進事業研修会
～オンデマンド配信による実施～</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>・「地域学校協働活動とCSの一体的な推進」をテーマに講演
・市町の推進状況等を交流
・CSアドバイザー紹介および活用依頼</td><td>内容</td><td>・体制運営や取組に係る講演
・CSアドバイザーによる
パネルディスカッション</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>来場27名、オンライン39 名</td><td>参加者</td><td>動画視聴数のべ276回</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第2回</td><td>日時
会議名
会場</td><td>7月8日（木）
「学校を核とした地域力強化プラン」
（新規導入市町対象）研修会
県庁東館7階大会議室</td><td>日時
会議名
会場</td><td>10 月 7 日（木）
県立学校経営等協議会
県庁東館7階大会議室</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>・導入や体制構築に係る講演
・導入校関係者および行政担当者による
パネルディスカッション</td><td>内容</td><td>・県立学校における設置状況
・オンデマンド研修について
・今後の導入および活用</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>来場39名、オンライン31名</td><td>参加者</td><td>61名</td></tr>
<tr><td>日時
会議名
会場</td><td>8月27日（木）
「学校を核とした地域力強化プラン」
（事業推進市町対象）研修会
～オンライン参加のみで実施～</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">第3回</td><td>内容</td><td>・持続可能な体制や取組に係る講演
・導入校関係者および行政担当者による
パネルディスカッション</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>オンライン 111 名</td></tr>
<tr><td>日時
会議名
会場</td><td colspan="3">1月20日（木）
「学校を核とした地域力強化プラン」
成果報告会
県庁東館7階大会議室</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="3">・地域学校協働活動およびコミュニティ・スクールの取組報告
・「地域と学校をつなぐ持続可能な体制づくりに望むもの」をテーマに講演</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td colspan="3">会場6名・オンライン91名</td></tr>
</table>

（4）県立学校の学校運営協議会設置推進

①県設置方針を策定

・法改正による努力義務化を受け、県立学校への学校運営協議会の設置を推進する。

・すべての県立学校を対象学校とし、各校の実情や意向に応じて希望する学校から順次設置する。

②「滋賀県学校運営協議会規則」の改正（平成 30 年3月 30 日付け）

・設置努力義務化により「学校の指定」がなくなることから、「指定学校」を「対象学校」に修正。

・「学校運営への必要な支援に関する協議」を学校運営協議会の役割に追加。

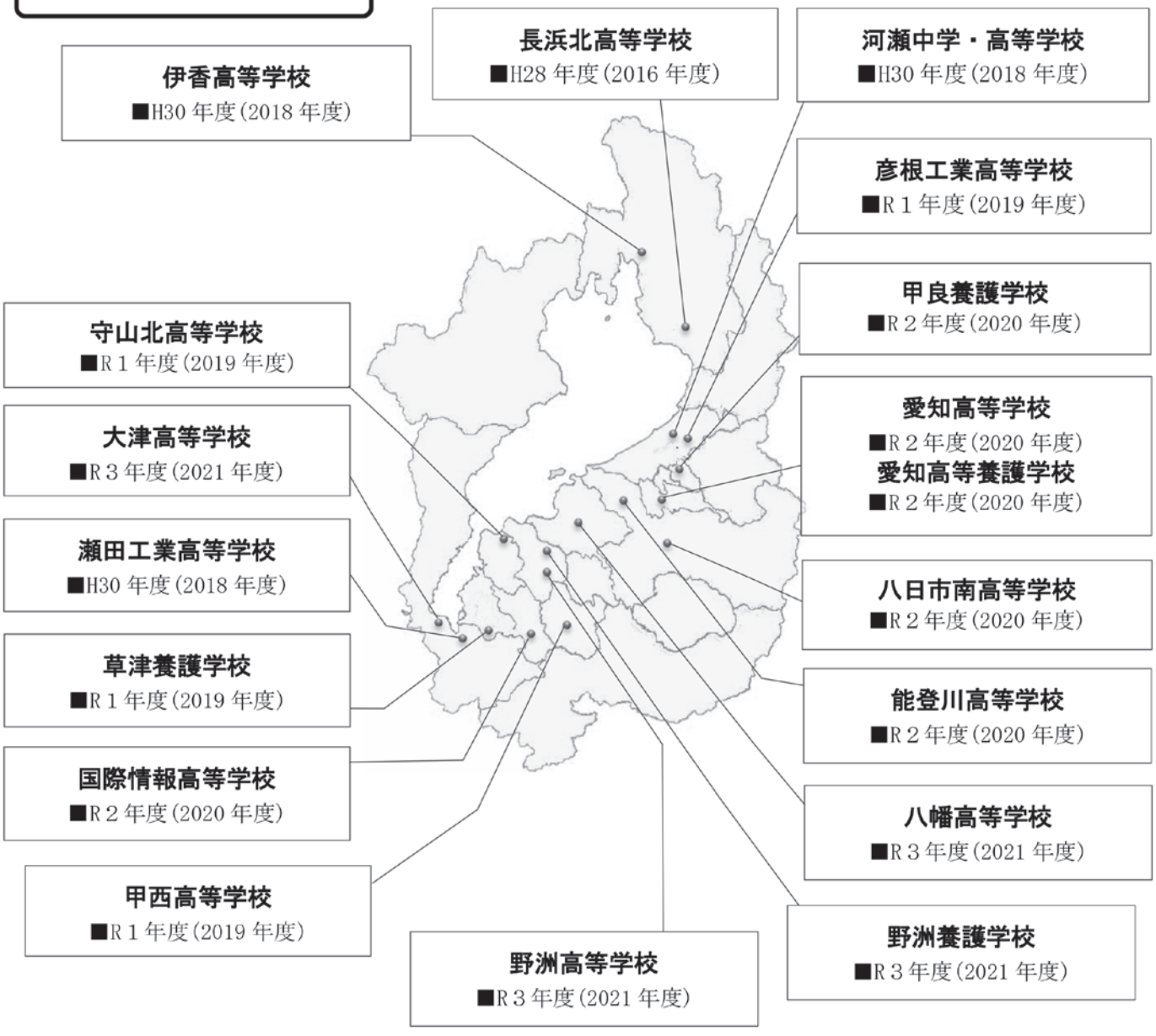
・中高一貫の場合には、「２以上の学校について１の協議会を設置することができる」文言の追加。

・職員の採用その他任用に関して学校運営協議会が意見を述べることができる事項を教育委員会規則で定めることについて、「特定の個人に関する事項を除く」とする。

令和３年度学校運営協議会設置校について

協議会数：19 … 高等学校 14 校（県立中学１校を含む）
特別支援学校４校

学 校 名
■学校運営協議会設置の始期



令和３年度
学校を核とした地域力強化プラン事業実践事例集

令和４年（2022 年）３月

発行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
〒５２０－８５７７　滋賀県大津市京町４丁目１－１
ＴＥＬ：０７７－５２８－４６５４
ＦＡＸ：０７７－５２８－４９６２
ＭＡＩＬ：ma06@pref.shiga.lg.jp
ホームページ：「におねっと」https://www.nionet.jp/